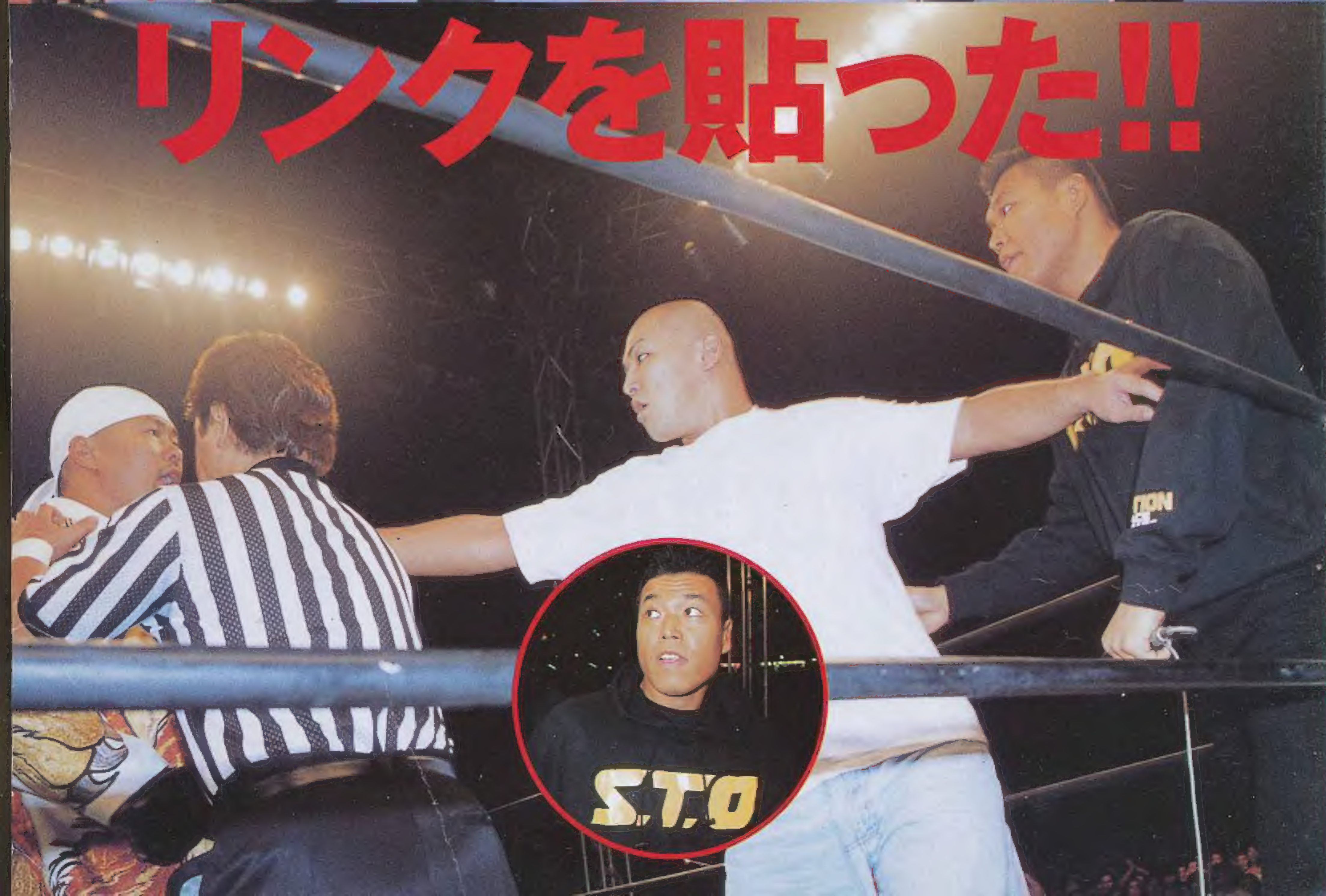
高田vsミルコは"「プロレス」の聖戦"だ!!
紙のプロレス
RADICAL
2001 43
11・3待望のシウバ戦!
見せてくれ、真骨頂!!
桜庭和志
『PRIDE.16』大総括&
『17』ド直前大特集
闘いなくして"愛"はなし!
激戦後のスクープ対談!!
ゲーリー・グッドリッジ
×谷津嘉章
アントニオ・R・ノゲイラ
マリオ・スペーヒー
ヒカルド・アローナ
セーム・シュルト
そして山本憲尚
キューバに
新たな鉱脈発見?
前田日明
元気な新プロジェクト発進!
本誌初登場!!
須藤元気
夢の悶絶超党派対談!!
「新日本プロレス学校とは何か?」
金原弘光
×
ザ・グレート・サスケ
サクと『PRIDE』の
ケツに火がついた!!
10・8東西に分かれ、
マット界を独占した
師弟がガナる!
小川直也
対K-1、対新日本を
"自主"咆哮!!
アントニオ猪木
新日本に怒りの闘魂!!
"プロレス愛"のバカヤローッ!!
WWF地上波放映&10・8新日本ドーム
大検証&大暴言座談会敢行!!
39#SAKU
THERE'S A WILL
大谷晋二郎の
火祭り人生相談、
急遽掲載!
なんで俺が
モノクロなのかな?
中野巽耀
アレク、復活ならず!
最後のビッグマッチ検証!!
10・14バトラーツ、不発!
紙のプロレス RADICAL
NO.43
ケツに火がついた!!
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

# 10・8 猪木と小川が「純プロレス」と「純K−1」にリンクを貼った!!

# アントン総帥は、プロレスにとって

# 神か？悪魔か？

モーニング娘。略してモー娘。ボクは、その表側も、裏側も、素敵さも、醜さも、まったく知らない。よく見たことがないからだ。そんなボクに、モー娘。の面白さを刷り込もうという会が、ごくごく近い将来、頭のおかしな人たちが旗を振って行われるらしい。

おかしな人たちは、『紙プロ』でモー娘。特集をやることが目的らしいのだ。なぜだ!? WWFとモー娘。は、いま日本のプロレスファンにとっては黒船だという。WWFはわかるが、モー娘。はなんでだ!? ところで、ここまでは主題とまったく関係のない余計なことだ。

さて、10・8新日本東京ドームである。日本にプロレスが輸入されて50周年を祝う大会だという。メインの永田&秋山vs武藤&馳を見終わってドームを出ると、なぜか、ノーダメージ、ノーペインという言葉が頭をよぎった。

「クロス・ジェネレーション・〝プロレス愛〟」とメインの試合には謳ってあった。

テロ、不況、リストラ、残虐な殺人事件、ストーカー——いまは、まるで明るい闇の中にいるかのような時代である。目に見えないダメージがいつの間にか効いてきているような感覚のなかで、その時代は動いている。

凄みある現実から受けるダメージに打ち負かされて、世間は、まるで負の刺激に対して、つんのめってるようにも見える。

プロレスの世界にも、少なからずダメージは溜まっている。その影響で、団体やファンの意識のなかに、いや無意識のうちに、ノーダメージ、ノーペインのまま、こ

KI（K-1）コンビのアントン総帥と石井館長が、世紀の決戦を前にノーサイドでダーーーッ!! 大晦日には敵になる両者だが、共通の敵はNHKの紅白であり、世間である。どうなる、「猪木軍vsK-1」!!

## 10・8アントン総裁がゴキゲンで爆弾投下!!

●石井館長が、「世界最強を目指すには避けては通れないゲストをお呼びしました！　どうぞ！」と呼び込むと、『イノキボンバイエ』が流れ、アントンが遂にK―1のリングに登場！「元気ですかーーーッ!!　元気があれば何でもできる！　世の中が乱れ、混乱したときに俺の出番。いま世の中は本当に混乱しています。格闘技界も混乱をしていますが、その混乱から立ち上がって、素晴らしいイベントを組んで行こうということで……実はK―1というのは猪木のK―1なんです。そして半分が石井館長。カズヨシ・イシイ。カンジ・イノキ。英語にするとK―1（K・I）になりましたね。そういうことで本来闘ってるライバルなんですが、一つ暗い時代に手を携えて時代を変えようじゃないか。そんなことで12月31日に「猪木軍vsK―1」ということで夢の闘いというか、"非常識"が実現することになりました！　裏にはNHKが控えております。俺たちが表ですね。ンムフフフ。そんなことでですね、ホントに、いまこそ戦後、力道山師匠が夢を与えてくれた、その遺伝子をみんながいろんな形で引き継いでるとは思いますが、頑張っていきたいと思います。エー、今日は東京ドームで新日本がやってるんですねぇ。……新日本の皆さん、元気ですかーッ！……なんて言おうと思ったけど俺もやっぱり小心者なんで後になりましたが（笑）、まあでも、そういうようなホント常識を超えたもの、皆さんの夢というものは限りなく広がっていくと思います。どうか館長もう1回、よろしくお願いします。それじゃー一つ、一緒にやってください。……今日は、館長に気合を入れようかと（笑）。ダーッハッハッハ。【頬を隠し笑う館長】今日も来る途中に何人か気合いを入れてきましたが、いつかね、俺の夢ですから、館長を思いっ切りベーンッと張り倒すのが（笑）。まあ、それは後回しにして、1、2、3をやりましょうか？　素晴らしい試合が行われるのを期待してます。そして素晴らしい、我々格闘家が時代を変えるため世界に発信します。そんな思いを込めまして、行くぞーッ！　1、2、3、ダーーーッ！」

12・8のGPの出場権を手にし、館長に"新・破壊王"と命名された大注目のマーク・ハント（写真上）。アダム・ワットにまさかの敗退を喫したマイク・ベルナルド（写真下）は、「猪木軍vsK-1」に出場か？

の時代をやり過ごそうとする共通意識が芽生えてる気がする。

ボクにはこの日のドーム大会は、団体もファンも、いまや現実の凄みのようなものが与えてくるショックに対して、もはや受け身も取れない、攻め込むこともできないような状態に見えた。

メインに出た4選手は、個々では素晴らしい選手だし、プロレスの試合を行っているのだから、肉体的にはノーダメージ、ノーペインのわけがない。

でも、10・8のドーム大会のイメージは、ノーダメージ、ノーペインだ。精神的には傷つかない、痛みもない。それが"プロレス愛"の正体だとしたら、プロレスは、これから、ますます"こじんまり化"に拍車がかかっていくだろう。

その"こじんまり化"に石コロを投げつけ、波紋を起こそうとしている人がいる。

「一つ暗い時代に手を携えて時代を変えようじゃないか。そんなことで12月31日に『猪木軍vsK―1』ということで、夢の闘いというか、"非常識"が実現することになりました！」――"プロレス愛"の裏側では、驚くことに、新日本創設者のアントン総帥が福岡マリンメッセに登場した。石井館長に呼び込まれ、テーマ曲に乗って入場するという超VIP待遇を受けながら、K―1の会場に姿を現したのだ。

大晦日に実現する『猪木軍vsK―1』をアピールし、「今日は東京ドームで新日本がやっているんですねぇ……。新日本プロレスの皆さん、元気ですかーーッ!!」と皮肉&嫌みタップリに新日本を挑発。そ

# 小川直也は、プロレスにとって敵がいいのか？

して、「1、2、3、ダーーッ!!」をK―1ファンの前で披露した。

「純K―1」側から、「純プロレス」側にリンクを貼ったアントン総師の存在は、新日本にとってはやっかいなこと、この上ないだろう。アントン総師は〝余計なこと〟をする第一人者だ。

そして、停滞した空気を突破するには〝余計なこと〟をするしかないことを経験でわかっている人だ。

新日本のドームには、もうひとり、〝余計なこと〟をする男が飛来した。

「純プロレス」側から、「純K―1」側にリンクを貼ったオーちゃんである。K―1乱入も匂わせていた暴走王は、アントン総師と離れて行動を起こし、現れた。藤田vs健介戦のゴングが鳴る直前、村上和成を従えてリングに乱入。マイクを奪うと、健介、藤田、安田、中西、永田の5選手の名前を挙げ、来年1・4のドーム大会に出撃することを宣言した。

「プロレス50周年」、ノアの秋山が新日マットに上がる歴史的な瞬間を体感しに来た「純プロレス」ファンにとっては、まったく〝余計なこと〟をしてくれたという感じだろう。

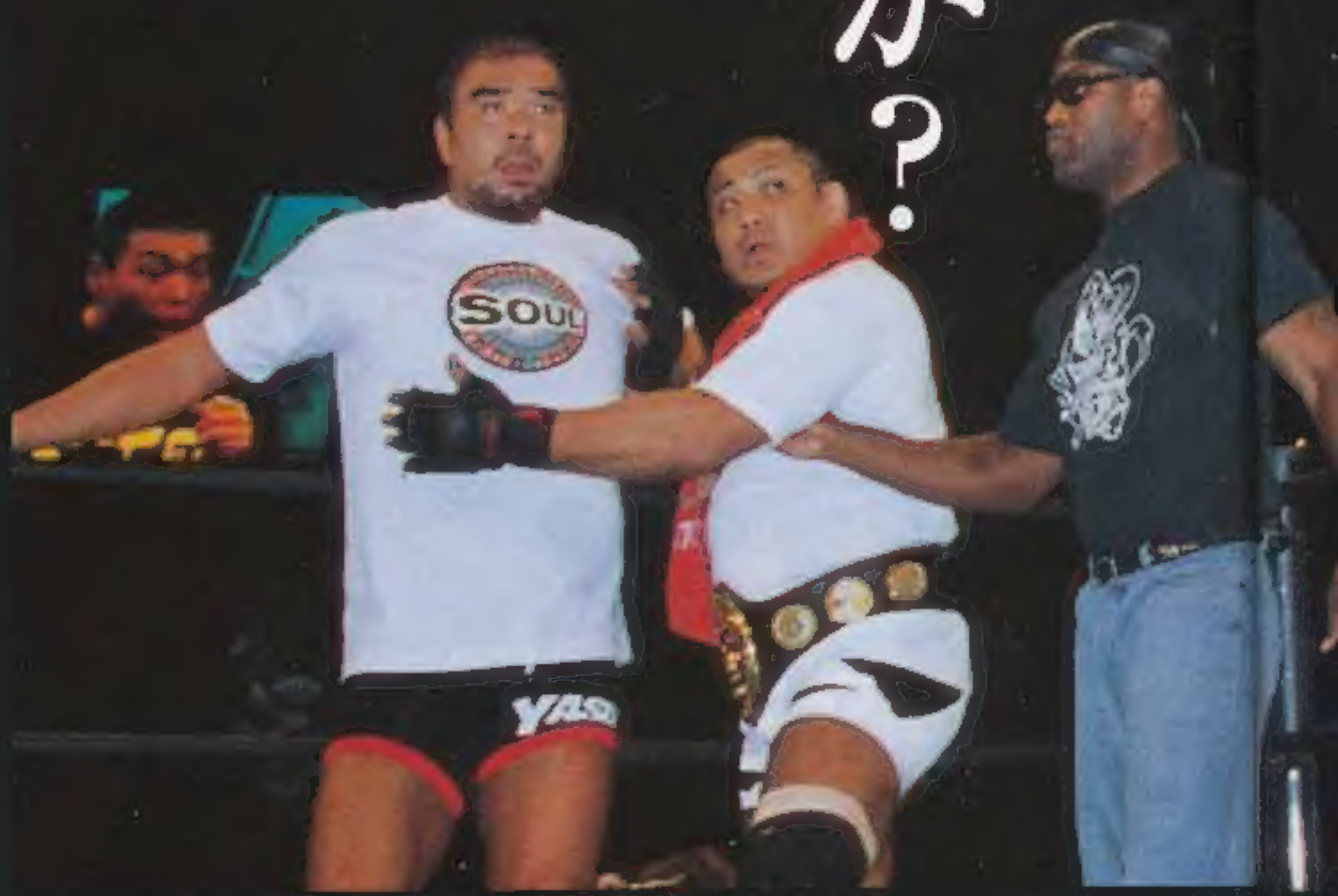
『猪木軍vsK―1』という、TBS、フジ、日テレといったテレビ局を直接的、間接的に巻き込みながら、天下のNHK紅白歌合戦にまで噛みついて行うビッグマッチに比べると、オーちゃんの新日登場というのは、やや話題的にもトーンダウンしてしまう。

でも、オーちゃんが、押しつけがましい〝プロレス愛〟を壊しにかかったら、これ

# 味方がいいのか？

## オーちゃん10・8の乱入マイク

**おいおい、待てコラッ！
三つ巴戦はどうなったんだ、オラッ!!
俺はそのつもりだぞ!!　佐々木ィ！
藤田ァ！　安田、お前もか!?　中西！
永田!!　1月4日、やってやる、ここで!!**

平均視聴率では敗れたものの、時間帯が被ってるときには、K-1を0．1％上回った新日本の特番。永田＆秋山vs武藤＆馳という、"プロレス愛"を全面に出した、見事なほどの純プロレスがメインを飾った（写真上）。プロ格の試合も3試合。復帰戦となった健介は、ＶＴ特訓のかいあって（？）、いきなりパワフルなラリアットをかましたものの、藤田に惜敗（右下）。また11・3「PRIDE.17」で、いきなり"グレイシー狩り"に出陣し、30キロ軽いヘンゾと闘う小原は、この日、PRIDEの番人・グッドリッジにバタバタと敗れてしまった（左下）

はバッグンに面白くなる。物事を動かすには〝余計なこと〟をしまくるしかないのである。

アントン総帥も、格闘技という土壌から、「純プロレス」に闘いを挑んでいる。オーちゃん、頼むから、〝プロレス愛〟なんかに溺れないでくれ。

やっぱりプロレスにとって、ハナっから提示された〝プロレス愛〟というのはガンなのだ。

闘いなくして、愛はなし。破壊なくして創造なし、である。

『猪木軍vsK―1』の裏テーマは、〝共創〟。共に創るということである。アントン総帥は、敵軍の大将・石井館長と、暗い時代に手を携えながら時代を変えようとしている。

8・19を見てわかる通り、『猪木軍vsK―1』のリング上が、ノーダメージ、ノーペインで済むわけがない。

しかし、これ以上、アントン総帥と石井館長が〝共創〟という概念にどっぷり浸かってしまうと、〝プロレス愛〟と変わらなくなってしまう危険性はある。

闘いなくして、愛はなしだ。闘いのない〝愛〟は〝純〟にまかせておけばいい。

ガチンコのなかに必ずしも〝闘い〟があるわけじゃない。プロレスだから〝愛〟があるとは限らない。

そういえば、モー娘。のメンバーのゴマキの歌に『愛のバカやろう』というのがあるそうだ。ゴマキくらいは知ってるゾ。

とにかく、いまボクはこう叫びたい。

〝プロレス愛のバカヤロ――――ッ〟（アントン調）

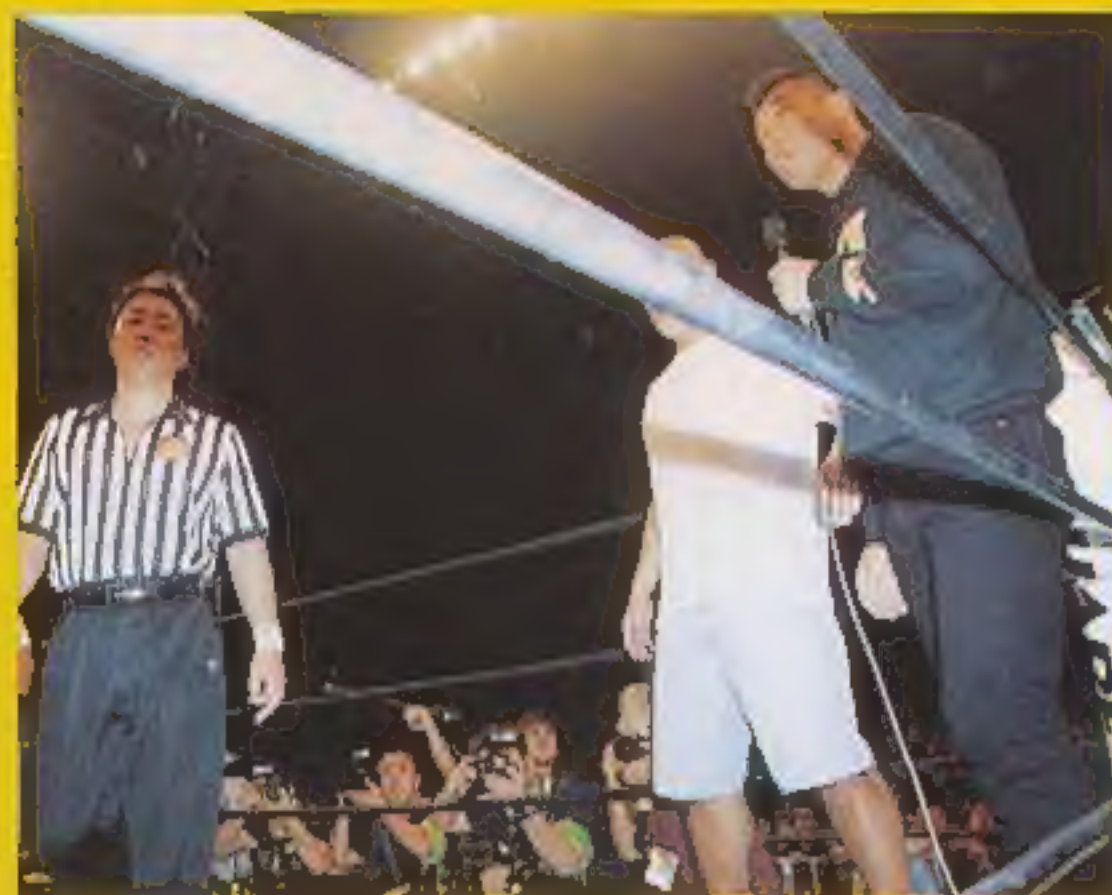
【N・Y】

10・8新日ドームに乱入も
またもや孤立無援になった
“暴走王”はどこへ飛ぶ!!

# 小川直也

## NAOYA OGAWA

聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博
designed by hisa (Two Three)

# 猪木軍?

# 猪木軍っていうより『PRIDE』軍って直した方がいい!!

ノアの秋山準が新日本マットに上がるという歴史的な一瞬を体感するために、6万1500人（アントン総帥曰く、ウソ）の純プロレスファンを飲み込んだ、10・8東京ドーム。

復帰戦の健介と新日凱旋の藤田。シングルで対決する両者が入場した後、黒い影がリングに向かって疾走した!!

村上和成を従えたオーちゃんだ!

アントン総帥は、この日、福岡のK—1のリングで、大晦日に実現する「猪木軍vsK—1」という〝非常識〟をアピールし、「今日は東京ドームで新日本がやってるんですねえ。……新日本の皆さん、元気ですかーッ!」と皮肉&嫌みたっぷりの挑発を行った。

そのアントン総帥と離れて飛来したオーちゃんは、リングインし、マイクを強奪して、こう叫んだ。

「おいおい、待てコラッ! 三つ巴戦はどうなったんだ、オラッ!! 俺はそのつもりだぞ!! 佐々木ィ! 藤田ァ! 安田、お前もか!? 中西! 永田!! 1月4日、やってやる、ここで!!」

もちろん、ドーム中に響き渡るファルセットボイスでオーちゃんが叫んだその後、10・28福岡で、健介、永田、中西、安田の4選手がトーナメントを争い新日代表を決め、オーちゃん、藤田と1・4新日ドームで巴戦を行うことが発表された。

なぜ新日をターゲットにしたのか? 対K—1はどうなる? 『PRIDE』参戦は? アントン離れ? 〝暴走王〟オーちゃんの真の狙いとは何か?

いずれにしても、この男の今後からは目を離せそうもない。

——新日本ドームへの乱入、10・25『真撃』参戦決定、そして連ドラ放映開始ということで、非常に勢いがついてきましたね。これから年末から年始にかけて……。

小川　波が来るかな、と。

——自分では、波が来る感覚はあるんですか?

小川　波だかなんだかわかんないですけどね（笑）。

——なぜ自分で落とす!（笑）。

小川　波だと思ってても、波じゃないときがあるからね。人間、油断しちゃいけねぇな、と。

——10・8には「K—1に行く」という話もあったんですけど、突如、新日本に乱入した真意を、ズバリ教えてください。

小川　新日に対してはね、よくわからない部分っていうのかな? 意地になってた部分は、俺と藤波さんの問題であるから。でも幹部の人が何回か来て、「闘いの舞台を提供したい」と説得してくれたっていうか。K—1の方は、こっちが行く、行かないの新聞上のやりとりだけであって、「来てもらってもいいぜ」みたいな感じで言われたのと、その違いかな。新日は何回も足運んでくれて、ドラマの収録現場まで来てもらってね。

——じゃあ、ある意味で新日本の熱意を感じたってことですか?

小川　そうだね。ひと言でいうと、新日本のフロントの要望。それが新日の総意かどうかはわかんないけど。あと、「プロレス対K—1」って枠で考えたら、これはちょっとヤバイなぁ、と。俺も1回、「プロレス対K—1なんて関係ねぇや」と思って、あくまでも、俺個人対K—1ってことで考えてたんだけど、やっぱりプロレスっていうものが、ゴールデンタイムに出るというの

は数少ないしね。K―1はしょっちゅうやってるから。

―いまやプロレスは、ゴールデンタイムなんて年1回あるかないかですからね。

**小川**　そう考えちゃうと、毎回ゴールデンタイムやる度に、プロレスの試合を90分流すんじゃなくて、20分ぐらい、いままでの名勝負とか入っちゃってさ、〝もったいないだろ、そんなもん〟って感じでしょ。いまを見せないとね、いまを。

―あと、乙葉が出てきたり（笑）。

**小川**　乙葉ちゃんは可愛いからいいんだけどさ（笑）。

―実際、ファンからは「乙葉ちゃんが一番面白い」って声がありますからね、特番の度に（笑）。

**小川**　そんなんじゃいけねぇよ、みたいなさ。そう考えちゃうと、やっぱり最後は新日本どうのこうのじゃなくて、世間が見てるチャンスに、プロレスってものを、もっとアピールしなきゃいけねえかなっていうのが俺の考え。新日本は新日本で裏にK―1があるから「来てほしい」っていう考えがあって、それが合致したっていうのかな。お互いが違った目的なんだけどね。

―いわゆる視聴率戦争もあって、K―1と重なってる時間帯は、新日本が10・3％、K―1が10・2％で、0・1％プロレスの方が上回った。新日本側は、健介対藤田戦の視聴率が一番上だったということなんですけど、ボクらが手に入れた資料によると、小川さんの乱入時が一番視聴率が高いんですよ（笑）。

**小川**　素直に認めりゃいいのにな、新日本も。ダーハッハッハ。起用したのは新日本なんだから、そこで視聴率が上がったんだったら、起用したことが正解じゃない。だから、「よかった、よかった」でいいのにさ。ねぇ? 俺は視聴率がどうこうじゃなくて、1・4に向けて出たんだしね。幸い、周りからも「次は、1・4だって?」って聞かれるからね。結構みんな見てたみたいで、それはよかったなって。自分の出やすい場所になってきたなぁと。だから、あの場で「1月4日」って言ったけど、テレビを見てる人は、どこでやるかわかんないだろうから、「東京ドームでやってやる!」って言ったんだけどね。

NAOYA OGAWA

## 猪木さんに「感じるままにやれ」と言われたんで、やらせてもらってるだけ

―サービス精神旺盛（笑）。健介、藤田、安田、中西、永田の5選手の名前を挙げた理由は?

**小川**　新日本がやっぱりいま、ギリギリのラインにいると思うんだよね。

―ギリギリ?

**小川**　そう。要するに〝闘い〟っていう部分で、猪木さんがやってきたプロレスを残していくのか、昔の全日本的なものに針を振っていくのかね。そのギリギリの最後のところにいると思う。でも、1・4に俺を上げるということは、まだ本来の新日本を取り戻そうという可能性は残されてるのかなって。だから、安田選手なんかは、ポカ～ンとしてた感じもあったけど、そのメンツで張り合っていけば、本来の新日本を取り戻せるんじゃねぇかな、と。まぁ俺は新日本の人間じゃないから、本来の新日本どうのこうのと考える必要はないんだけど、でも、新日本は業界最大の団体で、マット界のヘソでしょ。そのマット界のヘソに、ヘタな方向に行ってほしくないなっていうのがあるからね。

―一方、マット界の台風の目は『PRIDE』なんですけど、昨日（10・10）、猪木さんが成田からアメリカに帰るとき、「11月3日に小川が入るのもいい」という発言がありましたね。

**小川**　俺はもう、「11月3日は高田戦以外は出ない」って言ったから! 前から「高田さんとしかやらない」って『PRIDE』に対しては何回も言ってることでもあるしね。だから11月3日は、高田戦が消滅した以上は、『PRIDE』はこっちから願い下げだっていうこと。絶縁もしたしね。

―いまのところはってことですか?

**小川**　永遠かもしれない（ニヤリ）。

―でも、同じく絶縁してた新日本に乱入することもあるわけだから、どうなるかはわからないですよね?

**小川**　その裏には、新日本と俺の個人的な問題がある。やっぱり、個人的な問題なんだよね。この個人的な問題というのをどう説明するかなんだけど。だから「プロレス対K―1」っていう図式があって、これは負けるわけにはいかねぇなっていう意味で今回は出てきたんでね。その問題も含めて、大きく引っくり返しちゃえばいいかなって部分があったから。

―でも、プロレスの放送が終わった8時台からはK―1の視聴率が上昇して、結局、平均視聴率ではK―1の方が上回ってしまったんですよ。

**小川**　うん。だから、新日本どうのじゃなく、プロレス界全体が頑張らなきゃならないでしょ。

―猪木さんは、暗に12月31日と1月4日を連戦しろと匂わせてるんでしょうけど、小川さんに対して、「タレント業もいいが、プロレスラーというのは連戦するもの」「1月4日まで持ち込めば、過酷であるほど話題を独占できる」っていう言い方をしてましたね。

**小川**　結局、自分の意志ってもんがあるからね。俺のなかでは、最後は面白きゃいいっていうのが答えだから。あくまでも11月3日の高田選手とやるっていうことに関しても、勝手に向こうが消滅させたことだから。それは向こうの事情であってね。こっちにはこっちのプライドってもんがある。「出してください」って頭下げることなんて絶対したくないしね。『PRIDE』は高田選手が、俺と闘いたいと言っても引っくり返すようなことまでやっちゃうところだから、俺という存在自体をあんまり認めたくないような部分があるんじゃないの。それだったら勝手にやってって感じ（笑）。使う、使わないで煽るのもいいんだけど、俺にしてみれば迷惑だからさ。俺は『PRIDE』と契約してるわけじゃないし、P

RIDE戦士でもないし、UFOの所属選手としてやってるわけだから。
――高田選手も対ミルコ戦が決まって、プロレス対K―1という図式に入ってきてますよね。
**小川**　まぁ、高田選手が突然発言を変えたのも、事情があるんじゃないの？（ニヤニヤ）。でも、最後まで俺とやりたいっていう信念はあったみたいだし、それはそれで、高田選手の事情っていうのがあるから深くは言わないけどね。
――高田選手は「この先も、小川に対しての思いは変わらない」みたいなことを言ってますよね。再び対戦要望が正式に来たらどうするんですか？
**小川**　いいんだけどさぁ。自分から言っといて、自分で消して、次にやろうって言える神経っていうのが凄いと思うね。「ごめんなさい」も言わないわけでしょ？（笑）。せめて「小川選手、ごめんなさい。今回はこっちの事情で」って言えばね。ファンだってわかってるんだからさ。わかんないように、いつまでもカッコつけちゃいけねぇよ！　人間、悪いときは悪いって素直に言わないと。責任転嫁がウマいっていうのかな……そういう時代じゃないんだけどね、もう。新世紀になって、そういうこともハッキリ明確に打ち出していかなきゃいけない時代になってるし。
――明確に打ち出すっていう意味では10・8の新日本への乱入に関して、「猪木への決別」とデカデカと報道したところもあるんですけど、そういう書かれ方についてはどう思います？
**小川**　猪木さんに電話もらって「お前の感じるままにやってくれよ」と。だから自分の意志でやらせてもらってるだけですよ。
――それによって猪木さんと軋轢が生じるとか、そういう問題ではないということですか。
**小川**　別に。「感じるままやってくれ」って言われたんで、俺の気の向くままにやらせてもらって、いい方に行ったからね。
――でも、夏は試合もなく沈黙してたから、いろいろ一気に動きそうですね。
**小川**　まぁ、いいんじゃない？　人間、年がら年中波に乗れるわけじゃないんだからさ。それなりに自分で基礎体力もつけなきゃいけないしね。やっぱり最後は自分しかないから！「試合やらないでどうのこうの」っていう苦情というか文句はいろいろあるんだろうけど、最後に信じるのは自分だから。俺のファンの人に対しては、苦情によく耐えて応援してくれてるから、感謝してるけどね（笑）。
――今回は、猪木さんとはまた別の、自分の意思で動いたということですか。
**小川**　だから、ずっと猪木さんの命令を聞いてるとかそういうんじゃなくて、常に自分で判断してやってるから。だから、なにがいいのか悪いのかっていうのは、自分で全部見えてるから。自分の上がるところが風前の灯じゃ寂しいし、あそこで乱入したことによって、1月4日も、ちょっとは一般の人も楽しみにしてくれるのかなっていうね。

オーちゃんが名前を挙げた5選手のうち、4選手は直接対決。藤田vs健介は藤田、中西vs安田は、中西が勝利。メインで秋山と歴史的タッグを組んだ永田は、[illegible]（パートナーは武藤）からピンを奪取。新日勢は1・4に誰が出てくるのか？

――ただ、ファンの声を聞いてると、なぜこの時期に、小川直也がいきなり新日本を標的にしたのかっていうのが、まだ明確にわかってないみたいですよ。
**小川**　バカだねぇ～。
――ガハハハ！　バカ。
**小川**　君たちはプロレスファンなんだろ？　K―1ファンが言うんなら別だよ。でもね、K―1とプロレスがドンパチやるのも小さいことなのよ。新日本とK―1の視聴率戦争なんていうのも小さいもんなの。プロレスというものを世間に対して発信していくのがゴールデンタイムなわけじゃない。俺の考えがトンチンカンなのかもしれないけど、俺はそう思ってやってるだけだから！
――猪木さんが同日、K―1の会場に行ったことについては？
**小川**　それはK―1に師匠が行って、俺が新日本に行って、両方を独占したって考えればバンバンザイって考え方もあるでしょ。だから、どうして細かいとこしか見ないんだろうねぇ？
――猪木さんと小川さんがリンクを貼ったわけですからね、本来繋がりがない「純プロレス」と「純K―1」に。
**小川**　だって、二元中継だってできたんだから。「福岡の猪木さん、ど～ですかーッ！」って。
――ガハハハ！　マット界独占。
**小川**　そうなったら面白いじゃん。だけどあっちはフジテレビだからね、そういうわけにもいかなくて。
――猪木さんは「今日は東京ドームで新日本がやっています。新日本プロレスの皆さん、元気ですかッ！」って言ってましたけどね（笑）。現役の筆頭として、マット界のあちこちにリンクを貼っていく役割なんですかね、小川さんは？
**小川**　そういうことを期待されても、それはそれでしょうがないかなって思いますけどね。
――ところで、石井館長が「K―1への引き抜き」ってことを言ってますけど、これはどういうことなんですか？
**小川**　ウチ（UFO）の社長が話したんだけど、「あれ、わかんねぇ男だな」って言ってました（笑）。
――それに輪をかけて猪木さんが「その可

能性もある」なんて言っちゃうもんだから困りますね（笑）。
小川　俺は、UFOという会社があって、そこでやってるレスラーなんでね。俺がUFO抜けたら、UFOはどうなっちゃうの？（笑）。いまさらK―1なんて入りたくないよ～。
　猪木さんは、「1対3のトレードでもいい」とも言ってますよ（笑）。
小川　俺、新日本の選手じゃないんだけどなぁ。UFOに3人入ってくれりゃあ、別だけど。でも、俺が抜けていいのかな？って（笑）。
　館長は館長で「小川選手が百人組手をやったら1対3のトレードも考える」とか言ってますね。いつの間にか猪木さんと館長のキャッチボールになってますよ（笑）。
小川　館長は、俺とキャッチボールやってたはずなのにさ、いきなり横に球投げて、違う人とキャッチボールやってる感じだよね。俺にはいつまでたっても球が来ないから"なんだよ、仲間外れかよ。マイッタな"みたいなさ（笑）。
　その館長は「小川選手の相手は新日本ではない。12月31日に無傷で帰れると思ったら甘い」とも言ってます。
小川　俺が行かなくなったら急に言うっていうのもなんかねえ。いつもこうだもんね、みんな。最初から言えばいいのに。
　「12月31日に来なかったら、逃げたということ」とも言ってますね、館長は。
小川　そうかな～？　逃げたのかな～？　K　1のリングで闘うって言ってんのにな～（ニヤニヤ）。
――前から言ってますよね。
小川　俺は「K　1にやられた借りはK　1のリングで返す」って言ってるんだから。「やるなら強いヤツだぞ」って言ってるにも関わらずさ、な～んでそんなトンチンカンなことばっかり言ってんのかな。
――猪木さんや石井館長は、ムードというか、流れをつくるのは超一流ですからね。例えば館長が「あんなに挑発して、口だけなら誰も認めない」なんて言うと、「そうだそうだ！」っていうムードにもなっていきますからね。
小川　いいんだよ、俺なんか認めなくても！
――ガハハハ！　スネてどうするんですか！
小川　いや、スネてない。不思議とそっちの方が好きなんですよ、俺。テレビ見てて、前フリが激しすぎちゃって、本題でシュンとなることってあるじゃないですか。そういうのダメなんですよ。
　それは格闘技に限らずってことですか？
小川　そうそう。要するに激しい前フリに沿って、期待通りになってくれりゃあいいんだけど……俺はそこまで自信ないから。
　あら。
小川　そこまで激しい前フリをする自信がね。やっぱりね、こっちの職業で言うと、激しい前フリよりも、試合がすべてだから！
　それで思い出したけど、『ゴング』の10／11号の編集後記で、またGK（ゴング金澤編集長）がやってくれてますよ。「小川はもう口先だけで生きている自称プロレスラー。過去の名声とテレビ出演による知名度、さらに猪木という協力な後ろ盾に守られて、口先だけでプロレスをする男。四の五の言わず試合をすべきだ。それができないなら、肩書をタレントに変えた方がいい」とまで書いてますね。素敵ですよ、GKは！

NAOYA OGAWA

## ただ、12月31日は、『PRIDE』の仕切りじゃ出ねぇよ、と

小川　俺に言わせりゃ、『ゴング』は新日本っていう強力なバックがあって、新日本の中でゴマ擦ってるんじゃない？　全部自分に当てはめられるじゃねぇか！　自分で言ってて恥ずかしくないのかね？　言葉っていうのは裏返しなんだよね。だから、その人もそうなんだよ、きっと（笑）。
　裏返しという意味では、結局小川さんへの期待が高くて、もどかしいからこういう書き方をするんだと思いますよ。
小川　だから、『ゴング』さんには、「わかったから、暖かい目で見守ってくれよ」と（笑）。そんなとこで争ってもしょうがないしさ。
――でもホント、不思議なのは、プロレス関係者からもこうやって疎まれたり、格闘技関係者からも疎まれたりしますよね、小川さんって。これを自分でどう分析してるのかなってところに興味があるんですよ。
小川　簡単なことじゃない？　要は自分たちがコントロールしたいんだろうね。「こいつ、言うこと聞かねぇな、生意気だな」と。それだけじゃないの？
　「言うこと聞かないから嫌い」ってことですか、単純に言うと（笑）。
小川　媚びないから嫌いなんじゃないのかな？
――小川さんとしては、そういうものに付き合う気はサラサラない、と。
小川　そうしたら俺じゃないよ！　俺だって自分のストーリーやキャラクターってもんがあるんだから、そりゃあ目一杯、見栄張っていくしかないだろうね。
　10・8以前の新日本もそうだったわけですか。「言うこと聞けよ！」って（笑）。
小川　でも、今回は新日本を助けるとかうんぬんじゃなくって、「プロレス」っていう自分の職場を潰すわけにはいかねぇっていう考えだから、俺は。
――たとえば今日（10月11日）発売の『週プロ』でも「広告屋や騒乱屋としての小川直也はもういい。プロレスファンが見たいのは、闘う小川直也だ」と、至極真っ当な書き方をされてますね（笑）。
小川　俺、別に……ドームでも巴戦はやるつもりだったし、「出る」って言ったんだよ。今回は藤波社長のコンニャク決断でやらなかっただけでさ。
　コンニャク決断（笑）。
小川　そもそも俺じゃねぇんだって（笑）。みんな勘違いするのはね、俺だったら批判書いても怒られないからいいだろうってことで書いてるんだろうね。「あの人の批判書いたら、もう書かしてくんねぇ」って緊張感があったら、恐らく書けねぇだろうな。それは暗黙の了解でマスコミとのライン引きができてるから、みんな書けるんだろうね。誰とは言わないけど、「この野郎！」って怒鳴ったら、みんな書かねぇじゃねぇかよ！　汚ねぇなと思ってさ。だから、「あの人、大人だから大丈夫だろう」って俺は思われてるんじゃない？
　あ、そうか。「あの人、大人だから」っていうのはネックかもしれないなぁ。
小川　最後はそれでしょ？　そうじゃなくて、「この野郎！」って言う人のことは、みんな書かないじゃん。
　長州力にしても、前田日明にしても。
小川　いやいやいや、俺は名前出してないですよ（笑）。

―たしかに小川さんは、もっともっと子どもになるべきかもしれないなぁ。

**小川**　怖い人に対しては書かなくてさ、みんな（笑）。

―そんな大人の小川さんにズバリ聞きます！　小川さんに対しては、「新日本よりも『PRIDE』に上がってくれ」という空気があるのは、敏感な小川さんは当然感じてるんですよね？

**小川**　別に上がんないってわけじゃないんだし。勝手に向こうが小賢しいことしてるから。高田対小川戦に関してだって、向こうが急に「やめた」って言い出したわけでしょ？　別に俺、なんにも言ってないのにさ。マイッタなぁ。

―小川さんが自由裁量で動くことを嫌がっている人がいるっていうことですか。

**小川**　うざったいんだろうな。

―なんでなんだろうなぁ？

**小川**　俺はね、『PRIDE』の言うこと聞く義理もないんだよ。なんで、頭下げなきゃいけないの？ってなるじゃん。

―でも、ハッキリ言ってしまうと、11・3の『PRIDE』はともかく、12・31の『猪木軍vsK―1』に出なかったら、また「逃げた」って言われますよ。

**小川**　ん？「逃げた」でいいんじゃないの？

―あ、いいんだ（笑）。

**小川**　いいですよ、それで！　ただ、12月31日は『PRIDE』の仕切りじゃ出ねえよ、と。俺は俺路線で、K―1対猪木軍じゃなくて、違った形で表現したいっていうか。K―1とやらないと言ってるわけじゃないし、違った形でやりたいんだっていう。どうしてみんな敷かれたレールの上に行くのかなぁと。自分で作って自分でやっていくところをみんなが見たいんじゃないのかな？

―それは絶対そうですよ。だから猪木軍……。

**小川**　（遮って）猪木軍じゃないよ！　PRIDE軍に直した方がいいんじゃないの？

―それに絡めて言うと、小川さんはいまは、「プロレスは負けてはいけない」と明言してますよね。でも、小川さんの成り立ちは、プロレスを守るんじゃなく、ある意味、壊すことでいまのポジションを築いてきた。だからK―1に対しても、『PRIDE』に対しても、もっともっと攻めて破壊してくれよっていう潜在的欲求がファンの頭にあると思うんですよね。

**小川**　だから、同じ守ると言ってもね、ファンのためにもプロレスっていうものを従来のものから変えていって、「プロレスっていうのはこうだよ」っていう本来の姿を見せる。その本来の姿に戻すことでプロレスを守る。その作業をまずは新日本でやっていこうかなって思っただけでね。

―新日ドームに乱入した際、中西、安田、健介らの名前を出したときに、「俺は対K―1に討って出る！　お前らはどうするんだ！」って小川さんが挑発したら、盛り上がったと思うんですよね。挑発しながらも守るという。

**小川**　あ、そうか（笑）。でも、ドームの試合も本来の姿を取り戻しつつあるじゃない。こないだの何試合かを見てても。そういう試合になってもお客さんが反応してくれるようになってるじゃない。

―でも、いわゆる〝なんちゃってバーリ・トゥード〟みたいな試合に対しては、会場での反応は鈍いんですよ。そんなのは『PRIDE』でやれっていう反応が非常に多い。ドームのあの空間の中では、メインの純プロレスの方が喜ばれますよ。

**小川**　でも、それはキャラクターができてないからじゃないかな？「この人だったら、こういうプロレスをやってくれる」っていう。純プロレスの盛り上がりは否定しないけど、先が見えてるよね。

―あのドームに集まってるファンにとっては、小川さんは厄介な存在というか、〝余計なこと〟をする人だと思うんですよ。でも、その余計なことをする小川さんだからこそ、純プロレス側も、純格闘技側の人もアッと言わせる行動を期待するんでしょうね。だから、マスコミもファンも、小川さんに対しては、望むことのハードルが実に高いんですよ。一介のプロレスラーには絶対望まないようなことを望むわけですよね（笑）。

**小川**　そんなこと言ってくれると、もっとシッカリやらなきゃいけないんで言わない

でよ。ダーッハッハッハ。
──ファンにしても、残酷でわがままですからね。
小川　俺もそう思う！　なにが楽しみなのか、わかんなくなるときはあるよね。
──こないだのドームのメインイベントのサブタイトルが『クロス・ジェネレーション〝プロレス愛〟』なんですよ（笑）。
小川　なにそれ？
──これは「プロレスというのは愛があるもんだよ」っていう押し出し方なんですよ。でも、最初から愛を押しつけるなよって話で、そういうのを小川さんに破壊してほしいんですよね。
小川　それはそれで、俺は否定するわけじゃないし、適材適所で、それをやる人はそれをやった方がいいしね。みんなが全部同じようなものになっちゃったら、プロレスじゃなくなっちゃうし。いろんなのがあるからプロレスなんだし。
──でも、闘いなくして愛はなし、ですよ（笑）。
小川　もちろん！　新日本とナアナァでやるわけじゃないから、俺は！
──ところで10月25日の『真撃3』にも出撃が決まりましたね。
小川　もともと、前回の8月30日のことが引っかかってたんですよ。
──あ、出なかったことが。相手は、名ボクサー、ジャック・デンプシーのひ孫のジョシー・デンプシーということが発表されましたね、昨日。
小川　やっぱりそうきたか。……なんでもいいけどね。

## ノゲイラ？　強いよね、やっぱり。ただ、俺なりのストーリーがあるし

──対ボクサーってことについては？
小川　いいんじゃないの？
──あんまり乗り気じゃないんですか？（笑）。
小川　いや、だってわかんないんだもん、情報集めてないから。これからだからね。いまはあんまり気にしてない。
──いずれにしろ、小川直也がドンドン、マット界を掻き回してくれることへの渇望感は大きいですよ。
小川　引っ張っていきたいけど、やっぱり、みんなわかってないと思うんだよね、俺の方向性っていうのが。わかんないからイラだつんだろうね。ザマァミロ！って。ダーッハッハッハ。
──意地悪いなぁ（笑）。

NAOYA OGAWA

小川　でも意外性見せた方が面白いのかなっていうのはあったよね。
──意外性という意味で言えば、例えばバーリ・トゥード特訓を積んできた健介選手に、小川さんが「健介、お前バーリ・トゥード特訓やってきたらしいな。1月4日に俺とバーリ・トゥードをやれ！」って言うくらいの刺激がないと、いまは意外性とは言えないかもしれないですよ（笑）。
小川　いまは、新日本に何かを求めちゃいけないんだよ。ハッキリ言えば、ぬるいシチュエーションに慣れちゃってるんだから。だから、土台を作ってあげないと。どこの会社だって〝5ヵ年計画〟とか構想があるじゃない。俺の場合は例えば〝3ヶ月計画〟とかで、構想があるから。そっち目を向けさせるきっかけとして、猪木さんがK―1に行く日に、俺が新日本に出る。そうしたら、みんな「なんで新日本なんだ？」って思うでしょ。
──で、「ザマァミロ！」と（笑）。
小川　「まさか新日本に行くと思わねぇだろ」って。ファンはね「どうするんだろう？」って気になって、自分の妄想が激しくなりすぎちゃって批判に走ると思うんだよ。だから、俺はある意味、批判は嬉しいんですよ。「こいつら、答えが見えてないんだな」って。見えてないから批判に走るんですよ。
──ちょっとレベルが上のファンにとっては、答えがわかんない方が全然面白いんですけどね。
小川　みんな答えをすぐ教えてほしくて、わかんなくて、批判に入っちゃうから。「俺だけはわかりたいんだよ」っていうのがあるんじゃない？　俺が新日本に出たっていうのも、批判に走るのか、「なんで新日本に行ったのかな？」って取るのか、それはそれぞれの思いがあるだろうし。
──「なんで新日本なんだろう？」って言ってるファンは確かに多いんですよね。「あれ？　対K―1じゃなかったの？」って。それは、つまり、「なんでいま、この時期に新日本に行くの？」ってことですよね。
小川　いまの新日本に行っちゃったら、永久に出て来れないようなイメージがあるのかな？（笑）。だから、別にいいんですよ。1・4は、プロレスで世間に対して自分のアピールができれば。だって、10・8のテレビだって、たとえ0．1％だって、間違いなくK―1より見てくれる人が多かったんだから。で、1月4日に自分がいい試合を提供できれば、それは俺としてはマルだしね。
──それはわかりますよ。でも、小川さんには、プロレスを守るという立場じゃなく

て、K―1や『PRIDE』ナニするものぞ、という感じで攻め込んで行ってほしい。それが守ることに繋がるんだっていうニーズがあるのは感じてますよね？

**小川**　もちろん。だから、「K―1で傷つけられた借りはK―1で返す！」って言ってるじゃん。で、〝K―1戦士〟って呼ばれる人、いっぱいいるんだから、「一番の人じゃないと嫌だよ」って言ってるわけでしょ。グレイシーに対しても「なんとかグレイシーじゃ嫌だよ、ヒクソンとやる」って言ってるし。こっちだって自分自身を賭けてるんだからさ。おかしいんだよね、こっちは自分を賭けてるのに、K―1も『PRIDE』もプロデューサーや団体の人が言うだけでしょ。本人が言うわけじゃないじゃん。選手が単なるコマになるのは、俺はそれは嫌だよっていうね。

――たしかにいまは、選手の鉄砲玉的な自主性は封じられてる空気がありますよね。プロレスにしても格闘技にしても。

**小川**　最後は自分でやっていくしかないからね。まぁ、ファンにしても妄想が飛び出す理由は、俺が1・4に出る理由を言わなかったからでしょ。でも、逆に「どうなるのかな？」って期待が膨らむじゃないですか。それがプロレスじゃなかったのかなぁって思って。帰りの飲み屋でさ、「どうやって1月4日まで持ってくのかな？」っていうのが楽しいんじゃないの、プロレスファンって？

――昔はそうでしたよね。いまはどうなんですかね？　たとえばK―1にしても『PRIDE』にしても、いいカードをすぐに組んでいく時代で、スピードが異常に早いですからね。ところで小川さん、ノゲイラには興味ないですか？

**小川**　強いよね、やっぱり。タックルとか、全然関係ないんだろうなって感じでしょ。

――ボクは個人的には、小川vsノゲイラは見たいですけどね、非常に。ノゲイラに勝てるヘビー級の日本人は小川さんしかいませんよ。今度11・3でPRIDEヘビー級王座をヒース・ヒーリングと争いますけどね。

**小川**　プロレスを潰そうという気なのか、なんなのか、とにかく、ポンとカードを早い時期に組むから、サイクルは早いよね。でも、人間、そんなにできるわけじゃないから、今後が辛いんじゃないかな。ま、人のことだからど～でもいいけど。

――で、ノゲイラなんですけど（笑）。

**小川**　う～ん。賭けるものが違うんだもん。

――いや、ノゲイラじゃなくてもいいんだけど、さっきの意外性って意味で言うと、小川さんが「いち格闘家としてあいつとやってみたい」とか言えば、それはタイミングによっては、凄く刺激のある意外性だと思うんですけどね。ダメですか？

**小川**　それはアマチュアのレベルだな。こう言うと、また逃げてるとかなんとかなるんだけど、プロって違うと思うんだよね。お笑いでもそうじゃない？　大阪でトップの人が東京に来ても、一からやっていくわけでしょ。まだノゲイラの場合、「大阪では人気あるんだけど」ってレベルだからね。だから全国区と地方区の違いってあるし。

――それはプロとして正しいんですけど、最近のファンのニーズを見てると……。

**小川**　最近のファンのニーズって言ったってさ、俺は別に格闘技マニアに向けてやってるわけじゃなくて、ファンの底辺の拡大っていうのかな？　お爺さん、お婆さんに対しても夢を与えるっていう部分がプロレスだと思ってるから。もともとがそうだったでしょ。力道山が敗戦の時期に勇気や希望を与えたっていうのが始まりなんだから。俺にも狙いがあるんだよね。だから、どっかのくだらないやつみたいに、「言うこと聞け」とかなるから、おかしくなるんであって。こっちはこっちの考えでやってるんだから。

――「こっちの考え」は年末から年始にかけて、ガンガン見せてもらえるんですよね。

**小川**　俺は別路線で行きたいっていうことだね。俺なりのストーリーってもんもあるし。K―1だったらK―1のリングで俺はやるよ。やっぱり気持ちよくやりたいじゃない。

――やる以上は（笑）。

**小川**　そう（笑）。どのみちやることになるんだから、それだったら気持ちよくできないんだったらやんない。だって気持ちいい舞台でやらないと、自分のいいもん出せないのよ。やるのは俺なんだからさ。選手がやるんだからさ、プロデューサーがやるんじゃないんだから。

――でも、猪木さんや石井館長が、「そういう小さなこだわりは持たずに」とか言うと、ファンも「そうだ、そうだ！」ってなっちゃいますよ。

**小川**　小さなこだわりじゃなくて、大きなこだわりなんだよね。人間、誰でも譲れない部分はあるじゃない。自分の120パーセントのパフォーマンスを出すには、譲れない部分は大事だから。何度も言うけど、最後は自分を信じてやるしかないからね。そういうこと。以上！

【10月11日／UFO事務所にて収録】

髙田vsミルコが
「〃プロレス〃の聖戦」なら
サクvsシウバは
〃プロレスラー〃・サクによる
「PRIDEの聖戦」だ!!
和志

## あの悪夢から約8ヶ月……行っちゃってくれ、サク!!

# 「腕ボロボロ、足ボロボロにして、最後は首絞めます」（ニコニコ）

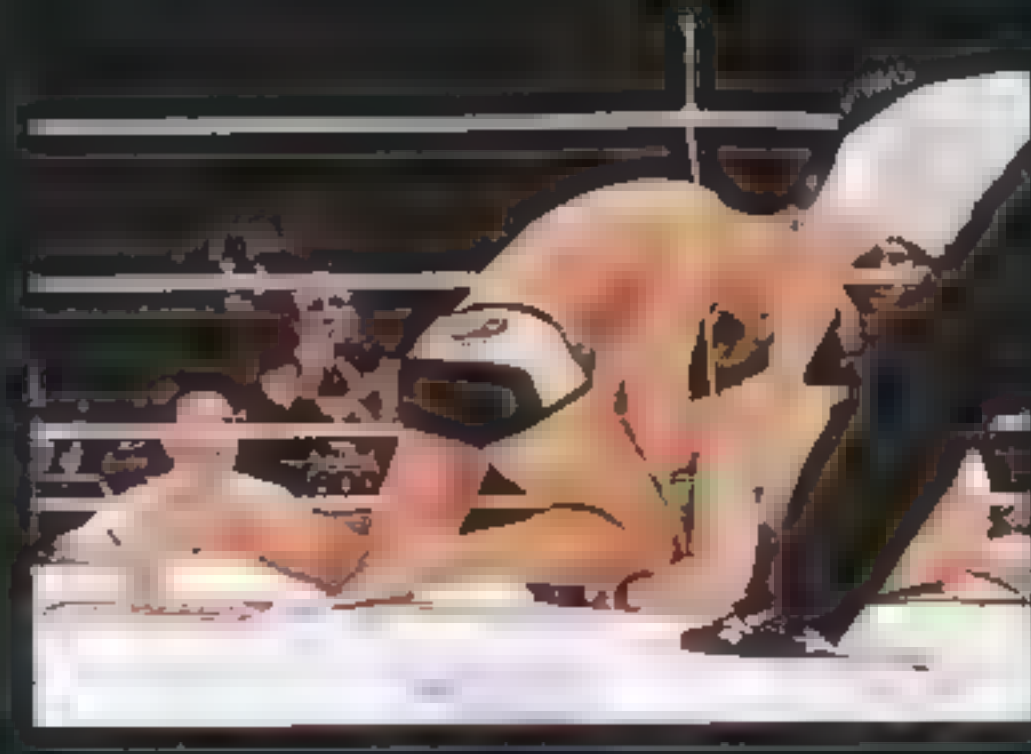
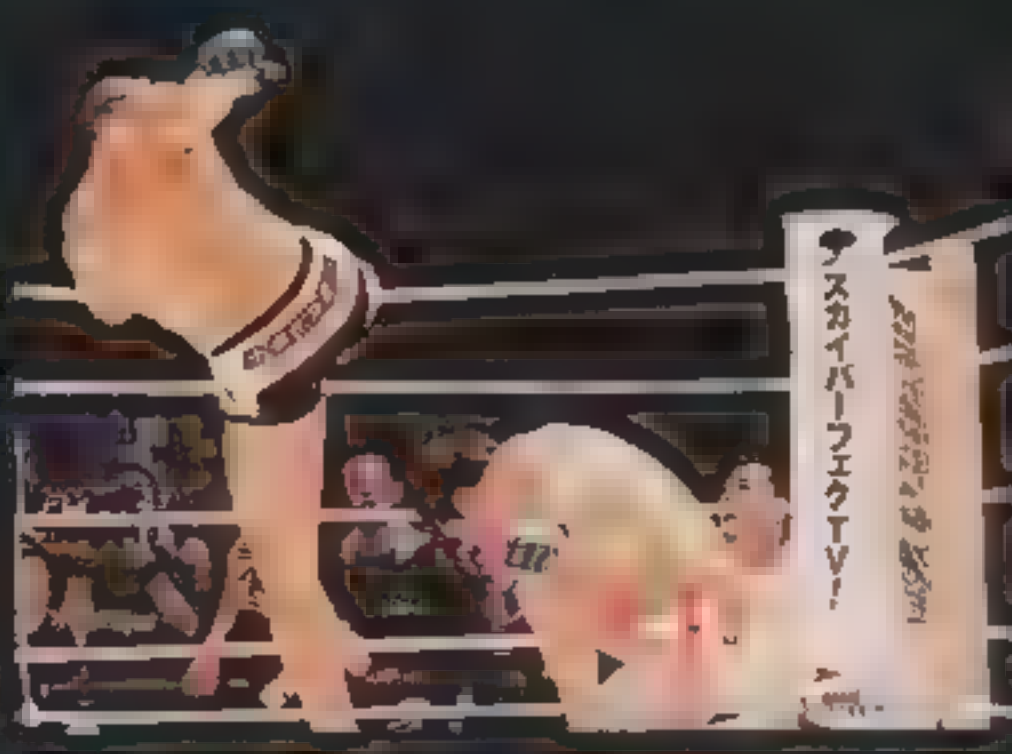
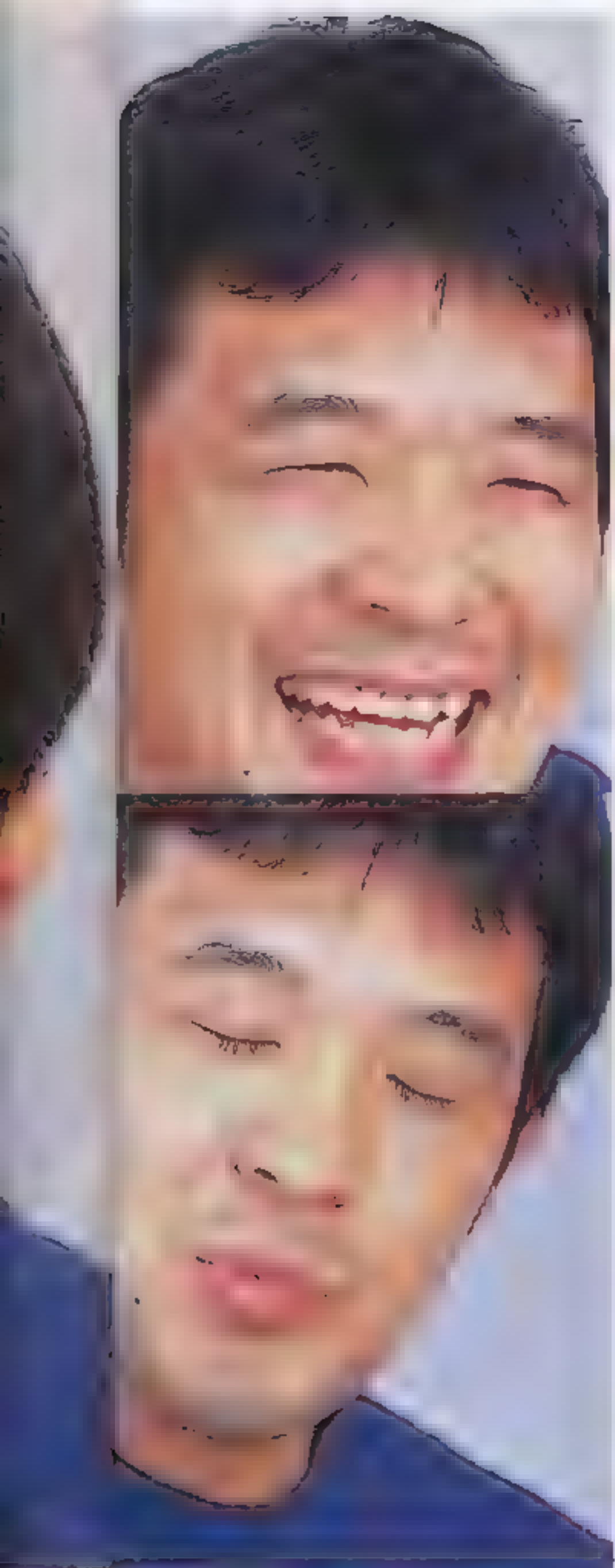
誰がなんといっても、ここ2〜3年、『PRIDE』、そしてマット界は、桜庭和志中心に回ってきた。そのサクが、たった98秒で悪夢のような敗戦を喫した3・25から、約8ヶ月——。遂にヴァンダレイ・シウバへのリベンジのときが訪れた！

しかし、〝リベンジ〟などという手垢の付いたテーマだけが、この試合のすべてではない。

A・ノゲイラ、R・アローナらのブラジル新世代勢、H・ヒーリング、G・メッツァー、D・ヘンダーソンらのUSA勢などの台頭により、影の薄くなってきた日本勢の最後の砦として、『PRIDE』の地盤を死守する闘いともなるのだ。

サクが負ければ、『PRIDE』はガイジン天国この上なし！　という状態に陥ってしまう。いま観客動員では隆盛を誇る『PRIDE』も、日本勢の弱体化が引き金となって、いくら国際化社会とはいえ、その求心力を一気に落とす事態にもなりかねないだろう。そしてマット界の台風の目である『PRIDE』の求心力が落ちれば、勢力図もガラリと変わる。

たった1回の敗戦は、異常ともいえる〝サク特需〟を終わらせた。逆に言えばサクは一瞬、重荷を降ろした。だが、マット界が乱れ混乱した時には、やっぱりサクの出番！　この闘いは、混乱するマット界を眺めるファンの〝心の奥の景気回復〟という命題とマット界の未来を占う重要な一戦なのである。ズバリ言って、桜庭が負けたら、『PRIDE』は終わりだ。見て、騒いで終わりという、最近の『PRIDE』ファンの皆さま、目を覚ましてください！　この一戦は、そんなに軽い一戦じゃありません!!　11・3サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!　行っちゃってくれ、サク!!

聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博
designed by Nsa (Two Three)

――朝方、突然目が覚めて、思いっきり吐いちゃいました。桜庭和志のインタビューだっていうプレッシャーですよ！

**桜庭**　な〜んでだ。飲みすぎなんじゃないですか？（笑）。

――いや、今日こそは、桜庭さんのシウバ戦に向けての、シビアな意気込みを引き出さなきゃ、というプレッシャー。

**桜庭**　で〜も、いつも言うこと一緒ですけどね。

――（無視して）そのプレッシャーから、寝てるとき、突如として胃が痙攣しだしたわけです！

**桜庭**　（手をヒラヒラ振りながら）飲み過ぎ、飲み過ぎ（笑）。

――たしかに昨日は酒もちょっと飲んだけど、どうやら寝る前にコーヒーを飲み過ぎたみたいなんですよね（笑）。

**桜庭**　ほえ〜。コーヒーの飲み過ぎでも気持ち悪くなるんですね。

――バカみたいに、10杯くらい飲んじゃいましたから（笑）。ところで、桜庭さんは体調よさそうですね。

**桜庭**　いや〜、風邪ですよ、風邪。

――ゲ！　ま、また風邪ですか！

**桜庭**　試合前だから、思いっきり練習やるじゃないですか。それで疲れてるところに誰かが風邪の菌を持ってると、すぐ伝染っちゃって。ヘルペスももらっちゃいましたから。

――ヘルペスって性病じゃないですよね、たしか？（笑）。

**桜庭**　ち、違いますよ！（※極度の疲労orストレスor発熱が誘因になり、疱疹が頭部、顔面、胸部などに出る症状）。で、ヘルペス治って、そのあとすぐ風邪。

――練習しすぎたりすると、すぐにヘルペスって出るらしいですね。

**桜庭**　すぐ出ますよ。

――じゃあ、シウバ戦まで残り1ヶ月を切りましたけど、いまは疲れがピークのときですか？

**桜庭**　風邪は治ってきましたけどね。痰が出るんですよ。喉の薬飲んだらよかったですよ。喉の痛みが取れましたね。

――喉が痛いときには喉の薬がいいと（笑）。まだ1ヶ月前だからいいけど、試合直前でまたインフルエンザとかカンベンしてくださいよ。

**桜庭**　また試合直前に風邪ひいたら、今度こそお祓いしないと（笑）。

## また試合直前に風邪をひいたら今度こそお祓いしないと（ニコニコ）

――ちょっと前の話になりますけど、『PRIDE.16』は解説席に座ってましたけど、面白かったですか？

**桜庭**　……面白かったですよ。

――ガハハ！　なぜ間が開く（笑）。

**桜庭**　全部見てないんですよ。松井（大二郎）のセコンドつくから、初めのころの試合はモニターでチョビッと見たぐらいで。

――前半は置いておきましょう（笑）。

**桜庭**　やっぱりノゲイラは凄いですね。凄いけど、コールマンもいつものコールマンじゃなかったから。かなりビビリが入ってましたね。引いてましたもん。

――やる前から、かなりナーバスになってたみたいですからね。

**桜庭**　『PRIDE.GP』で優勝したときのコールマンと、こないだノゲイラにやられたコールマンの表情を見比べてみると、別人ですよ。

――別人ですよね、ホントに（笑）。

**桜庭**　『GP』では客席までワーッて行って、あんなに跳ねて喜んでた人が、もの凄い落ち込んでましたからね。

――ところでノゲイラと闘ってみたくないですか？

**桜庭**　壊されますよ！　やっぱり体重違うと、全然違いますから。

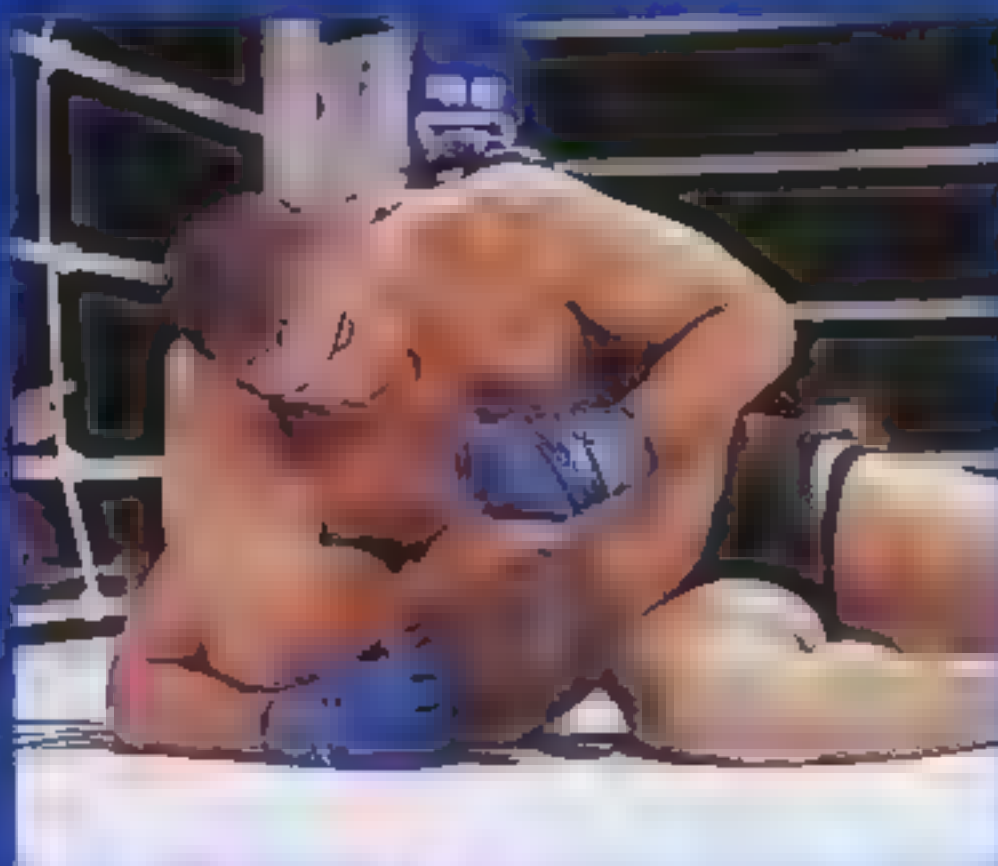
――30キロ近く違いますからね。

**桜庭**　試合やるときは、必ず重い方が「体重なんかどうだっていいじゃねぇか」って文句言ってきますからね。「じゃあお前はなんで体重増やすの？　有利だから体重増やしてんじゃん」っていう。それをわかってて「体重なんかどうだっていいじゃねぇか」って言うから。小さい人が言うんだったらわかりますけどね。

――ぜひ桜庭さんに「体重なんて関係ないから、ノゲイラ、ぜひ俺と闘おう」って言ってほしいな（笑）。

## 9.24『PRIDE.16』 松井vsニンジャ PUTIT REVIEW

【9.24大阪城ホール】ムリーロ・ニンジャ（3R51秒 KO）松井大二郎

1R[illegible]5月に松井に敗れた同門のペレがセコンドにつき「眠らせろ」と檄を飛ばす。その声に乗って、ニンジャはフェースロック、チョークを狙う。松井もうまく凌いだが

スイープをうまく使い、首や足を取るチャンスもあった松井だが、徐々に21歳という若さを誇るニンジャのペースに。上になられ、コツコツとパンチを喰らっていく

1R終了時のニンジャの踏みつけなどで鼻血を吹き出し"流血大王"となった松井。打ち合っても、立ってよし寝てよしのニンジャのペースは崩しきれない

**桜庭**　ヒャハハハ。無理無理。練習でもそんだけ体重差あると、壊されそうですからね。

――残念だなぁ（笑）。他に目についた試合は？

**桜庭**　松井！

――松井選手はどうでした？

**桜庭**　ウォーミングアップやる時間が、ちょっと早すぎたのかもしれない。いつもより動けてなかったんで。結構初めのうちにヘバッちゃったんで。ウォーミングアップが早すぎて、間が開きすぎちゃったかもしれない。ボクもたまにそういうのありますからね。早くやりすぎちゃって間が開いて、逆に身体が動かなくなるっていうのが。

――あの試合は、見てる方が「もう止めて！」って感じでしたけど、さっき本人に会ったら「全然へーキですよ」って言ってました（笑）。

**桜庭**　ハッキリ言ってドクターにもわかんない部分があるんですよ。こないだのは絶対、意識がなくなってフラフラしてたんじゃなくて、バテちゃってフラフラしてましたからね。ドクターが「大丈夫？　大丈夫？」とか言ってる横で、「バテてるだけだから大丈夫です！」ってボクが言ってたんですけど（ニコニコ）。

――鬼ですね。セコンドの鬼（笑）。

**桜庭**　でも、バテてるとこに当たってるだけで、最後の蹴りも松井が前に出たところにカウンターでボーンと入ったわけじゃないんですよ。松井がバテちゃって、そこでボンと蹴られてるんで、松井が半分ぐらい力抜けてるから、ダメージはそんなにないんですよ。だから、走ってる車同士が正面衝突するのと、止まってる車にドーンと当たる衝撃の差ですよ。全然衝撃が違うじゃないですか。だからあれはバテてるだけ。

――「バテてるだけ」（笑）。

**桜庭**　最初、首を何回も取るチャンスがあったんですけど、あれがもったいなかったですね。

Kazushi Sakuraba

――桜庭さんから見て、松井選手の極めの技術は向上してるんですか？

**桜庭**　してますよ。前の松井と比べたら。

――じゃあ、『PRIDE.16』で目についたのは松井選手とノゲイラですか。

**桜庭**　そうですね。

――ドン・フライは？

**桜庭**　ぶぁっ！　あ、アイブル追放！　ボク、解説で何度それを言おうと思ったか。反則する度に「こいつ追放ですよ！」って言いたかったんですけどね。

――先日、高橋（義生）選手がサミングやられて、相手のマルセロ・タイガーっていう選手がパンクラスを永久追放になりましたね。

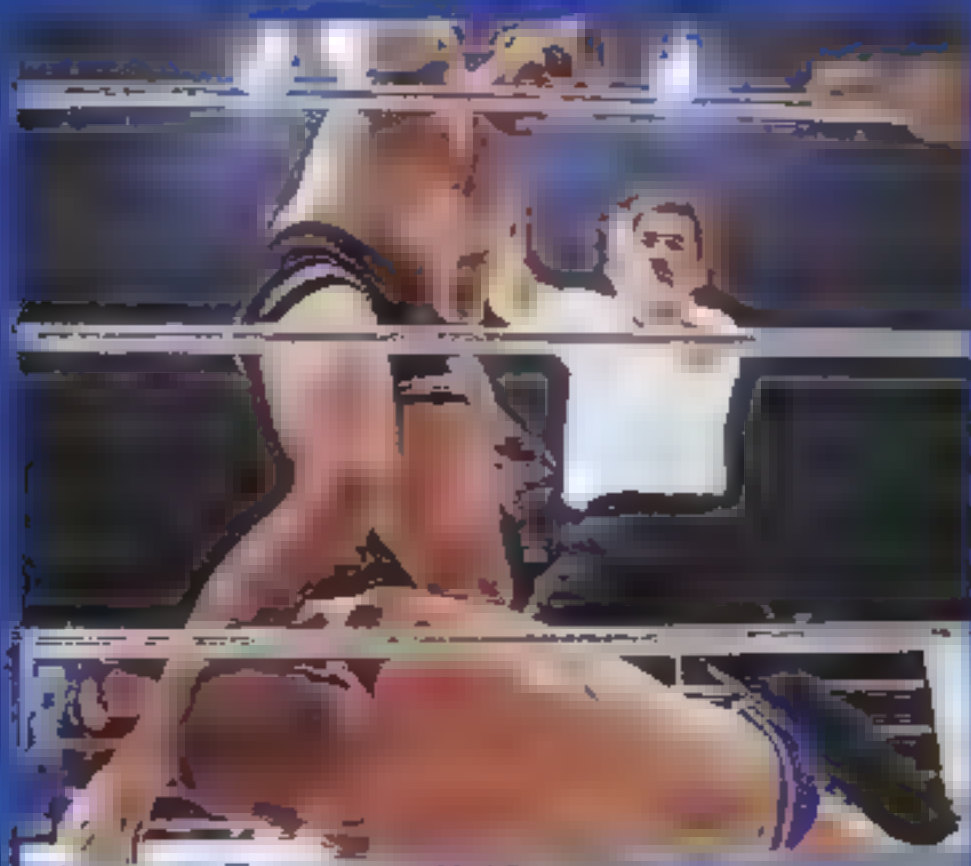
**桜庭**　それでいいんですよ。そんなことやるんだったら、初めから目潰しありでやればいいのに。「試合はケンカだどうのこうの」とか言うんだったら、そのへんでケンカしてろよーって。ああいう人はダメですね。精神が弱いんですよ。自分の技術でついていけないから反則やって、結局「死ねばいいや」とか、そういうのでしょ？　なにやっても殺せばいい、みたいな。

――桜庭さんは、昔からそういうタイプ嫌いですよね？

**桜庭**　嫌いですね。テロと一緒ですよ。

――オランダ勢にも怒ってましたからね。

**桜庭**　だって反則ばっかりやるから。故意にやるんですよ。だってアイブルがブップツ言ってたロープに手をかけるのだって、思いっきり故意じゃないですか。ロープが目の前にあって、本能的に掴んでしまうのは、それはしょうがないですよ。でもアイブルって……。

――自分から飛び込んでますよね。新手の

2R以降は、ほとんど防戦一方になり、パンチ、蹴りの餌食になった松井。[illegible]タフでも、これじゃバテる。しかも流血してるからスタミナ消耗は[illegible]

[illegible]のセコンド[illegible]檄を飛ばすシウバ。[illegible]は、松井のセコンドについているサクに向かって[illegible]見たか[illegible]とばかりに指を突き刺す[illegible]も。

2R[illegible]、セコンドのサクのアドバイスに耳を傾ける松井。[illegible]の進歩は著しいが、なぜかいつも[illegible]コンテスト的な試合になってしまう。

3R序盤、バテバテの松井が倒れたこんだところを蹴り、踏みつけが襲う！「後のほうが強かった」それだけです」と松井は潔いコメント。松井、次だ！

ロープワークかと思いますからね（笑）。

**桜庭**　ヒャハハハ。あれは故意ですよ。

――アイブルは自分で反則しといて、注意したレフェリーにまで文句つけますよね。

**桜庭**　あれが凄いなぁと思って。プロレスの世界でいうと、いいヒールですよね。面白い（笑）。

**桜庭**　で〜も、あれは追放ですよ！　あんなヤツにファイトマネーなんて払う必要ないですよぉ。

――一方、ドン・フライはどうでした？

**桜庭**　大人ですねぇ、あの人！

――ガハハハ！　大人（笑）。

**桜庭**　ボクだったらキレてるかもしれないのに。あれは大人と子どもの闘いでしたね。

――ああ、そうか。だから面白かったんだなぁ。

**桜庭**　子どもは大人にかなわないんだけど、シッチャカメッチャカやったり、反則やってでも勝とうかなっていうズルい考えを持ってるんですよぉ。

――ノゲイラ対コールマンは、青年とお爺ちゃんの闘いみたいでしたね、イメージとしては（笑）。

**桜庭**　（突然思い出したように）あ、コールマンって昔のマリオに似てないですか？

――思い出せません！

**桜庭**　（力を込めて）に、似てるんですよ！

――桜庭さんのほうがアイブルより子どもみたいですよ（笑）。

**桜庭**　似てるっていえば、試合後のパーティーに出たんですよ。で、帰りにノゲイラがいたんで「じゃあね」って言って、「あれ？　なんか違うな」と思ったら弟さんでした（笑）。

――あの2人はそっくりというより、同じですからね（笑）。日本勢がなかなか勝てなくなった原因ってなんだと思います？

**桜庭**　……たまたまじゃないですか？

――『PRIDE.16』は日本勢が全滅だったんだけど、日本勢は弱いって感じはしないですか？

**桜庭**　いや、いいときもあれば、悪いときもありますよ。

## 「カカッテコイ」って日本語で言われたって「意味わかってんのかなぁ」って思いました

9・19に行われた対戦発表記者会見。恐怖のガンつけを見せるシウバに対して、サクは見事に目線を合わせず。ミドル級王座奪取はもとより、世界で一番価値あるSAKUベルトを取り戻せ！

――「このまま『PRIDE』はガイジン天国になっていくんじゃないか？　そうなったらヤバイぞ」なんて一部では言われてますよね。

**桜庭**　だ〜って基本的には外人の方が強いっていうのがありますからね。身体のもとが強いですからね。ボクがソバとか食ってるときに、向こうは肉をバクバク食ってますからね。

――狂牛病も怖くないって感じですからね、向こうは（笑）。でも、グッドリッジはこの間、焼き肉屋で取材したら、「日本人は狂牛病をナメすぎだ」って言って、肉をまったく食わなかったらしいですけど（笑）。

**桜庭**　ヒャハハハ。あの体格で技術覚えたら凄いですよ、あちらの人は。でも、ノゲイラがコールマンに極めた技（腕ひしぎ三角固め）なんか、柔術とかだったら当たり前の技じゃないですか。なんで勉強しないのかなぁ？　研究すれば、かかんないと思うんですけどね。

――じゃあ特に日本勢が弱くなったって印象はないんですか？

**桜庭**　ないですよ。勝てないのはたまたまですよ。

――実に頼もしいです、桜庭さんは。やっぱりそうなると、桜庭さんがシウバから一本取るとこ見たいですね。まさか打撃でKO勝ちとか狙ってないでしょうね（笑）。

**桜庭**　もうやらないです（ニコニコ）。だってこの前は熱くなって、自分でスッ転んでましたもん。あそこで目覚めたんです。

――もうシウバの顔見てもムカつかない？

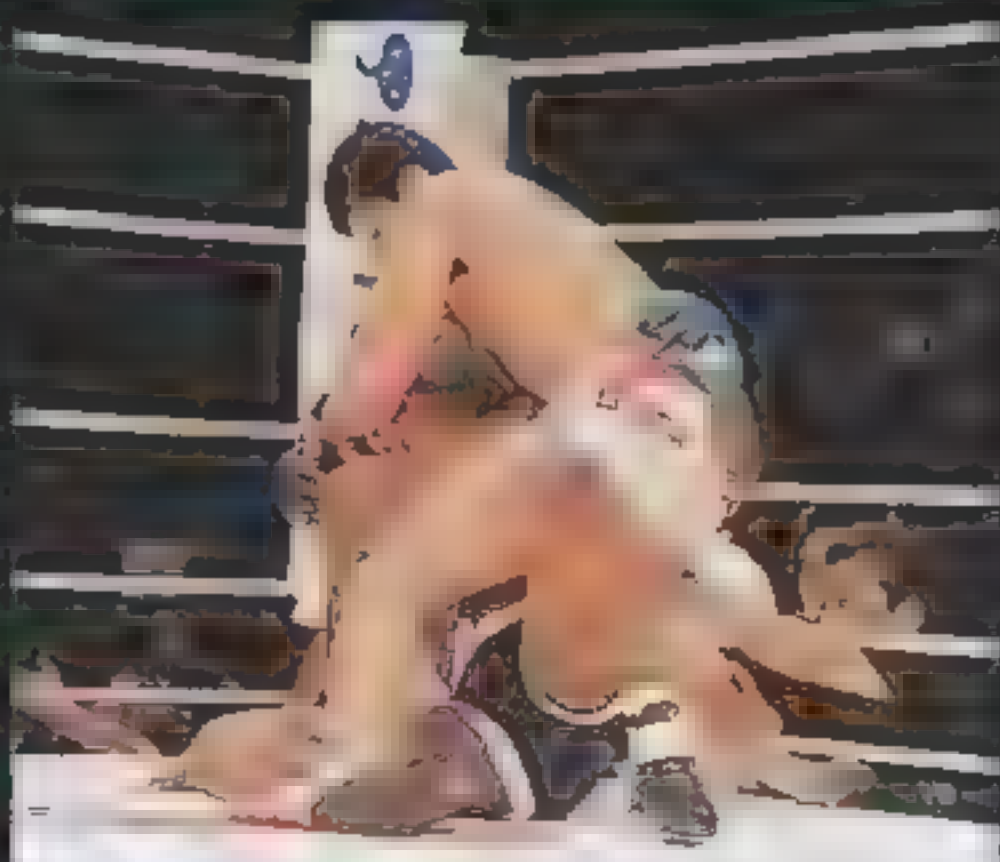
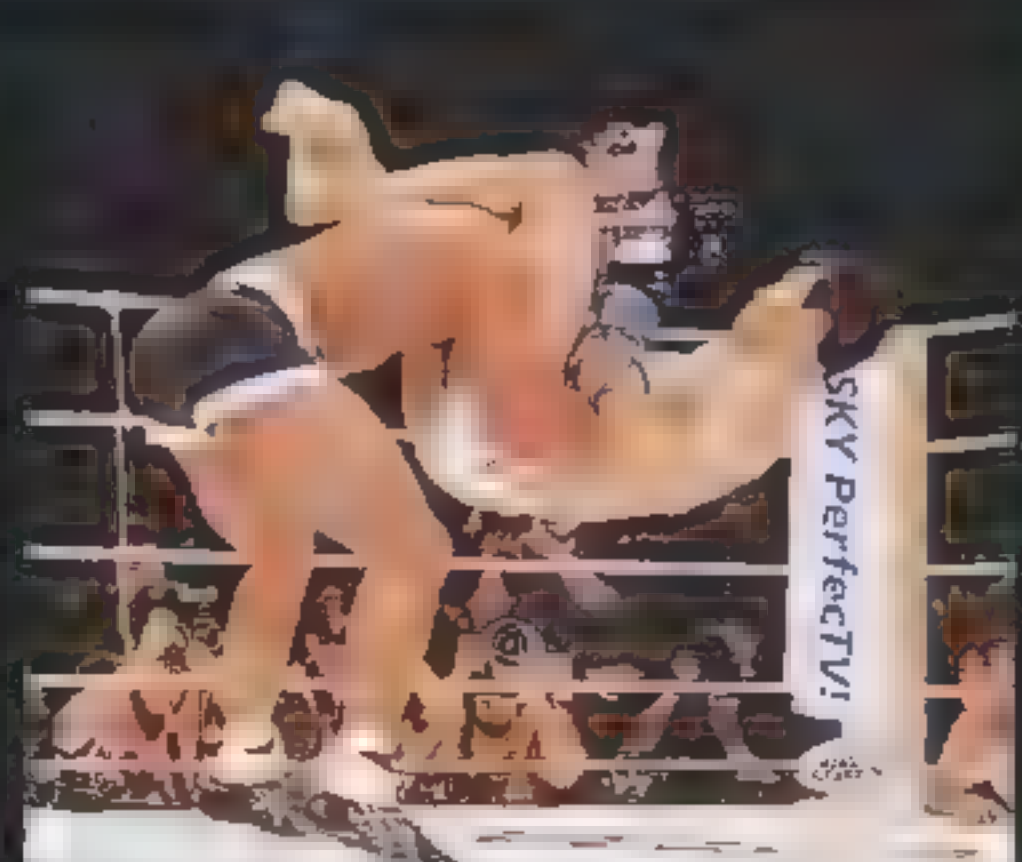
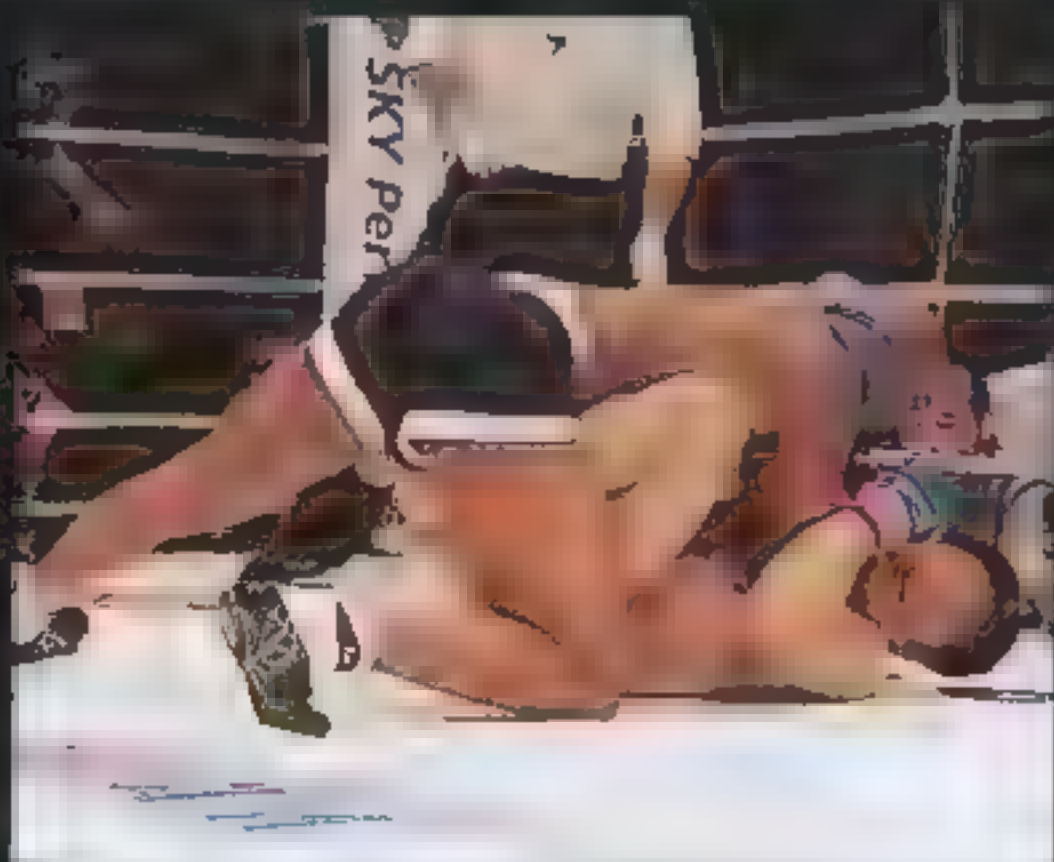
**桜庭**　む、ムカつきますよ！

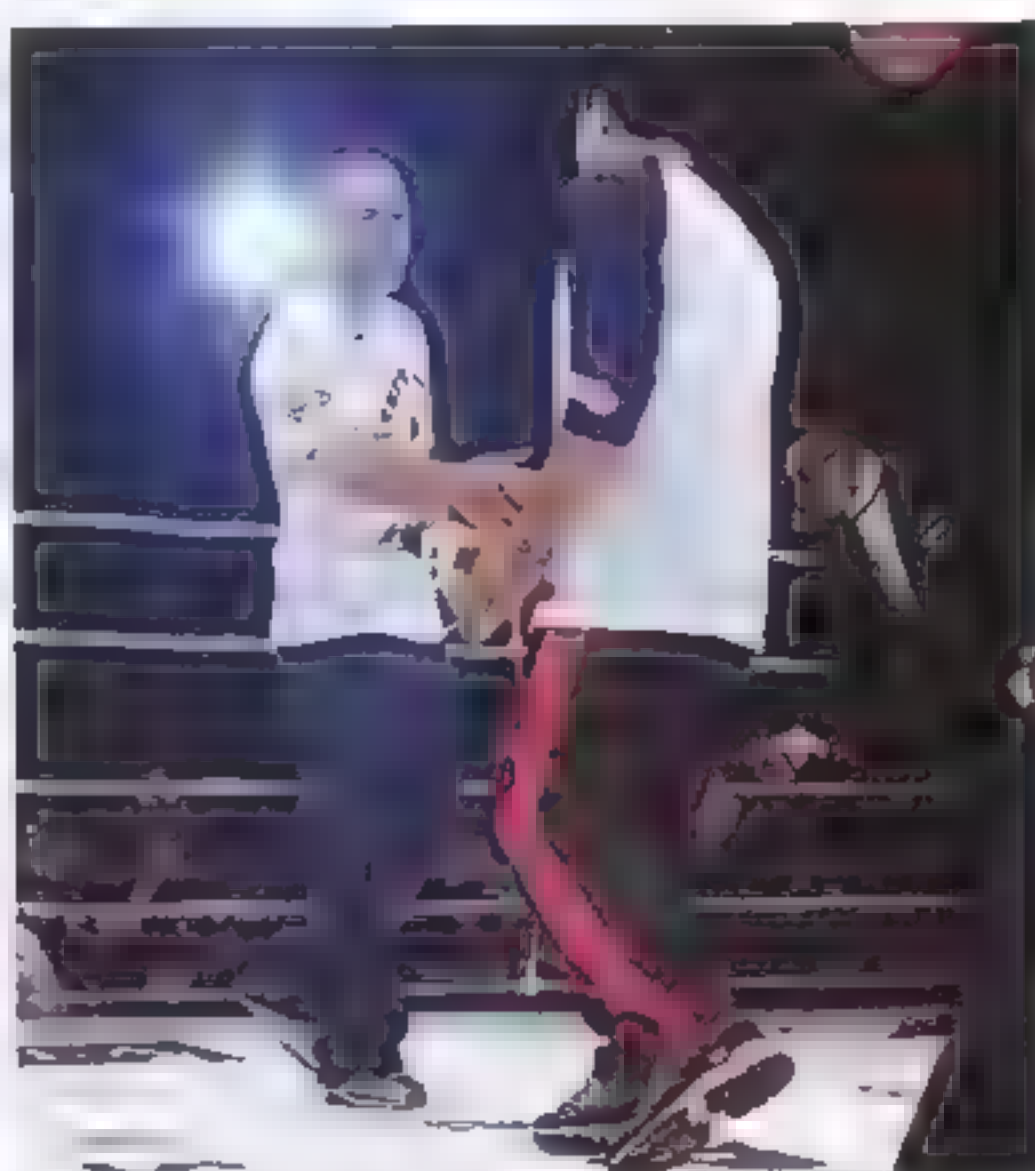
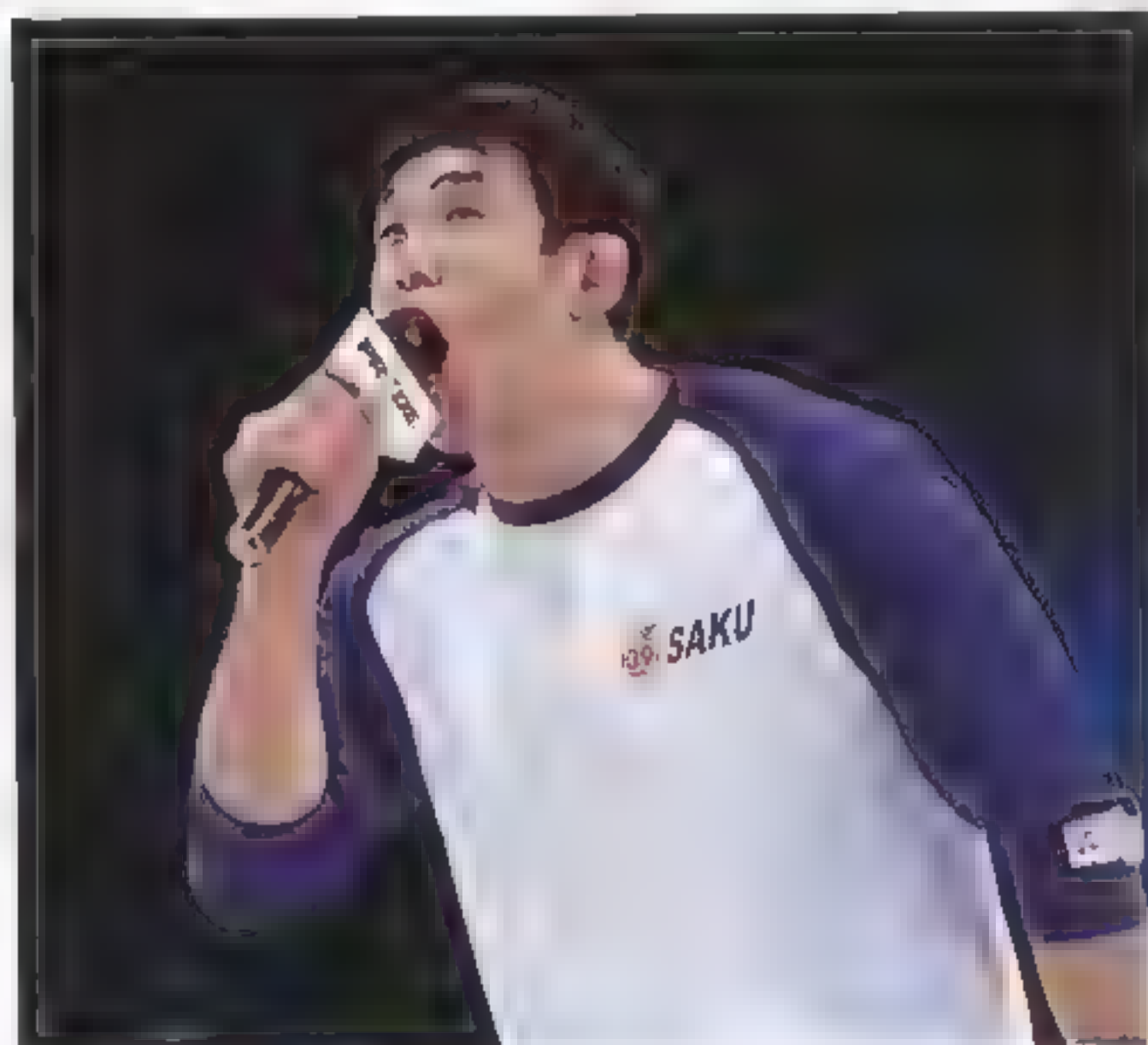
――あ、ムカつく（笑）。

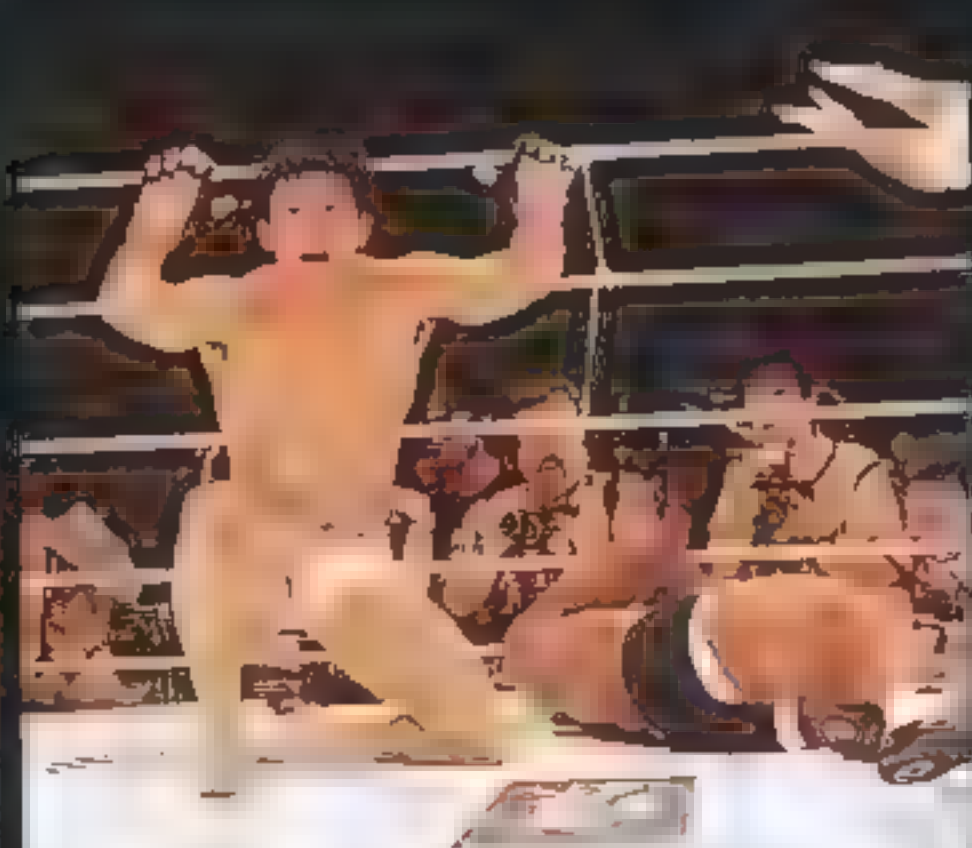
**桜庭**　1回冷めたんですけど、またムカつき始めましたね。

――記者会見（9・19）と、大阪城ホー

## もう一度サクの復活祭をプレイバック！

【7・29さいたまスーパーアリーナ（PRIDE.15）】
桜庭和志（1R5分41秒　裸絞め）クイントン"ランペイジ"ジャクソン

序盤、テイクダウンを取るサク。だがジャクソンは大暴れし、コーナー際へ。ここでバックから首を取ろうとしたのが、島田レフェリーにはコブラ狙いに見えた

ジャクソンのパワーはケタ違い！　ボディスラム気味に持ち上げられたサクは、ジャクソンに飛びつくもそのまま勢いをつけて、サクはマットに叩きつけられた！

パワーボムを2度も炸裂させたジャクソンのパワーは、まさに獣人！　これが効いたようにも一瞬見えたが、サクはガード越しのパンチで左目を負傷していた

ルのリング上で、また睨まれましたよね。
**桜庭** 「かかって来い」って言われたって……。「意味わかって言ってんのかなぁ?」って思ったんですけど。
――桜庭さんの「元気ですか!」はアドリブだったんですか?
**桜庭** はい。向こうが「元気ですかーーッ!」って言ったから、「あ、言ってるよ、この野郎!」とか思って。ホントは別のこと言おうと思ってたんですけどね。記者会見のとき、「救急車用意しとけ」とか言われたから、「試合後のパーティーでアル中にならないように気をつけます」って言おうと思ったんですよ。あと、「救急車には乗ったことないから、1回乗ってみたい。パトカーはあるけど」って。
――なんでパトカー乗ったんでしたっけ?
**桜庭** 自転車!
――あ～、そうだ(笑)。
**桜庭** 酔っ払って、チョロッと置いてある自転車乗ったら、おまわりさんに「この自転車どうしたんだい?」「そこにあったんで、20メートルぐらい乗っただけですけど……」「遠くから乗ってきたんじゃないの?」とか言われて、パトカーで連れてかれました(笑)。
――しかし、シウバのガンたれは衰えないですよね。
**桜庭** あっっれが腹立つんですよ! 裏で会ったときは普通なのに、リングに上がったり記者会見のときは睨んでるから。
――〝プロレスラー〟だよなぁ。
**桜庭** 誰かに聞いたんですけど、「俺、別にサクラバのこと嫌いじゃないから、ちゃんと言っといてね。あれはみんながいるからやってるだけだから」って言ってたって(ニコニコ)。だから「ボクも、一応、元プロレスラーなので、全然ヘーキです」とか言

9・24『PRIDE.16』のリング上。先にマイクを持ったシウバが、「ゲンキデスカーーッ!! サクラ～バ、カカッテコイヨォー!!」と日本語で叫ぶと、サクは苦笑しつつも「元気ですよーーッ!!」と見事な切り返し。「前回の試合が短かったので、今度はもうちょっと長く、いい試合をしたいです」と言い、ガンつけを無視して自ら握手を求めた

Kazushi Sakuraba

ったんですけどね。
――元? 桜庭さんは、いまはプロレスラーじゃないんですか?
**桜庭** いやぁ、どっちでもいいんですけどね。……わかんないですねぇ。どうなんスかね? ボクはまだプロレスにいるんですか?
――こっちが聞きたいですよ!(笑)。どうなんですか、「プロレス」という枠にはまるのは嫌なんですか?
**桜庭** 嫌じゃないですよ。ただどうなのかなぁ?って。ボクはちっちゃい頃からプロレスに憧れてましたから。
――だから、桜庭さんのイメージするプロレスと、現実のプロレスにギャップがあるんでしょうね。ボクもよく「『PRIDE』こそプロレスだ」って書きますけど、いま現実にあるプロレスはズバリ言って、もはやわからない(笑)。だからいま桜庭さんがなんと呼ばれたいのかっていうのは、凄く興味あるなぁ。
**桜庭** とりあえずフルネームで呼ばれるのは嫌ですね。
――ズコッ! いま桜庭さんの立ち位置は微妙といえば微妙ですよね。グレイシーとやってたところは〝プロレスラー〟を名乗ったほうが対立概念としては引き立ったけど、対シウバにしても、〝プロレスラー〟を強調する必要はないですからね。でも、桜庭さんを〝総合格闘家〟と呼ぶのもヘンなんだよなぁ。
**桜庭** 名前だけでいいんじゃないですか? 桜庭和志で。
――肩書きなし(笑)。でも今度、高田さんがミルコとやるときは〝プロレス〟を背負って出ていきますけど、それとは別に、桜庭さんが今度負けたら、ズバリ言って『PRIDE』はヤバいですよ! K―1も

試合を決めると、子どものような笑顔で喜びを現したサク。シウバ戦の悪夢を振り切って復活を果たした。さぁ、次は11・3ドーム! 真のサクの復活祭だ!!

腕十字はフェイントで、上体を起こしてきたジャクソンのバックに回りチョークへ。これが見事に決まり、"暴走ホームレス"はタップアウト!!

ジャクソンの驚愕のパワーに場内は騒然! しかしサクは落ち着いてテイクダウン、アームロック。そして足関節を探りにいく。サクペースが戻ってきた

史上初のガードポジションを披露した後、下からの三角絞めを狙うサクを、またもリフトアップしたジャクソン。トップロープ越しに場外へ落とそうとした

日本勢がなかなか勝てないから、求心力っていう意味では辛くなってますからね。
**桜庭**　……そりゃ、ボクだって勝ちたいですよ。
――勝ってほしいなぁ。今回は面白い試合とか、そういうの気にしないで、勝ちにこだわってほしいですね、個人的には。
**桜庭**　ん～、なにやろうかなぁ？
――ガハハハ！　だから、それはまた別の機会でいいですよ（笑）。でもホント、図らずも今度は『PRIDE』を背負って出て行くことになりますよね。
**桜庭**　せ、背負ってないですよ。
――桜庭さんは、〝PRIDEジャパン〟の最後の砦ですよ。
**桜庭**　そ、そんなことはありません！　そういうイメージを作ってるだけで。
――誰が作ってるんですか（笑）。でも大事な試合だもんなぁ。日本勢でガイジン天国をストップできるのは桜庭さんしかいないですよ！
**桜庭**　松井がいるじゃないですか！　レフェリーを（豊永）稔にしてもらって。
――ガハハハ！　それはアイブルよりタチ悪い（笑）。
**桜庭**　阿部四郎とか、ああいうキャラにして。……ヤバいな、稔に文句言われる。文句言ってくるんですよ、あいつ。「やめてくださいよ、勝手にキャラクター作るの！」って。『週プロ』のコラムで、ネタをちょっと大きくしてるだけなんですけどね（ニコニコ）。
――ボクは読んでると、「稔君らしいなぁ」と思いますけどね（笑）。
**桜庭**　普通ないですよね？　車の免許取って、2～3日でレンタカー借りぶつけるって（笑）。
――ガハハハ。漫画のようだもんなぁ。
**桜庭**　普通やらないじゃないですか。チョコッとぶつけただけなんですけど、それに色つけたら怒られました（笑）。
――あ、稔君のプライドが傷つけられたと（笑）。ところで桜庭さんは、「猪木軍対K－1」をどう見てるんですか？
**桜庭**　いや、別に見てない……。
――いや、そういうことじゃなくて（笑）。関係ない出来事？
**桜庭**　関係ないんじゃないですかね？
――猪木軍という枠を外したらどうですか？「プロレス対K－1」だったら？
**桜庭**　面白そうですけどね。でも、全然体格も違いますし。大きい人とやろうと思わないし、ちっちゃすぎる人とやろうとも思わないし。面白いですか？
――面白いですよ。ただ「猪木軍」という括りは、わかるようでわかんないですけどね（笑）。
**桜庭**　正直言って、ルールがよくわかんないんですよ。昔の異種格闘技戦のルールになっちゃってるじゃないですか。それだとやっぱりインパクト薄いですよ。だから、やるんだったら、ホント、〝なんでもあり〟でやればいいと思う。それだったら、どっちに有利とか関係ないじゃないですか。
――でもK－1側としては、ブレイクを早めないと勝ち目は薄いですからね、いまの段階では。
**桜庭**　一発当てればアレですけどね。その一発が強いから、やっぱりK－1なんじゃないですか。
――桜庭さんは、「藤田vsミルコはアクシデントみたいなもんだ」って言ってましたよね。安田選手の試合（vsレネ・ローゼ）はどうですか？
**桜庭**　あれ、借りたビデオに入ってなかったんですよ。こないだテレビで10秒ぐらいやってたの見ましたけど。雑誌に散々「反則やられてどうのこうの」って書いてあったんですよ。レネ・ローゼが最後のハイキックのとき、ロープ掴んでたって。でも、それ見たら、別に反則じゃねぇだろって思いましたね。故意に掴んでるわけじゃないから。あれが反則だったら、アイブルなんて反則どころじゃねぇよっていう。
――国外追放になりますよね（笑）。でもレネ・ローゼなんて、桜庭さんはよくあんなのとやったなぁと思って。
**桜庭**　昔ですからね。
――凄く強く見えたというか、それほど凄いKO劇だったから。
**桜庭**　ボッコリ入ってましたからね。
――よく死なないなと思いましたね。安田選手はその晩、焼肉食いに行ったらしいですよ（笑）。翌々日から海外行っちゃうし。タフですよねぇ。
**桜庭**　……狂牛病ってことですか？
――ガハハハ！　いま、言おうかどうしようか迷ってましたね（笑）。
**桜庭**　冗談です（ニコニコ）。
――桜庭さんにとって、シウバ戦は待ちに待ったという感じなんですか。
**桜庭**　いや～、そうでもないですね。
――そうくるから、桜庭さんをインタビューするときはプレッシャーかかるんだよなぁ、実に（笑）。
**桜庭**　だ～って、毎回一緒。誰とやるときでも一緒ですよ。こないだ（7・29〝ランペイジ〟ジャクソン戦）だってそうだし。
――あ、聞きたかったんですけど、ジャクソン戦で、最後、4の字固め狙ってませんでした？
**桜庭**　ヒャハハハ。違う違う、膝十字でフェイントかけてたんですよ。絶対取れないと思ったから、取る気のない膝十字やって

## プロレスvsK－1？　面白そうですけどね。やるんだったら“なんでもあり”ですよ

Kazushi Sakuraba

たんですよ。起き上がってきたら、上半身押さえ込みかなんかして、首絞めようかなって思ってたら、見事にできちゃった。「こんなに綺麗に入るもんなのかなぁ？」と思いましたけどね。

——膝十字を狙う足首の持ち方じゃないから、4の字固め狙ってんじゃないかぁと思って。

**桜庭**　全然狙ってないですよ。

——あれは俺の妄想か（笑）。レフェリーの島田裕二は、「序盤でコブラツイストも狙ってた」って言ってましたよ。

**桜庭**　ね、狙ってないですよ！

——ガハハハ！　また島田の嘘か。「ホントにコブラツイスト狙ってましたよ！　近くで見てて笑いそうになりましたから」って言ってましたね。

**桜庭**　あ～、コーナー際ですよね？　あのときは、バックに回って首締めたかったんですよ。だからコブラツイストみたいに見えたのかもしれない。

——でも、コブラツイストと4の字固め狙いに行ったってことにしとこう（笑）。で、ジャクソンはどうなんですか、強さっていう部分では。負ける気はしなかったですか？

**桜庭**　いや、一発やられたらマズいかなっていうのはありましたけど。

——一発っていうのは打撃？

**桜庭**　はい。で、1回パンチが目に入ったんで、ヤバいなと思って。でも佐竹さんとかと練習してから、パンチとかも全然怖くなくなりましたね。打撃に対する恐怖心は、去年とは比べものにならないぐらいなくなってますね。去年は打撃は「嫌だな」っていう気持ちがありましたから。

——ジャクソンに持ち上げられたときは、危機感はなかったんですか？

**桜庭**　それはないですね。場外に落とされそうになったときに、「落ちたらオイシイかな？」とか思いましたけどね。でも、十字の体勢にスッポリはまってたんで。まだ極まってないから持ち上げられたんですけど、ただ、もうちょっとズラしたら極まるかなぁって思って離さなかったんですよ。離しときゃよかったかなぁ？

——なぜだ（笑）。そういうの、シウバ戦では考えなくてもいいですよ（笑）。思うんだけど、プロレス技を出すとか、そういうのも、いまの『PRIDE』ではあんまり求められてないような気がするんですよ。対グレイシーでプロレス技を出すというのは意味があったけど、例えば、今度のシウバ戦でプロレス技を出すうんぬんっていうのは、ピンと来ないですよね。流れのなかで出るのはいいとしても。

**桜庭**　最近みんなプロレス技使ってますからね。

——「プロレス技さえ出せば受けるだろう」みたいな空気にもなりつつあるから。

**桜庭**　……勝てりゃいいなぁ。

——だから、11・3では、そういう部分じゃない〝ニュー桜庭和志〟がどうビックリさせてくれるのか、期待ですよ！

**桜庭**　ヒャハハハ。どうにもならないですよ。何年もやってきたものがコロッと変わるわけないですもん（ニコニコ）。

——対K－1やシウバのいるシュート・ボクセ勢の活躍で、打撃がまたクローズアップされてるじゃないですか。今度のシウバ戦も打撃対寝技という意味では面白いですね。

**桜庭**　どうなんですかね？　打撃対打撃でも……。

——だから、それはやめてください（笑）。桜庭さんとしては、やっぱり一本取りたい

ですよね？

**桜庭**　そうですね。「マイッタ」させたい‼

――なにで「マイッタ」させたいですか？

**桜庭**　なんでもいいです。足ボロボロ、腕ボロボロにして、首締める。腕極めて、足極めて、首絞められれば、それが一番いいです（ニコニコ）。

――ガハハハ！　キッチリと極めちゃってください！　あとは直前に風邪ひかないことを願うのみですね。

**桜庭**　普段はひかないんですけどね。体力が落ちてるんじゃないですかね、今年に入って。

――桜庭さんの中では〝リベンジ戦〟という意識はあるんですか？

**桜庭**　いや、特にない。

――ボクの個人的な思いは、今度の試合は、リベンジなんてチンケなもんじゃないんですよね。よく「リベンジ、リベンジ」って言いますけど。

**桜庭**　流行ってるからじゃないですか？　流行りもんは、嫌！

――なるほど（笑）。今度は、桜庭さんが流行りものじゃないなにかを見せてくれるかどうかですね。シウバ戦の後のプランはあるんですか？

**桜庭**　考えてません（ニコニコ）。テーマとかも特に考えるタイプじゃないし。

――でも、例えばグレイシー相手だと、モチベーションは上げやすかったんじゃないですか？

**桜庭**　いや、あれは、だ～って向こうがいろいろやってくれるんですもん！

――シウバもいろいろ仕掛けてくるじゃないですか。

**桜庭**　あれは仕掛けてきてるんですかね？（ニコニコ）。

――じゃあ、いっそアイブルとやればいいじゃないですか（笑）。

**桜庭**　「この試合に限り、反則ありで」って（笑）。

――打撃対寝技だし（笑）。もし、年末の猪木軍対K―1で「猪木軍に入ってくれ」って要請されたらどうします？

**桜庭**　無理ですね。

――なんで？

**桜庭**　年末だから！　毎年、大晦日に試合は嫌ですよ。

――そういう理由か（笑）。とにかく桜庭さんには、日本人ファイターの強さや可能性、広がりを見せてほしいですね。

**桜庭**　…………。

――なんか言ってください（笑）。

**桜庭**　いや、ホントに特にないんですよね。とにかく勝てればいいです。

――な～んか、でも、内心フツフツと燃え上がるものが……。

**桜庭**　ダーッ！　ダメなんですよ！　そうやって燃え上がっちゃうと、またカッとなっちゃうから。

――これは聞きたいんだけど、自分の中では「イケそうだ」って気はあるんですか？

**桜庭**　ありますよ！「イケそうだな」と「やられそうだな」と両方ありますけどね。

――ズコッ！　やられるとしたら？

11・3は初代PRIDEミドル級王座決定戦に。そしてシウバに奪われた世田谷区認定SAKUベルト、ジャクソン戦で巻いたニューSAKUベルト（共に段ボール製）も賭けた三冠戦となる

**桜庭**　前回みたいな感じじゃないですか？　シウバは、「11秒で勝った人より短い時間で勝つ」とか言ってたじゃないですか。短けりゃいいってもんじゃないんですよ！　それを勘違いしてますよね。

――短けりゃみんな喜ぶってもんじゃないんだ、と。

**桜庭**　そ、そんなんだったら、100メートル走の選手が一番強いかもしれないですよ。秒数競うんだったら！

――ガハハハ！　全然、関係ない。じゃ、最後にファンに向けてビシッと締めてもらいましょう（笑）。

**桜庭**　こないだよりはもうちょっと長くやります。

――長くやってもらったら嬉しいけど、負けないでくださいね（笑）。

**桜庭**　気をつけます（ニコニコ）。

――シウバ戦では、上になったら殴っていく？

**桜庭**　そりゃ殴るでしょ‼　泣かしてやります！「お前の母ちゃん来てるぞ」とか言ってアタフタさせますよ。

――初代『PRIDE』ミドル級王座の決定戦になりますけど、この間、シウバが持って行ったベルトとニューSAKUベルトを賭けた三冠戦なんですよね。

**桜庭**　あ、はい。勝手にそうしました。

――ニューベルトはお気に入りだそうですけど、負けたらまた取られちゃいますよ。

**桜庭**　そんなの、やらなきゃ取られないじゃないですか。

――ガハハハ！　汚ねぇな（笑）。

**桜庭**　「あげようと思ったけど、もったいないからあげません！」って言えば。

――全然、統一戦じゃない（笑）。

**桜庭**　「勝てなかったから、ムカついたからあ～げない」って言います。

――ガハハハ！　アイブルよりタチ悪いですよ、マジで（笑）。シウバとの闘いでは、大人になるんですか？　子どもになるんですか？

**桜庭**　どっちになっても、泣かしてやります（ニコニコ）。

【10月7日／高田道場にて収録】

# Antonio Rodrigo "MINOTAURO" NOGUEIRA

アントニオ・ホドリゴ"ミノタウロ"ノゲイラ

## 王者M・コールマンに完勝!! 次なる獲物は誰だ？

# 「『PRIDE』にはオレと戦える日本人はいないのか？」

[illegible]の『PRIDE・GP』王者、M・コールマンを一方的に下す男が[illegible]！ その名はアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ！ 今年2月リン[illegible]に君臨。そしていままさに『PRIDE』の頂点を[illegible]ノゲイラを、コールマン戦の翌日に独占キャッチ。11・3ドームでこの男を止める奴は現れるのか！

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也　designed by さおとめの事務所

——マーク・コールマン戦、完勝おめでとうございます！

**ノゲイラ** サンキュー、凄くうれしいよ（ニッコリ）。

——最初から最後まで文句のつけようがない完璧な闘いぶりでしたけど……、ひとつだけ大きなミスがありましたね！

**ノゲイラ** え!? ……何かそんなにまずいところがあったかい？

また入場テーマ曲が『バスコ・ダ・ガマ』じゃなかったじゃないですか！（笑）。

**ノゲイラ** ハハハハ！ そのことか。悪いな、今回も忘れてしまったよ（笑）。

——また忘れちゃいましたか！（笑）。

**ノゲイラ** ……というか、ここだけの話、あのテープをなくしてしまったんだよ（笑）。

——もっとダメじゃないですか！（笑）。

**ノゲイラ** しかもいま『バスコ・ダ・ガマ』のテーマは新しくなってしまって、昔の方はなかなか手に入らないんだよ

——ますますダメじゃないですか！（笑）。

——ダメというか、ノゲイラ選手と言えば『バスコ・ダ・ガマ』という感じで定着してますから、なんとか見つけだしてください！

テーマ曲以外は最高だったんですから。

**ノゲイラ** わかったよ。次こそは探してくるよ（笑）。

——それにしても今回は『PRIDE』王者のコールマンに勝ったわけですから、ノゲイラ選手にとってもいままで最高の勝利だったんじゃないですか？

**ノゲイラ** 自分でも今回のコールマン戦はこれまでのキャリアで最も重要な一戦だと認識していたから、そういう意味では最高の勝利だったかな。お金の嬉しさではKOK優勝の方がよかったけどね（笑）。

最初から最後までノゲイラ選手のペースのように見えましたけど、やはりご自身でも会心の勝利でしたか？

勝ってトップチームの重鎮リボーリオに抱きかかえられ、歓喜の雄叫びを挙げるノゲイラと、一本負けにボー然とするコールマンの見事なコントラスト。『PRIDE』の政権は柔術へと移った。

**ノゲイラ** そうだね。試合というのは最初に主導権を握った方が絶対に有利なんだ。そういった意味で、昨日は最初から自分のペースに持ち込むことができたし、それで最後まで自分の思い通りに闘うことができて非常に満足しているよ。

——結果的に関節技で一本勝ちしたわけですけど、試合後のコメントでは、「打撃で勝つつもりだった」と言ってましたよね。それはなぜなんですか？

**ノゲイラ** 試合の1ヶ月くらい前に「コールマンがパット・ミレティッチのジムで、打撃の練習をみっちりと積んでいる」という情報が入って来たんだ。それを聞いて、きっとコールマンは寝技を嫌って立ち技で勝ちにくるだろうと予測したんだ。そうなるとコールマンからテイクダウンを奪うのは至難の業だから、自分も立ち技の練習量を増やして、スタンドでも勝てるように準備してきたんだよ。コールマンもボクが立ち技で攻めてきたんでビックリしたんじゃないかな（笑）。

ホントにコールマンにとっては、立っても地獄、寝ても地獄という感じでしたよね（笑）。

**ノゲイラ** スタンド勝負の作戦が見事に当たったのは嬉しかったんだけど、自分としては日本のファンがボクに対して関節技での一本勝ちを期待していることを知っていたから、この作戦で行くのは心苦しい部分もあったんだよ。前にK－1の会場（8・19）に行ったときも、みんなに「一本勝ちしてくれ」と言われたしね（笑）。

そんなことがありましたか（笑）。

**ノゲイラ** だから結果的に関節技で勝てたのは、ファンの期待を裏切らないで済んだという意味でも良かったし、立ち技と寝技の両方の技術を日本のファンに見せられて、自分にとっても凄く快感だったんだ。

# 試合後コールマンに「10年間は君が王者だ」と言われたよ

——ファンの期待通りっていうか、期待以上ですよ！ グッドリッジ戦でのオモプラッタをおとりに使っての三角絞めにも驚きましたけど、今回また違う入り方で三角絞めを極めたんで、これまた驚きましたからね

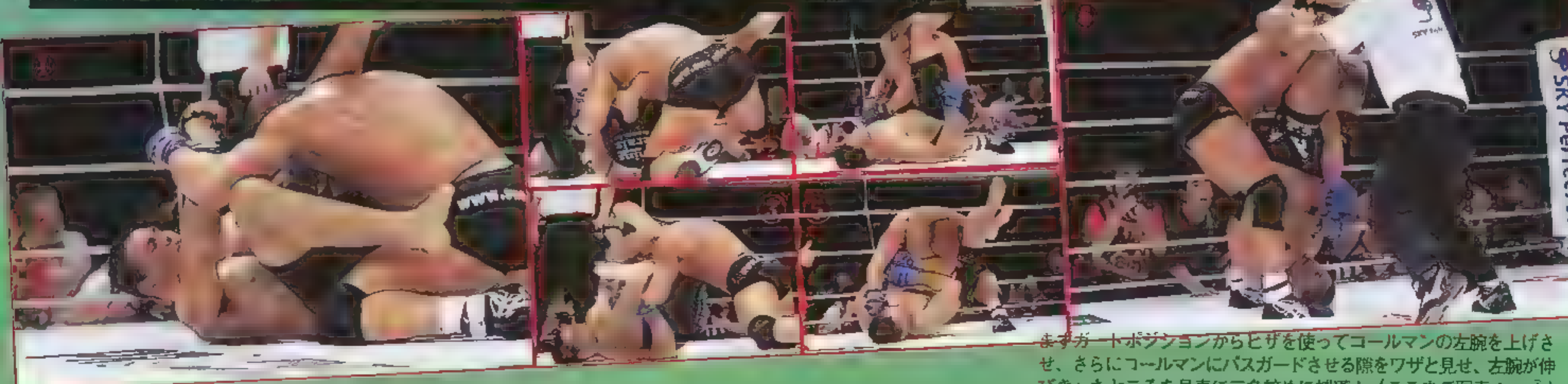
**ノゲイラ** そうかい？ 入り方はまだまだあるよ（笑）。

——まだあるんですか！

**ノゲイラ** 相手によって入り方を変えているんだけど、まぁ、トライアングル（三角絞め）だけで10種類以上はあるね。その中の3種類がコールマンには有効だと思ったんだ。

今回のフィニッシュはガードポジションからコールマンがパスガードをしそうになったところを、いつの間にか三角絞めが極まっていましたけど、あれもその3種類のひとつなんですか？

**ノゲイラ** ああ、そうさ。ガードポジションを取ってから、コールマンはボクがトライアングルで攻めてくることをわかっていたから、腕を取られないように、脇を締めて腕を閉じていたんだ。さすがにそのままじゃ極めることはできないし、膠着してしまうだけなん

◎アントニオ・R・ノゲイラ〈1R6分10秒 腕ひしぎ三角固め〉マーク・コールマン●
（ブラジリアン・トップチーム）（ハンマー・ハウス）

まずガードポジションからヒザを使ってコールマンの左腕を上げさせ、さらにコールマンにパスガードさせる際をワザと見せ、左腕が伸びきったところを見事に三角絞めに捕獲！（ここまで写真1～4）コールマンがパンチを振り下ろすもこの体勢からは腕が届かない。なんとか振りほどこうと、コールマンが立ち上がるが、ノゲイラはここで“腕ひしぎ三角固め”に移行！ まさに関節アリ地獄だ！

で、ボクはワザとコールマンをサイドに回らせた。そうするとサイドに回る途中で、どうしても左腕がオープンになる。そこを捕らえ極めたんだよ（エッヘン）。

――ほぉぉぉ～～、凄い！

**ノゲイラ**　この入り方は、マリオ（＝スペーヒー）が「コールマンはきっとこうやって攻めてくる」と、シュミレーションしてくれた中のひとつなんだ。だからこの勝利はマリオのお陰でもあるね（ニッコリ）。

――ほぉぉぉ～～、マリオも凄い！（笑）。

**ノゲイラ**　マリオはボクに毎日毎日「サブミッションで極めろ。ファンはそれを望んでいる」と言って聞かせるんだよ。それで洗脳された部分もあるかな（笑）。

――もうひとつ、ノゲイラ選手がガードポジションから、コールマンの顔面を蹴り上げる。いわゆる〝ヘンゾキック〟を打って、それが空振りしたような感じで三角絞めに入ったシーンがありましたけど、あれも狙っていたんですか？

**ノゲイラ**　ああ、あのシーンか。でもその前に〝ヘンゾキック〟という名前は間違っているなぁ（笑）。

――え⁉　間違ってましたか？

**ノゲイラ**　大間違いだよ！　だってあれは〝ヘンゾ〟じゃなくて〝ブスタマンチ〟キックだからね（笑）。

――ガハハハ！　ヘンゾじゃなくてブスタマンチー（笑）。

**ノゲイラ**　あのキックはブスタマンチ直伝なんだから。それは必ず書いておいてくれないと困るよ（笑）。

――しっかり訂正しておきます（笑）。

**ノゲイラ**　まぁそれで、あの〝ブスタマンチキック〟からのトライアングルだけど、正直言うとキックを空振りしたのはワザとじゃない（笑）。

――あ、やっぱり（笑）。

**ノゲイラ**　本気でコールマンをKOしようとして蹴り上げたんだけど、彼が上手くかわし

# クートゥアー、ボブ・チャンチン、ヒーゾの3人が強いと思う

【アントニオ・ホドリゴ・"ミノタウロ"ノゲイラ】ブラジリアン・トップチーム所属。1976年6月2日 [illegible] 州出身。191cm、104kg。99年 [illegible] PRIDE [illegible]

Antonio Rodrigo
"MINOTAURO"
NOGUEIRA

たんだ　ただ、ボクはキックをかわされても、すぐさま次の手を打つという練習をみっちり積んでいる。つまりボクらの技には二重三重の罠が仕掛けられているんだよ（エッヘン）

——いやぁ、ホントにトップチーム恐るべしですね　ボクも実際に試合を見る前は正直、『PRIDE』新ルールで無敵と思われたコールマンがここまで完敗を喫するとは思いませんでしたよ　ノゲイラ選手自身は、試合をやる前とやったあとでは、コールマンに対するイメージは変わりましたか?

**ノゲイラ**　いや、試合前も試合後も彼をリスペクトする気持ちは変わらないよ。実は試合前に朝食を取ろうとホテルのレストランに行ったとき、彼とバッタリ会ったんだけど、そのとき「お互い良い試合をしよう」と彼の方から話しかけてくれたんだ。だから試合前からいい印象は持っていたんだけど、試合後も負けたにも関わらず「いい試合をありがとう。この先10年間は君が王者だろう」と言ってくれた。コールマンは強いだけではなく、人間的にも尊敬できる真のチャンピオンだよ。

——は～、そんなことがあったんですか。

**ノゲイラ**　自分はファイターとして大事なことが3つあると思うんだ。まずフィジカル、次にテクニック、そしてスピリット　その中でテクニックでは自分の方が勝っていると思うけど、他の二つはまだコールマンが上だと思う

——では今回コールマン選手に勝って、自分がナンバー1ファイターになったという自負はまだありませんか?

**ノゲイラ**　自分としては、「ナンバー1になるためにいいポジション」にいると思っている。今年はKOKチャンピオンにもなったし、『PRIDE・GP』王者のコールマンに勝つこともできた。でも、もっと試合をして、本当の意味での王者になりたい。それは一人に勝っただけではなれるものではないので、これからも一戦一戦闘ってそれを証明していきたいと思う

——はぁ～、謙虚ですねぇ。

（M・スペーヒーが口を挟む）

**マリオ**　ノゲイラの試合を見て、みんな「素晴らしい。100%だ」と言ってくれているが、私から見るといまは彼の完成度でいえばまだ60%だろう

——あれでまだ60%ですか!

**マリオ**　ああ、あと40%の力が出せるはずだ。ノゲイラはまだまだ強くなるよ!

——末恐ろしいですねぇ。

**ノゲイラ**　だから、もっとたくさん練習を積んで『PRIDE』でヘビー級のチャンピオンになること。それが当面のゴールだね。

——でも、そうなると、11・3東京ドームでヒース・ヒーリングとの『PRIDE』初代ヘビー級王座決定戦が噂されてますから、すぐにゴールが来ちゃうんじゃないですか（笑）。

**ノゲイラ**　その話だけど、さっきマネージャーに聞いたところ、タイトル戦は来年の早い段階になったらしい。

——あ、そうなんですか。

**ノゲイラ**　だから次の『PRIDE』ではなさそうだけど、もちろん自分自身タイトル戦は楽しみにしているし、ヒース・ヒーリングとの対戦も必ず実現したいと思う。

——では、11・3『PRIDE・17』は誰と闘うつもりなんですか?

**ノゲイラ**　まだ話は来ていないけど、相手が望むのなら一度『PRIDE』の日本人と闘ってみるのもいいと思う　自分との対戦を希望する強い日本人は誰かいないのか?

——う～ん、ノゲイラ選手との釣り合いを考えると藤田選手ぐらいしか思い浮かばないですね

**ノゲイラ**　フジタはいいファイターだと思うけど、いまは同じ「猪木軍」だから、vsK－1が終わるまではちょっと無理かな（笑）。

——そういえば同じチームなんですね。まったくそんな感じはしませんけど（笑）。じゃあ『PRIDE』じゃないですけど、TK（高阪剛）とか。

**ノゲイラ**　TKか、それはいいね　彼とはいい友達なんだけど、対戦が組まれたら闘うことに異存はないよ　それにTKとはリングスで引き分けているからね。あの時はリングスルールだったけど、『PRIDE』ルールでやったら絶対に勝つ自信があるよ　あのときはヒザの手術をした後で、まだ本調子じゃなかったんだ　でも、試合の1ヶ月後に娘が生まれる予定だったんで、どうしてもお金が欲しくてオファーを受けてしまったんだよ（笑）。

ガハハハ!　金のためでしたか（笑）。

**ノゲイラ**　それにあの時はミスター・マエダに「試合に出てくれ」と言われたら、出ないワケにはいかないと思ってたしね（笑）。だから今度TKと闘うなら、お互いに100%の状態で思い切り闘いたい。でも勝つのはボクだよ（キッパリ）。

それは見たいなぁ　それとコールマン戦後のコメントで「一番強い人と闘いたい」と言っていましたけど、ノゲイラ選手はいま誰が一番強いと思いますか?

**ノゲイラ**　いま最も強い選手と言えばランディー・クートゥアー、ペドロ・ヒーゾ、イゴール・ボブチャンチンの3人だと思う。その中でもボブチャンチンが一番強いんじゃないかな

——ボブチャンチンですか!

**ノゲイラ**　ああ、彼となら凄くエキサイティングな試合になるだろう。全身からアドレナリンが吹き出るような、そういう闘いが早くしたいよ。

——僕らも早く見たいですよ!（笑）。まだ相手はわかりませんけど、まずは11・3東京ドームでの試合期待してます!

**【01年9月24日、大阪市内、某ホテルにて収録】**

# SPERRY

# トップチームの首領遂に動く!!

## 11.3『PRIDE.17』東京ドーム、12.31『猪木祭り』に “ノゲイラより強い男”マリオ・スペーヒー参戦!

ブラジリアン・トップチーム闇の首領が遂に動き出した！　これまでトップチームの頭脳として、あえて表舞台に出てこなかったものの、その実力は金原をして「ノゲイラ以上」と言わせる超一流柔術家スペーヒーが、満を持して11・3『PRIDE』ドームと12・31猪木祭りに出陣！　“ブラジル最強軍団”がマット界を制圧する！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／佐々木小太郎　designed by きおとめの事務所

スペーヒーとノゲイラが到着したのは、約束の時間から約2時間が経過したときだった。どうやらミーティングが長引いたらしい。2時間も待たされたんだから、そのミーティングの内容を根ほり葉ほり聞きだしてやるかんな。という意気込みでインタビューを始めると、まずスペーヒーが「今日は遅れて申し訳なかった。でもビッグニュースが発表できるよ」と笑顔で語り始めた。そのニュースとはズバリ、スペーヒーとノゲイラのvsK―1参戦正式決定！

いよいよ、寝技最強集団が立ち技最高峰K―1と雌雄を決する！

**マリオ** やぁ、遅くなって申し訳ない。実はいまK―1についての会議をしてきたところで、それが長引いてしまったんだよ。

――え!? K―1についての会議ですか？ 一体どんな話し合いがあったんですか!?

**マリオ** 話し合いというか、私とノゲイラに12月31日に行われるK―1 vs 猪木軍のイベントへの参戦オファーが正式にあったんだ。

――おぉ～、最強集団ブラジリアン・トップチームの首領が遂に動き出しますか！ それはビッグニュースですね。

**マリオ** まだ契約は済ませていないが、私もノゲイラも喜んで出場させてもらうつもりだよ！

――となると12月31日はお二人とも猪木軍の一員としてK―1戦士と闘うことになるんですか？

**マリオ** もちろん、そうさ。この話はミスター・イノキからいただいたものだからね。

――でも、そもそもプロレスラーでもないお二人の「猪木軍入り」というのは、いささか唐突の感がありましたけど、どういった経緯で猪木軍に入ることになったんですか？

**マリオ** ミスター・イノキが軍団を作ってK―1と闘うという話を聞いたので、私の方から「軍団に入ってK―1と闘いたい」と申し出たんだよ。ミスター・イノキはブラジルでは偉大な格闘家として有名で、我々のアイドルでもあったし、私自身、K―1戦士と闘うということに強い関心をもっていたからね。幸運にもミスター・イノキに了解をもらえて軍団に入ることができたのは、とても光栄なことだと思うよ。

では、正式にK―1ファイターと闘うことになったいまの心境はいかがですか？

**マリオ** 私自身興奮しているし、凄く面白い試合になると思うよ。彼らは我々が経験したことがないくらいの危険な打撃を持っているし、肉体的にも非常に優れてる。でも反対に寝技になったら我々の世界だ。まあ、寝技が勝つか、打撃が勝つか、日本のファンも気になっていると思うし、とてもエキサイティングなイベントになるんじゃないかな。

――猪木軍vsK―1というと、まず第1ラウンドとして8月19日にK―1のリングで藤田和之vsミルコ・クロコップ戦が行われましたけど、この試合を会場でご覧になってどんな感想を持ちましたか？

**マリオ** まず、vsK―1という闘いが、何が起こるかわからない非常に危険なビジネスだと改めて気づかされたね。総合力ではフジタの方がミルコより勝っていると思うし、実際にあの日もフジタが勝つチャンスはたくさんあったが、結果的に勝つことはできなかった。そういった意味であの一戦は、我々がK―1ファイターと闘う際の、とてもいいレッスンになったよ。

――ノゲイラ選手はどうですか？

**ノゲイラ** まずミルコはラッキーだったと思う。あそこでレフェリーストップにならなかったら、グラウンドで上になっていたフジタが間違いなくミルコを下していただろう。だが、ミルコがヒジやヒザという危険な武器を持ってるということと、バーリトゥードに対して十分な練習を積んできたということは認めるよ。だからマリオと同じになるけど、自分にとってもいいレッスンになったな。

## ホイス・グレイシーに引導を渡したいね

――あのレフェリーストップについてはどう思われましたか？

**マリオ** 実際にルールがある以上、あの流血では止められてもしょうがないだろう。レフェリングは妥当だよ。

**ノゲイラ** でもブラジルだったら続行していただろうね（笑）。

――では実際にK―1戦士と闘う場合、どういった戦略が有効だと思いますか？

**マリオ** まず間違っても打撃で勝とうとは思わないことだね（笑）。

――そうりゃそうですよね（笑）。

**マリオ** でも打撃を警戒しすぎても、フジタのようにテイクダウンが困難になってしまう。だから危険を省みずにある程度打撃で向かっていって相手の懐に入り、そのあと自分の得意なグラウンドに招待する。それがベストだね。

**ノゲイラ** 自分もマリオと同じ意見だよ。ブラジリアン・トップチームでもすでにその練習を始めているしね。

――もう始めてるんですか！

**マリオ** これはvsK―1だけのためではなく、トップチームは常に打撃の練習も怠っていないんだ。我々をグラウンドだけの集団だとは思ったら痛い目に遭うよ。

――vsK―1のルールは通常の『PRIDE』ルールと違ってブレイクが早いんですけど、その辺に関して不安はありませんか？

**マリオ** せっかくテイクダウンを奪っても、ブレイクされたら、また相手の土俵であるスタンドになってしまうのだから、確かに我々にとっては危険なルールだね。しかしビジネスとしてオファーされた以上、そのルールの中で結果を出すのがトップチームだ。それはアブダビでもリングスでも王者を輩出していることで納得してもらえると思う。

なるほど、確かにその通りですね。ノゲイラ選手はどうですか？

**ノゲイラ** ブレイクが早いルールだなんて知らなかったよ（笑）。

――あら、知りませんでしたか（笑）。

**ノゲイラ** でも、いくらブレイクが早くても、その前に極めてしまえばいいだけだから、まったく問題ないよ。

――おぉ～、頼もしいですね。

**マリオ** まあ、本当は誰が一番強いかを決めたいなら、レフェリーストップもラウンド制もいらないと思うんだよ。でも打撃の選手からいえば、そうもいってられないだろうし、逆に我々もスタンドだけのK―1ルールでやれと言われても闘えないからね。そうなると折衷案になることはやむを得ないと思う。

――K―1ファイターは打撃はトップクラスですけど、グラウンドは知らないのでバーリトゥードではイージーな相手だという意見も一部ではあるんですけど、その辺はどう思われてますか？

**マリオ** それは本当の闘いを知らないヤツの言葉だね。確かに寝技から始めるのであれば我々は汗もかかずに彼らを極められるだろう。

しかし、試合は彼らの庭であるスタンドからスタートするんだ。スタンドで始まる以上は彼らの打撃はかなりやっかいだよ。この戦争がイージーでないのだけは確かだ。

――ところでK―1の試合は御覧なったことはあるんですか？

**マリオ**　K―1を見るのは大好きだよ。

――K―1ファイターでコイツは強いなって思う選手は誰かいますか？

**マリオ**　バーリ・トゥードに向いているかは別として、やはりチャンプのアーネスト・ホーストのテクニックは本当に凄いと思うね。

**ノゲイラ**　自分はフランシスコ・フィリオ、それと亡くなってしまったがアンディ・フグは素晴らしい格闘家だと思う。でも、なんといってもタフだと思うのが、ジャロム・レ・バンナだ。バンナとはいつでもやってやるよ！

――それはバンナの「ションベン」発言にムカついてるからですか？（笑）。

**ノゲイラ**　違うと言えば嘘になるな。ヤツはちょっと喋り過ぎだ。ボクは専門分野が違うとはいえK―1ファイターを尊敬しているんだよ。でもヤツからは我々に対してそれが感じられない。まあ、テイクダウンさえ奪えば大人しくなるだろう（笑）。

――グラウンドでキュッとやって、しっかり更生させてやる、と（笑）。マリオ選手は闘いたい相手はいますか？

**マリオ**　誰でもいいよ。強いて挙げれば私もバンナと闘いたいが、ノゲイラに譲るよ（笑）。

**ノゲイラ**　ボクももしバンナと試合が組まれなくても、誰とでもやるよ。ボクは対戦相手を選んだことはないし、自分で決めたこともないんだ。例えばフィリォは同じブラジル人だし、彼は謙虚で人間的にも尊敬できる選手だから闘いたいとは思わないけど、もし組まれたら闘うしかないと思ってる。

**マリオ**　どんなタイプの選手が相手でも闘える、それがトップチームなんだ。だけど正直に言えば、私もノゲイラも12月31日の前に『PRIDE』の東京ドーム大会があるんで、まだvsK―1については、あまり考えていないというのが本当のところだよ。

――あ、ノゲイラ選手だけじゃなく、マリオ選手も『PRIDE・17』に出場するんですか！

**マリオ**　そうなるよ。私とノゲイラ、そしてアローナも出る予定だ（その後、体調不良のためアローナは欠場の模様）。

――ビッグマッチの連戦ですけど、コンディションの方は大丈夫ですか？

**マリオ**　確かに大変だけど、ブラジルではそれに耐えられるハードなトレーニングを積んでいるからね。これぐらいの方が健康的な生活を送れるよ（笑）。

――マリオ選手は総合の試合は、昨年の『コロシアム2000』（5・26金原弘光戦）以来ですけど、不安はありませんか？

**マリオ**　ブランクに関してはまったく心配していない。私はいつもノゲイラを始めとするブラジリアン・トップチームの連中とトレーニングをしてるんだ。下手な試合に出るよりよっぽどいいよ（笑）。

**ノゲイラ**　マリオはトップチームの中でも特にハードなトレーニングを積んでいるんだ。あの歳で一日に8時間もトレーニングするなんてどうかしてるよ（笑）。

**マリオ**　ハハハ、歳のことは言うなよ（笑）。

――いまファンの間で、ヘビー級の寝技最強はノゲイラ選手だっていう声が高まってるんですよ。でもマリオ選手とノゲイラ選手の両者と対戦した金原弘光選手に言わせると「ノゲイラは強い！　でもマリオはもっと強い!!」という話なんですけど、実際のほどはいかがなんですか？（笑）。

**マリオ**　ハハハハ、どうだろうな？　それはカネハラが私に気を遣って誇張してるんじゃないのか!?（笑）。

**ノゲイラ**　確かにマリオの方が経験がある分、ポジショニングの堅さという点ではそれを感じるよ。『PRIDE』のファンも対戦相手もマリオのテクニックには驚くんじゃないかな。

――ほぉ、それは楽しみですね。では、聞くだけ野暮だと思いますけど、11・3ドームで闘いたい相手はいますか？

**マリオ**　何度も言うけど誰でもいいよ（笑）。

――やっぱり（笑）。

**マリオ**　私は誰とでも闘うから誰か名乗り出てほしいね。……あ、そういえば、ひとりだけ闘いたい相手がいたよ。

――おー！　それは興味深いですねぇ。ズバリそれは誰ですか？

**マリオ**　ホイス・グレイシー。私がヤツに引導を渡してやりたいね。

【01年9月22日／都内・某ホテルにて収録】

【マリオ・スペーヒー】1966年9月28日、ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ出身。188cm、95kg。'96〜'99柔術世界選手権4連覇、'99アブダビコンバット99kg以下級と無差別級2階級制覇、'99、'00アブダビ・スーパーファイト制覇と経歴だけで[illegible]が埋まりそうな程の実績を持つ超大物柔術家。ブラジリアン・トップチームのリーダー的存在。

MARIO SPERRY

# 対戦相手は誰でもいい。ただあえて指名するなら

# ヴァンダレイ？大っ嫌いだね

## アブダビとリングスを制した男が 11.3　サクvsシウバの勝者に果たし状！

8月にリングス初代ミドル級王者となったアローナが、9・24『PRIDE・16』に早くも登場。メッツアーを下し白星デビューを飾ると、早くも11・3『PRIDE・17』で初代ミドル級王座を争う、サクとシウバに挑戦状を叩きつけた！　アブダビとリングスを制したブラジルの風雲児が、『PRIDE』をも制圧するのか！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　試合写真／乾晋也　designed by さおとめの事務所

# ヴァンダレイは眼中になかったが喧嘩を売られたら黙ってないよ

――まずは、『PRIDE』白星デビューおめでとうございます！

**アローナ**　ありがとう。メッツアーは非常にいい相手だったし、いい試合ができたと思う。一本は奪えなかったけど、結果には満足しているよ。

――昨日のメッツアー戦は、かなりの消耗戦だったと思いますけど、アローナ選手にとっても、これまでで一番キツイ試合だったんじゃないですか？

**アローナ**　確かに大変なハードファイトではあったね。でも、それは俺とメッツアーの体重差と俺自身の体調不良が原因だよ。メッツアーは俺よりずいぶん体重が重かったし、俺の方は日本に来てから体調を崩して、4日間で3キロも体重が減ってしまうほど酷いコンディションだった。だからもちろんキツイ試合ではあったよ。でも、いままでの試合と比べて、際立ってキツかったかと言えば、そんなことはない。俺はこれまでもリングスやアブダビでハードな闘いを勝ち抜いて来たんだからね。まぁ、この間のグスタボ・シム戦（8・11リングス有明大会、1分半でKO勝ち）よりは大変だったけど（笑）

――でも、日本での試合前の下馬評では、アローナ選手が圧倒するんじゃないかという声が多かったんですよ。アローナ選手自身、メッツアーは思った以上に手強かったと思いませんか？

**アローナ**　だからさっき言ったように、コンディションの問題で、自分の半分の力しか発揮できなかったんだ。ずっと高熱が続いて、薬を飲んでも、点滴を打っても熱が下がらなかった。そういった体調の悪さが試合にも影響してしまったんだよ。ただ、俺が苦戦したと思っている人がいるなら、俺とメッツアーの顔を比べてみたらいい。俺はどこも腫れてないけど、今朝ホテルで会ったメッツアーの顔はボコボコだったからね。2人の顔を見比べたら、俺が別段苦戦したわけじゃないことがおわかりいただけると思うよ（笑）

――アローナ選手はこれまで総合の試合はリングスKOKルールで闘ってきて、バーリ・トゥードは今回が初めてでしたけど、その点でこれまでとスタミナ面などで、勝手が違ったりはしませんでしたか？

**アローナ**　バーリ・トゥードのトレーニングは十分してきていたので、ルールの違いはまったく問題なかったよ。それにオレは別段リングスルールの方が得意というわけじゃないし、逆にバーリ・トゥードの方が自分に合っていると思うくらいなんだ。でも、さっきから何度も言っている通り、とにかく体調が悪かったから、自分の持ち味が活かせなかった。それだけだよ。

――とにかくすべては体調の悪さが原因なわけですね（笑）。そこまで言う体調とは、具体的にはどんな状態だったんですか？

**アローナ**　日本へ行く飛行機の中で、凄く体調が悪いのを感じたんだ。寒気がして、鼻が、つまり、頭も痛い。それで東京に着いた次の日に、あまりに体調が悪かったんで、ドクターに診てもらったけど、薬を飲んでも点滴を打っても一向に体調がよくならなかったんだ。下痢が止まらなかったし、吐き気も凄かった。だからトレーニングはランニングもできないし、精神を集中することすらできない。とにかくコンディションで言えば、これまでで最悪だったんだ。

――そこまで酷い症状だったんですか！　では、今回の『PRIDE.16』で初めてアローナ選手の試合を見たファンがたくさんいたと思うんですけど、自分の実力をあの一戦で評価されたくないという感じですか？

**アローナ**　その通り。あの一戦だけで俺を判断してもらっては困るよ。次は必ず、もっと凄い試合を見せるから、ゼヒ期待して欲しいね。

## “メッツアー戦法”久々に爆発もアローナ逆転勝利

あのアローナのタックルをことごとく切り、その実力を改めて実証したメッツアー。スタントレスリングの強さは驚異的だ。

金原を仕留めた下からのヒサ十字で勝負をかけたアローナ。極まったかに思えたが、メッツアーはポイントをズラしなんとか脱出。

3R開始早々、強引なタックルで遂にメッツアーを倒すと、2Rまでの劣勢を挽回すべくパンチを振り下ろし、アローナが逆転勝利。

◯ヒカルド・アローナ（ブラジリアン・トップチーム）〈3R 2－1 判定〉ガイ・メッツァー●（ライオンズ・デン）

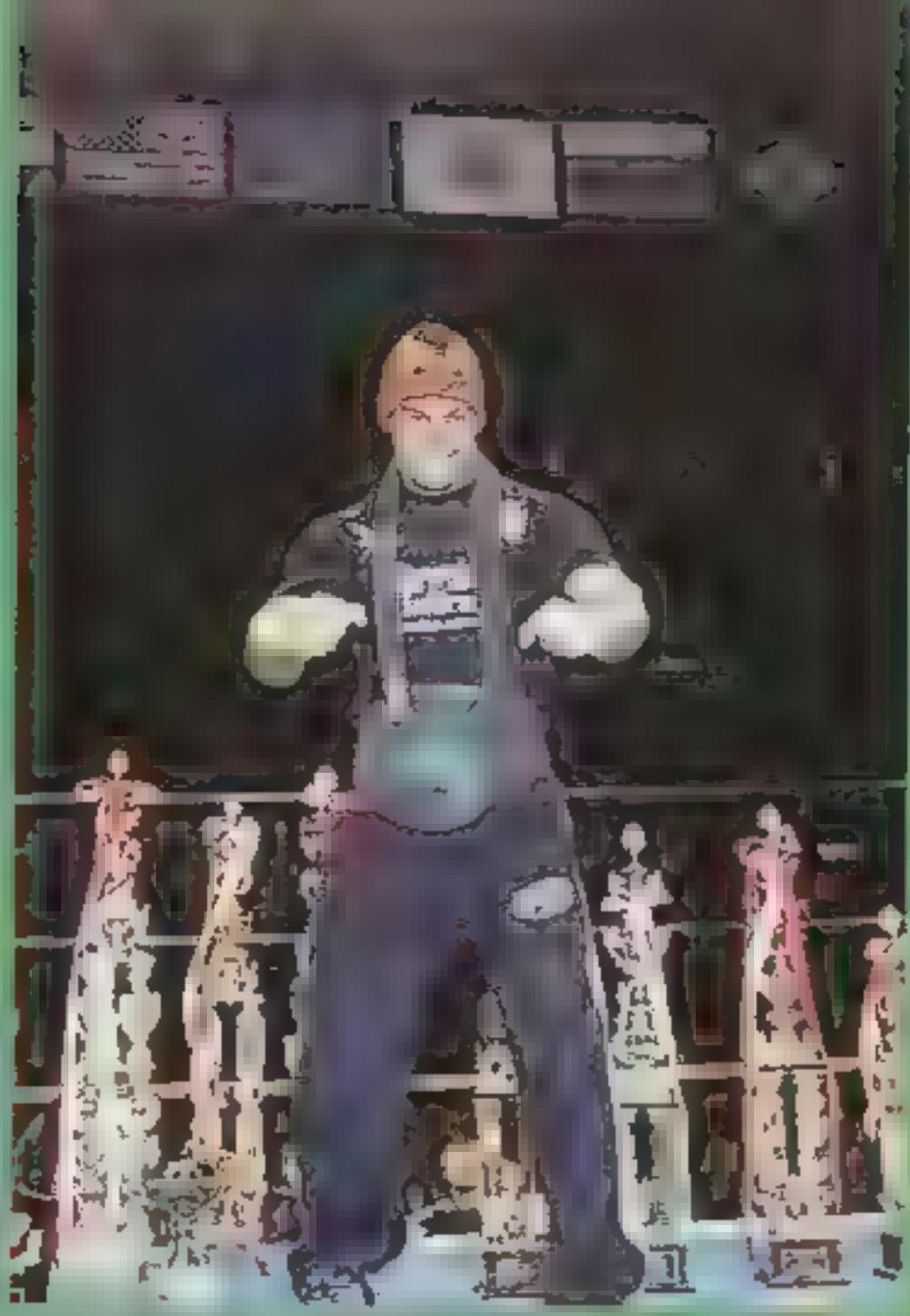
そうなると、次の試合が本当のデビュー戦というか、非常に大事な試合になると思いますけど、誰か闘いたい相手はいますか？

**アローナ**　自分と同じくらいの体重だったら、誰とでも闘うよ。俺は相手を選ばないし、逃げない。それは『PRIDE』デビュー戦でガイ・メッツアーと闘ったことでわかってもらえるだろう　誰が好きこのんでメッツアーとデビュー戦を行うと思う？（笑）

――ガハハハ！　確かに大事なデビュー戦で膠着されたらたまったもんじゃないですよね（笑）。では、当面の目標は次の『PRIDE・17』で桜庭選手とヴァンダレイ・シウバの間で争われる、新設のPRIDEミドル級王座になりますか？

**アローナ**　そうだね。これまで俺はアブダビでもリングスでも頂点に立ってきた　だから『PRIDE』でもサクラバvsヴァンダレイの勝者と闘い、頂点を奪うことが目標だよ。

――先ほどちょっと小耳に挟んだんですけど、アローナ選手はそのヴァンダレイ・シウバとあまり仲が良くないらしい……ですね？

**アローナ**　そうだね。あまり仲はよくないよ。ハッキリ言えば、大嫌いだね（キッパリ）。

――大嫌い！

**アローナ**　ああ、大嫌いさ。俺にとっては、もともとヴァンダレイなんていうのは、喧嘩を売るような相手ではないんだけど、喧嘩を仕掛けられたら俺は黙ってないよ（キッパリ）

――え⁉　シウバから喧嘩を仕掛けられたんですか？

**アローナ**　今回もヒルトンのレストランで、あと一歩で乱闘になるところだったよ。

――ヒルトンで乱闘！　そんなことがあったんですか⁉

（ここでマリオ・スペーヒーが口を挟む）

**マリオ**　でも勘違いしてほしくないのは、仕掛けたのはアローナではなく、ヴァンダレイの方からだということだ。我々トップチームは決して自分からストリートファイトを仕掛けるようなマネはしないし、本当はブラジル人同士で無意味ないがみ合いなんかしたくない。しかし、奴等シュートボクセ（シウバのチーム）が因縁を吹っかけてきたのなら、いつ何時でも受けて立つ用意はできているよ！

――お～、さすが猪木軍（笑）。もしかしたら、ヴァンダレイが「桜庭のライバル」という、自分の地位を脅かす存在として、アローナ選手を煙たがっているのかもしれませんね。

**アローナ**　くだらないヤツさ（吐き捨てるように）。

――……これ以上聞くのは恐ろしいので次に行きます（笑）。先月アローナ選手が獲得したリングスミドル級のベルトが、『PRIDE』移籍によって、剥奪という措置がとられたんですけど、それについてはどうお考えですか？

# 「王座を剥奪されても俺がリングスで一番強かった事実は変えられない」

**アローナ**　ベルトを剥奪されようが、どうされようが俺にとってはあまり関係ないことだよ。

――関係ないことですか！

**アローナ**　ああ。いくら俺からベルトを取り上げたり、王座を無効にしても、実際にオレがカネハラ、ジェレミー・ホーン、シムを破ってリングスで一番強いことを証明した事実を変えることはできないからね。それはリングスのファンが一番の証人だよ。だから、ベルトは剥奪できても、俺がリングスで一番強かったという事実までは、ミスター・マエダと言えども剥奪することはできないよ。

――ん～、なるほど。それと前田代表は「『PRIDE』に転出するのは仕方がないが、柔術家、武道家として、一言も挨拶がないのは残念」とも言っているのですが、それについては何かありますか？

**アローナ**　そう言われてしまうのは、こちらとしても残念だね。

（ここでまたしてもスペーヒーが口を挟む）

**マリオ**　日本独特のやり方があるのかどうかは知らないが、選手とプロモーションの契約が満了した場合、契約を延長したければ、プロモーション側からコンタクトを取り、条件を提示してくるのが普通だよ。彼の方こそ、我々に対して新たな話をしてこなかったんだから、我々はいい条件を提示してきたプロモーションと、新しい契約を結ぶ。それがビジネスさ。

――確かにそうなんですけど、要は精神論ですよね。

**アローナ**　そういうのはよくわからないけど、これまで自分をサポートしてくれた日本のファンには凄く感謝しているよ。そういうファンのお陰で、自分もやる気が出るし、いい試合ができると思う。俺はファンをハッピーな気持ちにさせたいし、そうすれば自分もハッピーになれる。だからこれからも応援お願いします。それだけは伝えておいてくれよ。

――わかりました。そう伝えておきます（笑）。

【01年9月25日／大阪市内某ホテルにて収録】

『キャプチュード』とともに
『PRIDE』マット初登場!
そして……

『PRIDE』史上
最速の11秒TKO負け!

どうする?
どうなる?

# 山本憲尚

## 今回はボロクソ言われてもしゃあないけど
## 次は必ずホームランをかっ飛ばしますよ!

リングス退団から約5ヶ月、遂にヤマノリがリングに上がった。選んだ舞台は『PRIDE』。しかし、前田日明のテーマ曲『キャプチュード』と共に入場し、アスエリオ・シウバに『PRIDE』最速となる11秒TKO負けを喫したヤマノリは試合後、大バッシングを浴びるはめに。試合後はノーコメントで会場をあとにしたヤマノリ、元気ですかー!?

文=中村カタブツ君(38歳)　撮影=[illegible]

designed by matsu (Two three)

ヤマノリ　（店に入ってくるなり）言っとくけどね、これ泣いてるわけじゃないから。

――は？

ヤマノリ　この目、この目。流行目になっちゃって腫れてるんだよ。これじゃあ、なんか泣きっ面でしょ。「まだ落ち込んでるのか？」って言われるのもイヤだしさ。

――そういう事情でサングラスをしてるわけですね。ということで、とりあえず、肉でも食べながら始めましょう。

ヤマノリ　（即座に）あのさ、●●病でしょ。オレ、食べないよ。

――じゃあ、何で自分から焼肉屋を指定したんですか！（笑）。

ヤマノリ　いや、今気付いたんだよぉ。そう言えば最近、●●病でなんか言ってるなって（笑）。

## 試合の後は、みんな落ち込んでお通夜みたいでしたね

――今気付いたんですか（笑）。

ヤマノリのマネージャー　でも、和牛は大丈夫らしいですよ。

ヤマノリ　（あっさりと）じゃあいいや。

――食べますか（笑）。

ヤマノリ　だって平気なんでしょ？

――かなぁ、ボクはライスとキムチでいいです。ところで、思ったよりも全然お元気そうですね（笑）。

ヤマノリ　いやぁ、お元気っていうかね。ボロクソ言われてるからねぇ。もう開き直らないとさ（笑）。

――そりゃ当然でしょうね。

ヤマノリ　それに試合した張本人だからね。

――では、この辺で試合を振り返って頂きましょうか。

ヤマノリ　振り返るのォ？　振り返りたくねぇなぁ。

――11秒だし、すぐですよ（笑）。

ヤマノリ　そうだけどさ。まあ、今回は豪快な三振ですかね。何か俺って、ホームラン打つか、豪快な三振しかないんだよね。中間ってのがないよ。だからもう、記録より記憶に残るって言うか。

――確かに入場から試合まで、かなり記憶に残りましたね（笑）。で、試合後、セコンドの小林聡（藤原道場所属のキックボクサー。あだ名は野良犬）さんや成瀬さんとメシを食ったんですよね。

ヤマノリ　みんな落ち込んでてね。俺も暗くなってお通夜みたいでしたね。

――ところが、翌日、ヤマノリさんはアメリカ村にタコ焼きを食いに行ったんですよね、噂によると。

ヤマノリ　よく知ってるね（笑）。あのね、アメリカ村のタコ焼きっておいしいんだよ。そこにフラ～と行って2パック食べたんだよね。で、なんか元気出てきたかなって思ってたらさ、こっちに近寄ってくる子が『昨日、見ましたよ』って（苦笑）。

――なかなか元気出せませんね（笑）。

ヤマノリ　『見るなよ』って思ったんだけど、鹿児島から来たっていうからね。俺も『ゴメンね、11秒で』って（笑）。だから、タコ焼きじゃ元気が出なかったんだよね。

――その後、あんみつを食べに行ったんですよね。

ヤマノリ　いや、あんみつじゃなくて、何だっけ？　ハーゲンダッツの店だ。知ってる？　あそこ、凄いんだよ。

――何が凄いんですか？

ヤマノリ　あの店の便器、動くんだよ。オシッコするとピーッ、ピーッって。

――便器が動くんですか（笑）。

ヤマノリ　便器の「シャーッ」ってする所あるでしょ？　アレが動くの。揺らしてくれるわけよ。あれは、ちっちゃいメリー・ゴーランドだね。

セコンドには先頃ムエタイのチャンピオンとなった藤原道場・小林聡と、現在はベルトは獲られてしまったが、試合時はWGPジュニア王者・成瀬のWチャンピオンの姿が

――じゃあ、そこで童心に戻ったような気になって元気が出たと（笑）。

ヤマノリ　いや、そういうのはなかったけどね。試合終わったらとにかく甘いもの食べたくなってさ。やっぱり試合激しいからね。短くともね（笑）。

――また自虐的な（笑）。さあ、肉が焼けたみたいですから食べてください。

（●●病など一切無視してバクバク食べるヤマノリ。その無頓着な様子を見て、ついつい釣られて牛を食い始める一同）

――やっぱり旨いッスねえ、肉（笑）。

ヤマノリ　いや、気をつけないとね。それでね、あの後、藤原先生に電話したらさ、『お前、随分早いじゃねえかよ！』って言われたんだよね（笑）。

――藤原先生は試合を見てたんですか？

ヤマノリ　いや、結果だけ聞いたみたいですよ。で、『気がない』って言われてね。気合の〝気〟。『前のKOKのリベンジの時は〝気〟があった。だけど、今回は〝気〟が無かったろう』って。そう言われればそうなんだよな。なんかこう、いろんなことで疲れちゃってさ（苦笑）。

――『入場曲は、どうしよう』とか（笑）。

ヤマノリ　いやいやいや（笑）。そう言うのじゃなくて。何かねえ、世間の人間関係って言うのかなぁ。そういうので死ぬ気になってやれなかったんだよね。

――でも、まあ、ここからでしょ。

ヤマノリ　そうだよね。ただ、はっきり言えるのは、アレが今の俺の現実だよね。

――あの時のですね。で、その現実ってことで各誌の記事を見てもらえますか？

ヤマノリ　えぇ～、見るのォ。俺まだ何にも見てないんだよね。だいたい11秒じゃ、記者さんも書くことないでしょ。

――どういう風に書かれてると思いますか？

ヤマノリ　ああいう負け方したわけだからボロクソに書かれてもしょうがないでしょう、それは。

――書かれてるんですよね（笑）。『SRS・DX』なんか〝エセ・リングス〟って書いてありますね。（記事を読み出すヤマノリ）

――どうですか、感想は？

ヤマノリ　いや、感想も何もねえ。

――タチ悪いですよね。

**ヤマノリ** なんていうか、ムカつくよね！
――それ、ボクが書いたんです（笑）。
**ヤマノリ** （店員さんに向かって）あのね、アイスピック持ってきてくれる！
――いやいやいや、応援はしているんですよ、ホントに（笑）。
**ヤマノリ** で、そっちは？
――これは『週プロ』と『格通』が共同編集した『PRIDE』速報号ですね。こちらは「プロレスラー失格」と書いてますね（笑）。
**ヤマノリ** （これも読みふけるヤマノリ）なんか、ボロクソやね。
――ボロクソですね、残念ながら。でも、試合後、コメントルームに来なかったのは、なぜだったんですか？
**ヤマノリ** 何言おうかなって考えたけど、言うことなかったんだよ。
――逆に記者の方は言いたいことが一杯あったんだと思うんですけどね。
**ヤマノリ** そりゃあったと思うよ。でも、俺は言うことがなかった。結果が全てだからね。リングに上がる前から負けるなんてことは考えてないけど、今回の結果はホント0点ですよ。
――結果についてはもう終わったことなんで、これ以上聞かないですけど、『PRIDE』に上がる前までが凄く長すぎたんですよ。「ヤマノリはこれから何やるんだろ？」「小川戦はどうなったんだろ？」とか。要するに何がしたくてフリーになったんだってことなんですよね。
**ヤマノリ** そうだよね。フリーになったら、自分でやらなきゃいけないことが一辺に増えて、やりたいことが見えなくなってたところはあるよ。「金のために試合するのか」って、ある人にも言われたしね。そういうのがあって、結局全部空回りしてうまくいかなかったというか。
――今回はそれが傍目で見てても感じられたんですよ。とにかくリングに集中してない感じが凄く見て取れたし。それこそ血尿が出るまで練習していた、あのヤマノリはどこに行ったんだろうって。
**ヤマノリ** だから、明確なテーマがないままリングに上がってたんだなって今になって思うよね。そんなことじゃあ、他の人が見たら「金かよ」って思うよ。
――ぶっちゃけた話、金だったんですか。
**ヤマノリ** それはあるよね。
――やっぱり（笑）。こがフリーの辛さなんですよね。ということは相手のことも良く知らずにリングに上がっていたと？
**ヤマノリ** 今でもよく分からない（笑）。
――それは非常にヤマノリさんらしいんですけどね（笑）。要は「相手のことかよりも、自分が強くなるんだ」っていう部分がヤマノリさんから見えていれば全てはOKなんですよね。そこが今回、見えてこなかったのが残念なんですよ。実際、フリーになったらそういう情報に関しても、自分でやっていかなきゃいけないわけだし。
**ヤマノリ** だから、フリーになった今は自分自身が情報局だよね。『ノリノリ情報局』じゃないけどさ。
――実は、そのページの担当のボンちゃん、辞めちゃったんですよね（笑）。
**ヤマノリ** えっ、そうなの（笑）。だからさ、自分自身が情報局になっていろんなものをリサーチして、もう頭の中がグチャグチャでホント●●病だよ、俺。
――ワハハハハ！
**ヤマノリ** 消化出来ないんだよね。何かボコボコ泡吹いてるような感じで（笑）。
――それじゃあ、勝てないですね（笑）。
**ヤマノリ** でも、自分で選んだ道だから。自分で上手く解読していかなきゃいけなかったんだけど、なんかいらない情報っていっぱいあるんだよね。それに知らなかったってこともいっぱいあったし。

取材をお願いすると「俺、いま流行目になっち■って目が凄い腫れてるから、写真は勘弁してもらえない？ 俺、ビジュアル系だからさ」とヤマノリ。「あっ、そうだ。サングラスに目が書いてあるヤツ買ってきてよ。それだったらいいよ」というわけでこうなりました。元気ですよ！

## 9・24『PRIDE.16』山憲vsアスエリオ ほぼ完全(?)PREVIEW

◆9・24 大阪城ホール◆
○アスエリオ・シウバ（1R0分11秒 TKO）山本憲尚●

アスエリオは『PRIDE.15』でヤマノリがKOKルールで負けているオーフレイムに勝利。これに勝てば間接的にオーフレイムへのリベンジとなったのだったが

試合はいきなり動き出した。ファーストコンタクトでヤマノリの左ローとアスエリオの右フックが激突。その一発でヤマノリのこめかみから鮮血が流れ出た

藤原道場の鉄柱を蹴って鍛えた自慢のローもアスエリオの勢いもろとも吹っ飛ばされてしまったヤマノリ。ここぞとばかりアスエリオは的確なパンチを突き刺した

うつ伏せになったヤマノリに、なおもパンチを繰り出すアスエリオ。危険と見たレフェリーが割って入り、ヤマノリの『PRIDE』初挑戦はわずか11秒で幕を閉じた

——フリーになった途端にやらなきゃいけないことが増えちゃったんですね。

**ヤマノリ** そうッスね。だから、ここに来て、何か打たれ強くなりましたね（笑）。

——やっと（笑）。

**ヤマノリ** なんて言うか、マゾってやっぱり叩かれると気持ちいいわけでしょ？ でも、最初の頃って叩かれてもさ、痛いだけやん。それが段々、打たれ強くなると気持ち良くなってくるわけだ、経験すると。人間って、そういう対応能力が備わってるんだなぁっていうのをタコ焼き食いながら思ったんだよね（しみじみと）

——タコ焼き食いながら、マゾの気持ちを分析してたんですか（笑）。

**ヤマノリ** うん。この世界に入った頃は地上最強になりたいとか、強い男を倒したいとか、絶対ナメられてたまるかとか。そういう一心で闘ってきたわけだから。

——格闘家の原点ですよね。

**ヤマノリ** それがいつの間にか、さっきまでの俺は何か金の勘定ばっかりしてたなとかってね。だって、市民税なんて知らなかったもん（キッパリ）。「税金って何？」って。今まで明細が入ってても「これなんだろ？」と思って捨ててたから。

——会社に抜かれてるんじゃないかとは思わずに（笑）。

**ヤマノリ** もう、それが会社辞めたら、えらい金額でさ、毎月毎月税金で払ってるんだよな。びっくりしたよ！ じゃあ、病院行かなきゃ損だなと思って。あの税金、ちゃんと使って欲しいよねえ。

——フリーになっていろんなことが見えてきたわけですか（笑）。

**ヤマノリ** こう言うこと語るとさあ、「アイツは無知だな」って思われるんだろうね。

——いや、ボクらの望むヤマノリ像はそれですよ（笑）。今の話聞いてたらプロレスラー合格ですよ（笑）。だって、税金がどうの、保険がどうのとかって考えてるレスラーなんて嫌ですよ。

**ヤマノリ** それにさ、確定申告ってのもあるんだね。

——ワハハハー 抜群だなぁ（笑）。

**ヤマノリ** あれさぁ、税金返ってくるんだってね。ビックリしたよ。

——こっちがビックリしますよ（笑）。まあ、いろいろ知りましたね、世間の仕組みを。

**ヤマノリ** 俺さ、夜の生活だったら、エライいろんなテクニック知ってるんだけどさ（笑）。

——知ってることは、格闘技と酒と女だけだったと（笑）

**ヤマノリ** そうそう（笑）。でもホントに、それしか知らなかったからね。

——プロレスラー合格です—（笑）。だけど、人間として一回り幅が広がったじゃないですか？

**ヤマノリ** うん。だけど、最後はやっぱり、自分自身凄くなりたいしね。凄くなるためにどんな練習もするしね。

——ボクらが望んでるのはホントにその一点だけなんですよ。そこさえ、クリアしてくれればあとは何でもいいです。

**ヤマノリ** もうホント、這いつくばってもヘド吐きながらでも練習しなきゃダメなんだよね。その練習した分ってやっぱり結果に出るんだからね。

——ホント、藤原道場では鉄柱蹴ったりしてたわけですからね。

**ヤマノリ** ねえ。今回は血便、血尿が出なくなってたからね。

——それはダメですね。というか、自分であれ？って思わなかったんですか。

**ヤマノリ** そういうのも気付かなかった。そういえば、普通の色のションベンだもんね。ウンコも普通のウンコだもんね。ちょっとウサギみたいなウンコで。

——ポロポロしてて。それ多分、ストレス便ですよ（笑）。

**ヤマノリ** 最近は、ヨダレも出なかったしさ。

——ヨダレ？ その話は初耳ですけど。

**ヤマノリ** いや、サンドバッグとか打ち続けてキツくなると叫ぶでしょ。そうすると、ダーッと出てくる訳よ。それもなかったもんね。

——でも、それがわかった以上、次は当然血便血尿で行くわけですね。

**ヤマノリ** それしかないですから ね。とりあえずもう、原点に戻って勝つ以外ないですよね。いい試合とかクソ食らえですよ。

——それ！ それっスよ。

**ヤマノリ** 「勝つ」っていう言葉以外ないよ！（キッパリと）。

——その調子でやってください！（笑）。

**ヤマノリ** うん！ でも、言っとくけど、女だけはやってなかったからね（笑）。

——は？

**ヤマノリ** 女は一週間前から止めてたから。

——禁欲の話ですか（笑）。ボクサーとかはよく一ヶ月前とか言いますけど？

**ヤマノリ** 一ヶ月は無理でしょ（笑）。やっぱり我慢するのは良くないと思うんだよね。それもストレスだからさ。厳しい練習した時のご褒美だしさ。やっぱりね、アメと鞭は使いようだからさ。鞭ばっかり使ったらダメでしょう。とにかくやった時の脳内麻薬が快感な訳でしょう。気持ちいいでしょ？

——はい（笑）。

**ヤマノリ** でもね、これもイかなきゃいいんだよね。セックスはするけど、イッちゃダメなんだよ、男は。

——でも、それは逆にストレスになるんじゃないんですか？

**ヤマノリ** ならない、ならない。

——それってリングス時代からですか？

**ヤマノリ** うん。だから、小難しいことを言うと、昔の中国の武将は戦の前には絶対イかなかったわけ。自分はイカないで、女をイかしてその〝気〟をもらうわけですよ。

——そんな故事があったんですか（笑）。

**ヤマノリ** そう。それで男は闘争本能がグワーッてくるわけ。気を貰うわけ。逆に出したら女性が気をもってっちゃうわけ。だから、さげマンとか、あげチンとかいるわけ。

——へぇ～、じゃあ、出さないようにすれば、常に女性はあげマンになるわけですか。

**ヤマノリ** そう。あとね、セルフコントロール出来ない場合はGスポットを押さえるとイかないのよ。空打ちになっちゃうの。

——Gスポット？ 男にGスポット？

**ヤマノリ** 男にもあるんだよ。Gスポットっていうか、タマとチンポの付け根のところ。そこをグッと押さえると空打ちになっちゃうの。

——ホント、勉強になります！（笑）。

はじめこそ狂牛病を恐れ、あまり箸も進まなかったヤマノリだが、途中からは、いつものヤマノリらしく豪快に食いまくっていたのは言うまでもない。

## あの恥を取り返すため『PRIDE』ルールへのリベンジしかない!

**ヤマノリ**　イクけど出ないよの。

――で、貯めた分を全てリング上で出すと(笑)。

**ヤマノリ**　そうそう(笑)。それがあって闘志にもなるんだよ。

――リングに上がった時は結構険しい、いい顔してるなって思ったんですけど。

**ヤマノリ**　それで終わったんだね。

――そこで使い果たしたと(笑)。

**ヤマノリ**　あとは「これで、あそこに支払い出来るな」って(笑)。

――なんかノッてきましたね、いいッスよ(笑)。ところでリングス時代に貰ってたギャラってどうしたんですか。

**ヤマノリ**　全部使っちゃったよ。飲んで食ってキレイに全部使ってたね(笑)。

――やんちゃ坊主のまんま生きてますよね。素敵です!(笑)。

**ヤマノリ**　計算してるんだったら、貯金ぐらいしてるよ。俺は計算無いからねぇ。

――そうでしょうね(笑)。でも、今日はホントに元気だっていうことがよくわかって安心しました。今後の予定とかはどうなってるんですか。

**ヤマノリ**　予定は未定ですね。でも、あの恥は取り返さないといけないんで『PRIDE』ルールへのリベンジでしょうね。それしかないです。あとはブラジル修行とかもいいかなって。その辺はいま真剣に考えてるとこですよ。

――じゃあ、最後に現時点ではどんな練習をしてますか。

**ヤマノリ**　現時点では、流行目が移るといけないから出稽古は行けないでしょ。だから、そこの土手を走ってる。

――そこの土手ってリングスの道場の前をですか(笑)。

**ヤマノリ**　そうそうそう。昔、あそこで散々、ダッシュしてたんだよ。和田さん(レフェリー)があの土手のコンクリートのところに「100m」とか「200m」とかペンキで書いてるのね。ホントはいけないんだよ、公共の場所だから。あっ! でも、俺、税金払ってるからいいか。

――いいでしょう(笑)。あ! さっき聞くの忘れたんですけど、リングスを辞めてから改めて前田さんの偉大さがわかったってのはありませんか?

**ヤマノリ**　う〜ん。

――「言いたくない」って顔してますね(笑)。前田さんは、ファイターをやりながら、プロモーターからブッカーから全部やってたわけですよね?

**ヤマノリ**　うん(苦笑)。

――そんな前田さんに対して何か一言ありますか?

**ヤマノリ**　………(笑)。

――今は語らず(笑)。リング上で結果を出してからですかね。

**ヤマノリ**　それしかないッスもん。

――『キャプチュード』については許可とかは取りました?

**ヤマノリ**　『キャプチュード』? 俺が使ったのは『キャプチャード』ですよ。

――えっ!? 汚い男だなぁ。何かフリーになってから汚れてません? (笑)。

**ヤマノリ**　汚れてないって(笑)。心はね、純粋なんですよ、ホント。

――それはそう思いますよ。気持ちとして使いたかったっていうのは。

**ヤマノリ**　変な意味ないですよ、全然。……まあ早く練習したいですよね。何も考えずに真っ白な状態でリングに上がりたい。それに早く相手をぶちのめしたいね!

【10月12日/前田道場近くの「焼肉村・駒岡店」にて収録】

現・キング・オブ・パンクラシスト　「紙プロ」初登場

# セーム・シュルト

Semmy Schilt

## パンクラスには感謝している
## 次はPRIDEとUFCの王者になりたい

リングス王者に続いて、遂に現役パンクラス王者も『PRIDE』に登場！　そのどさくさに紛れて（?）本誌も『PRIDE.16』の翌日、宿泊先のホテルでシュルトをキャッチ！　船木誠勝以来の現役キング・オブ・パンクラシストの『紙プロ』登場だ！

聞き手＆撮影／堀江ガンツ

designed by matsu (Two three)

――シュルト選手と本日、初めて会ってですね、非常に優しそう見えるんですけども。「身体は大きいけど、格闘技をやるような人には見えない」ってよく言われませんか？
**シュルト**　確かに普段のボクは格闘家に見えないかもしれないけど、リング上では荒々しいファイターだよ（微笑）。
**デーブ・ヨンケルス（シュルトのジムの会長）**　あと、ベッドの上でもな（笑）。
――ダハハハハ！　シュルトさん、そうなんですか？（笑）。
**シュルト**　会長はいっつもこうなんだよ（笑）。
――こういう方なんですね（笑）。では、シュルト選手は本誌初登場なんで、基本的なことから聞いていこうと思うんですけど、元々、最初にはじめた格闘技は空手なんですか？
**シュルト**　そうだね。9歳のときにヨーロピアンスタイルの空手をやったのが最初だよ。それから大道塾に移って日本のスタイルの空手を学んだんだ。
――空手家だったシュルト選手が、総合格闘技を始めようと思ったキッカケっていうのは何だったんですか？
**シュルト**　大道塾のヤマダさんという方にパンクラスを紹介して頂いて、周りにも薦められたんでパンクラスに上がれることになったんだ。
――やはりもともと総合格闘技には興味があったんですか？
**シュルト**　いや、オランダでもフリーファイトの試合は少しあったけど、あまり興味はなかったね。でも、パンクラスは本当の意味で最初にミックスド・マーシャルアーツをやった非常に前衛的な団体だから、それで興味がわいたんだよ。
――ああ、なるほど。ではシュルト選手にとって、パンクラスのキャリアっていうのは、やはり大きいと思うんですけれども。いま、一番パンクラスでの経験で役立っていることって何でしょう。
**シュルト**　グラウンド・テクニックだね。
――寝技は主に誰と練習していたんですか？
**デーブ会長**　もちろんガールフレンドだよ！
――ガハハハハ！　あなたには聞いてませんて！（笑）。
**デーブ会長**　そっち方面でシュルトは人一倍練習熱心だよ（笑）。
――わかったから（笑）。
**シュルト**　でも、正直な話、パンクラスの初期はグラウンドでのパンチが禁止されていたレスリング主体のルールだったんで、戦績はあまりよくなかったけど、すごく勉強になったね。あの時代があったからこそ、いまのボクのスタイルがあると思う。パンクラスには感謝してるよ。
――パンクラスで一番思い出に残ってる試合は何ですか？
**シュルト**　それはやっぱりフナキ戦だね。ボクがパンクラスで闘い始めたときのトップがフナキだったし、彼を目標に闘ってきたわけだから。彼と闘えたことは光栄だったし、非常にテクニカルで試合内容もよかったと思う。
――では、一番強かったのも船木選手ですか？
**シュルト**　一番強いと感じたのはフナキではないね。一番はミノワだよ。
――美濃輪選手ですか！
**シュルト**　うん。例えばレスリングだけだったらタカハシが上かもしれないし、総合的な面ではフナキが上だと思うけど、ミノワは心がとても強いからね。格闘家にとって一番大事な心が強いから、ボクはミノワが一番だと思うんだ。
――確かにそうですね。シュルト選手と闘ったころは美濃輪選手はまだまだ無名でしたけど、いまや完全に主役なんですよ。
**シュルト**　ミノワだったら当然だよ。ボク

## パンクラス時代、一番の思い出は船木戦　一番強かったのは美濃輪だね

**［パンクラスでの戦績］**

| 日付 | 会場 | 対戦相手 | 時間 | 決まり手 | 結果 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2000.09.24 | 横浜文化体育館 | 渋谷修身 | 8'55" | TKO | ○ |
| 04.30 | 横浜文化体育館 | 髙橋義生 | 7'30" | TKO | ○ |
| 1999.11.28 | なみはやドーム | 近藤有己 | 2'28" | スリーパー | ○ |
| 09.18 | 東京ベイNKホール | 美濃輪育久 | 15'00" | 判定 | ○ |
| 09.04 | 仙台市泉総合体育館 | 稲垣克臣 | 8'23" | KO | ○ |
| 07.06 | 後楽園ホール | 渋谷修身 | 12'06" | スリーパー | ○ |
| 04.18 | 横浜文化体育館 | 近藤有己 | 20'00" | 判定 | ● |
| 03.09 | 後楽園ホール | 伊藤崇文 | 1'45" | 肩固め | ○ |
| 1998.09.01 | 日本武道館 | 船木誠勝 | 7'13" | KO | ○ |

**［パンクラス以外での戦績］**

| 日付 | 大会 | 対戦相手 | 時間 | 決まり手 | 結果 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2001.06.29 | UFC32 | ジョッシュ・バーネット | 1R4'21" | 腕十字 | ● |
| 05.04 | UFC31 | ピート・ウィリアムス | 2R1'28" | TKO | ○ |
| 03.18 | TOO HOT TO HANDLE II | アレクセイ・ミヤドセドゼウ | 3R終了 | ドロー | |

# これからもパンクラスに上がるかどうか 現時点ではまだわからないね

と闘ったときから、きっと将来いい選手になると思っていたからね。

—シュルト選手と何度も闘っている近藤選手はどうですか?

**シュルト** コンドーもいい選手だけど、いまちょっと調子を落としてるよね。

**デーブ会長** おそらくオ●ニーのやりすぎだろうな(笑)。

—ダハハハハ! 何を言ってるんだこの人は(笑)。

**シュルト** 会長が言ったことを、ボクの発言にするのだけはやめてくれよ(笑)。

—それは大丈夫です(笑)。それにしても面白い人ですね。今度は会長にもインタビューさせてください(笑)。

**デーブ会長** OK。今日は昼間のインタビューだけど、私のときは〝大人の時間〟にインタビューしてくれ(笑)。

—ガハハ、わかりました(笑)。あと、これは日本でよく聞かれると思うんですけれども、今回『PRIDE』に出場するにあたって、『パンクラスの代表』という意識はあったんですか?

**シュルト** 特別にパンクラスのことは意識してないよ。確かにボクはパンクラスのチャンピオンだけど、パンクラスだからチャンピオンになりたかったわけじゃなくて、空手でも何でもチャンピオンになるのが大好きなだけだからね(笑)。

—そうなると、もちろん次の目標は『PRIDE』のチャンピオンになることですか?

**シュルト** そうだね。『PRIDE』とUFC、両方のチャンピオンになりたいよ。

—おお〜! ということは、これからは、UFCと『PRIDE』の2つ戦場で闘っていくと考えていいわけですか?

**シュルト** うん、そのつもりだよ。

—では、パンクラスに上がる機会ってってのはなかなか難しくなりそうですか?

**シュルト** 現時点ではわからないね。そうなるかもわからないし……ハまぁわからないね。

—では、今回はじめて『PRIDE』のリングに上がってみて、どんな感想をもちましたか?

**シュルト** とても大きい舞台だから凄くいいね。ものい声援ももらったし、気にいったよ。ボクに合ってると思う。

—やはり同じバーリ・トゥードでも、オクタゴンに入るUFCと『PRIDE』では気持ちが違いますか?

**シュルト** ボクにとっては基本的に同じだけど、日本の方が心地いいね。というのも、アメリカじゃ、ちょっと野次なんかがひどいからね。その点、日本の観客ってのは、マナーが良くて好きだよ。まぁ、アメリカのインタビューで同じことを聞かれたら、「アメリカのUFCの方がエキサイティングで好きだよ!」って答えるかもしれないけど(笑)。

—ガハハハ! この商売上手!(笑)。

**シュルト** ハハハハ。でも、日本のファンが好きなのは本心だよ(ニッコリ)。

**デーブ会長** もちろん日本の女性ファンも大好きです(笑)。

—アナタまだいたんですか!(笑)。気を取り直して最後の質問いきます。いま、vsK—1という試合が日本では行われてますけど、シュルト選手は興味ありますか?

**シュルト** ボクはレスリングも好きだから、『PRIDE』のルールならいいよ。でも、いまはそれより、『PRIDE』とUFCのチャンピオンを狙いたいね。

—わかりました。これからの活躍期待してます!

【01年9月24日/大阪市内某ホテルにて収録】

セーム・シュルト Sammy Schit 1973年10月27日、オランダ・ロッテルダム出身。空手道大道塾の「北斗旗」無差別級を96年、97年連覇。現在も無差別級キング・オブ・パンクラシストであり、UFCなどでも活躍。212cm、112kg。馬場さんよりでかい。

**●編集部よりお知らせ●**

本誌前号で募集、今号で掲載 を予定していた「9・30パンクラス横浜大会観戦記」ですが、賞金制度を廃止したとたん、なんとわずか2通(!)しか応募がなかったため、企画自体がボツってしまいました。応募していただいた、江東区・大枝章吾さん、新宿区・田中正志さんにつきましては、これに懲りることなく、次の機会での投稿もお待ちしております。

## パンクラス王者・シュルト『PRIDE』圧勝デビュー!

○セーム・シュルト(1R8分19秒 TKO)小路 晃●

見てみ、この身長差! シュルト212cm、小路172cm。その差はなんと40cm! まさに『PRIDE』アブソリュート級! ムチャだよ〜!(ターザン風)

小路が胴タックルに行っても、シュルトはなんの苦労もなくフロントネックロックの体勢に! いったいどう攻略したらいいんだ!

その強さをまざまざと見せつけ、満点の『PRIDE』デビューを果たしたシュルト。次回『PRIDE.17』東京ドームでの相手は同じ空手出身の佐竹だ

向かい合うとより一層わかりやすい両者の体格差 身長だけでなく、もちろんリーチも長いので、距離を取るのが難しい。

紙のプロレスRADICAL

2001 No.43 CONTENTS

## No.43 Main-Event



## No.43 Semi-Final



## Radical Fight



## Columns



## Another



## RADICAL特製ピンナップ



今月の片山ぽんを探せ！ 全部探した当てた人には"ぽん"の名が襲名できます。


Cover Model
桜庭和志

Art Director
出田さん●San Idata

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツくん●Kun Matsu
村松さん●San Muramatsu
グッチー●Gutty

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

ZERO graphics
海老沢勇●Isao Ebisawa
古賀ゆきえ●Yukie Koga


※RADICALの意味は「根本的」「根源的」？ そんなこと知っていたって本ができねえぜェ！

## 波紋を広げるアントニオ猪木
## 恒例の成田会見ノーカット再録

怒り

「これでテレ朝が

# 『猪木の野郎ッ!! 殺してやるッ!!』

って出てきたら面白い!!」

K-1登場から2日後、アントン総帥が藤波社長を"バカ社長"呼ばわりし、テレ朝の番組作りを"ド素人"呼ばわり!!

10・10

# アントン総帥 怒りの成田会見 ノーカット再録

10・8福岡マリンメッセで行われたK－1のリング上。石井館長に呼び込まれたアントン総帥は、「今日は東京ドームで新日本がやってるんですねぇ。……新日本の皆さん、元気ですかーッ！」と、またもやマット界を股にかけた挑発＆嫌みを満面の笑顔でブッ放した。

その2日後の10月10日、ロスに帰る際、恒例の成田会見をしたアントン総帥は、6万1500人（主催者発表）を動員した新日本ドーム大会に噛みついたのを皮切りに、多方面に怒りの問題提起三昧を開始した！

大晦日に「猪木軍vsK－1」という〝非常識〟を実現させるアントン総帥の舌鋒は鋭く、まさに〝過激な闘口（とうこう）〟となった。あ、これは闘魂とかけてみたというかね。ダーッハッハッハ。

アントン総帥の落とす爆弾三昧は、さまざまな形で、マット界に大きな影響を及ぼしている。

さすがに他誌は自粛する中で、本誌はノーカットで行きますかーッ!!

**記者陣** それではお願いします。

**猪木** ……何も言うことはありません！

**記者陣** （笑）。

**猪木** 帰るときにノーコメントってことで。何も言わず、何も聞かず、何も考えず。

**記者陣** 新日本が満員になって成功……。

**猪木** （遮って）なってねぇじゃんよ！よく言うよ（笑）。昨日、怒鳴りつけてやったよ、「いい加減なこと言うんじゃねえよ！」って。やっぱりねえ、俺たちは落ちぶれてもな、プライドだけは捨てなかったからね。そういうような発表は、いまだかつてしたことねぇから。多少は（多く）数えることはあるけど。やっぱり、誇りを失ったら終わりだよ。違いますか!? 逆に俺が聞くよ！ 俺、見てねえんだから。一杯だったら一杯だったって言ってくださいよ。俺はただ、聞いた話だから。

**記者陣** まあ、それなりに……。一杯でした？

**猪木** （遮って）それなりで6万5千人なんですか!? あそこ入るんですか？（笑）。いいんだよ、厳しいなら厳しいでね。興行で、俺たちも300人しか入んない時代があったから。だからこそ「コンチクショー、見てろッ！」と。だからそういう発表することの何というかプライドというかな。やっぱり、俺たちは意地でも一杯にしようっていうプライドの方が大事だというか。かつての全日本になっちゃうよ。立ち上げからこんなこと言わせないでよ。ンムフフ。こんなのどうでもいい話だよ。

**記者陣** ドームの方に小川さんが乱入しましたけど？

**猪木** 小川の価値が多少わかったらしいよ。小川も自己主張してくれればいい。自分の価値観を自分で。待ってたってチャンスはやってこねえんだから。まあ、とくかく細けぇことにゾロゾロと……。みんな、とにかくホント頼むから、ファンの夢のために考えてよっていうね。「お客さんは神様です」っていう言葉は、あんまりちょっと使いたくないけど、やっぱり夢を売る商売である以上、それを最優先にしないと。

**記者陣** 新日本の幹部が猪木さんに……。

**猪木** （遮って）いいんだよ、別に来なくても。俺らがそういう姿勢を見せていけば、相手は変わっていくし、適当に。価値観も変わっていくだろうし。

**記者陣** 小川選手が1月のドーム参戦っていうことなんですけど。

**猪木** それだって断ったっていいじゃん！ 〝ギャラ倍にしたら上がるよ〟って で、いいじゃん（笑）。

**記者陣** 小川さんについては？

**猪木** まあ一つは原点に帰るというか。確かに1～2ヶ月あいだを開けるっていう（のはわからなくはないにしても）。

10・8アントン総帥がK-1に乗り込んでゴキゲンな挨拶をブチかました同日、東京ドームでは、ノアの秋山が新日マットに上がるという純プロレス内のビッグ・サプライズが起こった。マット界にとって、アントンは「表」なのか「裏」なのか……

別に何も悪くなけりゃ開ける必要もないわけだから。レスラー本来の姿がどうあるべきかっていうみたいなものは、伝統的に来てるというか。そういうリング上であるとかは、連戦で闘っていなければならない。だから「プロ」っていうのがどうあるべきかっていうのは、最低限、過酷な闘いであること的なイメージを示唆して行く姿。その度にプロレスは「受け身が大事であるよ」と。そのようなことも言っていたりね。まあ本人次第ですけどね。やっぱり、その時々の話題を自分で独占していくような闘い方っていうのかな。ホントに最大の話題を独占し、そして1月4日に話題を持ち込んでいったら大変なことになるだろうなと。俺だったらやるだろうし。

**記者陣**　（猪木自身は10・8に）K―1に行かれたわけですけど？

**猪木**　K―1の方もこないだベルナルドが意外な番狂わせというか。そんな感じでなってしまったんで。まあ、10月なんで（『イノキ・ボンバイエ』まで）3ヶ月あれば。次にどっかの試合で復活してくれればイメージも変わるだろうし。こないだ、何でしたっけ、あいつ？　最後に勝ち残ってきたヤツ（マーク・ハント）のケースもあるしね。ホントは判定で負けてるのに相手が出てこれなくて最後に勝って優勝してしまうという。まあ、そういうハプニングというか。ああいった選手がK―1に出てたんで面白いなぁと。

**記者陣**　K―1を御覧になっていかがでしょうか？

## テレ朝から何の反応も起きてこないっていうのは寂しい限りだよね

**猪木**　う〜んと、やっぱり危ないっていうか。こないだ見てて、まあ、かつてのパンチは、キック（・ボクシング）だからというようなパンチの甘さがあったけど、結構みんなシビアになってきてるね。正確さが増してるというか。こないだの藤田じゃないけど、結局かいくぐるところが非常に勝負になるんだろうなっていう。小川の場合は突っ込んでいくタイプじゃないんで。どうやって相手に突っ込んでいくのかなって。それぞれ藤田の場合は、テーマは、パンチと同時に、それ以上の速さで突っ込みかけないといけないだろうし。まあ、安田に関してはテーマはいっぱいあるなぁ、まだなぁ。でもキャラクターがあるんで、面白くなるなっていう。

**記者陣**　12月31日の大晦日の興行に関しては？

**猪木**　まあ一応、小川のことは云々言われてるけども、とりあえず。今回の興行は『PRIDE』も絡みますんでね、12月31日は。そういう意味で、11月3日にまだ（出るチャンスはある）。ほとんど選手は決まってるみたいですけど。次回の興行も入ってますしね。（小川に関しては）なかなか人間って、会って話さないといけないこともあったりするから。とにかく時間がないんでしょうし、今回は大変だし。

**記者陣**　小川さんに関しては、石井館長が「大晦日に来なかったら逃げたと取る」と言ってるんですが？

**猪木**　本人はやる気になってますから！　要するに、大きな試合（12・31と1・4）が2つ重なるっていう部分でね。いま結論出さなくていいよ、まだキッチリ時間があるし。まあ、結構調整はギリギリまでかかると思います、今回は。それは覚悟してください。

**記者陣**　全面対抗戦は10vs10でやるという話も出ているんですが？

**猪木**　まだハッキリしてませんけどね。10vs10っていうのもあったけど、5vs5でも構いませんし。あとは他の格闘技、異種格闘技っていうのも組みたいと思いますんで。できれば、もう一つイメージを、わかりやすくできれば。「K―1vs猪木軍」っていうのになってますけど、格闘技の祭典っていう形に持っていければ。時間は十分あると思うんでね。

**記者陣**　何かプランはあるんですか？

**猪木**　あります。いっぱいあります。ンムフフフ。

**記者陣**　（「猪木軍vsK―1」には）新日本の選手の中から出場されるんですか？

**猪木**　新日本の中で調整しなきゃならないし。立ち上がって俺の発想や考え方を理解してる人と、いまだバックしてる人と2通りあるんでね。新日本の中を揉むつもりはないんでね、いま。やっぱり何だろうな？　新日本に外部の、少しでも情報を与えることも含めてね。こうやって俺が自由な立場で見てると、ハッキリ言えば、『PRIDE』やK―1の演出にしても、いろいろ面白いキャラクターがいる。みんなそういう風に絡んでいるんで。なんべんも言うように新日本が脱皮しないといけない、いろんな部分でね。そういうモノを売れる人たちっていうか、アイディアを出してくれる人たちを抱える必要性があるんじゃないかって。そういう意味ではわかってる人とわかってない人がまだせめぎ合いをやっているっていう。（しばらく沈黙の後、徐々に激高するアントン）そう思いませんか、（ドームの）入りにしても!?　こんな（観客数の）発表したことありますか、いままで！　俺たちはどんなに落ちぶれたって、自分たちのプライドだけは持ち続けてきたし。それはある程度の水増しはしても、皆さんにそりゃあ業界として、ねえ？　お互いがイ

9月21日、マット界史上最大の軍団抗争「猪木軍vsK-1」が12・31さいたまスーパーアリーナで行われることが発表された。この大会は、TBSが紅白にぶつけて放送する。DSEの森下社長も全面協力を約束し、いまマット界を席巻する3人のプロデューサーが手を組んでのスーパーマッチが行われる。リングの上では潰し合いになるが、「共創」という理念のもとに、新しい扉をアントン総帥と館長は開けようとしている。

## 10・10 アントン総帥 怒りの成田会見 ノーカット再録

メージの部分であれしなきゃいけない。もうインターネットで載っかってるでしょ!? こんな声が出てない?

**記者陣**　今回はそれ以前の問題っていうのはありましたけど（笑）。

**猪木**　俺はだから！ 成功したかしないかっていう次元の問題はわからないけどね。まあ、強いて言えばバラエティーに富んでいたというか、いろんなキャラクターもあったし、それはそれでプロレスだから面白いなっていう部分。あえて言えば、健介がどこまでやれるかなって。結果は負けたけど、よくやったんじゃないのかなっていう部分がね。俺らの言わんとしてる闘いの精神っていうか、それを彼も（わかってきたんじゃないか）。あとはなんべんも言うように、どうにもならないテレビの作りというか。もう、変えようがないんじゃないの!? ねえ!? まあ、俺が筆頭株主だから来年はちょっと考えてよって。あんまり馬鹿なことやってるとってね。もう選手や新日本の問題じゃなくて！

**記者陣**　それは人事の……。

**猪木**（遮って）人事じゃなくて、契約の問題だよね。だって伸びねえだろう、新日本がこれから!! 何の反省もありっこないし。そうじゃないですかねえ？ 今回、だから、TBSのこういった企画（「猪木軍vsK―1」を大晦日に放映）を取ったり、フジテレビの中で大変な人事の問題まで発展しそうなものがあったり、怒りというかな？ だから怒りというもの……いま世の中が怒りを失ってしまったというか！ ある意味では悔しさであったり反省であったり、みんなそれぞれの業界で、そういうものがエネルギーになってると思うんだけど。今回も、たとえばこういう結果を当てつけで言ってるんじゃなくて、こういう流れの中でテレ朝から何の反応も起きてこないっていうのは寂しい限りだよね。まあ、いまに始まったことじゃないから。いままでは俺たちがテレビにお願いしてたかもしれないけど、結局、俺らの時代は逆だからね。頼まれて、社長でも何でも出てきて俺らに挨拶に来てた時代だから。いまは逆になってここ何年か続いていたけど。ホントにそういう意志の疎通っていうか、お互いの目指す夢が合わないんだったらば、まぁそれこそ違うことを考えるぐらいの腹を決めないといけない。ヒドすぎるじゃん、作りが！ もう!! 違います!? 笑ってないで言ってみてよ！ 俺だけがつまんないと思って、みんな楽しいって？ 俺が間違ってるかもしんないの!? せっかく選手がいい試合を（やっているのに）。俺たちだって新日本の文句は言うかもしれないけど、新日本はそれなりに頑張って、K―1とぶつかったりしながら頑張るわけだから！ もうちょっと知恵を絞ってもらいたいよな。まあ、イベントとは何であるかっていうと、フタ空け（放映開始直後）が一番大事であって、期待感がどこまで膨らむかによって視聴率だって変わってくるわけだから。そこからスタートすれば一番ピークのとこに倍に視聴率が膨らんでくるわけだから。今日もあるファッションメーカーに行って、社長が出てきて新しい企画がどうのこうのっていろいろ話があってズバズバ言わせてもらったんですけどね。テレ朝の作り方なんていうのは、俺らの方がはるかに番組サイドよりもプロだったっていうことで。番組をどう作るかっていうことを、もうちょっと勉強すべきだろうし。あまりにもド素人過ぎるよ。これだけ言って怒ってきたら面白いけどな。これだけ言われても怒ってこないだろうな、多分。ダーッハッハッハッハ！「猪木の野郎、殺してやる！」っていうぐらい出てきたら面白い！ スタッフに言ったら「そうなんですよねえ、わたしたちは力が弱いから」って言うから、「番宣一つ打たねえ馬鹿いねえだろう」って！ ズバリ書いて結構ですからッ！ 死んじまえって！ もう!!

**記者陣**（苦笑）。

**猪木**　ホントッ！ だって俺しか言え

ねえじゃん!! なあ? 新日本のバカ社長も言えねえだろうし。ホント怒ってんだよ、俺は! K―1なんかに負けてもらいたくないっていう。0.何パーセント勝ったっていうのが勝利宣言みたいなこと言ってるけど冗談じゃないよって。

**記者陣** (長い沈黙)。

**猪木** ザマァミロ! 質問なくなるよ。ダーハッハッハ!

**記者陣** 例えば新日本の中に映像部を作ってやったほうがいいってことですか?

**猪木** そうかもしんないねえ。そこまでいかないと。誰々が悪いなんて言うと個人的な批判になるんで。要するにプロフェッショナルでありたいっていいう、もっともっとそういう意識をね。レスラーもそうだけど、プロレスラーっていう中で、名前はプロレスラーかもしれないけど、そのポイントを掴んでるレスラーが何人いるの?って。看板背負えるレスラーが何人いるの?っていうのが大事な部分であってね。だからフジテレビのK―1作ってるスタッフたちとは、ある意味では情熱が違うわなぁ。これは賛否はさて置いてもね。それは石井館長のプロモーターとしての手腕というか気配りというか。そういうものを含めてね、さすがこれだけの地盤を維持してきたものが、スタッフをまとめたり、一つの方向へ持っていくというか。こないだもいろいろ勉強になりますよ。だからかつてそういうものが新日本にも、俺たちがいた時代にはあったしね! みんなも一つの試合が終わるたんびに反省会じゃないけど、メシを喰いながら打ち上げがあったよ。こないだ(K―1で)も打ち上げでね、一つの達成感というか、みんなが良かったなっていう感じで。たまたま試合が良かったからね、ホントに。「猪木さんが来てくれて気合いが入りました」なんて言われたけど。事実、逆にホントに、いろんなものを見せてもらいました。

**記者陣** 会長の主旨っていうのはK―1に負けるなっていう危惧感……。

**猪木** (遮って) だから、それはね、俺がどうしたって新日本の創始者であり、筆頭株主であるし、それは心配しないっていうのはおかしな話でしょ。だから逆に、自分がフリーな立場になって"旅"をしてるから見え過ぎちゃうというかな。それがかえって彼らを……うん。批判してるんじゃなくて、気づいてほしいっていうことがいつも送っているメッセージです。だって、どの試合が良い悪いはさて置いて、それぞれの役割があるから言わな

## ドームが一杯になったフリをするとか、そんなんじゃねえんだよッ!!

アントン総帥が「バカ社長」呼ばわりするドラゴン藤波社長は、10・8ドームでは、B・バックランドと組み、ファンクスと激突。時代を超越し続けるドラゴンは、現在、IWGPのタッグ王者でもある

いけど。俺が今回、出した本『俺の魂』じゃないけど、要するに力道山から引き継いだものは〝闘い〟なんだっていう。その闘い方をどう表現するかは、それぞれのプロレスがあるからね。でも客に媚びるような闘い方を俺たちはしたことないっていう！　それだけはもう何べんも、彼らに話をしてあげたり。それを今度は組織として、新日本として、こういう方向で行くんだよっていうことが決まっていれば、それにそぐわない選手はやめていくしかないじゃん。ああだこうだ批判してるヒマねえよ!!　これはニューヨークのマクマホンに置き換えて考えれば、方針が変われば、こないだみたいにパフォーマンス・レスリングから、多少レスリング中心のものに方向転換してきたっていう。当然、選手の顔ぶれも変わってくるしねぇ。

**記者陣**　長州さんからも試合後、「新日本のリングはこんなもんだったのか」っていうことを言ってたんですけど。軸っていうのが狂ってきたんでしょうか？

**猪木**　それはね、俺にも責任あるし、長州にも責任あるし、みんなに責任があるんですけど。責任を回避するつもりはないんだけど、残念ながら俺は引退しちゃったし、みんな一応任せたから。まあ御意見番として見るしかないんだけど。結局、もうホントに置かれてる立場があまりにも大きくなってきたんですよ、新日本が！　大きくなってきた部分をどう捉えるかっていうことをしっかりわかってないと。ドームが一杯になったフリをするとか、そんなことじゃねえんだよ!!　大事なことはね。だから、それぞれK—1が頑張って、まぁK—1もハッキリ言えば、今日ある人から「K—1もちょっと死にかかっていたものが、猪木さんで生き返りましたね」って言うから、「そうですか？」って。それはねぇ、生き返ってくれればありがたいし。いまのところ、一番勢いに乗ってるのは『PRIDE』だと思うし。やっぱり波があるから、長い時間の間にはね。でもそこの波を……ハッキリ言えば、非常に危機的状況だっていうことを言ってる。何べんも言ってる。だからテレビ局に乗り込んでいって喧嘩するぐらいの器量がないと。いまテレビ局の悪口言ってるんじゃなくて、「やんないならやめるぞ！」というぐらいの情熱を燃やさないと。プロレスはこれからどうなっていくの？っていう、一番危惧される部分。俺は潰れてもらいたいなんて思ってませんから、これっぽっちも！　でもやっぱり弱体化っていうか、進んでいくものは季節の落ち葉じゃないけど、死んでいくのかもしれない。死なないために人間なんだから、俺たちが知恵を使おうよって。まあ、

藤波社長が呑気に「プロレス50周年記念マッチ」を行っている同日、K-1にはアントン総帥も惚れこんだ新キャラ、マーク・ハントが出現！　レイ・セフォー戦では、ノーガードで意地をぶつけ合う、これぞ「プロレス」という激戦を展開した。あべこべだ。写真下は、「猪木軍vsK-1」に絡んできたら面白いF・フィリョ

藤田がある意味では新日本をやめて、1〜2年？　何年になるの？　2年近くなるの？　早ぇなあ。だから結局やめてった人間だから、アイツは。でも彼が抱えて帰ってきたものはもの凄く大きいと思うよ。もしこれ、藤田がいなかったら、今回のドームはどういう雰囲気になってたんですか？って。小川がまぁ、急遽K—1からUターンして乗り込んでいったっていう。俺は知らないけど、多分小川の登場が一番客が熱狂してたんじゃないんですか？　そういうことがわからないやつがプロモートなんかやってりゃ、とんでもねぇよと！　やめろッ！（キッパリ）。いまの若いやつ（新日本のマッチメイク委員会？）がやってるけど、あの野郎らこそ、ロスに実費で来いって！　俺のとこに。来なきゃクビにするぞ、この野郎ッ！……そう言ってもらえるだけでも幸せだと思うよ、アイツらは。俺はどこだって、『PRIDE』の会長になったって、K—1の会長になったって構わねぇんだからよ、自分のことだけ考えれば。そうじゃなくて、格闘技全体として、それぞれ競り合いながらも、サッカーもあるし野球もあるだろうし、そういう中で格闘技として紙面割いてもらえるようなね。ゴールデンで番組を張ってもらえるようなものとして、プロレスが生き残っていかなきゃいけないと思うんで。こざかしい……俺を悪役にして

ね、テメェたちがベビーフェイスみてえなね、フザけたこと言ってんじゃねえよ、この野郎!!って。そういうことを本気で考えるファンもいるから。全部俺の味方になれとは言わないけども。言ってることは、俺なんか絶対間違ったこと言ってねえから! アイツら以上に、俺が怒るっていうことはそれだけ愛情があるから怒ってるだけで。だからまぁ、一つは12月31日を契機に、テレ朝の契約も見直ししないと。何か、妾みてえな、ただ小銭与えときゃいいって話じゃねえから!

**記者陣** TBSの番組は猪木さんが……。

**猪木** (遮って) まだ! まだまだ、皆さん、ある意味ではいろんなアイディアを持ち合ってる最中なんで。最終的にはやる以上はね、自分の看板使う以上は責任を感じるし、「お任せしました」っていうわけにはいかないんで。

**記者陣** 小川さんが『PRIDE』に出るっていうことはあるんでしょうか?

**猪木** 話は来てるんだけど、まだスッキリしねえんですよ! 一つは小川の決断っていうのは、ときに闘いの精神があるかっていう……うん。まあ自分で選択して"これはいい"とか、そういう時間的なものというか、時がそれを要求してるとすれば、そういうものに思い切って出て叩いていくっていう。

**記者陣** 猪木さんとしては小川さんを『PRIDE』に?

# 俺を悪役にしてね テメェたちがベビーフェイス面して、フザけたこと言ってんじゃねえよ! この野郎ッ!!

**猪木** そうだと思いますよ。ファンからしたって闘わないでね、タレント気分やってたってしょうがねえだろうって! レスラーっていうのは何であるかっていう。闘ってもらわないと!!

**記者陣** 新日本の小原選手が『PRIDE』に出るという話も出ていたんですが?

**猪木** そうですね。挨拶に来て「お願いします」って言うから、そういう風に。何とか、とにかく道場が使えるんでね。いろんな選手が来たいっていうのが来てますんで。少しそこで見てみないと。出たいっていう選手は何人かいますけどね。

**記者陣** 出させる方向では猪木さんはあると?

**猪木** いいんじゃないですかね。そういう気を持ってくれればね。あとはノゲイラの勝ち方っていうのかなぁ。コールマン的なものから、コールマンもちょっと全盛越えたかなっていう感じもしたんで。もう一つは試合前にいろいろ事件があってね。これは俺が言えないけど、身内の問題でいろいろあったというんで。まあ、それは理由になんないけど、終わってしまったんで。ただ、見ていて、ああいうパワー・ファイターを防ぐ側のノゲイラが相当研究したっていうね。ひと昔前のノゲイラだったらパワーでそのままコールマンが(行けてたかもしれない)。そのパワーを完璧に押さえ込まれてしまったっていうかね。出せない状況に。だからグラウンドに持ってって、上に乗っかりゃあ終わりなのが『PRIDE』なのに。そこに入ったら逆に罠にハマるような感じっていうか。そういう意味ではちょっとみんな、アイツらも猪木軍団に入っきたんで、そういう技の交流をしたいなっていうんでね。安田もそうだし、藤田も含めてみんな1回。別にそれは使う使わないは(本人次第だけど)。知っておくというかね。知っとけば、そういうことに対処ができるんでね。そういう意味では"旅"をすることが大事だし。特にいま、ブラジル勢力が何だかわかんないけど、格闘技でズッと、ヒクソンの時代が去ってみて、また新しい目が出てきたっていうね。まぁ、とにかく面白くするためには怒りますよ! 怒りまくるから、俺が!! なあ? (記者の) Hちゃんがそう言えって目で見てるから。ンムフフフ。また俺をダシにしてオマエ、俺は怒らないんだから。○スポが「俺が

まさに記者陣も引くほどの"燃える闘口"ぶりを発揮した成田でのアントン総帥。この爆弾に、新日本側はどう対応していくのか? そして、アントン総帥の真の狙いはなんなのか? 来週をお楽しみに! (?)

10・10
## アントン総帥 怒りの成田会見 ノーカット再録

怒ってる」って書くけど、俺は怒ってねえって（笑）。まあホント、チャンスだと思うよ。そう思いません？　こういう時代だからこそ。11月にパラオでセミナーやりますよ。俺が時間があるときじゃないとできないですから。またこういった話ができれば、マスコミも参加してくださいよ。（猪木事務所の）伊藤が全部経費は持つって言ってるから（笑）。ダーッハッハッハ！　伊藤は金持ちだから、大丈夫ッ！

**記者陣**　パラオにはどういった選手が行くのですか？

**猪木**　そりゃあ、カワイイ娘に決まってるじゃねえか（笑）。ンムフフフ。とりあえず、こないだも言ったけど観光親善大使になったんでさ。一応皆さんに、こういう時期でも一歩踏み出そうよっていう。それこそみんなが萎縮しちゃって。やっぱりそういう自粛することが政府の指令だから大事かもしれないけど。俺は常識破りっていうか、こういう時期だからこそね。それはそれで気をつけなきゃいけないことかもしれないけど。そんなね、事件に遭うほどみんな運が良くねえよ、と。事件に遭う人は運がいい人！

**記者陣**（沈黙）。

**猪木**　確率からすりゃあね。そういう意味では人生を面白いっていうことよりも、人生を楽しむ。やっぱり一瞬一瞬っていうのは大事だろうから。ただ、不愉快なのが厳重なチェックとかがあって、それはしょうがねえことだけどね。逆に言えばチャンスよ。えらいガラガラなんだからさ、どこ行ったたってさ。ホントにいつもチェックインだってゴッタ返してる。キューバの観光なんてホテル代とかタダなんですよ。半額とか。まあ国営だから。何でかっていうと日本人は金を確実に落とす。ヨーロッパの人たちは金を一銭も使わない。土産も買わないんですよ。そういうことを計算していくと、ホテル代を値引いたって全然それの方が得だっていう。イルカの牧場がオープンしますんでね、これは俺もちょっと名前だけ貸してます。こないだちょっと見てきましたけど、素晴らしいね、自然の中に世界一のイルカがいるっていうのは。イルカと一緒に泳いだりね。早く申し込んでください（笑）。

**記者陣**（笑）。

**猪木**　もういいですか？「俺は怒ってる！」って好きなように書いてください！　有象無象は言わないでください。いろんなとこから苦情が来るんで。言ってないって、俺は。ンムフフフ。とにかくイヤだよ、俺は。静かに暮らしたいんだよ。ンムフフフ。

【10月10日／成田空港にて収録】

10.7「無我」後楽園ホール

# 新日バカ一代 仲野信市引退

平成13年10月7日
ストロングスタイルを貫き

私のプロレス人生は
いまここで終わりましたが
新日本のプライドを胸に

これからは日本一のセールスドライバーを目指します！

## 10.7「無我」後楽園ホール　PUTI REVIW

復活「無我」のメインは西村修とドリーの「日米無我対決」。この一戦はかつてのドリーvsジャンボ鶴田のインター・ヘビー級選手権そのままのような試合展開。60分フルタイム行くのではないかというムードの中、20分すぎにドリーが絶妙の逆さ押さえ込みでピン。

「「稲妻伝説」発売中」という販促のぼりをなびかせながら登場した健悟と、B・ブレアー、S・カーンとの絡みは、金曜8時時代のセミ前あたりでよく見たような光景。次の試合にアレンやM・スーパースター辺りが出てきそうなムードだった。

棚橋を不思議なくらい説得力抜群のスモールパッケージホールドで押さえ込んだトニー・セントクレアー。セコンドに付いた"ホントはいい人集団"T2000の面々も実に嬉しそうだ。実はT2000の面々はヨーロッパ武者修行中に、トニーさんに世話になった人ばかり。トニーさんは蝶野が「オレらの師匠だ」という人なのだ。いまやなかなか見れなくなった、ヨーロッパスタイルのレスリングはゼヒとも絶やさないで欲しいと思う。

2年半ぶりに復活した「無我」は予想以上に素晴らしかった。

トニー・セントクレアーのセコンドについた蝶野や天山の笑顔、キムケンイズム全開の健悟の試合、試合前の入場式で散々しゃべった後「今日の挨拶は西村に任せます！」と言い放つ期待通りのドラゴン節など、書きたいことはたくさんあるが、ここでは「仲野信市引退試合」についてのみ書かせていただくことをご了承願いたい。それほど仲野の引退試合は素晴らしかった。感動した。

仲野信市、38歳。S53年に新日本プロレスでデビュー。新日時代は同期のライバル高田伸彦（当時）と、猪木が直々に蔵前の第1試合に指名するほど激しい試合を展開。その後、ジャパン、全日本、SWS、SPWFを渡り歩きながらも常にストロングスタイルを貫き、夢ファクでは昭和新日イズムを叩き込む鬼コーチになるという、まさに「新日バカ一代」と言うべきプロレス人生。

そんな男が最後の最後に、"闘いの学舎"新日本プロレスのリングに帰ってきた。

黒のリングシューズ、黒のリングタイツ。新日本プロレスの"正装"でリングに上がった仲野の身体は、見事に鍛え込まれ、とても引退していく選手のそれとは思えない。

対する最後の相手は無我の倉島信行。小柄ながらガッチリした身体に、黒のショートタイツと白のリングシューズ。そしてスキンヘッド。客席から見るその姿は、かつて新日本上野毛道場で仲野の後輩であった、小杉俊二そっくり。初めて見る選手だったが、どこにこんな選手が埋もれていたんだ。と思うほど良い選手だった。

引退していく大先輩と無名の若手選手の試合である。普通なら、先輩が得意技を次々と披露するという「儀式」になってもおかしくない。

しかし仲野はそれをよしとしなかった。5分間のエキジビションを拒否し、20分一本勝負に急遽変更。倉島もそんな仲野に対して容赦なくスープレックスで叩きつけ、関節を絞り上げる。

そこに見たものは、まさにかつての新日本プロレスの前座試合そのもの。腕一本、首ひとつ取るのにも緊張感が漂う、いまや失われつつある新日本プロレスの原風景だった。

それは仲野が23年間のプロレスラー生活の中でたどり着いた「理想のスタイル」が、かつて自らが若き日に経験した「新日本の前座試合」だったという証明なのだろう。

いま、新日本の創業者である猪木は、ことある毎に新日批判を繰り返しているが、この試合こそ、猪木に見てもらいたかった。もし見ていたら、あのアントンのこと、「仲野、明日のドームの第一試合、お前で行くぞ！」と、引退試合であることなどまったく気にもせずに言い放っていたに違いない。そんな妄想を抱かせるような試合だったのだ。

最後に印象深い仲野語録を書いておきたい。それは前号でインタビューした際に、かつての弟子、故・福田雅一選手について語ってくれたことである。

「あの事故があったあと、病室に入って福田の姿を見たとき、あいつに言ったんですよ。『福田ー　てめぇ、いつまで寝てるんだ！　練習するぞ！　スクワットするぞ！』って。そしたら、意識がないはずの福田の心拍数が上がったんです。あいつオレが来たってわかったみたいなんですよね」

『週プロ』の佐藤編集長から、福田選手と一緒に写ったパネルをもらったときに、気丈な仲野が涙を流したのには、福田選手に対するこんな思いがあったのだ。

（堀江ガンツ）

現在、大手運送会社S社に勤める仲野は、同僚の大声援を受けながら、大奮闘。その姿に、最初はS社の応援団だけだった「仲野コール」が最後は会場全体から巻き起こった。

## 10・9新宿ロフトプラスワン「ターザン祭り」でビッグサプライズ!

# ターザン絶叫！ "日曜はヤバイ"ですよオオオオ!!

同じく日曜はヤバイ辻とタッグチーム「サンデーサイレンス」を結成!

「日曜日がヤバイですよォォオオ!!」

ズバリ言って、その場に居合わせなかった読者の皆さんには何のことだかサッパリわからないターザンの絶叫ではあるが、とりあえずいつもようにターザンが大炎上したのはわかる10月9日新宿ロフトプラスワンで行われた「ターザン祭り」。

その内容は3部形式で行われ多数のターザン的豪華なゲストが集まる中、最後のトリを務めたのは何と"ヒャッホー"辻よしなりアナ！　そう、『紙プロ』での前編・後編に渡る衝撃のインタビューで評価がウナギ昇りのあの辻アナだ。

だが、評価が上がってるとはいっても、「新日の会場ではいつ後ろから刺されるか怖い」と言うだけに、自分の評価の上昇にいまだアンビリーバボーな辻アナ。本誌に寄せられるハガキでも絶賛のハガキが多数寄せられてはいるが、「辻、キライ!」「もう『紙プロ』に出すな!」といった相変わらずなアンチ辻派の声も届いており、みんながみんな「辻アナ、ヒャッホー!」と叫んでるわけではないのだ。

はたして辻アナは「ターザン祭り」に集まった観客に受け入れられるのか!?　ステージに登場した辻アナの表情も心なしか固く見える。しかも、ターザンは辻アナをイベントに呼んだはいいが何も辻アナに関しては知らないというのは確かめることもなくわかること。そんな状況で、辻アナの良さが引き出されるかどうか不安は募るばかりだったのだが……そこに救世主が登場した!

それはターザンのHP「マイナーパワー」でも、その活躍に「格好いい。豪ちゃん、大好き!」と、自分をVIP扱いをしないとキレるターザンからVIP級の賛辞が送られた本誌・スーパーバイザーの吉田豪である。

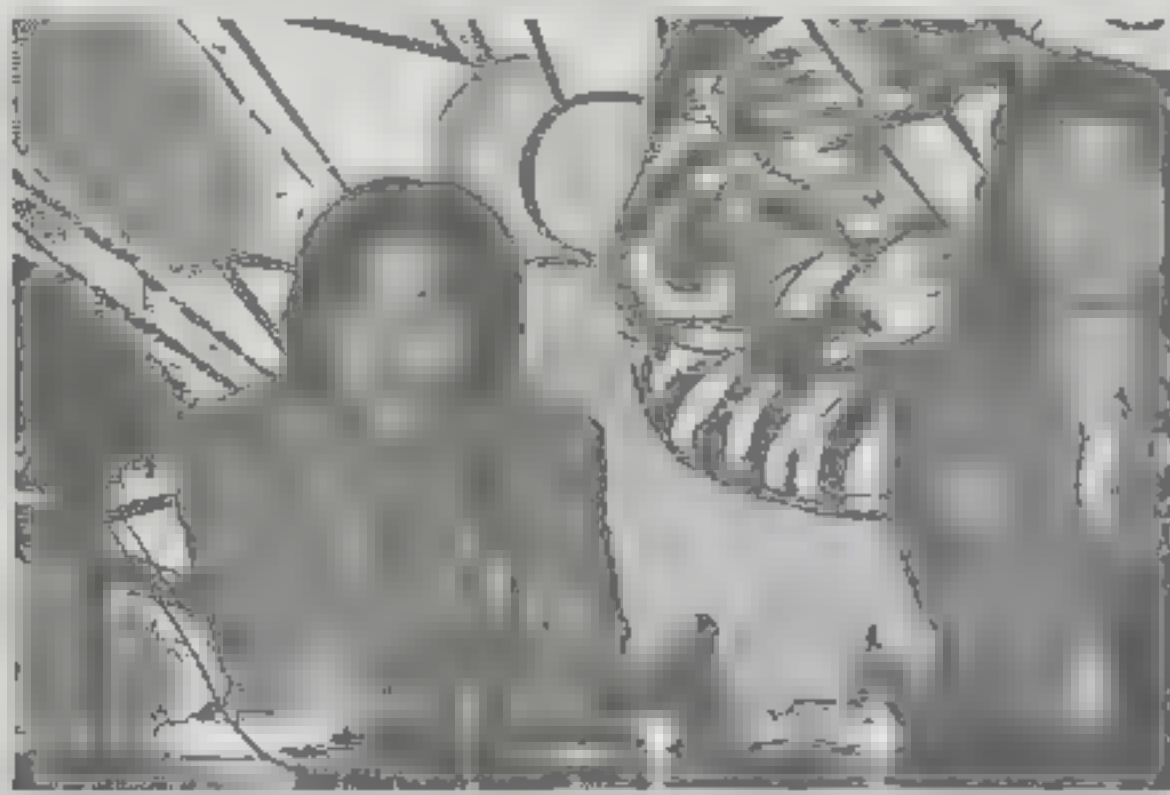
その吉田豪は第2部のゲストでもあったのだが、辻アナがゲストの第3部にも引き続き登場。辻アナとのやり取りで司会を務めたヤマモ、ターザン、2人の山本を黙らせっぱなしで会場を爆笑の渦に巻き込んだ!　とくかく辻アナと吉田豪のやり取りは最高だったのだ!

まずは吉田豪が開口1番「いま一番面白いのは辻アナ」と、キッパリ言い切り、続けて前号の「書評の星座」で書評した辻アナ単行本「プロレス裏実況」の内容を絶賛。

それで辻アナのエンジンがかからないわけないのだ。そして、『紙プロ』でのインタビュー同様衝撃の発言を連発し始めたのである。

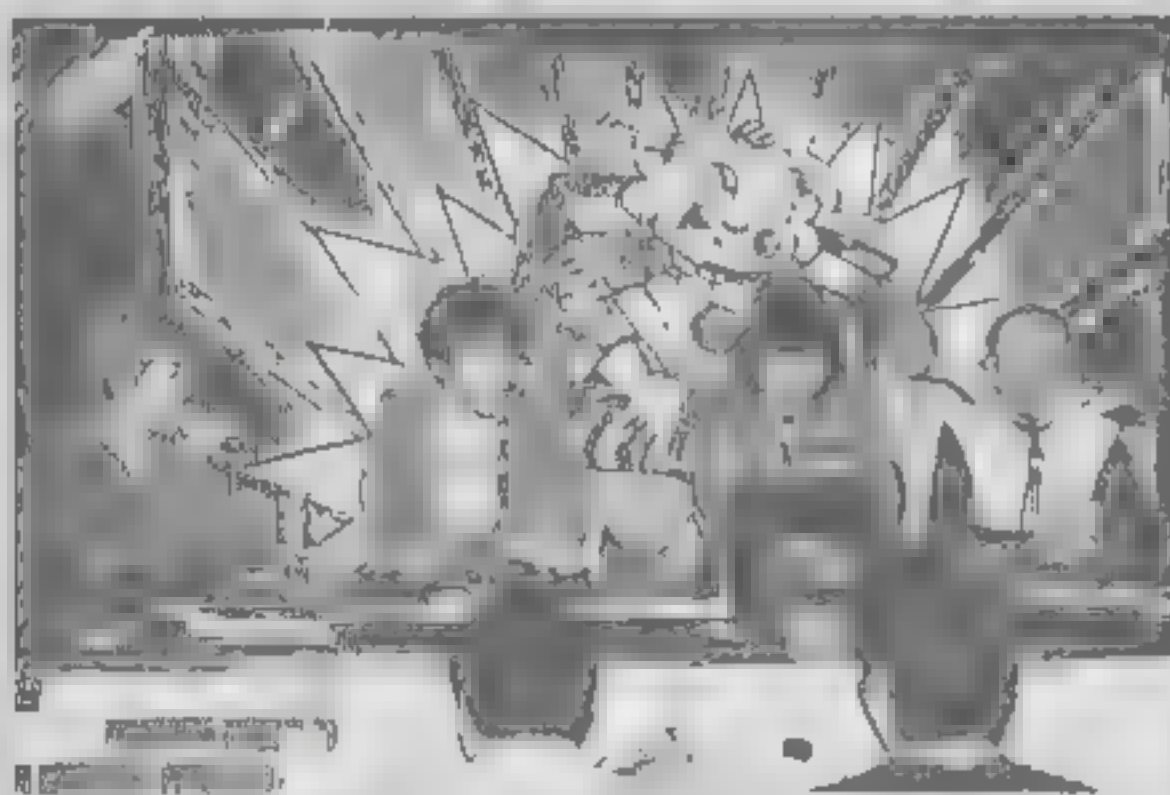
それはまさしくこんなイベントに出ていたら、15年持ってた『ワールドプロレスリング』実況アナがすぐさまクビになってしまうような一部誌面にできない内容。誌面でできる範囲内で紹介すると、札幌ドームでの永田vsコールマン、中西vsグッドリッジのなんちゃってバーリトゥードに「あれじゃ、マズイでしょ!?」と、すぐさまフロントに駆け込んだということにしても、そんなこととして「辻じゃ、マズイでしょ!」

今回の“ターザン祭り”
の主役は辻アナ。
ただし隠れたMVPは
豪ちゃんである。
格好いい。
豪ちゃん、大好き!

（ターザンＨＰ抜粋）

「みんな歳取る！　オレも君らも
あと5年が勝負ですよォォオ！」

ターザンなきあとの『週プロ』を引き継いだ浜部・前『週プロ』編集長が第１部ゲスト。浜部さんがターザンを語れば語るほどターザンはニヤニヤしたり、定まらない視線で宙を見たりと浜部さんになぜか夢心地。途中からジミー鈴木も乱入して佐藤『週プロ』編集長と“ＧＫ”金澤編集長の比較論などが展開されたが思いのほかテンションは上がらず。一番盛り上がったのは浜部、ジミーがターザンへのメッセージで最後の締めに入る中、ターザンが「みんな歳取る！　この真実だけは変わらないもんなあ（感心しながら）。君たちだってそうだよ！　歳取るんだよォ！」と唐突に何の脈絡もなく叫び炎上したところであった。

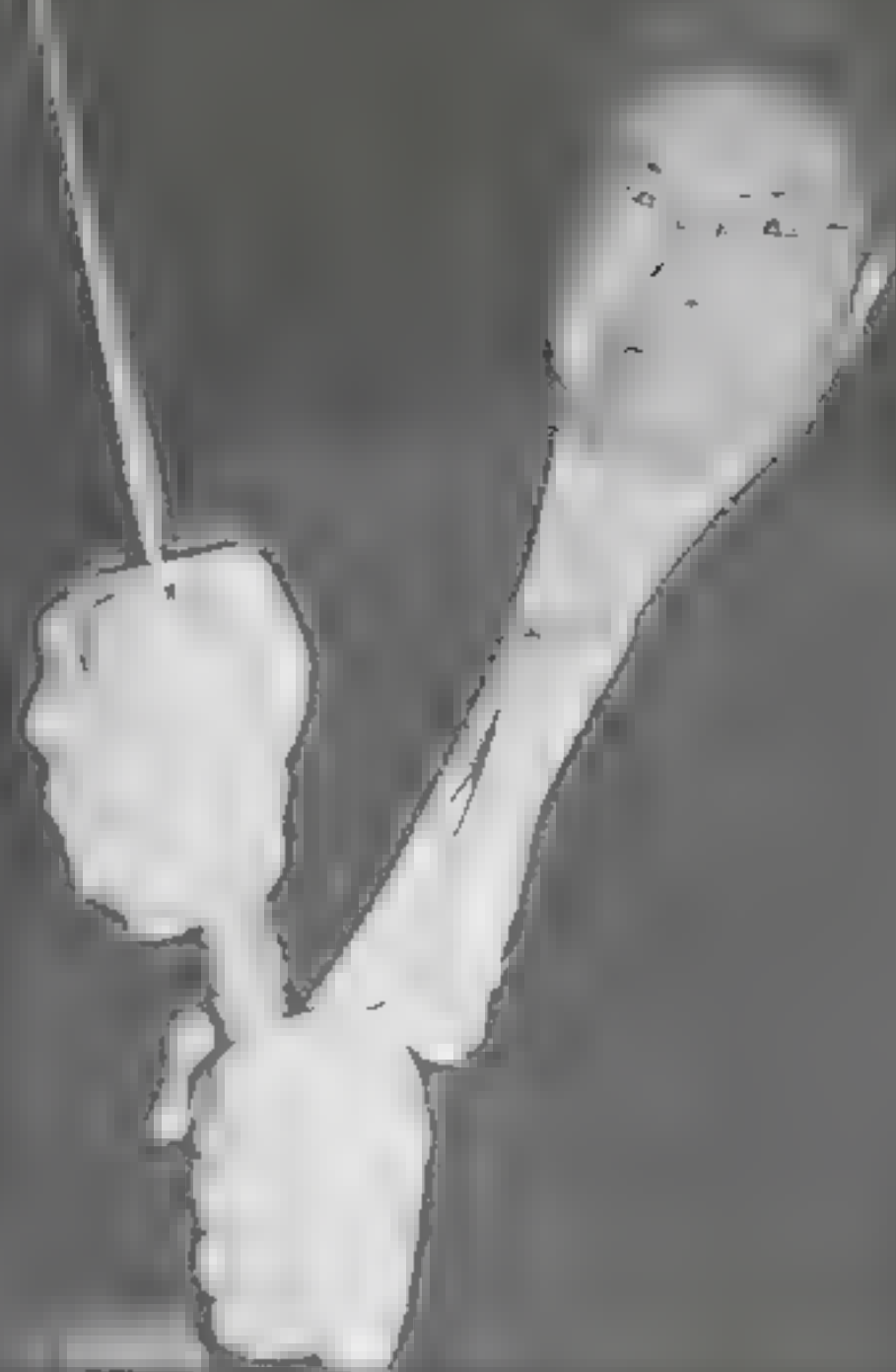
と、クビを切られるんじゃないかとホント心配なのだ。
　だが、そんなクビ云々でひるむ辻アナではない！
　自分が変わるために1歩踏み出したというだけに、新日も1歩踏み出し変われといわんばかりの勢いの辻アナは「スキンヘッドはトップに立てない」との自論を展開し「だから武藤はカツラを被るべき！」と力強く断言！　そりゃ変わり過ぎだって！
　その他にも辻アナの単行本でも書かれている長州の健介エコ贔屓話で長州と因縁があるターザンと一緒に炎上したり、同じく書かれた一番話題を呼んだ藤田とホテルの掃除のおばちゃんとの一件に話が流れると、話題は一気に夜の闘魂棒な話に突入！
　あのピョンヤンでの「平和の祭典」では選手団が宿泊したホテルの至るところの部屋から夜な夜な「狂声が聞こえた」という誰もが想像していたことを暴露！
　日本と北朝鮮を結ぶ祭典の中で、新○本と全○を結ぶ夜の祭典も行われていたわけである。
　そんな話を終始展開する辻アナと、それを引き出す吉田豪に「いいコンビだねえ」と大絶賛のターザン。しかし、やっぱり辻アナの最高のコンビといったらやっぱりマサ斉藤である。そして、辻アナの口から話し出されるマサさんとのエピソードはやっぱり素晴らしい！

## オレは日曜日はヤバイよ！　みんなも死にたくなるだろ!?

「あれが山口さんとオレの
一番美しい時代だったあ……」

第２部は本誌鬼畜編集長こと山口日昇と本誌スーパーバイザーの吉田豪が登場。話題は前日に行われた新日ドーム大会が中心にトークは展開され、山口日昇が新日本の現状を叩き斬ると「いやあ～山口さんは成長したなあ！　しばらく見ないうちにホント成長した！」と、なぜかしょっちゅう会ってる山口に感心し始め、自分が表紙になったRADICAL創刊号のことにも触れ「あれが山口さんとオレの一番美しい時代だったあ……」と、感慨に耽り出し、愛、片思い、三角関係ついての愛の迷走トークを始めるターザン。あげく「もう１回結婚したい！」と叫びだし、「オレは寂しい日曜がキライなんだよ……。日曜はヤバイ！」と暴走しながら第３部に突入したのである。

　当時、マサさんは「キ○ガイ」に始まり「カ○ワ」「ビ○コ」そして「○クラメッポウ」などと、狂ったように放送禁止用語を連発してたという。そんなマサさんに辻アナは「オーット！　この技は……」などと絶叫することで無理矢理カバーしていたのだ。それはワイルド・ペガサスを「クリス・ベノイ」と何度も言ったりライガーを「山田はいいですね」と、ためらいもなく言うことに対しても同様。やっぱり〝ヒャッホー〟はギミックだったのである。
　そして、マサさんとの逸話はそれだけでは終わらない。
　辻アナが「〝地獄の門番〟マサ斉藤さんです」と、紹介することに対し「ズッ～と、思ってたんだけど〝地獄の門番〟ってなに？　何なのッ!?」と、何と因縁を付けられていたことまで激白！　もちろん、テイク2のサインがディレクターから出たことはいうまでもあるまい。
　そんな衝撃の辻アナ・トークに場内の観客は大満足。まさしく吉田豪プロデュースによる「プレ・辻・ロック・フェスティバル」で終わってしまいかけの「ターザン祭り」だったが、最後に辻アナが「フリーになってから日曜日に電話が掛かってくることなくなったんだよね」とこぼしたところを、第2部で「日曜日はヤバイ！」と炎上していたターザンが、「そうか！　それじゃオレたちは日曜日コンビだな！」と、一気にまくしたて「こうなったらオレと辻さんで〝サンデー・サイレンス〟の結成ですよォォオ！」と辻アナとガッチリ握手！　フィニッシュを決めたのはターザン！
　そう、タイトルが「ターザン祭り」と銘打たれるだけあって、ターザンが主役じゃなきゃいけないこのイベント。「サンデー・サイレンス」なるタッグが何をするかはまったく不明だが、最後の最後で主役に躍り出て締めるあたり、さすが前々妻の娘が、新日ドーム大会の日に結婚式を挙げるだけのことはあるのである。（クレ斉藤）

あの空白の部分は一体……？

# 辻アナ・インタビュー「実況席から見た真実」の原稿抜け落ちの真実



衝撃ヒャッホー発言の連発で前々号から話題を呼んだ辻アナインタビュー！　前号に続いた後編も大反響だったわけですが、60ページ後半部分の原稿が大幅に抜け落ち空白になるという事態に読者の皆様からはお叱りや問い合わせが多数寄せられました。その理由に関しても「内容がヤバすぎて、ギリギリになって空白にしたのでは？」といった声から、「前号の山口日孝のK－1原稿原切れ事件から続くアングルだ！」とのシュート活字な読みもあったり、はたまたユダヤ資本の陰謀、[illegible]ブラックが暗躍したな、との憶測が飛び交い日本中が大混乱となったわけですが、原因は担当であったわたくしクレ斎藤の単なる初歩的なチェックミスによるものです。

この場を借りまして辻アナ、読者の皆様にお詫びすると共に、前号での空白部分を掲載させて頂きますので前号と合わせてお読みくだされば幸いです。

それでは、どうぞッー！

★　★

辻　でも、藤波さんが[illegible]に出なかったことでチャンスを失ったとはオレは思ってないよ。猪木さんとは根本的に違うんだから。オレは藤波さんにはボーダレスなマット界だから（その分かりや）すいものにしていく飛龍革命、構造改革を期待する。プロレス界を変えて欲しい！

■　新日本もだいぶ変わって来てるじゃないですか？　TVの作り方から何から。ちょっと『PRIDE』っぽさも取り入れたりして。でも、1番大きな変化はビックマッチの乙葉さんだと思うんですけど（笑）。

辻　う〜ん……。

──乙葉ちゃんについてはファンからもキツイ意見は出てますよね。

■　乙葉さんには罪はないんだろうけど、ちょっとどうかなって。本人は頑張ってるんですけど、なぜ起用したのかなっていうのがあって。

辻　例えば、オレは藤原紀香ちゃんを使うことは別にいいとは思わないけど、紀香ちゃんの闘う[illegible]に対する姿勢[illegible]は共感するんだよね。たまにガクッてなったりすることもあるけど（笑）。

──それはなんとなくわかりますけど（笑）。

辻　それがいいっていう人ももちろんいると思うんだけど、それはやっぱり紀香ちゃんの闘う[illegible]に対する姿勢[illegible]があるからであって。それはフジTVが強引にでも作って行ったものなんだと思うんだけど、そういうベースを乙葉ちゃんに作っていったときに、どう化けるかなっていうのはまだ分からないんじゃない？　それに乙葉ちゃんは結構しっかりしてる子なんだよね。

■　乙葉さんもインタビューなどでは反響を気にしてるみたいですけどね。

辻　まさに作られてるって[illegible]存在[illegible]だけど、周りがバックアップして魅せていかないと。

★　★

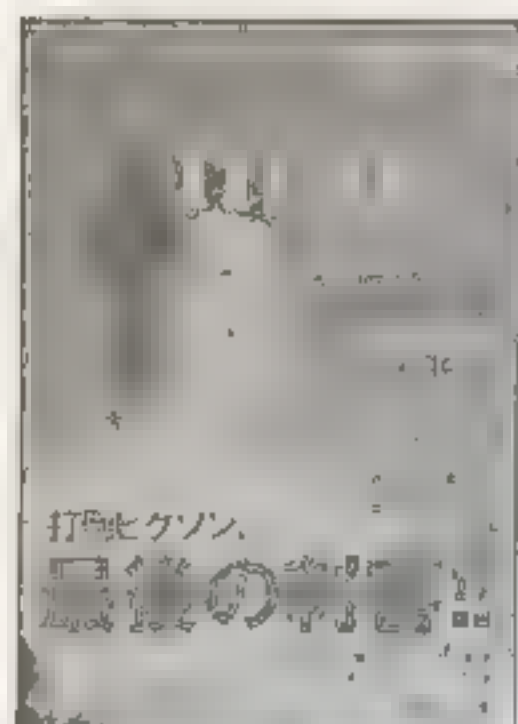
非常に残念！（ドラゴン禍）なんといっても最近は「ある意味『ワールド・プロレスリング』で1番面白いのは辻アナと乙葉！」といった声が高まる中で、そんな乙葉ちゃんに対する辻アナの発言を掲載できなかったことは本当に残念で仕方がない！　つきましては辻アナ同様、乙葉ちゃんにも直接会って謝罪をしたいのですが、乙葉ちゃんはお仕事などでお忙しく時間もあまりないと思いますので、わたくしが等身大「乙葉寝袋スーツ」（¥8,000）にくるまりながら夢の中で乙葉ちゃんにご挨拶に伺います。それでは夢で会いましょう。おやすみなさい。（クレ斎藤）

## 辻アナ、乙葉ちゃん ついでにドラゴン 正直、スマン！

二度とないようにします！

# 紙のプロレス RADICAL Back Number Information

## 気のきいたネタが思い浮かばないので ボクは「紙プロ」読者に戻ります。さようなら。

片山ボン
ラディカルバックナンバー前担当者

No.5★高田延彦、樹海へ……ヒクソン戦直前大特集号
高田延彦／タイガーキング／長与&飛鳥／藤原vs荒川／Puffyも登場

No.7★田村潔司・「紙プロ」初のロングインタビュー記念号
木村健吾／前田日明／富宅飛駈／垣原賢人／冬木弘道／松永高司／T・アボット

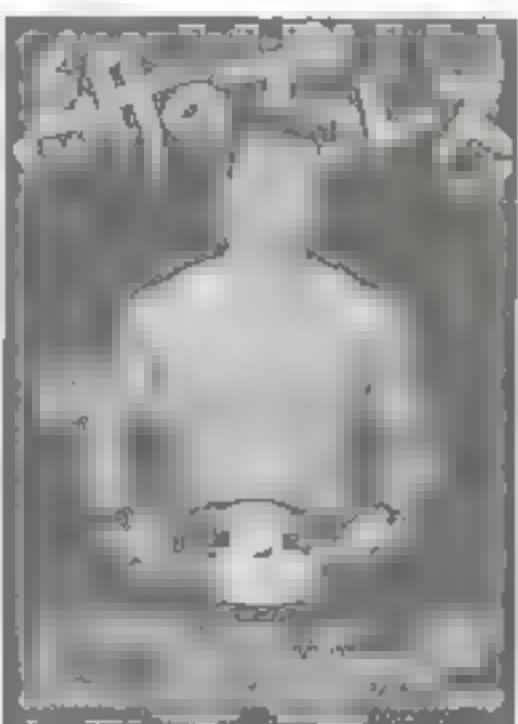
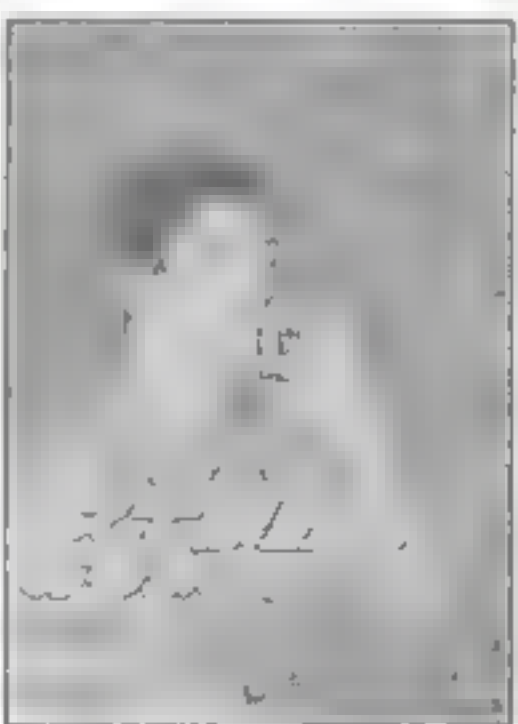
No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号!
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本

No.11★衝撃対談・高田延彦vsエンセン井上が実現!!
前田日明／高田VSヒクソン大予想大会／福田雅一／ザ・グレートカブキ

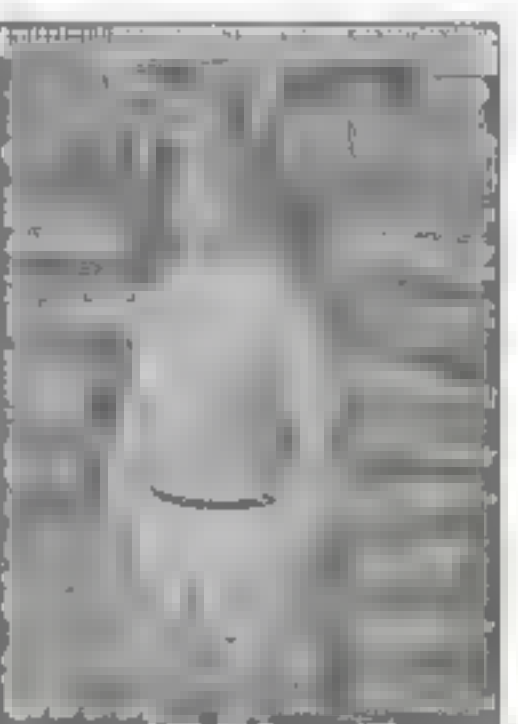
No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号!
高田延彦／桜庭和志／菊田早苗&郷野聡寛／志生野温夫／アポロ菅原

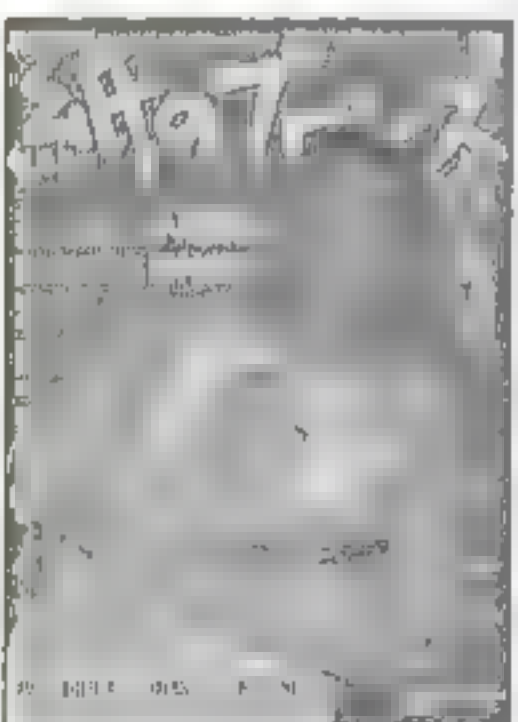
No.13★アレクサンダー大塚・「PRIDE」大ブレイク記念号
高田延彦／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘

No.15★小川直也、橋本を破壊! 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき

No.16★猪木! 前田! エンセン! ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／M・コールマン／語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO蛾饕三昧! オーちゃん大特集号!
桜庭和志／高田延彦／猪木／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／タイガー戸口

No.19★今度はM・ケアー! 高田延彦の新たな挑戦!!
小川直也／高田延彦／前田日明／佐山聡／宇野薫／成瀬昌由／ドン荒川

No.23★1・4新日&「PRIDE」GP2大ドーム特集号
高田延彦／大仁田VSエンセン／前田日明／ヒクソン・グレイシー

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 「PRIDE」GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介／WWF

No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之「紙プロ」初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前! やっちゃってくれサク!
前田日明&田村潔司／桜庭和志／小川直也／大仁田厚／村浜武洋／斉藤彰俊

No.28★オーちゃん、ヒクソン[illegible]完了[illegible]
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史

No.29★ノアの舵を握るのはこの男! 秋山準「紙プロ」初登場記念号
ノア勢フルメンバー／桜庭和志／ジャンボ鶴田夫人／TKおかん／仲野信市／里村明衣子

No.30★「PRIDE10」直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
秋山準／小川直也／村上一成／金原弘光／桜庭あつこ／高阪剛／永源遙

No.31★歴史に残るベスト興行「PRIDE.10」大特集号
小川直也／桜庭&TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司

No.32★リングスvs新日! 10・9新プロレスvs旧プロレス開戦!
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村

No.34★「[illegible]」「[illegible]vs橋本戦」を斬りまくり! 特大号
小川直也／高田延彦／T・オーティズ／金原弘光／ヴォルク・ハン／藪下めぐみ

No.35★「旧プロレス」を考え[illegible]「旧プロレス」[illegible]
橋本真也／大仁田厚／馳浩／杉浦貴／ジョー樋口／リングスKOK大特集

No.36★面白きなきを面白く! [illegible]プロレス[illegible]
橋本真也／三沢光晴／高山善廣／前田日明／桜庭和志／金原弘光／鍋野ゆき江

No.37★小川と三沢が遂に[illegible]だ! [illegible]プロレス[illegible]
小川直也／橋本真也／安田忠夫／村上&小路／田村&ヘンゾ／アブダビ大特集

No.38★高田の"忘れ物"は小川!! ラスト・オブ・もう一丁ッ!!
高田延彦／小川直也／ジェラルド・ゴルドー／阿修羅原／力皇・杉浦・丸藤

No.39★どうなるんだ! リングス!? 前田isデッド!?
前田日明／山憲・小川襲撃／金原弘光／田村潔司／田上明／篠原敏男／桜庭和志

No.40★ボクらが望んでいるものは地上最強のプロレスだ!!
小川直也／金原弘光&高山善廣／三沢光晴／大谷晋二郎／ガチンコ座談会3連発

No.41★Can you カミングアウト? "最後の黒船" WWF襲来号
小川直也／WWF独占スクープ座談会／前田日明／辻よしなり／茨城清志／秋山準語録

No.42★アントニオ猪木なら何をやっても許されるのか!?
小川直也／高田延彦／橋本真也&ドン荒川／宮戸&金原&高山／津谷章嘉／仲野信市

### バックナンバー申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
【郵便振替】00130-3-769154（株）ダブルクロス　【現金書留】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
●代金は、NO.5〜NO.10=680円　NO.11〜NO.19=780円　NO.21、NO.24〜NO.32、NO.35=840円　NO.23、NO.34、NO.40、NO.41、NO.42=880円　NO.36〜NO.39=840円
送料1冊=310円　2冊=380円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
●「紙のプロレス・RADICAL」バックナンバー常備のリスペクト店
アイドール新宿店、新宿ファイター、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ、レッスル渋谷店、レッスル池袋店、書泉ブックマート、書泉ブックタワー、書泉グランデ、ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）、グレート・アントニオ

★NO.1〜NO.4/NO.6/NO.8、NO.9/NO.14/NO.18/NO.20〜NO.22/NO.27/NO.33は、完売しました★

# U.W.F.！ザ・タイガー！全女！
## 話題の新作DVD続々発売！秋の夜長対策に。

# U.W.F. stage.1 COMPLETE BOX

**10/12発売**

●5枚組 カラー944分 税込¥21,000

**プロレス界に燦然と輝く金字塔**
**伝説のU.W.F.が完全版BOXで甦る**

観客動員、メディア露出、大会運営
あらゆる面で革命を起こしたU.W.F.
プロレスの進化はここから始まった

特典 当時選手が使用していたバックステージパスを復刻し、BOX内封入！

全10大会42試合をDVD5枚に完全ノーカット収録！

レッスルで「U.W.F. the 2nd COMPLETE BOX」をお買い上げの方もれなく第2次U.W.F.のパンフレットをプレゼント！どの大会のパンフレットが当たるかはお楽しみ！（11月30日まで）

stage.2 2002年4月、stage.3 2002年10月発売予定！

収録内容
VOL.1 誰もが待ち望んだU.W.F.の再出発 その日、聖地は超満員の信者で埋め尽くされた
「STARTING OVER VOL.1」1988.5.12後楽園ホール・高田延彦vs宮戸成夫／中野龍雄vs安生洋二／前田日明vs山崎一夫
「STARTING OVER VOL.2」1988.6.11札幌中島体育センター・中野龍雄vs宮戸成夫／山崎一夫vsノーマン・スマイリー／前田日明vs高田延彦
VOL.2 U.W.F.の存亡をかけた大一番 欧州のケンカ屋ゴルドーとの格闘技戦
「真夏の格闘技戦」1988.8.13東京・有明コロシアム・大村勝巳vs幸石／大江慎vs二宮秀和／中野龍雄vs宮戸成夫／ノーマン・スマイリーvs安生洋二／高田延彦vs山崎一夫／ジーザー武志vsバーヤップ・プレムチャイ／前田日明vsジェラルド・ゴルドー
「FIGHTING NETWORK 博多」1988.9.14博多スターレーン・安生洋二vs宮戸成夫／中野龍雄vs内藤恒仁／高田延彦vsノーマン・スマイリー／前田日明vs山崎一夫
VOL.3 前田日明 vs 高田延彦 ライバル闘争の始まり
「FIGHTING NETWORK 名古屋」1988.11.10露橋スポーツセンター・宮戸成夫vs中野龍雄／安生洋二vsマック・ローシュ／山崎一夫vsバート・ベイル／前田日明vs高田延彦
「HEART-BEAT U.W.F.」1988.12.22大阪府立体育会館・安生洋二vs中野龍雄／山崎一夫vs宮戸成夫／前田日明vsノーマン・スマイリー／高田延彦vsボブ・バックランド
VOL.4 U.W.F.が仕掛けた新たなメディア戦略 クローズド・サーキットによる全国同時中継実現
「U.W.F. DYNAMISM」1989.1.10日本武道館・宮戸成夫vs安生洋二／ノーマン・スマイリーvsバート・ベイル／中野龍雄vsマック・ローシュ／山崎一夫vsトレバー・パワー・クラーク／高田延彦vs前田日明
「FIGHTING BASE 徳島」1989.2.27徳島市体育館・宮戸成夫vs安生洋二／中野龍雄vsノーマン・スマイリー／前田日明vsバート・ベイル／高田延彦vs山崎一夫
VOL.5 鈴木、船木、藤原の3選手が新日本より移籍・U.W.F.の闘いは、より激しく、厳しいものとなった
「U.W.F. CORE」1989.4.14後楽園ホール・安生洋二vs鈴木実／宮戸成夫vs中野龍雄／前田日明vs山崎一夫
「U.W.F. MAY HISTORY 1ST」1989.5.4大阪球場・宮戸成夫vs鈴木実／安生洋二vsマック・ローシュ／藤原喜明vs船木優治／高田延彦vs山崎一夫／前田日明vsクリス・ドールマン

## 蘇る伝説の虎戦士 ザ・タイガー（復刻版） DVD

●11/上旬発売 95分5,880円

**新世紀に蘇る無限大記念日**
**ザ・タイガー伝説の復活劇**

このDVDはビデオ「さよなら ザ・タイガー」「ザ・タイガー 新格闘技のすべて」のDVD化したものです。1984年7/23&24後楽園ホール。新日本プロレスを人気絶頂のまま退団し、格闘技路線に転じたタイガーマスクがザ・タイガーとなってファンの前に再びその勇姿を現したのがUWFマットだった。そのザ・タイガーとしての勇姿をみせた2日間、無限大記念日を収録。ザ・タイガー＆高田vs前田＆藤原の夢のタッグマッチが内DVDで見られます。ザ・タイガーの空中殺法は勿論だが今では考えられないような前田のパワーボム＆ドロップキック、高田のミサイルキックなど貴重映像も収録。「ザ・タイガー新格闘技のすべて」では、ザ・タイガーが空中殺法、当て身技、パンチ＆キックの基礎練習、組技を解説、若～い山崎一夫を従えて分かり易いです。DVD「ザ・タイガー」「スーパータイガー」「タイガーマスク」を揃えれば初代タイガーが全部揃います。

ザ・タイガー＆高田vs前田＆藤原、山崎vsファンタスマ、
ザ・タイガーvsマッハ隼人

**発売中**
●DVD「スーパータイガー」 2枚組311分10,500円
●DVD「タイガーマスク」 6枚組796分31,500円

## 新日本2001G1クライマックス DVD VIDEO

**VOL.1&2** ●10/25発売DVD&ビデオ各7,140円

21世紀初のG1を2巻に分けてDVD&ビデオ化！VOL.1は160分、VOL.2は136分のボリューム！じ～くり今の新日本を見て下さい！

VOL.1収録試合●8/4大阪～安田vs田中、天山vsライガー、武藤vs西村、中西vs藤波、小島vs蝶野●8/5大阪～安田vs藤波、西村vs小島、武藤vsライガー、蝶野vs天山、中西vs永田●8/6名古屋～安田vs中西、天山vs西村、蝶野vsライガー、永田vs田中、小島vs武藤●8/8仙台～ライガーvs小島、藤波vs田中、蝶野vs西村、永田vs安田、武藤vs天山

VOL.2収録試合●8/10両国～ライガーvs西村、中西vs田中、永田vs藤波、武藤vs蝶野、天山vs小島●8/11両国～準決勝戦 武藤vs安田、永田vs蝶野●8/12両国～決勝戦 永田vs武藤

## リングス創立10周年記念 DVD BOX

DVD ●2枚組390分 10,500円

1991年～2001年、今年で10周年をむかえたリングス。前田日明たった一人の旗揚げから始まったリングスであったが様々な選手がデビュー、参戦し、名勝負を繰り広げた。その選りすぐりの名勝負のDVD化！初めてのDVD化の試合を含め全46試合を収録。フライ戦 トールマン戦、ハン戦、田村戦等の前田の名勝負は勿論だがKOKルールになってからの田村vsヘンゾ、田村vsアイブル、そして6月の金原vsアローナまでも収録。平vs後川、アーツvsワット、佐竹vs長井、田村vsフランク・シャムロック、田中みのるvs坂田、池田大輔vs高阪剛と凄い試合も続々。プロレスファンも格闘技も買うべし。

## 真世紀創造。～歴史破壊編～ DVD VIDEO

●10/25発売 ビデオ83分5,040円 DVD83分＋特典映像97分6,090円

2001年3/2両国国技館、ZERO-ONEの旗揚げ戦を2巻に分けてDVD&ビデオで発売！この歴史破壊編では、星川vs丸藤、谷津vsゲイリー・スティール、橋本＆永田vs三沢＆秋山を収録。星川vs丸藤の息をもつかせぬ技の攻防、小川を倒した男ゲイリー・スティールにいぶし銀ファイトを見せる谷津とこの2試合も面白いけれどやはり今回の見所は、誰しもが実現不可能と思っていた夢のタッグ新日本永田＆ZERO-ONE橋本vsNOAH三沢＆秋山！どの取り組みでも夢の一戦！尚、DVD特典としては、全試合ノーカット収録、出場全選手独占オリジナルインタビューの他にもう一つの山場、小川の乱闘！橋本＆永田vs三沢＆秋山に乱入した小川の乱闘シーンを5台のカメラを駆使し、あますことなく徹底追跡！5chマルチアングルでお好みの角度から自由に場面展開可能。迫力の映像を楽しめます。橋本＆永田vs三沢＆秋山、谷津vsゲイリーそしてENDINGも3chマルチアングルで鑑賞可能。

## ～定義破壊編～ DVD VIDEO

●10/25発売 ビデオ80分5,040円 DVD80分＋特典映像62分6,090円

2001年3/2両国国技館。定義破壊編では藤崎vs斉藤、YU-IKEDAvs東方、大谷vs村上、高岩＆大塚vs大森＆高山の4試合を収録。圧倒的パワーをうっ提げ再生を遂げた斉藤彰俊と男 藤崎の追力マッチ、YU-IKEDAvs東方のシュートボクシングマッチ、村上の襲撃事件が勃発、安らぎにした二人の目は必見。そして、この定義編の注目は、ZERO-ONE高岩＆バトラーツ大塚vsノーフィアー大森＆高山。見応え十分、これぞプロレスの真骨頂といった大技が大爆発！尚、DVD特典としては全試合ノーカット収録、出場全選手独占オリジナルインタビュー、大谷vs村上、高岩＆大塚vs高山＆大森そしてENDINGは3chマルチアングルで鑑賞可能。

## アルシオン グラフティー2

～波乱のARS2001から飛鳥電撃参戦まで～ ●120分6,930円

2001年3/20名古屋から7/3後楽園まで3ヶ月間を収録。今回はARSION PREMIUM STARWARS 2001川崎大会 執念の大向優勝のトーナメントARS2001、感動のAKINO初優勝のトーナメントSKY3,7/3二大決戦浜田vs大向、飛鳥vs吉田と大きな試合も多く、見所沢山！白鳥、元川初参戦、POKO登場、勿論、クィーン、ツインスター、スカイ、二上認定ツインスターの各タイトルマッチも収録。試合以外にも府川さよならイベント、大向バースデイパーティー等も収録。今回は藤田選手がニュースキャスター？になり、レポーター高瀬選手を使ってこのアルシオンの3ヶ月を紹介。（高瀬選手がいい味出してます。）CAM面白映像も必見！特に浜田選手と大向選手のインタビューは 人のお互いへの気持ちがわかって、非常に面白い！特別収録として「クィーン・オブ・アルシオングラフティ」としてクィーン・タイトルマッチ全記録を収録。

## ノア Accomplish Our First Navigation

～激突！三沢vs秋山～ ●5,040円

2001年7/27日本武道館、GHCヘビー級王座決定トーナメントを制し、初代王者としてその頂点に君臨する三沢。一方、昨年の旗揚げ戦で3強を撃破して以来、常にノアの中心に位置し続けている秋山。GHCを賭けたNOAH頂上対決がついに実現した。一周年記念興行として行われた7.27武道館大会より、秋山が第2代王者に輝いたメイン・イベントを初め、GHCジュニアヘビー級タイトルマッチ金丸vsドノバン、ノーフィアーvs森嶋＆力皇のメインカード3試合を完全収録。勿論、田上＆泉田vsベイダー＆ブルなども収録。

## 猪木語録 ～闘魂伝承編～

●10/25発売 60分3,129円

大絶賛の「燃える闘魂編」に続く第2弾は猪木の引退の序章でもあるファイナルカウントダウンから引退、そして現在に至るまでの名言インタビューを「闘魂伝承」をテーマに構成。レスラー現役時代よりもさらに過激さを増した猪木トークは格闘技界を一刀両断に斬る！又、前作に続き、「ダーッの変遷」「ガウンの変遷」「入場シーン特集」のパート2も収録。さらに充実、猪木ファン必携の「猪木語録」完結編です。濃縮100%猪木イズム！「迷わず行けよ、行けば分かるさっ！」

●猪木語録●「出る前に負けること考える馬鹿いるかよ！」（1990/2/10東京ドーム試合前控室）◆「誰の挑戦でもいつ何時受ける！…俺をリングで潰して見ろ！」（1992/5/17大阪城ホール）◆「俺の命を取ってみぃ！」（1994/5/1福岡ドーム ムタ戦）◆「この道を行けばどうなるものか…迷わず行けよ、行けばわかるさ」（1998/4/4東京ドーム引退試合）◆「新日本プロレスは私が作った会社… 目覚めなければ叩き潰してもしようがない！」（2001/3/20）◆「時代は本音が欲しい、本音を見たいよ、長州も本音を見せたらどうだい…」（2001/3/20代々木第2）◆「俺が新日本の敵だったら、一発で潰してやるぜお前ら！」（2001/3/23新日本プロレス批判）

～燃える闘魂編～ ●発売中 55分3,129円

全ての猪木信者に贈る究極の「猪木聖書（バイブル）」遂に登場！VTRに収められた数々の名言・名シーンを、新日本旗揚げから現代にいたるまで一挙に公開。更に、「ダーッの変遷」、若い時からの「ガウンの変遷」、そして「入場シーン特集」など盛りだくさんの内容！ファイター猪木、闘魂伝道師猪木が発した魂の言葉がこの作品に集約。沈んだ時、寂しい時にこのビデオを見ると、勇気が湧き元気百倍となります。

●語録（本編より、ほんの一部抜粋）◆「立派な誰の挑戦でも受けられるチャンピオンになりたい」（S48年12/10vsパワーズNWF世界王座奪取）◆「チャンピオンは一生懸命闘っても負けることもある…10年もつ選手生活も一年で終わってしまうかもしれない」（S49年3/19vsS 小林）◆「つい涙がでました」（S49年10/10vs大木）◆「どんな挑戦でも受ける…逃げる手はない」（S51年1/7ルスカ戦記者会見）◆「3人が束になってかかって来い！この野郎！」（S57年2/9vsR 木村）◆「てめらいいか！その気で来るなら俺が受けてやるぜ」（S62年6/12vsM 斉藤 世代闘争勃発）

## 全日本女子プロレスガレージマッチビデオ
## 「ナマ女」VOL.1&2 DVD VIDEO

●発売中 DVD各3,000円 ビデオVOL.2のみ発売3,500円

久々に出ました全女ビデオそして初めてのDVDもまとめて発売！（注！ビデオはVOL.2しか発売しません。）内容はタイトル通りガレージマッチを収録。VOL.1では6/24&7/29、VOL.2では8/19大会を収録。VOL.1はジャパン・グランプリ真っ盛り中、脇澤vs三田、渡辺vs前川、藤井vs納見、伊藤vs高橋 脇澤vs豊田の公式戦が入ってます。特に今年、引退が決定した脇澤の試合は注目！他にもおまけ映像としてモモラッチ・カメラとして「全部撮ります！仙台への道編」「好き嫌い編」「深夜飢えたレスラー編」が収録されてます。VOL.2では小人プロレス、軍団抗争、中西によるデビュー5周年タッグマッチ（脇澤がレフェリー）を収録。他にも「ナマ女、外伝」として「伊藤薫、バーリトゥードへの道」「プロレスラー候補・堀田裕美子」「キッスの世界がラジ@をジャック」「モモラッチカメラ～悲劇の広島前・後編」を収録。

VOL.1●6/24～脇澤vs三田、伊藤＆西尾vs中西＆納見、高橋＆藤井vs堀田＆豊田、渡辺vs前川●7/29～藤井vs納見、伊藤vs高橋、脇澤vs豊田、渡辺＆中西vs堀田＆前川
VOL.2●8/19～高橋＆藤井vs中西＆西尾、納見vs堀田、小人JGP2001決勝、伊藤＆渡辺vs豊田＆前川

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合¥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを1つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる！（店頭・通販共）※割引きもあり。

【通信販売お申し込み方法】●郵便振込口座番号 00180-8-65236 レッスル通販

住所・氏名・TEL希望商品名を明記のうえ、現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。※振替通販の問合せは池袋店まで。また代金引換（税込¥5,000以上）に限りハガキかFAXでの注文となります。（手数料¥315がかかります）

レッスル渋谷店 店頭TEL.03-3464-0078 通販部＆FAX.03-3464-1780
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル3F

レッスル池袋店 店頭TEL.03-3989-0056 通販部＆FAX.03-3987-7817
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306

11.3東京ドームに

WWF地上波放映開始&
新日本10.8東京ドームをブッた斬る!

# 『プロレス愛』のバカやろう座談会

10月1日、遂に"最強の黒船"WWFの地上波放送が開始された。現在のところ番組内容も賛否両論で、日本のマット界への影響も少ないが、この放送は間違いなくこれからのマット界へボディーブローのようにダメージを与えていくだろう。それと時を同じくして、WWFの影響をこれからもっとも受けるであろう新日本も"猪木抜き"のドーム大会を開催! PRIDEとWWFに挟まれた新日本の明日はどっちだ!? 構成／スモー

**ノブ** いやぁ、会長（山口日昇のアダ名）！　ついにWWFの地上波放送（＝『ライブワイヤー』）が始まりましたね！

**山口**（冷たく）……キミに言われなくても知ってます。

**豪** でも会長、ちゃんと見たんですか？　ボクは1回目をちょっと見たたけで、2回目は一切見てないんですけど（笑）。

**山口** 実はオレも2回目は見てない（笑）。まあ、でも、今回の座談会はWWFの地上波放送開始と新日本のドーム中継から見えたモノから、みんなにいろいろ語ってもらいたいと思うんだよ。まず、10月1日にWWFの地上波放送が始まって、賛否両論いろいろ噴出してるよね。

**豪** 賛否両論というか、地上波放送の番組内容についてはとにかく〝否〟の声しか聞こえてきませんよね（笑）

**山口** ガハハハ！　ウチはWWFの地上波放送を「黒船」として大々的に扱ったけど、現在のところマット界には、深刻な影響を及ぼしてないみたいたね

**豪** ただ、日本のメディアには確実に影響を及ぼしてますよ。たとえば、今回の『ライブワイヤー』に関して『ゴング』に掲載された竹内宏介さんの文章が凄かったんですよ！

**山口** へぇ！　何て言ってるの？

**豪**「黒船」って表現も使って大々的に書いてるんですけど、従来のプロレスとどこかどう違うかという説明として「司会進行役のジョナサン・コーチマンがしつに巧みな話術で……」って説明してて（笑）。

**山口** ガハハハハハ！　トンチが効いてるなぁ、竹内さん（笑）。

**豪** あれが『ライブワイヤー』の駄目なところたとボクは思ってたんですけど（笑）。

**ノブ** まあ、竹内さんよりは巧みな話術かもしれないですけど。

**山口** なんだよ、お前！　竹内さんには巧みな話術はないって言うの？

**ノブ** いやいや、竹内さんは「凄いですねぇ」とか「いいですねぇ」とか「悪くないですねぇ」ぐらいしか言わないところが、巧みじゃないけど素晴らしいんじゃないですか！

**豪** 要するに巧みというか、もはや「匠」な話術なんだよね（笑）。

**山口** うまいね（笑）。で、コーチマンの話はいいとして、実際にWWFの地上波放送を見てどう思った？

**ノブ** いきなりストーリーの説明もキャラ紹介もなく、唐突に始まっちゃったんでビックリしましたね。

**豪** 契約上の問題で映像をまったく編集できないのは仕方がないとしても、字幕やアナウンスでもうちょっと説明を加えないとさすがに無茶でしょ。

**ガンツ** そうなんですよ。最近WWFを見てなかったんで、ボクにはサッパリわけがわからなかったです！

**ノブ** でも、WWFを見るに当たって、最初は誰もがストーリーを把握するまでには苦労してるんですから。そこで文句を言っちゃったらおしまいだと思うんですよ！

**豪** ただ、あれは地上波で連続ドラマの途中からいきなり放送を始めるようなものだから、映像が使えないならフリップとか使って最近のストーリーや人間関係を説明する放送前の特別編みたいなのがあっても良かったんじゃないのかなあ？

**山口** ただ、そういった編集の問題以前で、そもそも試合の実況を吹き替えにしてるのが評判悪いんだよね。

**豪** いや、吹き替えって方法論自体は別に悪くないから、どうせだったら開き直って広川太一郎が一人で全部吹き替えをやるくらい開き直らないと厳しいと思うんですよ。今やってるのは感心がない人もマニアも喜べない作り方ですからね。どうせなら、思いっ切り一般層に偏らないと。

**ノブ** テレビ東京の秋間プロデューサーは軌道修正も含めていろいろ考えてるみたいですけどね。第1回目の放送翌日にDDTの高木三四郎から電話がかかってきて「何か一緒にやりましょうよ！」って話になったみたいなんですよ。「ひょっとしたら吹き替えをお願いするかもしれません」って秋間さんは言ってましたからね。

**山口** ……そういう方向に行ったらダメたと思うんだよなぁ。『スマックガール』とかを見てても思うんだけど、みんな半径の狭い横の繋がりに頼りすぎなんだよね。ヤマモがリングアナやったりさぁ……。

**豪** チョロが解説やったりとか、そういう貧乏くさいことをやってたらメジャー感もまったく出ないですからね。

**チョロ** ボ、ボクのどこが貧乏くさいんですかっ!?

**豪** 思いっ切り貧乏じゃねえかよ（笑）。違うんだったら、俺が貸してる26万5775円、いますぐ返せ！

**チョロ** ヒャッ!?　……貧乏です。

**山口**（無視して）予算がないのはわかるんだけど、そこを突破していかないとちゃんとしたビジネスには成り得ないじゃない？　例えば、吹き替えを高木三四郎に頼んだり、プロレスをわかってる浅草キッドがゲストで出てきたりする。そういう今までの文脈通りのことをWWFでやってもダメだと思うんだ

**ノブ** 新日本のドーム中継にも同じことか言えると思うんですよね。いつまでも何十年前と同じ手法をやってたらダメですよ。その点、最近の『ワールドプロレスリング』は乙葉を起用して今までの文脈を壊しにかかってますからね。

**山口** ガハハハ。10・8のドーム中継は試合は全然ダメだったけど、乙葉は抜群だったな（笑）。

**豪** 評判が悪いことを自覚した上で、バカキャラを自分から進んでやる覚悟みたいなのが感じられましたよね。あの日の中継で、ハノキリ言って乙葉と辻（よしなり）アナだけでしたよ！

**山口** でも、猪木さんはそんなテレ朝のことを「バカ」だの「死ね」だのって批判してるよね（笑）。挙げ句の果てに、大英断で大晦日に紅白の裏で『猪木軍vsK－1』の中継を決めたTBSにも、カウントダウンまで放送しないだけで「冒険心が足りない」って言ってみたりして（笑）。

**ガンツ** ボクらにしてみれば十分に大冒険たと思うんですけどね（笑）。

プロレスマスコミ界の重鎮・竹内宏介さんも絶賛のWWF『ライブワイヤー』（テレビ東京で月曜深夜放映中）ナビゲーターのコーチマン。ナレーション、実況の吹き替えがマニアに不評であるが、これから番組はどう変わっていくか？



### 座談会出席者プロフィール

**山口日昇**
ボンちゃんのことより、ボンちゃんの素敵なお母さんが経営している大阪・新地にある超高級クラブ「ラ・スール」にいつ行けるかが心配な本誌鬼畜編集長

**吉田豪**
同棲中のボンちゃんと彼女の食卓には常に吉田豪の単行本か置かれているという。実は片山ボン離脱の張本人？　と陰で言われている本誌スーパーバイザー

**松澤チョロ**
ボンちゃんから5万円という大金を借りっぱなしの、紙のプロレス学校ズンドコ進行マン。一応、金は返すつもりはあるのでボンちゃん心配しないでねッ！

**堀江ガンツ**
「こんなにちゃんと自分のこと叱ってくれた人は初めてです。感謝してます」と、去りゆくボンちゃんに涙ながらに告白された、紙のプロレス学校鬼軍曹

**[illegible]**
ボンちゃんを自ら面接して引き入れておきながら、「ひどいヤツ入れましたねぇ」と全く他人事のように言い放つ元編集力士。現在はバリバリの営業力士

# 11.3東京ドームに

## 猪木さんがターザン化してる！ アンチは掲げるけど具体的なプランが見えない（笑）

**山口** 猪木さんは、どこにでも噛みつくよね、最近（笑）。

**豪** 最近、気が付いたんですけど、最近の猪木さんはホントにターザン（山本）化してますよ！

**山口** ガハハハハハ！ 嫌だなぁ、それは。

**豪** 両者とも、とりあえずいろんなものにアンチを掲げるんだけど、具体的に何かしたいってプランは全くないんですよ（笑）。「アレもダメ！ コレもダメ！ でも、昔のオレは良かった！」って（笑）

**山口** 実際、テレ朝に対しても「馬場・猪木の時代からプロレスの歴史を紹介する。それはいいとして、なんで坂口の息子がゲストなんだ」って言ってたらしいからね（笑）

**豪** 「オレの部分はいいけど、他の部分は全部ダメ！」と（笑）。あと、「PRIDEやK−1は俺をいい扱いで迎えてくれるけど、新日はそうじゃないから駄目だ」って発言も、完全にターザンのごっつぁん体質と重なるし、「あのドームだって6万人入ってないでしょ。オレ知ってるもん」っていきなり子供みたいに言い出したのも……

**山口** 確かに、ターザンもロフトプラスワンのイベントで「6万人なんて入っていませんよォォォォ！ ドームで興行をやった俺にはわかる！」って、まったく同じこと言ってたしなあ（笑）

**豪** そうなんですよ！ だから最近、ターザンがアンチ猪木なのは、絶対に同族嫌悪だと思うんですよね。「最近の猪木さんはボケたとしか思えない」って書いてましたけど……

**山口** ターザンもボケ具合に関しては、いつ何時でも負けないからね（笑）。

**豪** どれだけ批判しても実際に会ったら面白いって意味でも両者は似てるんですけど、どんどん共通点が多くなってきてるっていうのはホントに怖ろしい事実と思いますよ！

**山口** ああ、オレの猪木さんがどんどん遠くに行ってしまう（笑）

**豪** ただ、今回の猪木さんはちょっとズレてるなぁと思いましたよね「あんな放送じゃダメだ。死ね！」ってテレ朝批判をした後に、「もっと試合（の映像）を中心にしないとダメだ」って言ってたじゃないですか（笑）。あの大会を試合中心に見せてどうしようっていうんですかね？

**山口** ……好意的に解釈すれば、乙葉と蝶野の絡みか一番面白く見えちゃうところか問題だと思ってるはすなんだよ。

**豪** つまり猪木さんとしては、TV屋が牛耳っていくようなプロレス界にはしたくないってことなんでしょうね。

**山口** 裏を返せば、テレビ局のプロレスに対するスタンスが、今、問われてるということでしょ。面白くてきる素材はゴロゴロ転かってるんだけど、テレビ局と団体が、いま一歩踏み込んで話せない。プロレスそのものに対して。そういう意味で言うと、WWFの地上波放送は、いろんな制約があるなかでテレ東的には頑張ってると思うんだけど、もう少しどうにかならないもんかね。もっと凄ェですよ、WWFは。こう言うと、カタくなっちゃうか（笑）。

**豪** 『ライブワイヤー』に関してひとつフォローすると、最近はビンス（・マクマホン）がストーリーに絡んでいないからWWF自体ちょっと勢いがなくなってきてるんですよね。

**山口** ホント、もっとビンスが出てこないと、全体的なものが見えづらいよな。たしかに視聴率は夜中の2時25分開始で、ラテ欄は「ライブ」しか入ってないっていう状況で、1・1％という数字を出してるから、健闘とも言えるんだけと。

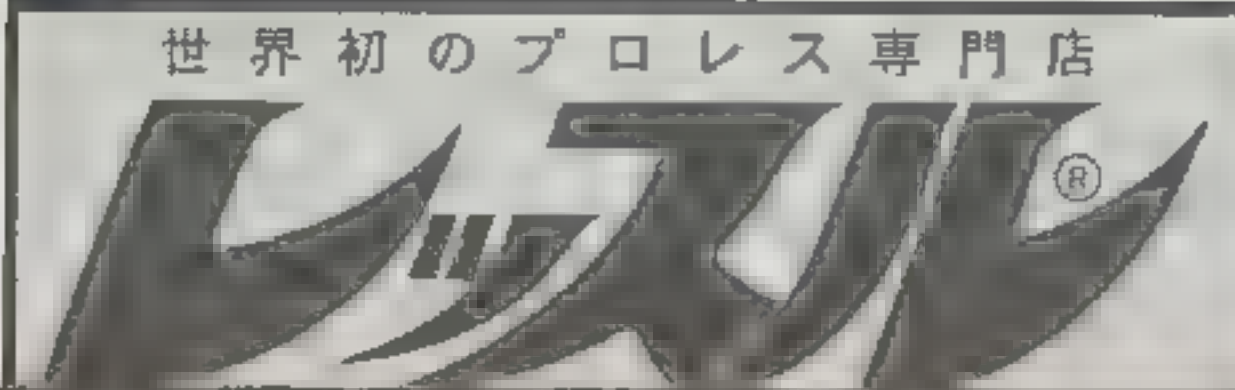
**ガンツ** これは約17万人が見た計算になるそうなんですよ 秋間さんも「これは東京ドーム3個分の人数です！」って言ってましたから。でも、よくデータを見てみると番組時間帯占拠率は民放最下位だったりするんですけど（笑）。

**ノブ** でも、ボクの周りは初めてWWFを見て「凄い！」って衝撃を受けてる人が多かったから、熱心なプロレスファンじゃなかった人も徐々に取り込んでますよ、確実に。新日本の中継を見て、「新日本プロレスって面白いね！」って声はあんまり聞かないわけですけど、その違いは何なんでしょうね？

**山口** 新日本の中継たって、面白くしようと思えば出来るよ

**豪** 新日本もエンターテイメント的な方向に針を振っていかないと、ソフトとしてのK−1や『PRIDE』には太刀打ち出来ない状況なのに、今回のドーム大会でもVTでもなければプロレスとしてもレベルの低い格闘プロレスが多かったから……。

**山口** 猪木さんはあのドーム大

『紙プロ』選定
10.8東京ドームのMVP
VIVA！乙葉!!

会を見て「健介は良かった」って言ってるんでしょ?

**豪**　それはつまり、「あいつも格闘技戦でオレたちの側に来たからOK」ってことなんじゃないですか?

**山口**　つまり、あの試合がOKってこと?「アントニオ猪木なら何をやっても許される」ってスタンスのオレでさえ、あの“なんちゃってバーリ・トゥード”は嫌だね(笑)。

**豪**　しかも裏のフジテレビでK-1を放映していたんだから、緊張感のない打撃の攻防は見せない方がいいと思うんですよね。ボロが出るだけですから

**ノブ**　まあ、あの試合はたしかに“なんちゃってVT”でしたけど、健介vs藤田は見るべきポイントがあったと思うんですよ。海外に行ってVTの試合までやって、その復帰戦の一発目がオープンフィンガー・グローブをつけてのラリアットだったってところとか(笑)

**豪**　あれは凄かった! わざわざアメリカまで行って何やってたんだっていう(笑)。

**ノブ**　ああいうネタをやる前振りとしての“なんちゃってVT”なら面白いですよ。それ以外では誰も得をしないと思いますけど。

**豪**　ただ、食いブチが増えるVTの選手が得するだけだよね。

**チョロ**　あの路線を続けていくと藤田(和之)かドントン評価を落としちゃうと思うんですよ。

**豪**　あんだけキツい試合ばっかりやってるのに、これで評価落としてるんじゃシャレになんないよね(笑)。

**ガンツ**　健介vs藤田はいいとしても、(ゲーリー)グッドリッジvs小原(道由)みたいな試合を見たがってる層がどこにいるのかわからないですよね(笑)。

## 今回のドーム中継は試合以外の部分にしか目がいかなかった(山口)

**豪**　今回のは小原の『PRIDE』進出の前振りなのはわかるんだけど、たったら小原が勝たなきゃしょうがないだろうし(笑)。やっぱり、「新日本の選手が『PRIDE』の選手に勝つ」という実績を欲しがってる層は確実にいるわけですからね。

**山口**　へぇ〜。それがプロレスでも、VTでも、“なんちゃってVT”でもいいから、とにかく「勝った」という勲章か欲しいとねぇ　たた、最近は格闘技戦にまで1勝1敗の論理を持ち込んでるように思えるから、結局はいろんなところに気を遣い過ぎなんじゃないですか?

**豪**　それも、武藤(敬司)vs(ペドロ)オタービオくらい突き抜けた試合ならいいんですけど

**山口**　ホント、試合の内容に大きな夢がないというか、心底ビックリするところがないよね。笑えるところはあるけど(笑)。今回のドーム中継は試合以外の部分にしか目がいかなかったもんなぁ。

**ノブ**　そうですよね。ボクも一番衝撃たったのは、ケームのCMて三沢と武藤か試合をやってたことですからね。

**チョロ**　ボクも蝶野と乙葉の絡みか面白かったですね　最初、蝶野か画面に出てきた瞬間に「オラァー!」って叫んで、その直後には「2m30cmコンビを紹介します」って急に普通になっちゃって(笑)。

**豪**　それで乙葉が「キャー!」って叫んで(笑)。

**ノブ**　あれはいいシーンでしたねぇ(しみじみと)。

**チョロ**　その直後に紳士服の青山のCMが入ったんですけど、そこに全然関係ない2m36cmの大男がスーツを着て登場してましたからね(笑)。巨人コンビよりデカイじゃねぇかって(笑)。そういう意味じゃ、試合以外のハプニングはホントに盛り沢山でしたよ。

**山口**　昔の試合の映像が番組開始直後に挿入されてたけど、それが異常に良く見えちゃったからなぁ　猪木さんの試合たってプロレスの範疇だけど、伝わってくるものか違う　猪木さんか言うように、番組の作り方のレベルが落ちてるのもわかるけど、やっぱり伝える側のレスラーの表現力もデカイよ。

**ガンツ**　グッドリッジのローキックは全然当たってないけど、昔の映像て見るフッチャーの地獄突きは確実に当たってますからね(笑)。

**山口**　ガハハハハ!　グッドリッジか小原に打った口!キノクは、とう見てもオレか受けても痛くないぞ(笑)。誰かグッドリッジにしっかりプロレスを教えろよなぁ

**チョロ**　でも、谷津は言ってましたよ「グッドリッジが一番うまくなる!　だって『PRIDE』から来た選手の中で一番●●が上手いからなっ!」って言ってましたよ(笑)。

**山口**　ガハハハハハ!　さすが、凄いヤツ!(笑)。

**豪**　でも、最近出た　猪木語録のビデオを見ていて痛感したんですけど、猪木さんだって決してプロレスが上手かったわけじゃなかったんですよね。ただ、タイミングと表情の良さでそれを完全にカバーできてたんですよ!

**山口**　当時の奥さんだった倍賞美津子さんから演技や表情の作り方を盗んだというのは有名な話たよね

**豪**　最初の頃は猪木さんも試合前の挨拶でも手も所在なさげにフフフフさせてるし、トークも全然ダメでしたからね。やっぱり表情はホントに重要ですよ!　今の新日本にしても、中西(学)がなぜイマイチなのかといえばやっぱり顔が淡々としてるからだと思うんですよね。その点、村上和成なんかは気迫と表情か凄いから、いわゆるガチプロをやっても「なんか凄い!」って思えるんですけど。

**山口**　あのね、スポーツなんたらかんたらっていう本かあるんだよ。

**豪**　全然わかりませんよ(笑)

**山口**　トレーニンク方法を科学的に分析した本なんたけと、その本に、「一流のアスリートは、演技もウマイ」というような項目かある　まさに　常在戦場は　常在演劇　は、地続きたってことがわかりやすく書かれてる。表情が悪かったり間が悪かったりするのは、要するに頭が悪いってことでしょ(笑)。猪木さんも初期はまったくダメなんだけど、年輪を重ねていくと徐々に変わっていくわけ。オレも『猪木語録』は見たけと、キチ●イになっていく変遷がハッキリわかるんだよね。ホント、『馬鹿になれ』って言葉通り(笑)

**豪**　猪木さんが最近、「オレこそが元祖アメリカン・プロレスだ」って言い出してますけど、そういう表情作りを含めたエンターテイメントを昔から意識してたってことなんでしょうね。

**山口**　エンターテイメントを意識したっていうより、“闘い”を伝えるということを、強さを求めることを出発点にして突き詰めていったら、エンターテイメントになったっていうことだと思う。要は「プロレスラーは強くなきゃいけない」という絶対的なポリシーは、エンターテイメントを絡めても、猪木さんの中では一瞬の揺るぎもないってことでしょ。いまは、選手が“強さ”とエンターテインメントを意識の上で切り離さないとまだできないレベルだから、“なんちゃってVT”も面白くない。“なんちゃってVT”が考えないといけないのはそこでしょ。

**豪**　ちゃんとエンターテイメント化が出来れば問題ないと思うんですよ。たとえば、安田とセコントの石沢扮する海賊男カスパーか試合前に対戦相手の中西をコキおろしたりして、中西か「あの女の腐ったようなヤツ」とか吠えたりとか石沢相手に生々しい感情を見せるような展開になったのは良かったと思うんですけどね。でも、そういうのをTVじゃ全然拾ってなかったから残念でしたけど。

**ノブ**　選手はそういう仕掛けを考えてるけと、会社は仕掛けをバックアップしてないですよね。もっと面白く見せられるはずなのに。

**豪**　そういえば昨日、辻アナか

# 11.3東京ドーム

ら聞いたんですけど、ドームでカシンがマスクを脱いで登場したのは、どうやら辻アナがアドバイスしたみたいなんですよね。そういうことを会社単位でやってないから、大きな流れにもならないはずなんですよ。たとえば秋山か新日本に上がるんだったら、もっと大掛かりなドラマを作ることか出来たはずなのに、やったのは永田との合同練習1回だけでしたからね。

**ノブ** 秋山は、ノア内での遺恨劇とかをあれだけ自発的に考えて盛り上げようとしているんですけど、他団体だとイニシアチブが取れないってことですかね。

**豪** もうひとつ今回のドームで引っかかったのは、安田vs健介戦があるって噂だったのに、いつの間にか安田vs中西になってたりすることなんですよね。どうも無難なマッチメイクに流れたような印象しか受けない

**ノブ** 安田は新弟子時代にムチャクチャしごかれた健介のことを、本気で根に持ってるみたいですからねぇ。

**豪** 猪木さん的な「確執のある両者の対戦」は、なるべく組まない方向に持って行っちゃったでしょ。遺恨がありすぎて不完全燃焼になりそうな試合は組まずに、安全性の高い盛り上がりそうな試合を組んだという

**ノブ** そういえばオーちゃんの乱入も全然盛り上がらなかったですよね？

**山口** オレはドーム大会を会場で見て思ったんだけど、あの空間ではオーちゃんみたいな"余計なこと"をするのは必要とされてないんだよ。つまり、『週プロ』に書いてあったような「ゴタゴタはいりません。試合をください」っていうコピーに代表されるようなモードに、会場全体が入ってるわけ。

**ガンツ** ボクも会場に行ってたんですけど、会場に来てた客層はすごく満足度が高かったと思うんですよ。

**山口** そうだよな。あのドーム大会は、いわば"初の藤波辰彌プロデュース大会"たったわけでしょ？ 猪木さんがは噛みついてたけど（笑）、6万1800人という発表があり、さらに、TVの視聴率もK－1とかぶってる時間帯は10・3％で、K－1に0・1％勝った。この結果を見て、トノコンか「プロレスファンかようやく立ち上かった」って自画自賛してたけどさ（笑）。プロレスファンの側も、自分たちで「やっぱりプロレスは素晴らしい」って自画自賛したいんじゃない？（笑）。

**豪** 今のプロレスに求められてるものって、"刺激"か"クオリティ"のどちらかだと思うんですよね。今年のドームで猪木さんが仕掛けてきた試合は"刺激"だけを求めて"クオリティ"が凄く低かったから、今回の"刺激"を排除したドームには、とことん高い"クオリティ"が求められていたと思うんですよ。

**山口** ドラゴンが狙ってたのも"クオリティ"？

**豪** で、ドームを見て出てきた感想は「それで、この程度かよっ!?」ってだけなんですよね。

**ノブ** 若干クリアしてたのが、メインですかねぇ……。

**豪** いや、オレは「秋山好き」として言わせてもらうけど、秋山はあんなもんじゃない！（キッパリ）。武藤や馳のスローモーな試合展開に引っ張られちゃってたから。あれは秋山の試合しゃないよ。武藤が試合を引っ張ったから、ああいう睡魔を誘う試合になっちゃったんですかね？

**山口** いや。あの試合、武藤は25分過ぎから試合を大きく動かしただけでしょ。それまでは、馳と永田と秋山、アマレス出身者3人の自己満足的な展開だよね

**ガンツ** ボクが見た6月8日の武藤vs天龍はホントに凄い試合だったんですけどねぇ……。

**山口** そのときと今回のメインの違いって何なの？

**ガンツ** やっぱりメインに出た4人とも、全員「オレはプロレスがもの凄くウマいんだ」って思っちゃってることが問題じゃないですか？

**ノブ** 武骨なプロレスの天龍とプロレスの天才・武藤が試合をすれば、うまく噛み合うと思うんですよ。でも、今回のメインはプロレスが上手い人ばっかりを集めちゃったがために、噛み合わなかったってことでしょう

**山口** ミスマッチか……お前、たまにはいいこと言うね（笑）

**ノブ** たまにしか出てこないんですけどね（笑）。

**豪** ただ、それでも「馳が入ったことで、またジャイアント・スイングが見られる!」って喜んでる層は多いはずだろうし。

**山口** そういうファンとオレたちのギャップが問題だよ だから、オレは頭を下げてでも、あの大会のどこが面白いんだか、ファンに教えてほしい。ホント素直に（笑）。

**ノブ**　会場にはノアのファンがかなり大勢来ていたとは思うんですよね。秋山が新日に初めて出場するって、これは凄い事件なわけですから。

**豪**　それはわかるんだけど、試合の中で秋山が「何か性格の悪さが見えることをしてくれるんじゃないか?」って誰もが期待していた部分がまったくなかったのに、それでも盛り上がっちゃうわけでしょ?

**山口**　そのファン層の前では、オーちゃんが乱入してきたときに盛り上がらないはずたよね

**ガンツ**　たとえは、あそこで乱入したのが小橋（建太）だったら東京ドームは大変な騒ぎになってたはずですよね（笑）でも、やっぱりオーちゃんもあそこで新日本の連中と「やってやる!」なんて言っちゃダメですよ。

**豪**　確かに、そこに夢はないからね

**山口**　あそこで「オレは対K-1、対『PRIDE』をやっていくけど、お前らは何でやらないんだ!?」って言った方が絶対に観客の心にも響いたと思うけとね　まあ、これも政治的な文脈があるから、あの中でオーちゃんは精一杯だったんだろうけど。とにかく、あの日の6万人の観衆を見て思ったのは……もう、あの空間は鎖国してほしいな（笑）。

**豪**　ちょっと考えたんですけど、今回のメインとZERO　ONEの1回目（3・2）のメイン（三沢&秋山vs橋本&永田）の違いって何なんですかね?　ZERO-ONEはあんなに面白かったのに、なせ今回ボクらはそれほど盛り上がれなかったのか、どうにも気になりますよね。

**山口**　オレは〝新日本のドーム大会〟っていう空間が、もはやダメなんだと思うなぁ。

**豪**　そうなんですよね!　新日本に上がるっていうことに意外性がなくなっちゃってるんですよ。つまり、新日本の論理の中に入ったっていう意味でしかないというか。元リングスの成瀬（昌由）であろうが、『PRIDE』帰りの石澤（常光）であろうが「ああ、新日の序列の中に入ったんだなぁ」って印象だけなんですよね。その点、ZERO　ONEの場合は序列なんか関係ないですから（笑）。

すっかり新日本の常連になった感かあるクノドリッシであるが、やはりパンチの寸止めこの日も変わらす　一体あのパンチを新日本のファンはとう思っているのたろうか?

**山口**　ZERO-ONEの場合は誰もが、あるかとうかもわからない、どんなものかもわからない宝を奪い合ってる感じはするよね（笑）。今回のメインは、みんな、どこに宝が埋まってるかも、宝のカラット数までもわかってるから。

**ガンツ**　試合後のコメントにそれが象徴されてますよね。秋山は「いやぁ、武藤さんは凄かったですね」って言って、武藤は「秋山は才能かあるねぇ」って言ってましたから（笑）。

**山口**　つまり、みんな平等なんだよね。メインの試合のサブタイトルが象徴してるよ、すべてを。「CROSS GENERATION〝プロレス愛〟」ってことでしょ（笑）。

**豪**　そもそもプロレスには愛なんかない方か面白いはすなのに。

**山口**　そう!　ZERO-ONEの旗揚げ戦に愛はなかったもの　三沢には橋本に対する愛なんかないし、小川も三沢に対する愛なんかなかったでしょ（笑）

**ガンツ**　今回のメインで期待されて最後にマイクまで持っちゃった永田よりも、全然期待されてないのに大暴れしちゃったZERO-ONEのときの永田の方が圧倒的に輝いてましたからねぇ

**山口**　選手自身も最初から愛が欲しいのかね?　それはつまんないよなぁ。しかも、健介vs藤田のサブタイトルなんかもっと凄いぞ!「BELIEVE〝自己〟MYSELF」だもん（笑）。プロデュースする側かテーマとサブタイトルを先に決めて答えを出しちゃってるんだよ!　オレたちか常々見たいと思ってるのは、最初から答えが出てないものでしょ?　そこの部分には、プロレスと格闘技の差はないはずだからね、

**豪**　今回のメインで馳がフォールされるって結果と、ZERO-ONEの旗揚げでエースの破壊王がフォールされるって結果じゃ、やっぱり破壊力は全然違いますよね（笑）。

**山口**　百歩譲って馳がフォールされるのはいいとしよう。試合なんだからどういう結果だろうといいんだよ。でも、一番の悪は最初から「プロレス愛」っていうテーマを掲げてしまったプロデュース能力だよ。

**豪**　それで秋山にも「プロレス愛」を求めちゃったわけですよね。秋山はそういうキャラの人じゃないのに。

**ガンツ**　正直言って、秋山にはもっとギラギラしてほしかったですよね

**豪**　ホントに世代闘争みたいにギラギラしたものを見せなきゃいけなかったのに、みんなで愛を見せ合うだけの試合になっちゃったというか。

**ガンツ**　三沢&力皇と小川&村上がZERO-ONEの武道館大会（4・18）で初対決した時も、村上が三沢にフォールを奪われるという順当すぎる結果でしたけど、それを差し引いてもいい試合でしたよね。三沢と小川が「オレの方が強いぞ」って意地張り合ってたから。

**豪**　そこに力皇が「オレの方が小川より強い!」って割り込んできて（笑）それは絶対、愛じゃないよね。だから、愛なんかいらねえんですよ!

**チョロ**　谷津も言ってましたよ、「プロレスの世界には愛なんか成立しねえんだ。オレはもしゲーリーと組んで世界タッグ王者になったとしても友達にはなれなかったろう　でも、格闘技の試合で殴り合ったから、ゲーリーとも友達になれるんだよ……プロレスには愛なんかねえよ」って。

**山口**　ガハハハハー　その谷津の論理で言うと、「いまのプロレスには闘いがない」ってことか。

**ノブ**　その論理でいうと格闘技はホントにスポーツ・ライクなものですよね。その点、プロレスはドロドロして汚いものですよね。そこが逆に面白いと思うんですけど。

**豪**　ボクらも、スポーツでは表現しづらい、そういう人間的なドロドロした部分をプロレスで見たいわけだからね。

**山口**　最近のプロレスは、最初から試合のテーマを盛りつけて提示するからイヤなんだよ　猪木軍vsK-1も、一歩間違うと同じ臭いがしてくると思うよ。猪木さんと石井館長が「マット界を席巻していきましょうよ」っていう合意の元に手を組んでやってるというかさ。だから、こういう状況こそ、愛のない小川の出番じゃないのかな?（笑）。

**豪**　小川はホントに誰との間にも愛が成立しない人だから（笑）。唯一、橋本との間に、愛らしきもの　はあるんだけと、それだってあそこまでやっちゃったが故の産物ですから。さっきの谷津の話と同じですよ。

**山口**　あれだけ悲惨な闘いの後の愛だから、小川と橋本の関係は、まだいいと思うんだよ。でも、最初から愛を提示するものを〝プロレス〟と呼ぶんだとしたら、たぶんオレたちが見るプロレスはあの東京ドームの中にはないよ。愛の押し売りは嫌だ。で、そこでWWFに話を戻すけと……

**ノブ**　ここで戻しますか-

**山口**　お前、ここが今日のポイ

# 11.3東京ドームに

[illegible]

いでしょ。

■ ビンスに愛はないですから[illegible]

けど（笑）。

ノブ そういえば、Jスカイスポーツの人から聞いたんですけど、ビンスも打ち合わせとか約束は[illegible]よ。ホントにひどい人間だって

会長みたいですねえ（しみじみ）。

山口 ガハハハハ（笑）。やっぱり「プロ」と呼ばれる人は、他人から「ひどい人」と言われるようなことを克服していかないとダメなんだよ。

■ 今回のドーム大会に猪木さんは来なかったじゃないですか？

それも十分ひどいことだと思うんですけど、結局は正しかったんですよ。

ノブ そういう意味では初回と[illegible]いな部分は見えにくかったかもしれないですね。だから食い足りない部分があったのかもしれない。

■ [illegible]スがひどいことばっかりやってるシーンを編集して放映してほし

**海外行ってVTの試合までやって、オープンフィンガーグローブつけての復帰戦で一発目がラリアット（笑）。そういうネタのための“なんちゃってVT”なら面白いんですけどね（ノブ）**

VT特訓を行い、長髪をバッサリ切り、心身共に生まれ変わったように見せながら、復帰して最初の技がやっぱりラリアットという長い前振りのギャグをかました我らが健介。ドラゴンと並び新日WWF化には欠かせない逸材だ。

いけどね

**山口**　でもさ、あの『ライブワイヤー』を見て、新日の関係者とかに「なんだ、大したことねえじゃん」とか思われるのはシャクだよなぁ

**豪**　ただ、ＴＶ局側はとんとん新日をエンターテイメント化したがってると思うんですよ。いまは、それに団体側や猪木さんがストップをかけてる状態じゃないんですか？

**山口**　ＴＶ主導でやってたＷＣＷの崩壊を目の当たりにしちゃってるから、「ＴＶ主導じゃダメだ」って認識が新日上層部に刷り込まれてるみたいだね。でも、問題なのは団体側が「プロレスをどう見せたいか」っていうことだよ。

**豪**　そりゃあ、やっぱりスポーツとして見せたいんだと思いますよ。

**山口**　あ？　まだ、そういう考え方なの？　純スポーツでも、純格闘技でもないんだけどなぁ、プロレスは。

**ガンツ**　そういう意味では今、地上波で全日本プロレス中継があったら絶対に見たいですよね

**豪**　それはかなり面白いと思うよ！　スポーツからは一番遠いところにあるプロレスだからね。毎週、天龍が元子に椅子を投げたりしてさ（笑）。

**山口**　「元子に」って呼び捨てはマズいだろ（笑）。

**豪**　いやいや。これはリンダ・マクマホン夫人を「リンダ！」って呼ぶのと一緒で、それぐらい愛おしい存在なわけですよ（笑）。

**山口**　まあ、通用しねえ理論だな、元子には（笑）。

**豪**　でも、ボクはこれを通しますよ（笑）。で、その元子の最近の発言が抜群なんだよね！　「これからは鬼の元子になります」って（笑）。誰も天使だとは思ってねえよ！って。なんだか、いちいち女ビンスなんですよね（笑）。

## こういう状況こそ愛のない小川の出番だよ!（山口）

**ノブ**　元子vs天龍っていう構図が始まって以来、全日本がどんどんＷＷＦ化してますからね。ホント、今の日本のプロレス界で誰が一番ＷＷＦ的かっていったら天龍でしょう！

**豪**　しかも、段取りなしのＷＷＦというか（笑）。あの両者の間にも愛は絶対に存在してないだろうからねぇ

**山口**　それで今度、全日本に長州力が上がるっていう話でしょ？　もう新日本に誰が残るんだって感じだよな（笑）。

**ガンツ**　健介、中西、永田、安田、そこに小川が加わっていくんじゃないですか？

ドーム出場が二転三転しながらも、藤田vs.健介戦の試合前、乱入という形で1・4ドーム出陣を宣言したオーちゃん。しかし、いまのオーちゃんが望まれているのは、新日で闘うことではないだろう

**山口**　このメンツがそのままＺＥＲＯ－ＯＮＥで試合をするんだったら面白いと思うんだよ。でも、いまの新日本でやって面白くなるのかね？

**豪**　難しいですねえ。ＷＷＦはとことん選手を縛りつけて面白くするプロレスですよね？　逆にＺＥＲＯ－ＯＮＥはとことん選手を野放しにするプロレス。その両極端なプロレスは面白いのに、いまの新日本は中途半端な締め付け方をしてるようにしか見えないんですよ。

**山口**　ああ、なるほどね！　さすが元子呼ばわりするだけあるね（笑）。

**豪**　ＷＷＦはホントに愛のない締めつけ方をしてますからね（笑）。選手の嫌がるようなことをやらせてるじゃないですか。高いギャラを選手に払ってるから言うことを聞いてくれてる部分もあると思うんですけど、新日本ならそれも出来るはずなんですよね。「それがイヤなら出てけよ」って新日本も言えればいいんですけど。何で高い金を払って気を使ってんだよって感じですから（笑）。

**山口**　オレが藤波辰彌ならとっくに半分はクビにしてるけどね（笑）。

**ガンツ**　いや、多分ドラゴンにそんな権限はないですよ（笑）。

**山口**　じゃあ、猪木さんでいいよ。筆頭株主の猪木さんは「クビにする」ってホントに言ってるし。やっぱり、猪木さんは一番愛がないよなぁ（笑）。

**豪**　つまりモー娘。的に表現したら、まさに「愛のバカやろう」という感じなんですかね（笑）。

**山口**　そうだよ（猪木調で）プロレス愛のバカヤローーッ！

**チョロ**　（ターザン調で）愛なんて幻想ですよォオオオ!!

**豪**　それはお前が前号の原稿のせいで彼女にフラレたからヤケになってるだけだろ（笑）。

**山口**　だめだ、こりゃ

【01年10月10日、本誌編集部にて収録】

# 11・3東京ドームに

# 「PRIDE.17」直前情報

高田延彦、ミルコ戦までの軌跡

「PRIDE.17」情報

ボーナストラック　『紙プロ』だからできた!

谷津vsグッドリッジ対談

# カモンベイ〜ベッ

# 闘い終わってノーサイド——そして芽生えた男の友情なっ!

「アイツとだったら友達になれそうな気がするんだよ」と前号の『紙プロ』で谷津（津谷?）が発言していたのは覚えているか？　その相手とは言うまでもなくゲーリー・グッドリッジである。『PRIDE.16』では谷津がタオル投入によりTKO負けを喫してしまったが、2人の間には確かな友情が芽生えていた。そこで『紙プロ』では新日本東京ドーム大会出場のため来日中のグッドリッジと谷津のスクープ対談をセッティング。戦友二人が激語り！

——というわけで、グッドリッジさん、昨日の小原戦はいかがでしたか?

**ゲーリー**　小原は非常にタフな相手だったな。個人的にもいい選手だと思ったんで勝てて良かったよ。

——関節技だけなら桜庭さんより上だって試合後のコメントで言ってましたね。

**ゲーリー**　オレは、そう感じたね。

——そうですか。谷津さんはグッドリッジさんのプロレスの試合はご覧になったことはあるんですか?

**谷津**　あぁ、一度テレビでね。でもよぉ、プロレスのことは本人を目の前にして語れないよなぁ。そういう嫌な質問はしないでくれよ（笑）。（ゲーリーに向かって）プロレスの方も素晴らしかったよ！（笑）。

**ゲーリー**　（ニッコリ）

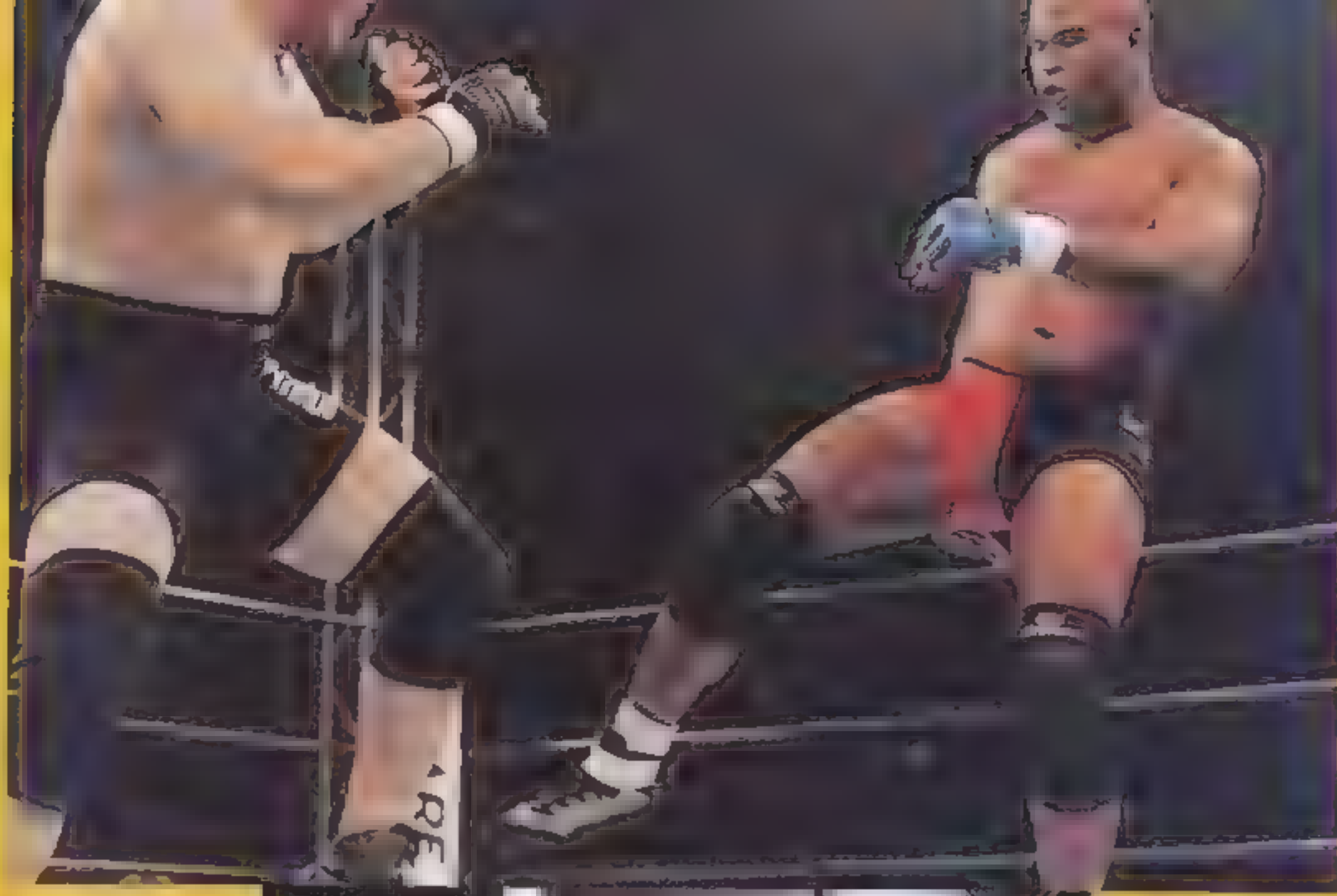
——グッドリッジさん、やっぱりプロレスは難しいと思いますか?

**ゲーリー**　いろんなことを覚えなくちゃいけないから、かなり大変だね。まだまだプロレスの方はベイビーと一緒だよ（笑）。

**谷津**　やっぱりよぉ、総合格闘技と違ってプロレスの方はエンターテインメントの部分も必要になってくるから、同時に覚えるのは難しいよな。プロレスのテクニックに関して言えばゲーリーはまだまだかもしれないけど、パフォーマンスっていう部分では、すでに一流のモノを持ってるよな。そこを見てあげないと！　なっ?　それで、ゲーリー、プロレスってさ、俺も何十年もやってきてプロレスラーの友達なんかもいっぱいいるけど、プロレスはお互い控室から駆け引きがあるわけよ。

**ゲーリー**　（黙ってうなずく）

**谷津**　駆け引きがある分だけね、すぐ友達になれないわけよ。プロレスはビジネスと

して、ショーマンとしての駆け引きも大事なわけよ。だけど、総合格闘技の方は闘った時に相手の気持ちも自分の気持ちも伝わるんだよね、これね。だから、プロレスの方はレスラーの上にビジネスが付いてるわけ。格闘技もある意味ビジネスなんだけど、やっぱり命の駆け引きのビジネスだから。ゲーリーは戦場の中の戦友みたいな感じがするんだよな。

**ゲーリー** それはオレも感じるよ。

**谷津** そうか。ようするにケンカでもバーッって殴り合いするでしょ？ その後に学園ドラマじゃないけど「お互い頑張ろう」ってよくあるだろ。そういう友達を作るっていうか、触れ合うフィーリングが早いよね、総合格闘技の方が。プロレスは絶対そうはならない！ やっぱり「お前、先輩がなんだっていうんだよ、コノヤロー！」ってなっちゃうから（笑）。

――アハハハハ！

**ゲーリー** 勉強になるね（笑）。オレはノールール系の大会が最初だったんだけど、だいたい闘った後に相手と仲良くなれるんだ。でもプロレスの場合はどっちかっていうとヤッサンが言ったように、相手がどうっていうより個人的に自分との闘いというか、自分をどう表現するかっていうのが大事だと思う。

**谷津** プロレスはね、相手の存在感を認めてあげなくちゃいけないから。相手のいいとこ出してあげなくちゃなんないの。だけど、総合格闘技はそんなの関係ないでしょ。相手を伸しちゃえばいいんだから。でも伸したなかにも一部の情っていうかハートが見えるからな。「お前も敵ながら良くやった」という感覚。それがもろにストレートに出る感情のキャッチボールが総合格闘技だよな。しゃべんなくてもそういう部分はあるよな。

**ゲーリー** そういう部分はあるね。

**谷津** で、グッドリッジに質問なんだけど、自分は25（歳）でプロレスにチェンジしてね、それでいきなり成り上がりもんでニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンで試合をやったわけよ。

**ゲーリー** オォー、グレート！（笑）。

**谷津** 俺はアントニオ猪木さんにスカウトされて、この業界に入ったんだけど、その時に「プロレスやれば儲かるぞ」って言われて、「まずは英語が出来るようになって、海外に行って世界に通用するようなレスラーになれ」と。「お前だったら出来る」って言われて、やったわけだけど、なんか目に見えない圧力があったんだよな。「なぁ～にがプロレスだ、バカヤロー！ ふざけんなよ、お前！ なんで馬場さんなんかに勝てねえんだよ」って思った時もあったもんねぇ（苦笑）。でも俺は勝てなかった、馬場さんには！ なんででしょうかねぇ？ 猪木さんにも勝てなかったし、そういうもどかしさがプロレスには凄いあるんだよ。

――う～ん、奥深いですねぇ（笑）。

**谷津** そう！ そりゃ奥深いもどかしさなんだよ。勝てないってところが！ それはさっき言ったような自分をアピールしたり、自他共に認めるようなことが必要なんだよね。強ければいいってもんじゃないから、そういうもどかしさが、ちょっとプロレスは女っぽいんだよね。

――プロレスは女っぽい！（笑）。

**谷津** だってそうでしょ？ 逆に言えばそれが難しさでもあるからな。

**ゲーリー** オレは今まで『PRIDE』を中心に闘ってきたけど、まだプロレスのリングでは4戦しかしてないし、逆にヤッサンの場合はノールールは自分との2試合だけだよね。でも、2人がタッグを組めばシルバとシンのジャイアントコンビだって間違いなく勝てるよ！ あのデカイヤツらをブッ飛ばしたいね（笑）。ヤッサン、オレにプロレスを教えて下さい。

## 9・24「PRIDE.16」大阪城ホール

○ゲーリー・グッドリッジ（フリー）（1R3分5秒 TKO勝ち）谷津嘉章●（荒武者）

谷津1年越しのリベンジならず！ 試合後、敗北宣言をした谷津は今後、外国人に負けない選手の発掘と育成に力を注いでいくという

「5回タックルにいって倒せなかったらタオル投げろ」とセコンドに指示を出していた谷津。その言葉どおり5回目のタックルをチョークに取られると無情のタオルが宙を舞った

レスリングシューズを履いた谷津は前回よりもするどいタックルを仕掛けていくものの、グッドリッジには通用せず。逆にパンチ、ローキックと破壊力抜群の打撃が再び谷津を襲った！

試合前、両者がリングに向かい合うと、グッドリッジは笑顔を浮かべ谷津の元へ歩み寄り「頑張れよ」とガッチリ握手。意表をつかれたこの行動に谷津は正直カクンと来たという

**谷津** いや、俺もプロレスわかんないもん。答えがないんだから。プロレスの評価っていうのは他人が認めるものだからな。ベーシックな規則もあるけど、そこから先はゲーリーの素材が前面に出てくるわけだから。その才能をゲーリーは持ってると思うんだよな。

——どの辺に才能を感じるんですか？

**谷津** 顔が活きてるじゃん！ クーッ！って表情になってるし、変な意味じゃなくて、総合格闘技系のコールマンだとかケアーとか、その中で一番プロレスの素質あると思うよ、ゲーリーが！ たぶん猪木さんもそう思ってるだろ。

## ゲーリー、最初に闘ったとき、自分が最後に掛けた関節技って効いたの？

## （顔をしかめて）正直、アレは効いたよ。あの後、手術したんだよ

**ゲーリー** （ニッコリして）サンキュー！ どんなプロスポーツでもそうだと思うけど、やっぱり見てくれるファンが一番大切な存在だし、その中で自分を向上させるっていうのが一番重要なことだと思ってるんだ。

**谷津** そう！ わかってるなぁ。でもよぉ、さっきから「タッグ組みたい」とか、「練習教えてくれ」とか言ってるけど、俺のプロレス見たことあんの？（笑）。

**ゲーリー** （真顔で）イエス！

**谷津** （疑って）ほんとに？

**ゲーリー** イエ～ス！（笑）。

**谷津** サンキュー！（笑）。社交辞令で言ってんのかと思ったよ。俺はね、プロレスではシングルよりタッグがうまいんだよ。タッグでパートナーをガーッ！って立てるのピカイチだからね。長州にしたってジャンボにしたってみんなそうだろ？ なっ！ 俺ほどうまい盛り立て役なんていないよ。タッグだったら日本で一番うまいと思ってるもんな。

**ゲーリー** シングルはどうなんだい？

**谷津** これが、シングルはダメなんだよ（苦笑）。俺は自己顕示欲強くないから。

**ゲーリー** なおさらオレとタッグを組んでジャイアントコンビを倒そうぜ！

**谷津** 別にいいんだけどよ、ゲーリーが新日本プロレスを口説いてくれよ（笑）。

**ゲーリー** ガハハハハ！

**谷津** いろいろと問題が出てくると思うぞ（笑）。

**ゲーリー** 昨日の試合はジャイアントの2人は4人相手にしていたけど、オレとヤッサンなら2人で十分だ！

**谷津** そうか（笑）。でもゲーリー、総合系の選手の他にも武藤とか蝶野とか永田とか、外人の選手でもWWFとかにも、いっぱいいるけど、ゲーリーはプロレスで目標にしてる選手はいるのかね？

**ゲーリー** （即座に）オレが好きなのはシッド・ビシャスだね。

——ほぉ～、WCWとかで活躍してた大型パワーファイターですね。

**ゲーリー** ビシャスはデカイし強面でパワーもあるだろ？ オレもああいうプロレスラーになりたいんだよ。

**谷津** デカイのが好きなんだね（笑）。でも、俺もゲーリーだったらいいコンビネーション組めると思うよ。ゲーリーをプッシュする自信あるしな。ただ、ゲーリーがプロレスうまくなっちゃうと総合格闘技が出来なくなっちゃうぞ！

**ゲーリー** そうかもしれない（笑）。ドン・フライも苦しんでるみたいだしね。

——両方の世界でトップを取るっていうのはやっぱり難しいんでしょうね。

**谷津** 難しいッ！ いないってそんなの。俺が見ても今のところドン・フライぐらいだもんな。それにゲーリーが追随してチャレンジしてる最中でしょ。俺も彼と総合格闘技で向かい合った時、やっぱりパンチと瞬発力、あとハート、ガッツ、年のせいなのか、それとも彼が上回ってるのはわかるんだけど、そういう意味では、かなわないなと思ったもん（キッパリ）。プロレスも逆に言えば、ゲーリーがホントにプロレス覚えちゃったら誰もかなわないと思うよ。パワフルなパワーと強烈なルックス全部合わせてね。技術だけじゃなくてハートの部分が大きいからな。今はプロレスがどういうものか手探りの状態だからしょうがない部分もあるけど、コツをつかんだらとんでもないことになると思うんだよな。

**ゲーリー** オレはヤッサンと同じぐらいのレベルまで行ければ満足だね。

**谷津** 謙遜しちゃってな（笑）。そんなもん、あっさりクリアしちゃうだろ（笑）。

**ゲーリー** 自分はヤッサンと最初に闘った時、自分が先に入場して多少歓声が聞こえたんだけど、その後、ヤッサンが入ってきたら、「ワーッ！」っていう凄い歓声が聞こえたんで、「あぁ、これだけ人を惹きつけられるファイターなんだ」と思ったんだ。自分は、まだその段階まで行くには相当時間が掛かるし、難しいだろうね。

**谷津** 話変わるけどさ、ゲーリーは『PRIDE』には何回出てんの？

**ゲーリー** 14回かな？

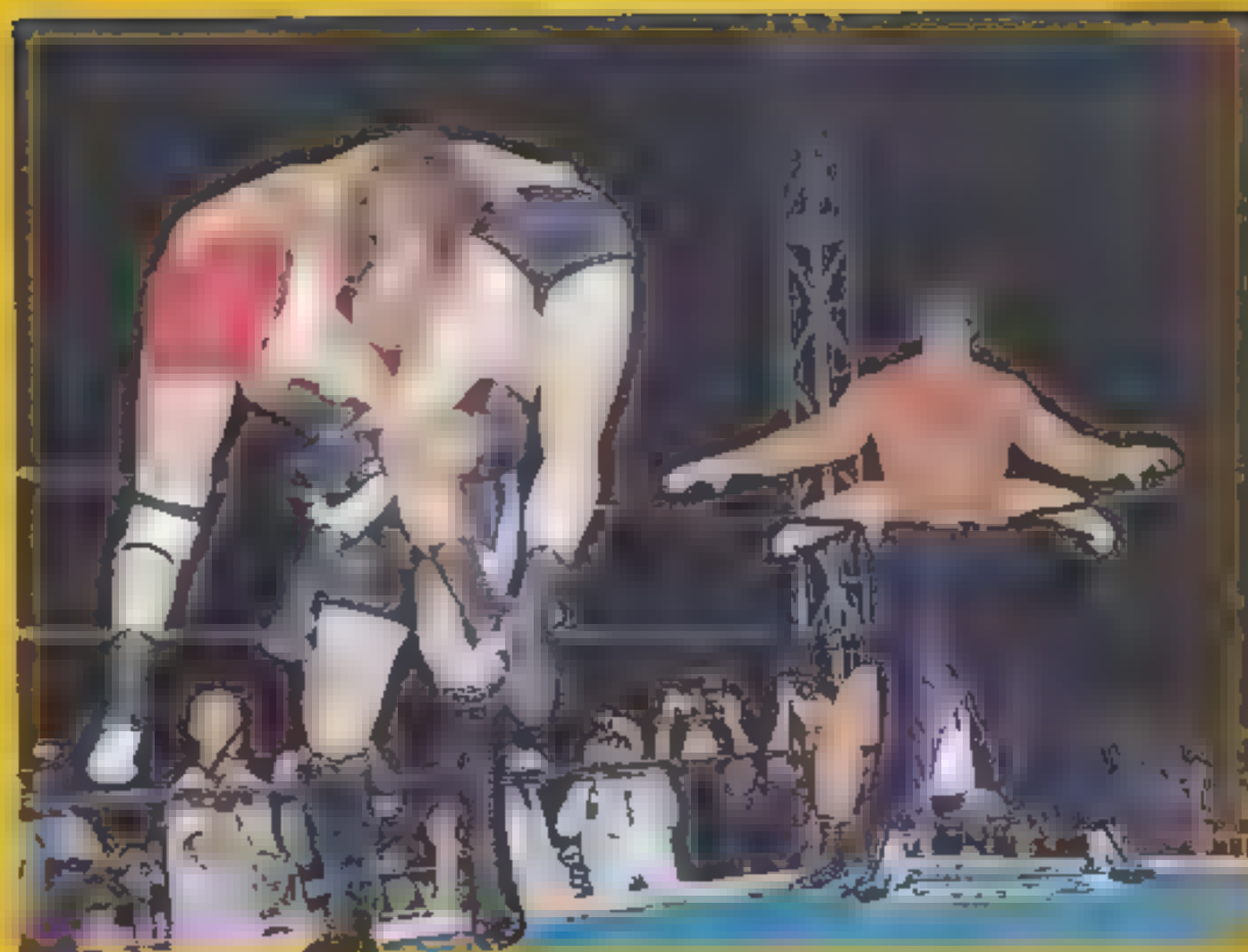
**谷津** えっ、そんなに出てんの？ 他にもUFCも出てたんでしょ？ この間はK−1にも出てたし、新日本も出てるし、なんでそんなにキミにはここに（自分の胸板をバンバン叩いて）ガッツがあるの？ それ聞きたいよな。なんかやってんの、危な

グッドリッジに「紙プロ」前号を手渡すと表紙を指さし「なんでビンラディンが表紙なんだ？」と絶句。答えを教えてあげると「これがイノキサン？」と再び絶句

# Gary Goodridge × Yoshiaki Yatsu

いドラックかなんか（笑）。
**ゲーリー**　ノーノーノー！（笑）。
**谷津**　なんかあるんでしょ、スペシャルなヤッとかやってっだろ！（笑）。
**ゲーリー**　やってないって（笑）。でも凄いのはヤッサンの方だと思うよ。前回闘った時、あれだけオレのパンチを浴びて倒れなかったヤツは見たことないよ。
**谷津**　でもねぇ、あれから病院に行ったらドクターに「君ね、殴られて倒れないのは危険だ」って。人間っていうのはそういう危険な状態の時は気絶するもんだと。気絶しないのは根性とかじゃなくて、体のどっかが悪いって言われたよ（笑）。
**ゲーリー**　体が悪いっていうよりも、たぶんビッグハートなんだよ（笑）。ヤッサンの方こそガッツがあると思うね。
**谷津**　またまた、よく言うよ（笑）。やっぱり、ゲーリーのブラザーとかオヤジさんとかは、ファイターだったの？
**ゲーリー**　ノーノー！　父親は違うけど母親はファイターだったね（笑）。
**ブッカーK**　ゲーリーのお父さんは彼より頭ひとつ分ぐらいデカイんですよ。
**谷津**　ほんとぉ？　ゲーリーは若い時はやんちゃな時はあったの？　やっぱりケンカなんか年中してたわけ？
**ゲーリー**　妹とはよくしてたね（笑）。
――兄妹ケンカですか（笑）。
**ブッカーK**　ゲーリー以外は、女姉妹ばっかりなんですよ。
**谷津**　あぁ～、そうなの。
**ブッカーK**　根は優しいんですよ。
**谷津**　優しいんだよねぇ。怖い顔してっけどさ、瞳はごまかせないからな（笑）。
**ゲーリー**　オレは姉妹とケンカして一度も勝ったことないんだ（笑）。
**谷津**　ワハハハハ！　それでな、ファンを代表して質問なんだけど。
――ファンを代表して（笑）。どうぞ！
**谷津**　俺が思うによぉ、ゲーリーのいいとこっていうのはオファーを絶対にけらない、恐れを知らずに闘うってとこだと思うんだよ。勝ち負けよりも、そっちの姿勢の方がウケてると思うんだよな。そういう気力っていうのは、さっきの話しと同じになっちゃうけど、どっから沸いてくるわけ？　ハングリーとも違うような気がするし、う～ん、なんだろうなぁ。
**ゲーリー**　オレもよくわからない（笑）。
**谷津**　そうか（笑）。でよぉ、前回闘った時は、とりあえず受けて受けて最後には自分のプロレスラーとしての意地で、片足タックル入って関節技をやったわけだよな。あれもある意味では、サンボの先生に聞いて、やったことないような技を掛けるのも面白いなって思ってやったのがヒザ固めだったんだけど、結局彼は立っちゃったんだよな。あの時点で俺はもう体力ないと思って諦めたわけよ。で、自分が最後に掛けた関節技って効いたの？　それが聞きたかったんだよ（笑）。俺の何がいけなかったのかって、ずっと聞きたかったんだよ（笑）。だってよぉ。手応えはあったんだよなぁ。
**ゲーリー**　（顔をしかめて）正直、アレは効いたよ。その後の猪木ボンバイエの時も、ずっと足に痛みが残るなぁと思ってたんだ。それで病院に行ったらヒザの靭帯が痛んでて、2月に手術したんだよ。ヤッサンの技が原因だと思う（苦笑）。
**谷津**　あっそう（満足そうに）。でも、あのニーロックで、ゲーリーは立ってきたでしょ。あそこで俺の戦意が消えたわけ。「もうかなわない」って。
**ゲーリー**　オレも立ち上がった時は凄く疲れていたし、それに試合の中盤でヤッサンにコントロールされてるって感じてて、闘ってる最中なのに、「なんで俺はここにいるんだ？」とか、そんなこと考えちゃいけないんだけど、オレは負けるんじゃないかっていう不安感に襲われてたんだ。ホントに、ニーロックはかなりキツかったけど、いったん息を止めてグッと抜け出そうとしたら、どうにか脱出することが出来たんだよ。
**谷津**　挙げ句にね、試合が終わっておかげさまで俺は半年間も体動かせなかったからな。ゲーリー、サンキュー！（笑）。
**ゲーリー**　それは冗談だろ？
**谷津**　いやいやホントだよ！
**ゲーリー**　オォ～、正直スマン！

**俺は姉妹とケンカして一度も勝ったことないんだ（笑）（ゲーリー）**

谷津の、ある質問に対してグッドリッジから「ケーフェイ」という単語が飛び出した。「外国人選手からケイフェイって言葉を初めて聞きましたね（笑）」と妙に感心していると、通訳に「コイツはなんて言ってるんだ？」と、怒りの顔に

しきりにグッドリッジが対戦表明していた2m30cmコンビのシルバ&シンのジャイアントタッグ。まさかの谷津&グッドリッジ組が新日本マットに登場する日は来るのか？

**谷津**　いや別にゲーリーを責めてるわけじゃないからな。勝負の世界なんだから。

**ゲーリー**　それは知らなかった。でもオレもヤッサンと闘った後、手術したんだけど、同じ様なダメージをお互い受けてたんだね。今考えると面白いな（笑）。

**谷津**　ゲーリーはまだまだ若いんだから、ケガに気をつけて『PRIDE』にしてもプロレスにしても頑張ってもらって、プロレスで言えばいつか近い将来、タッグでも組んでジャイアントだかなんだかと、やるんだったら、いつでも私は力を貸すし、また、やりたいと思ってるしな。それを書いてもらってオレもファンの支持を得なくちゃいかんと（笑）。

**ゲーリー**　何度も言うけど、オレはヤッサンとタッグが組みたいんだ。

　谷津さんは新日本のリングでも問題ないんですか？

**谷津**　いや、どこだっていいよ（笑）。どの団体でも、タッグチャンピオンっているわけだから、それにオレとゲーリーが挑戦したって面白いよなっ！

**ゲーリー**　必ず挑戦してチャンピオンになろうぜ！（と言ってガッチリ握手）

**タッグ王者に挑戦し、2人でチャンピオンになるぞ！**

**谷津**　もうハッキリ、アイ・セイ・ユー！　俺は彼に負けたから、これは敗戦宣言としてね、認めるから！（キッパリ）。歳とかは抜きにして俺の負けだ。もう俺はゲーリーとは二度とやりません！

**ゲーリー**　オレもヤッサンとは、もう闘いたくないな。もう殴れないからね（笑）。

**谷津**　だけどよぉ、プロレスだったらわかんないよ（ニヤリ）。

**ゲーリー**　オッケー！（笑）。

　最後にグッドリッジさん、正直言って『PRIDE』でのグッドリッジさんのファンから見ると、新日マットでの闘いぶりは物足りないっていう声も多いんですよ。もっともっとガンガンいって下さい！

**ゲーリー**　オッケー！　自分は観客の望むことをやりたいんで、ファンがそれを望むっていうんならオレはやってやるさ！

　期待してます。でも、グッドリッジさん、お肉に全然手を付けてないですね。

**ブッカーK**　ゲーリーは狂牛病を怖がってるみたいなんですよ（笑）。

**ゲーリー**　何を言ってるんだ！（怒）。

**谷津**　へぇ～、ゲーリーにも怖いモノがあったんだ（笑）。それで、最後に聞きたいんだけどよぉ、ゲーリーはジャパンの女の子は好きなの？

**ゲーリー**　オレはジャパンに来た時はビジネスと割り切ってるから、あまり意識したことはないね。

**谷津**　チェッ！　つまらない男！（笑）。

【10月9日／東京・水道橋「焼肉・大門」にて収録】

観客の憎悪を一身に集める嫌われ者が存在していなかった最近の『PRIDE』では、スーパーヒールの出現が望まれて久しい。実際、キャラとしてのヒールの役割を担う選手はいるのだが、あのホイス・グレイシー以来、本人の自覚が全くないヒールという素晴らしき選手は登場してないのだ。

そんな「お客様は神様です」と、言いだすさんばかりの良い子ちゃんが増えた『PRIDE』に遂に救世主が登場した！　そう、その選手は皆さんも御存知の通り『PRIDE.16』でのドン・フライ戦において、ハミング感覚でサミング（?）を仕掛け、リングス原理主義者なファンでもその行為、態度に辟易したというアイブルだ。

だいたい、この御時世に〝星条旗〟を掲げ〝TERRORISTS SUCK〟の文字がプリントされたTシャツに身を包み、アメリカ国歌の伴奏に涙ながらに行進してきたフライにリング上でのテロ行為をするのだから、ホントとんでももない。しかも〝やられたらやり返す！〟フライによるアメリカン・ヘッドバッドで爆撃されると、泣き顔で反則のアピールする都合の良さ。「オマエが悪い！」と誰もが思ったことだろう。

そんな反省の色がないというか、自分の色しか持ち合わせちゃいない〝オレがルール〟なアイブルにも多少の良心が存在したのか、今回のフライ戦でロープを何度か故意に掴んだことは認めたのだが、続いて吐き捨てられた言葉が「フライだって掴んでた！」であるから、開いた口がふさがらない。こうして『PRIDE』の豪華感を出す存在だけに等しかったともいえるアイブルが、スーパーヒールとして突き抜けたわけである。

ただ、アイブルの本性がムキ出しになり、突き抜けていく姿は見ている者にとって面白い限りだが、サミングはいただけない。まさしくバーリトゥード道にもとる行為。できることならサミング（?）などせず、突き抜けるアイブルが見たかったのだが……。

この試合はアメリカの悲しみを胸に登場したフライの感動のシーンから始まった。そして、フライはアメリカを胸に死力を出し切り闘った開放感を観客に与えた。逆にアイブルは人間の持っている悪しき部分を出し切り後味の悪い開放感を与えてくれた。

どちらがまた見たいといったら、フライの開放感に断然軍配が上がるのだが、アイブルも見てみたい。なぜなら、そんなアイブルが圧倒的にブチ壊れる瞬間を見たいからだ。

アイブルよ、もっと暴れて客をヒートさせろ！（サミングなしで）。そして、オマエを倒すスターが現れたときに圧倒的な開放感が会場に立ち昇る。ヒール道を突き進め、アイブル！　（クレ）

フライのセコンドについた健介だがアイブルの卑劣な行為に何もせず。「それでもプロレスラーか！」という声もあるが、健介はバーリトゥーダーだからしょうがないのだ

テロ勃発のアメリカを胸に
ドン・フライ

パンクラスなら永久追放！

# アイブルがスーパーヒールになった日

9・24大阪城ホール
『PRIDE.16』
ドン・フライvsギルバート・アイブル
【1R・注意3回によりアイブル失格】

これはサミング?

【8·19さいたまスーパーアリーナ】

構成/クレ斉藤
designed by matsu (Two three)

# 藤田、K-1に血敗!

## この1戦の結果が髙田の運命を変えることになった

"猪木軍vsK-1"の第1Rで藤田がミルコ・クロコップにまさかの敗北! この結果によって髙田の"忘れ物"とされていた小川が"猪木軍の総大将"としてK-1に引き寄せられていったわけだが、まさかそんな小川よりも先に髙田がK-1との遭遇を果たすとは誰が思っただろうか? 髙田の運命は"藤田の血敗"よって急転していったのである

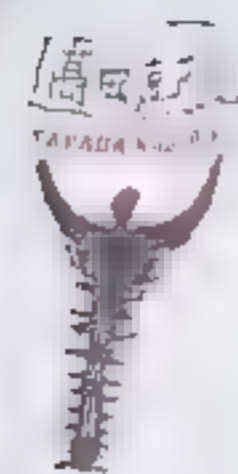
11·3『PRIDE.17』 東京ドーム

# プロレスの聖戦だ!!

誰も[illegible]いなら俺が踏みだす!

# 語録で綴る髙田延彦ミルコ戦までの軌跡

9月10日　新聞紙上

# シラけた、正直言って面白くない。

**今年の5月より「“忘れ物”小川と闘いたい」と対戦を表明していた髙田であるが、「猪木vsK-1」が大々的に盛り上がる一方で、髙田vs小川は完全にマット界の“忘れ物”になっていったのである。そういった1人蚊帳の外の状況に不快感を持った髙田は、自分でブチ上げたのにも関わらず小川戦の白紙撤回を強引に森下社長に伝えたのである。なぜだ!?**

9月12日　都内会見

# 情けない。看板選手が負けたのに新日本のヤツらは何も言わないじゃないか。もう俺が夢見た世界じゃない

藤田がミルコに血敗したにも関わらず、ミルコに闘いを挑もうとしない新日本プロレスに対して怒り心頭の髙田延彦。いまさらながら新日本のこういった態度はファンにでもわかるのであるが、小川戦が白紙になりそんなことすら判断できなくなった髙田のイライラが伝わってくるのだ。どうなるんだ!?

9月12日　『PRIDE』オフィシャルサイト・髙田延彦トークライブ

（「猪木軍vsK-1」が『PRIDE.17』で行われる噂について）

（ブ然と）**知らない！わからない！**

「猪木軍vsK-1」の余波により、小川戦を差し戻しにするばかりか、『PRIDE.17』の軸になるべき桜庭vsシウバの扱いの悪さに対しても髙田は、DSE主催のトークライブにも関わらず「だから、ガタガタ、『PRIDE』が、「猪木軍vsK-1」とか言わないでくださいと!」と言い放ち怒り心頭!「このままでは、ただの使い捨て道場とかになりかねないいう思いがあるんでね」と、髙田道場ではなく「猪木vsK-1」に目がいくDSEにかなりオカンムリだった。ところが……。

9月19日　「桜庭vsシウバ」決定記者会見

# K—1の選手との対戦も選択肢のひとつ

（森下社長）

小川戦を撤回した髙田に対し「5月に髙田さんがブチ上げたときからそれに備えてトレーニングしてきた」と、小川がラブコールを送ったが「本当にずっと考えていたのか。勝手なこと言うなよ！おまえ！」と、遂に怒りが頂点に達した髙田。その怒りの矛先はDSEにも向けられ「このままじゃウチにも考えがあるよ」と、髙田道場の『PRIDE』からの撤退を匂わせた。そんなご立腹の髙田の態度に慌てたDSEの森下社長は「とにかく髙田さんと話し合って、こちらの真意を分かってもらいたい」と、関係修復を大前提としながらも髙田vsミルコのプランが用意されてることを明らかにした。

拝啓　プロレスラーの皆様

週プロ　NO.1051

# オレがミルコとやってやるという選手がだれひとりいない。みんな他人ごとじゃないですか。これはちょっと寂しいですね

（石井館長）

週プロで特集されたレスラーたちの「藤田vsミルコ」の感想を読んだ石井館長の挑発発言。もともとプロレス側は猪木主導であるためK-1に挑むのは「猪木軍」という認識があったのだが、この石井館長の発言にたった一人、応えたレスラーがいた！　その男とは……。

9月24日『PRIDE.16』終了後の記者会見

## “プロレスラー”である僕らが何をやらなければいけないかを考えたときに、優先順位がミルコを倒すことだ。

「このままじゃプロレスラーは腰抜けばかりかという形で終わってしまいますから、あの呼びかけには応えなければいけない。自分自身をやな性分だと思いますけど、それも高田なんで」と、高田延彦であるために、プロレスラーがプロレスラーであるために石井館長の呼びかけに立ち上がった高田は、その呼びかけに反応しないレスラーについて「タマを抜かれてるね、みんな。（中略）やっぱり声が出す人がいて当然の世界だから、強さを追い求めるというのであれば」と、タマを抜かれたプロレスラーたちに失望の色をみせながらも「もし“待ってくれ”という選手がいれば譲りますので小川選手なり、中西選手でもいいし、健介でもいいしね」と、レスラーたちの奮起を期待した。

いざ“聖戦”へ

9月26日　共同会見

## 今はK-1というハードルを越えることが大事

一時は怒り心頭だった小川に「プロレスラー代表として、K-1のヤツ出てこいという気持ちになって、小川にも舞台に立ってほしい」と共闘を呼び掛けた高田。「K-1を倒してからの方が、いろいろなものを巻き込んでいけて面白いはずだ」と、本来の“忘れ物”であった小川をあらためて見据え、ミルコに挑む気構えをみせた。

週プロ　NO.1055

## それではよくないってことをもっともっと雑誌でうたっていかないとダメなんじゃないの。（中略）それができないなら、オレとミルコのことなんて扱うなよ。

新日本のだらしなさを言及しない週プロ・佐藤編集長に問いただした高田の言葉である。そのほかにも「どう思ってるの？　だらしないと思ってるの、プロレスラーは」と質問を浴びせ、それに答えようとする佐藤編集長を遮り「講釈はいいからさ。ようするにだらしないと思ってるかどうかだよ、これを載せたわけだからさ」と、先の石井館長の発言を載せた真意を迫り「クサイものにフタをするのがさ、いままでの専門誌の役目だったけどね、それがプロレスラーをダメにしてるんだよ」とマスコミの報道姿勢についても問題提起。「はあああ」と答えに詰まる佐藤編集長に「はあじゃなくて、そうじゃない？」と、最初から最後まで厳しい姿勢を崩さない高田であった。ガンバレ、ケンファー！

● 10月3日　石井館長会見

# 髙田延彦vsミルコ・クロコップ正式決定

「髙田戦の来日に完全の保証はないが、可能であれば闘うことになる」と、名乗りをあげた髙田とのミルコの一戦を正式決定とした。K-1福岡大会のようなテロの余波がなければミルコが『PRIDE』のリングに立つ。

SRS-DX No.55 ●

## よく出てくるところ（入場のこと）は素敵って言われるんでね（笑）。帰るところはみっともないんだけど、出ていくところはシビレさせてあげようかなと（笑）。

ホント、入場から退場までシビレさせてくれッ!　髙田、頼むぞーッ!

VS

● SRS-DX No.55

## 非常に勇敢な選手というのが第1印象だね

「なんのために闘うかって言ったら、K-1のためでしかない」と言うミルコと"プロレスラー"のプライドのために臨む髙田の激突は藤田vsミルコを越える"プロレスvsK-1"を感じさせる1戦となるのは間違いない。ドームではどちらの魂が立ち昇るのか!?

## 11・3 東京ドーム決戦　闘りはこう見る

# 髙田は一発でやられるでしょう

（太田章）

前田vsカレリンのとき同様に非常に挑発的なコメントである。あのときは結局、前田に謝りいった太田先生だったが、ホント懲りてない。きっと、一生直らないでしょう（アントン調）。

● 9月25日　共同会見

## 髙田選手は偉いな。自分で誰とやればいいのかよく分かっているし、勇気がある

（石井館長）

引き寄せられたというよりも、自分から飛び込んでいった髙田の勇気はプロレス、K―1、マット界に何をもたらすのであろうか？

● SRS-DX No.55

## 何で若いやつが「ミルコとやる!」って言わないんでしょうね？

（佐竹雅昭）

「オマエもな!」と一瞬思ったが、佐竹国王も結構いい御年齢。だからこそ40歳になって立ち上がる髙田の凄さがわかるのである。

● SRS-DX No.55

## 同じプロレスラーとして名乗りをくれた、男気に対して全面協力したいから

（藤田和之）

自分が『PRIDE』に参戦後に登場するヘビー級の安田や高山に対しては「2匹目のドジョウ」呼ばわりで噛みついた藤田ではあるが、先駆者の髙田総裁のミルコ戦にはノー問題!

● 9月25日　大阪のホテルにて

## 人がどうとかよりも、おまえが何をしてぇのか、それを見せてみろ。自分自身の問題に人を巻き込むな!　ファンの目だって、もうあざむけない

（アントニオ猪木）

これは批判的であり、期待も寄せるアントン総裁の深～いお言葉なのか!?　とりあえず東京ドームでは「もうあざむけない」の言葉通りリアルな髙田の姿が浮き彫りになる。それでは皆さんッ、東京ドームに行きますかーッ!

# ★★★★★★★★PRIDE.17 カード情報★★★★★★★★

ガイジン戦線に新時代! ノゲイラとヒーリングによる『PRIDE』ヘビー級王者決定戦が東京ドームを揺るがせる! 今号の本誌インタビューではタイトル戦出場を否定したノゲイラだが、「いつ何時誰とでも闘うヒクソン」との異名通りヒーリング戦に出陣! ノゲイラの息を飲むような"魔法の寝技"で荒馬を翻弄しまくるのか? 最強を決めるにふさわしい1戦だ!

魔法の寝技か

荒馬の爆発力か

## タイトル戦は来年と明言したノゲイラ急遽"最強"獲りへ!!

『PRIDE』ヘビー級チャンピオンシップ

## アントニオ・ホドリゴ"ミノタウロ"ノゲイラvsヒース・ヒーリング

國士舘柔道部て培った力はヘンゾに通用するか?

## ヘンゾ・グレイシーvs小原道由

新日本プロレスとグレイシー柔術が3度目の遭遇! 噂の小原がヘンゾと異色の対決だ! "1・4事変"小川vs橋本後の乱闘では大暴れし血気盛んさをアピールした小原。気の強さは國士舘柔道部、アニマル浜口ジムで培ったものがあるだけに単なる犬死にはならない!?

アリに敗れた　アレクに勝った

## 石川雄規vsランペイジ・ジャクソン

"情念"はドームで死ぬか!? 瀕死寸前の石川雄規がどん底から這い上がる 圧倒的な強さでアレクに勝利した暴走ホームレスに敵討ちの1戦となる石川社長 極めの強さは知る人ぞ知る力を持っている石川社長だが、果たしてジャクソンのパワーを封印できるのか!? 社長、やれんのかー!

元・正道会館　元・大道塾王者

## 佐竹雅昭vsセーム・シュルト

巨大なドームに巨大なシュルト出現 小錦を苦もなく葬った格闘大巨人が佐竹と空手王者対決だ とにかく身長差があるだけに佐竹の苦戦を免れないと思うか、ホーストチャンピオンをぐらつかせた佐竹のローキックで巨塔が崩壊する可能性も大だ! いざ、空手大戦争!

### 九州発上陸! 福岡でやりますかーッ! 『PRIDE.18』開催

【日時】12月23日(日)16:00(予定)
【場所】福岡マリンメッセ　【券売】11月11日 特別先行電話予約

### 直前!『PRIDE.17』

【日時】11月3日(土)17:00　【場所】東京ドーム
【料金】VIP席:¥100,000　RRS席:¥23,000
スタンドS席:¥13,000　スタンドA席:¥7,000
【お問い合わせ】DSE:TEL.03-5775-5700

女子格闘技界が乱れ
混乱したときこそ
マーティンの出番！

10・31「AX」北沢タウンホール
星野vs久保田戦を見ないと
一生後悔するぞ!!

# 「AX」でもいい

# 女子総合格闘技よ、たくましく育ってくれ!!

構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by matsu (Two three)

## 9・27 SMACK GIRL ブッチレビュー

母強し!　CHIHARUだぴょん!

スマックに二度目の登場となる千春改めCHIHARU。この日はSPWF時代に対戦経験のある坂口一美と対戦。しかし木口道場で練習を積むCHIHARUの圧勝に。強いぞCHIHARU!

次は太陽ケアとヤリたいです!

暴走ファイトでスマック3連勝の篠原光。試合後、対戦希望者を聞かれ、上のセリフを。数日後、めでたく希望が叶い激しいスパーリングが実現したそうです。それは良かった。

そのコスチューム、グーです!

現役のレースクィーンでもある中嶋智希。この日のコスチューム姿に秒殺されてしまった観客もチラホラ。残念ながら試合は負けちゃったけどね　次も期待してます

元全女(クラッシュ時代)の加藤悦子と闘ったナナチャンチン。残念ながら、また負けちゃいました

禅道会対三晴塾の初対決はレベルの高い攻防が展開されたが、2人とも黒ずくめだと見分けづらいな

このままフェードアウトしたら

# 正直、許さん!!

# ショック!!

スマックガール年内活動休止!!

# 「スマック」でも

ある日の真夜中、一通のFAXが編集部に送られてきた。以下は、送られてきたFAX内容。

「同業他社による同種の興行開催が発表されたため、弊社内で協議を重ねた結果、今月予定した『渋谷系女子格闘技SMACK GIRL』および年末開催を予定した『女子総合格闘技ReMix』の興行開催を延期させて頂く事になりました。

同業他社が開催する興行の内容が弊社興行と酷似しているため、このまま同種の興行が同時期に開催されれば、出場選手へ与えるさまざまな影響をはじめ、発展途上にある女子総合格闘技界に混乱が生じる可能性を考え、このような判断をとらせて頂きました。開催を楽しみにして下さっている方々には御迷惑をおかけしますが、暫くの間は静観させて頂きたいと考えます。その間、体制を整えて、よりパワフルで、よりエンターテイメントした興行を提供できるよう準備していきます」

FAXの送り主はスマックガールプロデューサーの篠泰樹氏。簡単に言ってしまえば、「紙プロ」でも大々的にプッシュしてきたスマックとReMixの今後の興行予定が白紙になったということだ。

外国人選手を数多く招聘しているにもかかわらず客入りの方はそれほど芳しくないReMixはさておき、回を重ねるごとに集客もアップし、渋谷のクラブATOMに満員の客を集め異様な盛り上がりを見せてきたスマックガールまでもが、なくなってしまうなんて、なんてこったいの一言。

確かに主役の星野育蒔を"同業他社による同種の興行"「AX」に持っていかれたのも、その要因のひとつだろうが、まだまだ歩き始めたばかりの女子総合格闘技界で足の引っ張り合いをしたところで両者リングアウトが関の山である。

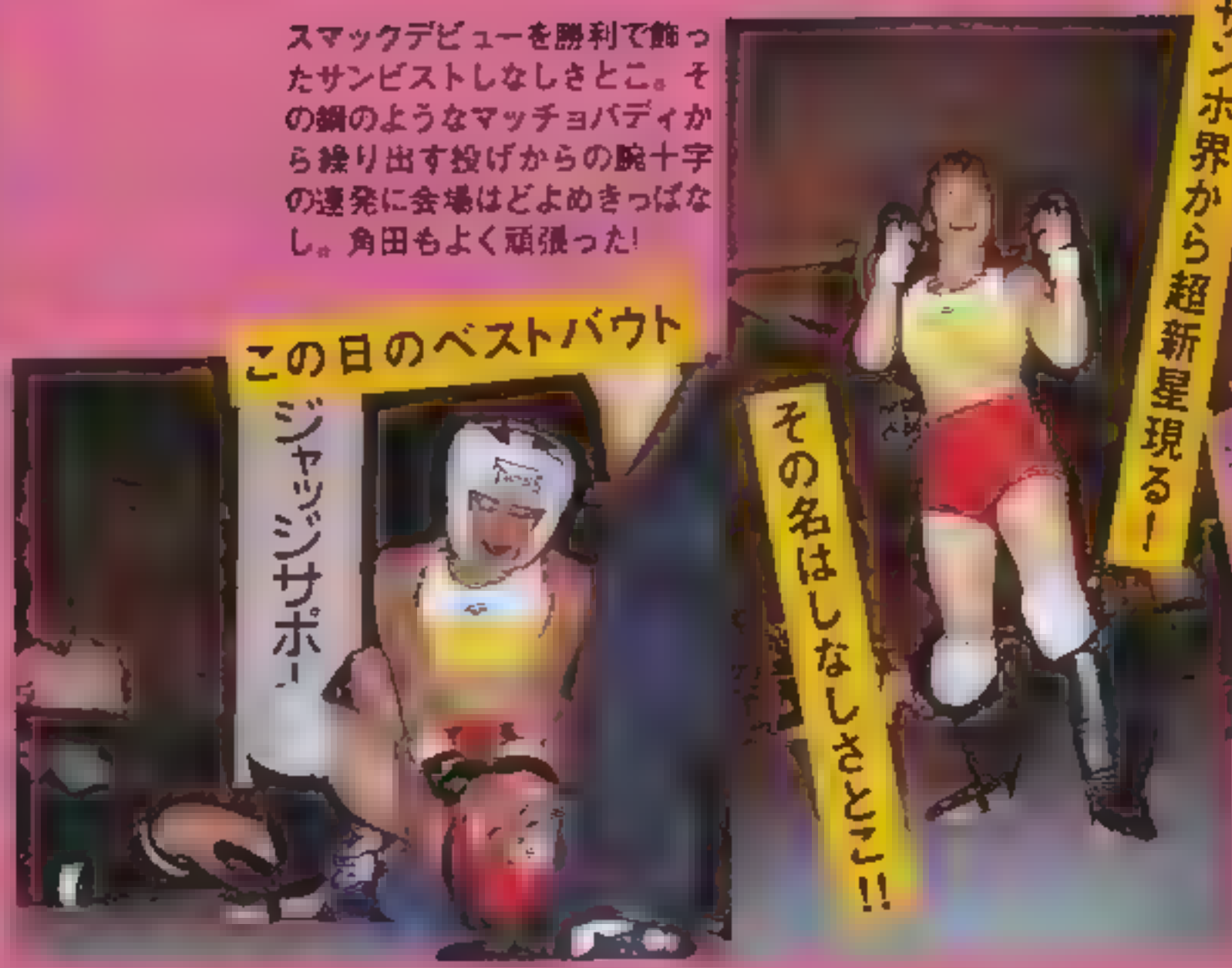
『PRIDE』、リングス、パンクラスに代表される男子総合格闘技、同じ女の子同士の闘い女子プロレス、それらとは似て非なる摩訶不思議な魅力が女子の総合格闘技にはあるのだ。

篠氏はパワーアップして再び女子の総合格闘技を盛り上げていきたいということで現在は水面下で暗躍中（笑）。それはそれで期待したいところだが、その間、新たに発進する「AX」にこのジャンルを盛り上げていってもらうしかないのだ。幸い「AX」では星野育蒔という男女の枠を超えたスター選手を抱えている。ここはひとつ、騙されたと思って、ジャンルの申し子・星野育蒔を見に行ってごらん。きっと何か凄ェものを感じるでしょう!

全試合終了後、篠原光とナナチャンチンが一緒にスマックでやっていこうと思っている人がいたら上がって下さい」と言うと、高橋洋子からドレイク森松までリング上に勢揃い。新生〝の二の舞はゴメンだ!

**女子総合格闘技AX　AX旗揚げ戦「We Do The Justicee」**
10月31日（水）東京・北沢タウンホール　開場18:30／開始19:00

【入場料金】スーパーシート　4,500円（当日：5,000円）
特別リングサイド　3,500円（当日．4,000円）
当日立見　3,000円
中高生・55歳以上　1,000円（当日のみ、要身分証）
【発売場所】チケットぴあ、ローソンチケット、後楽園ホール、DDTステーキ、米里倶人満
【問い合わせ】AX事務局　03-5286-7921

張替相手に横綱相撲で秒殺勝利の久保田有希。そして10月31日のAX北沢大会でスマックガール無敗同士による星野育蒔対久保田のスマック頂上対決がAXで実現! 勝者はどっちだ!?

スマックデビューを勝利で飾ったサンビストしなしさとこ。その鋼のようなマッチョバディから繰り出す投げからの腕十字の連発に会場はどよめきっぱなし。角田もよく頑張った!

構成／編集部
撮影／遠藤政文
コーディネーター／川崎浩市
designed by matsu (Two three)

# デイヴ・メネー
## UFC世界ミドル級王者に！

# 貧乏脱出大作戦遂に成功!!

## 9·28
## UFC 33 "Victory in Vegas"
米国・ネバダ州ラスベガス　マンダレイベイ・イベントセンター

ライトヘビー級チャンピオンシップ 5分5R
○ティト・オーティス(判定3-0) ウラディミール・マティシェンコ×
※ティトが王座防衛

ライト級チャンピオンシップ 5分5R
○ジェンズ・パルヴァー(判定3-0) デニス・ホールマン×
※パルヴァーが王座防衛

○チャック・リデル(判定3-0) ムリーロ・ブスタマンチ ×

ミドル級チャンピオンシップ 5分5R
○デイブ・メネー(判定3-0) ジル・カスティーリョ×
※メネーがミドル級王者に

○中尾受太郎(2R 0'15" KO) トニー・デ・スーザ

○ヒカルド・アルメイダ(1R 4'06" 三角絞め) ユージン・ジャクソン

## 『UFC 34 HIGH VOLTAGE』予定カード
11·2　ラスベガス・MGMグランド

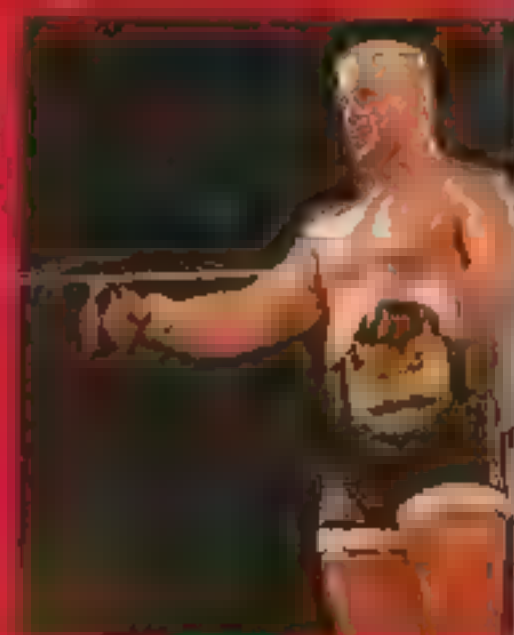
UFC世界ヘビー級チャンピオンシップ
ランディー・クートゥアー vs ペドロ・ヒーゾ
UFC世界ウェルター級チャンピオンシップ
カーロス・ニュートン vs マット・ヒューズ
宇野薫 vs BJ・ペン
リコ・ロドリゲス vs ピート・ウィリアムス
ジョシュ・バーネット vs ボビー・ホフマン

**ティト、王座防衛**
日本のファンの想像以上にスーパースターの道を歩んでいるティト。当初はビクトー・ベウフォートとの夢の対決が組まれていたが、ビクトー欠場により、近藤有己を下したマティシェンコと激突。ティトはレスラー相手にグラウンドでも優位に立ち判定勝ち。

**トップチームの重鎮ブスタマンチ敗れる！**
『PRIDE.16』でガイ・メッツアーをKOしたチャック・リデルと、昨年パンクラスで菊田を破った"ブラジリアン・トップチームの重鎮"ムリーロ・ブスタマンチの注目の一戦は、打撃で勝るリデルが僅差の判定勝ち。

**ティトとホイスが驚愕の握手！**
D・ヘンダーソン、トップチーム勢など、豪華なメンバーも訪れたこの日のUFC。一番のサプライズはホイス・グレイシー8年ぶりのUFC登場。王者ティトとの2ショットも見られた。はたしてホイスがこれら現在の闘いに加わることはあるのか？

**9·29 KOTC11、カリフォルニア州　サホバ・カジノ**
**"国歌吹奏蹂躙男"ホフマンOBAKEをKO!**

[illegible]

"四畳半格闘家"デイヴ・メネーの貧乏脱出大作戦、遂に成功！

今年2月のリングスKOK両国大会で、金原と壮絶な殴り合いを展開。その日のベストバウトとも言うべき激闘を見せたデイヴ・メネーが念願のUFC世界ミドル級チャンピオンの座に輝いた。

メネーと言えば、KOK前のWOWOW現地取材で明らかになった貧乏ぶりが有名。MMA不毛の地である地元ミネソタでジムを経営（ちびっ子相手にMMAテクニック伝授…）する傍ら、うらさびしいバーでドアボーイをして生活費を稼ぐ日々。そして住まいと言えば、日本大学生のような散らかり放題のボロアパートである。

そんな神田川生活を強いられながらも、メネーは明日のチャンピオンを夢見てコツコツとトレーニングに励み、遂に総合格闘技の花形である、UFCチャンピオンの座にまで上り詰めたのだ！

王座奪取を奪取した、この日のギル・カスティーヨ戦でも、決して折れない心で最後まで闘い続ける粘り腰での判定勝ち！

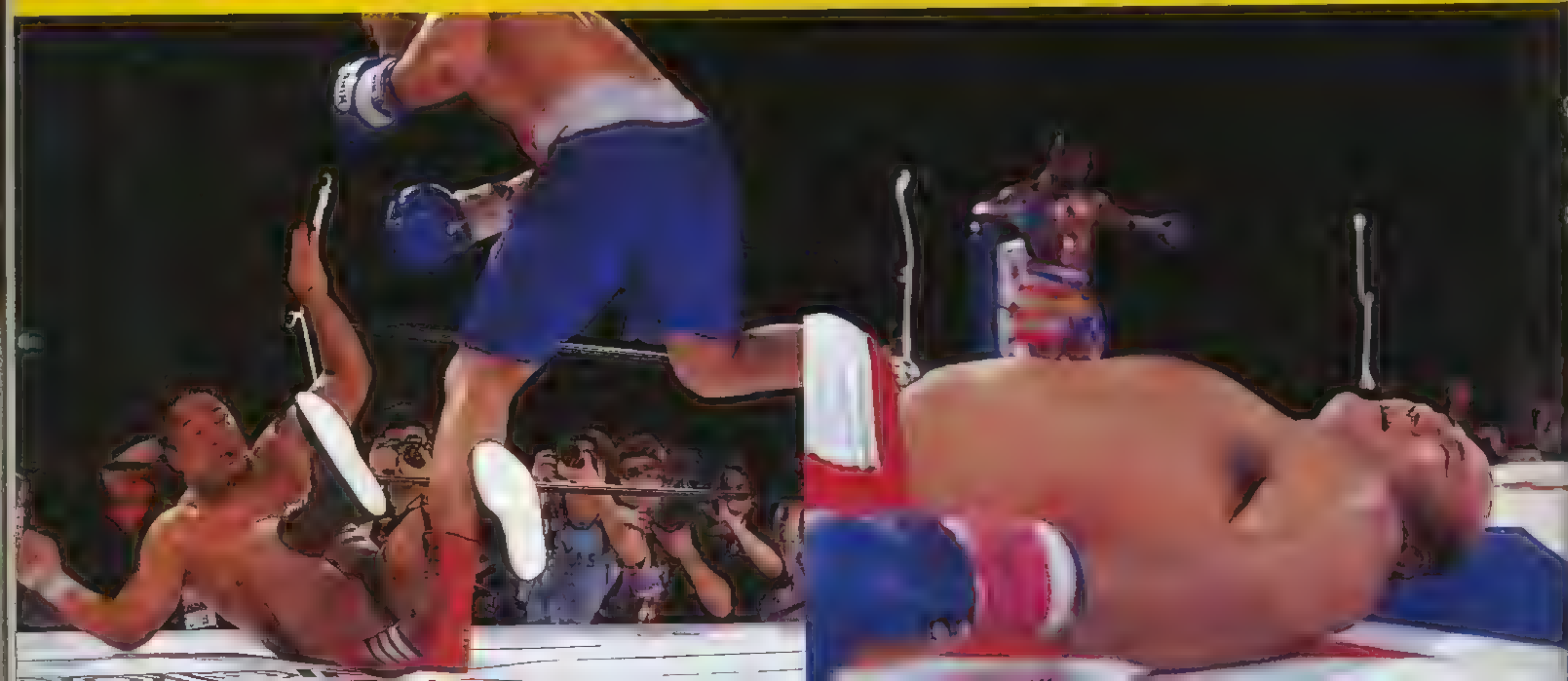
勝因は貧乏脱出への執念とも言ってもいいだろう。次はぜひとも成り上がったメネーの闘う姿を日本でも見たいものである。

10.14 バトラーツ NKホール大会

遂に出た“冬眠宣言”!!
石川社長、どうするんだ!?

# 結局のところバトラーツは何に負けたのか？

まるで悪い夢でも見ているようだった。『PRIDE』再登場を賭けて元暴走ホームレス男との闘いに挑んだアレクは何一ついいところなく“完敗”を喫した。誰もがシャレだと思っていた石川雄規vsモハメド・アリは、石川社長の無残な“TKO負け”というシャレにならない結果に終わった。そして、全試合後に控室で飛び出したバトラーツの「冬眠宣言」！ 結局、石川は、アレクは、そしてバトラーツは何に負けたのか？　本誌はバトラーツの10・14NKホール大会を鋭く、厳しく、分析してみた。果たして、出口はホントに見えたのか!?

構成／スモーノブ　撮影／乾晋也　designed by きおとめの事務所

メインでモハメド・アリにTKO負けを喫した

# 石川雄規

# 遂に飛び出した

みんな今日、負けちまったけどさぁ、俺の人生の中で、タオルの投入なんてねぇからな!! 何回でも立ち上がってやる!! みんな見ててくれッ!!

(試合後のマイク)

……今までさ、いろんなモン背負いすぎてさ、やりたいこと出来なかったからさぁ、いい機会だから、み〜んな身軽になって、本当にこれから自分の目指したい闘いを、みんな揃って行きたいなぁ。これは、ひとつ屋根の下じゃなくて、今の頭数の全員の屋根の数だ。だから、バトラーツは、暫く自主興行を打たない! しっかり自分を見つめ直す。その上で俺のやりたいことを見つけるから、そん時にまた動き出す。何時になるかわからん……(中略・その後「休業宣言ですか?」と記者が質問)休業じゃないですねぇ。冬眠ですね。ま、似たようなものかもしれないけど、それは皆さんの感性で表現していただけますか。どうとっていただいても結構ですんで……(中略)だから、今いろんな雑音があるけど、言ってみればそれはタオルの投入だね。冗談じゃねぇ。世界中が束になって俺にタオル投入しても、俺の人生は降りねぇよ。何度でも立ち上がるぜ。リング上での今日の試合は負けちゃったけど、俺の人生の勝負はまだまだこれからだ。(中略)俺はまだまだ死なないから心配しないで。「燃える情念」は、まだ灰になってないよ、まだまだ……。

(控室でのコメント)

**雄規―アリ状態の果てに壮絶なるタオル投入負け**

「ひょっとして12Rやって引き分け?」というムードが漂いだした7R、石川は4回のダウンをする。見かねたセコンドの臼田がタオルを投入した。ちなみにこの試合を裁いたのはUWF・リングスの元レフェリー北沢幹之氏。

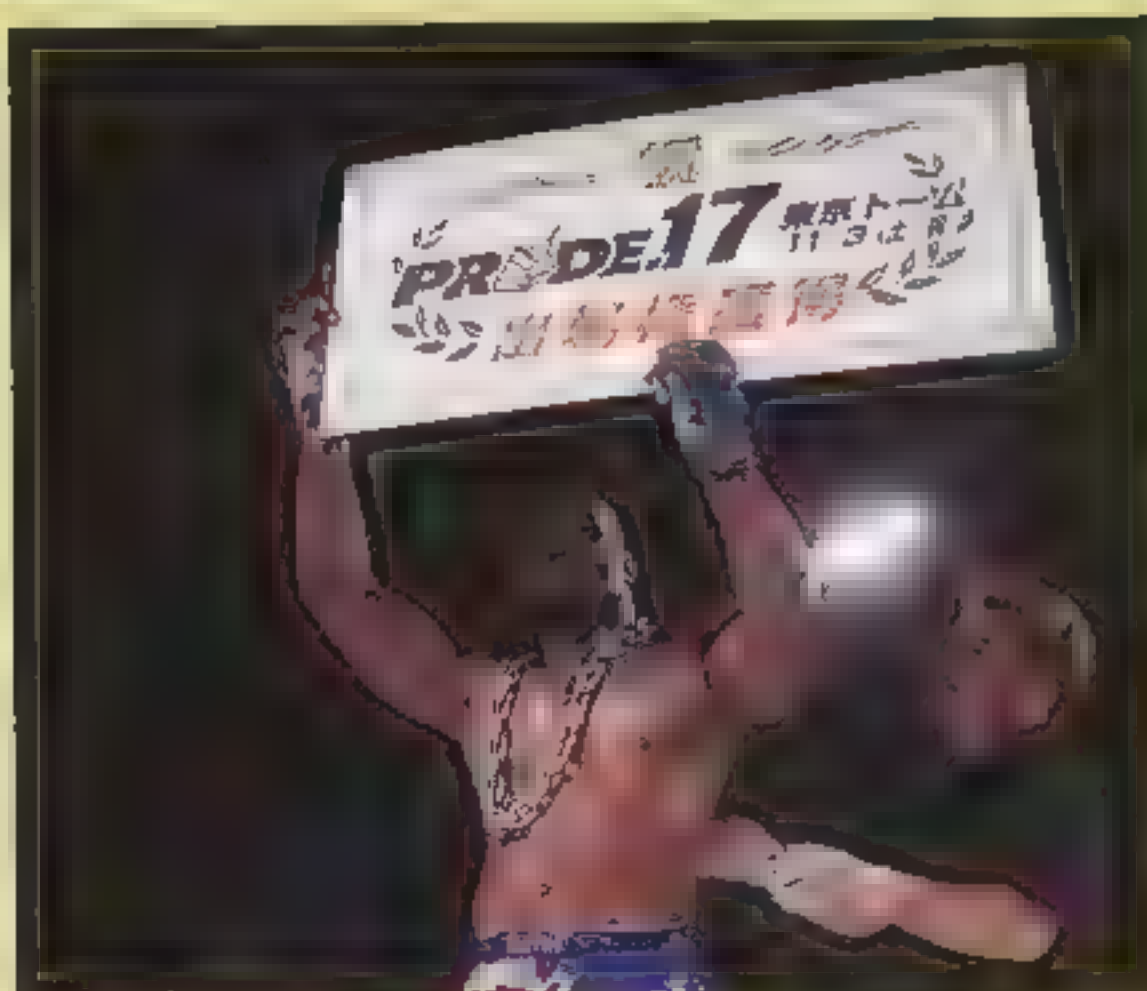
次第に攻め込まれてフラフラになっていく石川。しかし、目だけは死んでいなかった。蹴りをキャッチして足関節を何度か極めかかったが、ロープ・エスケープと「グランド30秒でブレーク」のルールに阻まれてしまった。

序盤は猪木・アリ状態ならぬユーキ・アリ状態。そこから「アリ・キック」で攻め込む石川。それをコーナーに飛び乗ってかわすアリ。あの名場面が一瞬蘇る。しかし、アリの足に血栓が出来るまでのダメージは与えられず。

# 「バトラーツ冬眠宣言」!! 両者の"敗戦の弁"を読め!!

10.14 バトラーツ NKホール大会

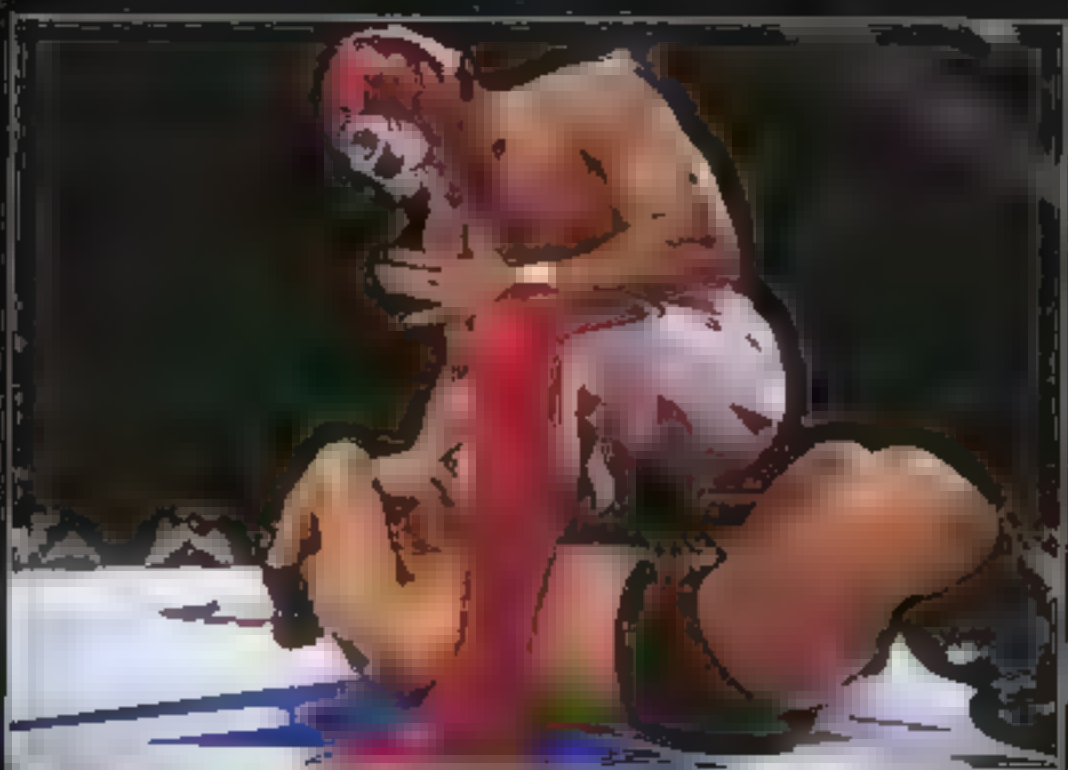
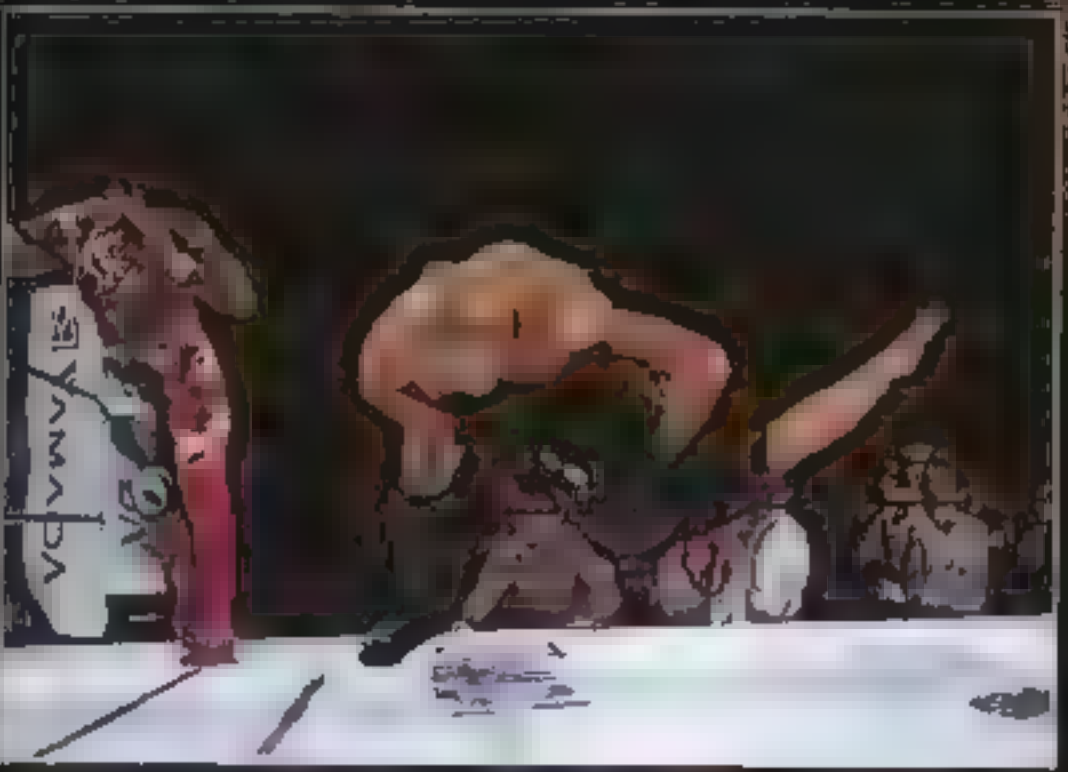
## ランペイジ・ジャクソンに敗北した アレクサンダー大塚

## ジャクソンが強過ぎたのか？ それともアレクが弱かったのか？

勝ったランペイジが『PRIDE.17』出場権を獲得。ちなみに『PRIDE』で金を稼いだので、現在では"元・暴走ホームレス"という状態のようだ。さあ、石川社長はこいつに勝てるのか？

金的攻撃のダメージが残るアレクに鬼のようなパンチを降り注ぐ元・ホームレス男。桜庭戦でも垣間見せた桁違いのパワーで、アレクの顔面は見る見るうちに血に染まっていく。２Ｒ終了後、レフェリーが試合を止めた。

試合開始早々、アレクはタックルを仕掛けるがランペイジはビクリともせず。倒して、腕を極めにかかっても腕は少しも曲からなかった。ちなみに、二度の金的でアレクのファールカップは割れたそうだ。すげえパワー！

# プロレス」がNKホールに蘇る!

# 輝いた男たち!!

マウント掌底から腕十字など、スムースな連携技を見せたドス。謙吾戦は短すぎてわからなかったが、このルールでも存分に光ることが出来る逸材であることは証明された。次回、「DEEP」にも期待したい！

ブチ切れた村上はドスのマスクを剥いだだけではなく島田裕二レフェリーをもきれいに投げ飛ばした！それにしても見事な受け身である。そのスキにドスは、DEEPで着けたVT用のマスクを装着。ナイスプレーだ

## ベストバウトは ドスJr. vs村上和成

メイン、セミと未来への希望が見えない辛い展開となってしまった今大会だが、本誌はこの2試合を将来に対する希望も込めて大きく取り上げてみたい。

まず、今大会で文句なしのベストバウトだったのはルチャリブレ・ルールで行われたドス・カラスJr vs村上和成の一戦だ。ドス派手な入場コスチュームを身にまとい名曲「スカイハイ」で入場するシーンからはオーラが漂っていた。パンクラスの謙吾を骨折させたような見事な投げ技を連発したかと思えば、関節技の入り方も非常にスムーズ。そして親父譲りのフライング・クロスチョップまで披露したが、こちらはまだ親父の域には達していないか。村上はそんなドスにマスク剥ぎで反撃！ さらに暴走ついでに島田レフェリーをキレイに投げ飛ばして反則負け。アッという間に終わってしまったが、ドスの躍動感と村上の殺気が際だった素晴らしい内容だった。

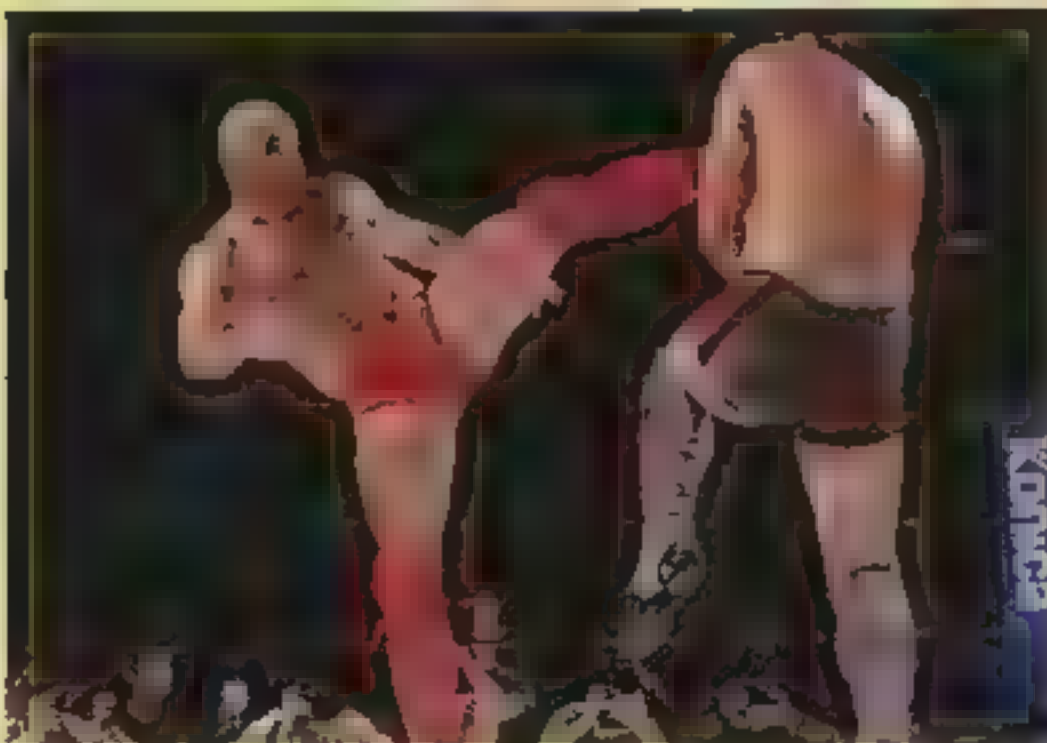
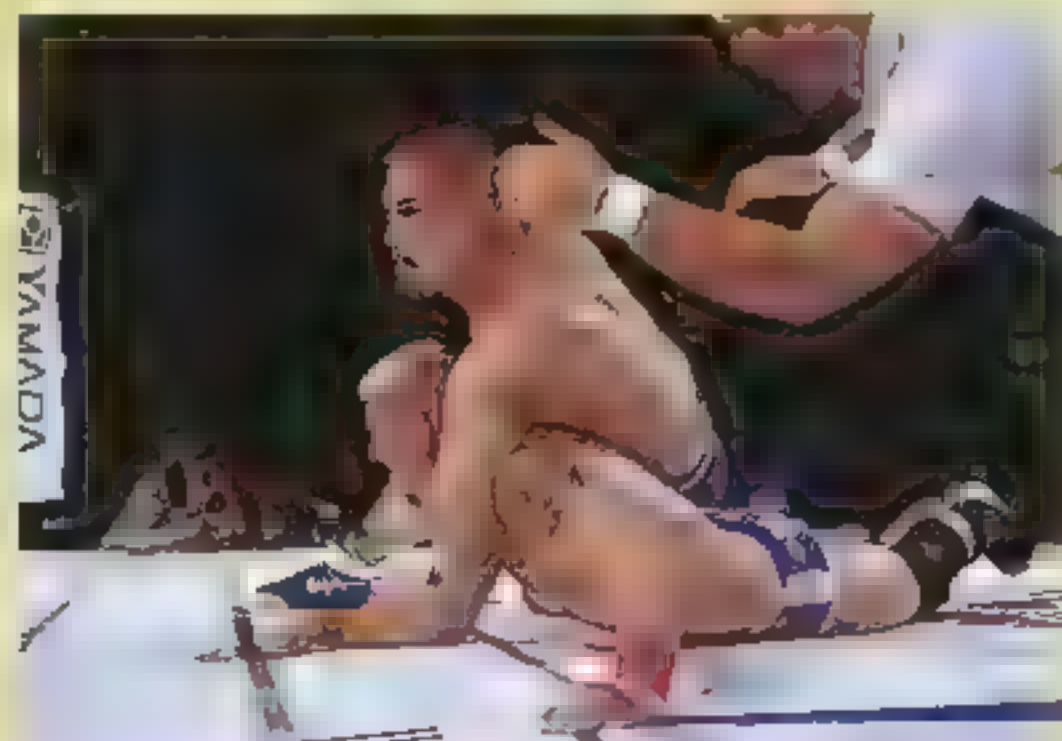
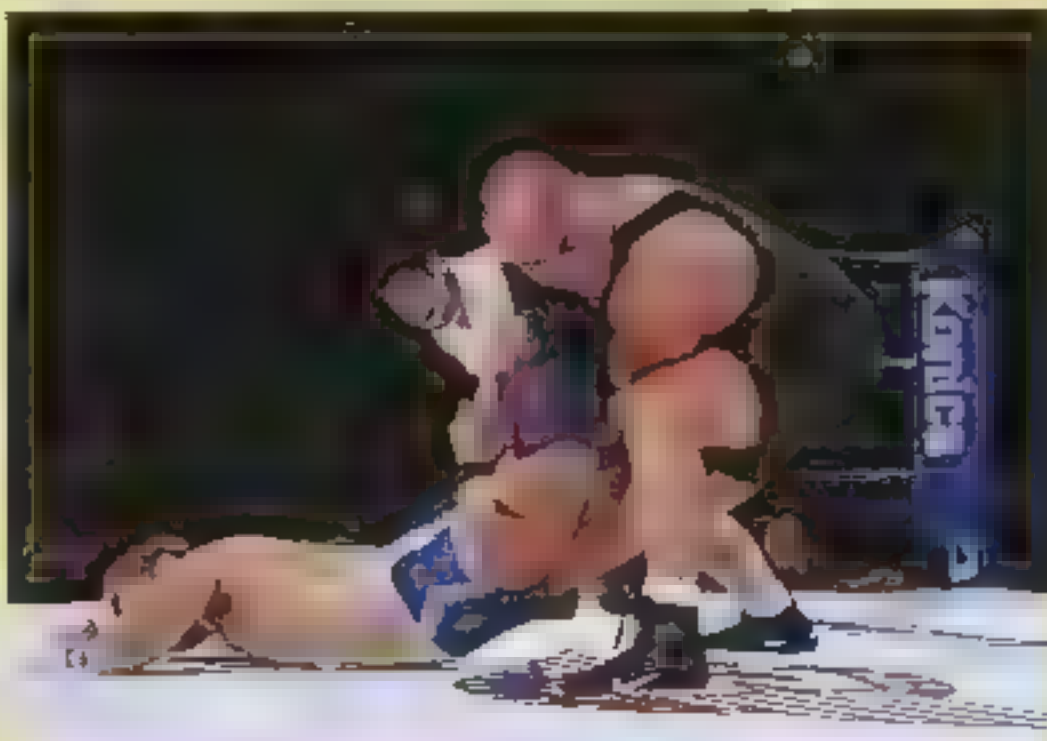
そして、もうひとつのベストバウトは小野武志vsタノムサク鳥羽。軽量な両者の対戦だったが激しい打撃でドツキ合う姿は初期バトラーツを彷彿とさせた。特に強烈だったのはタノムサクのヒザ蹴り。小野の顔面にクリーンヒットして凄い音が響いた。DDTファンに言わせると、タノムサク最大の見せどころである「やられっぷりの良さ」が発揮できていなかったようだが、それでも十分OK。スタンド・グランド両面で厳しい攻めを見せた小野も非凡な格闘センスの持ち主だ

10.14 バトラーツ NKホール大会

# 初期バトラーツの「ケンカ格闘

# 暗闇の中で光り

## もっと見たいぞ 小野武志 vs タノムサク鳥羽

安田忠夫vsモハメド・ヨネは体格差を利した安田が1分26秒でヨネをフロントチョークで撃破。試合後、「猪木軍でオレが一番弱いんだ！」と憤慨していた。怒りの矛先は、猪木軍入りした石川とアレクだろうか？

ルッテンにとっては昨年大晦日の猪木祭り以来の試合。なんと、今回はUWFルールである。正直期待はしていなかったのだが（正直スマン）、これが意外にも好試合に！　ルッテンとカールの技術の高さが証明された試合。

『PRIDE.11』でサクに秒殺されたシャノン“ザ・キャノン”リッチが、サクの後輩・松井と対戦。松井の完勝だったが、意外にもフィニッシュはSTF！　もっと松井のプロレスは見てみたいのだが……。

アメリカとイランのハーフ、トラジ・ムンスリーが来日中止となったカーロス・ニュートンの代打として登場した。格闘技術はありそうだが、プロレスは・・…。なぜビッグマッチで臼田は相手に恵まれないのだろう。

けに、こうした闘い方だと非常に光る！　もう一回見たい!!

この2試合はズバリ言って、見事な「ケンカ格闘プロレス」だった。初期バトラーツが体現していた〝熱い魂のぶつかり合い〟だった。こういう〝ムキになった闘い〟は、もうバトラーツのリングで見ることが出来ないのだろうか？　それはプロレス界にとって大きな損失だと言っても過言ではないはず。このまま消えてしまうのは、あまりに惜しい！　蘇れ、初期バトラーツ伝説！

**10.14 バトラーツ NKホール大会**

# 〝火〟の不始末にケリをつけるために……

# 石川雄規、『PRIDE.17』（VSランペイジ・ジャクソン）出陣!!

文/スモーノブ

10・14バトラーツNKホール大会の試合後、石川社長は「バトラーツは当分自主興行を打たない」と宣言した。96年4月の旗揚げから5年6カ月で、その活動に一つの幕が降ろされた。

この日の大会は全体を覆い尽くした終末感が観客に重くのしかかっていた。エッセ・リオスのドタキャン、カーロス・ニュートンの来日中止、約3割しか埋まらない観客席、いいところなく敗れ去ったアレク、そしてボコボコに打ちのめされた石川社長の無残なTKO負けで終止符は打たれた。何の希望も、明るい光も、いまのバトラーツには見い出せなかった。終わるべくして終わった……そんな印象しか残っていない。

こうなってしまった原因を数え上げたらキリがない。特にZERO－ONEの「火祭り」不参加問題が勃発してからは、坂道を転げ落ちるどころか滝壺に落ちるような勢いで評価がガタ落ちしたことは記憶に新しい。その他にも池田大輔や田中稔といった旗揚げメンバーの相次ぐ退団、「PRIDE」やノアやZERO－ONEでエースのアレクが評価を落とし続けたこと、さらにはインターネット野郎の格好の標的となった石川社長の「個人的なビジネス」（本人談）……数えだしたらキリがないのだが、こうした問題点が噴出するキッカケとなったのは何だろうか？　思い当たるのは98年に行われた両国国技館大会である。

両国以前のバトラーツはホントに素晴らしい団体だった。〝バチバチ〟と呼ばれた過激なファイトスタイルで興奮と熱狂と感動を生み出していた。メジャー団体の興行から、いわゆる〝前座プロレス〟が消えたときにバトラーツは古くて新しい〝前座プロレス〟を復権させてしまったのだ。たとえ顔面だろうが力一杯蹴り上げ、関節技も限界以上に絞り上げる。気迫に満ち溢れたプロレスだった。そこには、まぎれもなく「闘い」があった。僕はその当時の初期衝動のようなバトラーツのプロレスを見て、いてもたってもいられずに「紙プロ」に入社してしまったほど。ホントに人の人生を変えてしまう、そんな凄まじいプロレスだったのだ。「紙プロRADICAL」がそんなバトラーツを創刊号から応援し続けていたのは、ご存じの通り。出不精な本誌編集部の人間ですら、何人もバトラーツの会場に足を運んでいたくらいだ。会場には凄まじい熱気が充満していた。

それが両国大会を境に風向きが変わり始めた。バトラーツが〝バチバチ〟を捨ててしまったのだ。あの大会は他団体のビッグネームが参戦した。いつもより華麗で〝よそ行き〟な試合ばかりだった。当時の団体の規模を考えれば、両国大会は大きな賭けだったし、広い会場で多くの観客を満足させるためには仕方がなかったのかもしれない。しかし、それによって失ったものは計り知れないほど大きかった。お祭り気分の中で大きな分水嶺を迎えたバトラーツは、ここから緩やかな下降線を辿っていくことになる。

「オレの人生にタオル投入はない」と語った石川。バトラーツは全員がフリーになり、新たなる形でスタートを切る。さあ、どうなる？

バトラーツでしか見ることが出来なかったはずの〝前座プロレス〟は激減し、いつの間にかどこでも見られる前座のない〝普通のプロレス〟ばかりになっていた。グランドの攻防は激減、次第に華麗な飛び技が目立ち始めた。感情を剥き出しにしてやりあう場面も少なくなっていった。選手は次第に他団体に〝探偵〟に行くことが多くなり、そこで次第にプロレスラーとしての自我に目覚めていったのかもしれない。

〝前座プロレス〟の頃は選手全員が横並びだったが、アレクが「PRIDE.4」でマルコ・ファスに勝利したあたりから次第に序列が出来始めた。そうなると選手間の〝ライバル意識〟が芽生える。そのアレクも、「PRIDE.GP」のボブチャンチン戦の後は伸び悩んだ。海外遠征を経て、アレクが内部批判の発言を始めた頃には選手間にやり場のないストレスが積もりまくっていた。それはリング上にも悪い意味で影を落とし始めた。

この頃になると編集部の人間も、必要最小限の人数しか会場に足を運ばなくなっていた。選手を取材をしても他の選手に対する痛烈な言葉ばかりが飛び出してくる始末。掲載したものもあれば、とても載せられないようなものまである。〝前座〟を卒業した選手達は、それぞれ目指す方向を見つけ始めたようだった。

もはや団体としてのバトラーツに人の人生を変えてしまうほどのエネルギーはなくなりつつあった。ここで選手を責めるのは筋違いというものだろう。いつまでも〝前座〟ではいられないのだ。どんな選手でも成長と共に洗練されていく。初期衝動だけで〝前座プロレス〟を続けるのは無理がある。

そして、〝前座プロレス〟はバトラーツから姿を消した。

そして、前述した「火祭り」不参加問題がジリ貧だったバトラーツに決定的なダメージを与える。その原因となった橋本と猪木の衝突は和解の方向へ進んでいるようで、結果的にバトラーツが評価を落としただけという皮肉な結果に終わりそうな雰囲気だ。だが、こうなった原因は誰のせいでもないバトラーツが自ら招いた結果である。そんな石川社長とアレクの猪木軍入りを「あいつらはバトラーツが潰れた後のことを考えて行動してるだけ」などというような指摘が元・同僚の池田大輔の口から飛び出している。

「まさか!?」と思ったが、なんとこのタイミングで石川社長の「PRIDE」参戦が決まりそうな雰囲気だ。もう何を勘繰られようとも仕方ないだろう。11・3、石川が対戦する相手は〝暴走ホームレス〟クイントン・ランペイジ・ジャクソンになる見込みだ。アレク戦を見る限り、この男は桁違いのパワーを誇るかなりの強者。しかし勝っても〝おいしい〟わけではない、一番やりにくいタイプの相手だろう。

「PRIDE.4」では期待されていなかったアレクが世紀の大番狂わせを勝ち取りスターダムにのし上がったが、果たして今回の石川は果たしてどうなるだろうか？　状況はアレクの時よりも遥かに厳しい。ネット上では早くも「PRIDE」出場にブーイングが飛んでいる。しかし、逆境を何度も跳ね返してきた石川社長の〝情念〟に期待せずにはいられない。バトラーツが見せてくれたような「人の人生を狂わすほどの熱い闘い」を見せてくれると信じたいのだ。バトラーツは冬眠しても〝闘い〟は続く!!

「SRS・DX」のサタハルンハ谷川編集長と本誌鬼畜編集長がW解説を務めたこの日の大会の模様は、フジテレビCS721にて11月10日20：00～放送される　見逃すな！

今後試合日程……

**10月26日(金)19:00～**

**沖縄・宜野湾運動公園野外劇場**

問い合わせ

■バトラーツ 0489(63)0005

火祭り優勝、
NOAHでも
大暴れ記念!

というわけで今回は
破壊王に代わり

“日本一熱いプロレスラー”

# 大谷晋二郎の
## 顔面ウォッシュ人生相談
# 『俺を信じろう!』

ヨッ! 大好評の破壊王の人生相談『人生ケサ斬りチョップ』は今回はお休み。しかし、落ち込むのは早い! 今回は同じZERO-ONE戦士として、先の『火祭り』で完全優勝! さらに、ノアマットでも大暴れしているこの男の出番だ! その熱さは今や日本マット界一! 大谷晋二郎の顔面ウォッシュ人生相談を喰らえッ!

構成/松澤チョロ
撮影/丸山剛史
designed by matsu (Two three)

**Q**「私は熱しやすく冷めやすい性格が悩みのタネです。仕事、恋愛、ダイエット、何をしても最初の情熱が維持できません。初めは『もう私にはコレ（この人）しかない！』と熱くなるんですが、時間がたつと冷めていきます。そして、熱くなれない自分を正直カッコ悪いと思います。「プロレス界でいちばん熱い男」と呼ばれる大谷選手は、どうしてその熱さとモチベーションを維持できるのでしょうか？『めんどくさい』、『休みたい』、『やめたい』と思うことはないんですか？　また、気持ちがクールダウンしてしまいそうになった時、どうやって自分を奮い立たせていますか？　さまざまな苦難にぶつかるたびに、本気で怒ったり、泣いたり、悔しがったりしながら、必ず乗り越えていく大谷選手の姿は私の憧れです。私もいつかはそうなりたいと思っています。アドバイスお願いします」

（早乙女愛／24歳・ショップ店員・♀）

**A**　オイ、ひとつ聞くぞ！　愛ちゃんはいくつだ!?（興味津々で）24歳？　おおおおおっ、上等じゃねぇか！　写真はないのか!?　写真があった方がイメージ沸くんだけどなぁ（頭を掻きむしりながら）。（気を取り直して）でもボクもありますよ。例えば、恋愛でも最初パッと見では、わからない部分ってあるじゃないですか？　それは熱しやすく冷めやすいっていうんじゃなくて。ボクも一目惚れとかメチャクチャ多いんですけど（笑）、でも一目惚れだけでは全部は見えないわけですよね？　だからそれは冷めてもしょうがないんじゃないかなと思いますよ。それでボクがなぜ困難なり壁にぶつかってもモチベーションを保てるのかっていう質問なんですけど、ボクは皆さんが思うほど凄いつらい困難にあたってるとは思ってないからなんですよ。確かに「火祭り」に関しても、いろいろ壁があって、いろんな障害がでてきたけど、それでもボクは全部楽しんでましたから。プロレスのことで凄い悩んでた時期もありましたよ。あったけど必ず思うのは、俺ってプロレスラーになることは小学校二年生くらいから決めてましたから、言ってみればプロレスラーになれたことだけでも大成功なんです。これは新日本辞めた時も言ったんだけど、ボクはプロレスラーになれて、新日本というメジャー団体でベルトまで巻けた。**大谷晋二郎のプロレス人生これで万々歳じゃん！**っていう気はあるわけですよ。だから、UFO撤退、バト撤退、猪木さんにもいろいろ言われたけど……そういうことがあってもボクはあんまり壁だとは思わないんですよね。ここでもう大成功なんだ、こっから先は自分の今まで想像してた以上のことをやってるって思ってるんで。だからダメになってもそれはしょうがねぇなと思うし。これは格好つけてるわけでも何でもなくて、そういう気持ちはずっと持ってるんですよ。だから、愛ちゃんは**考え過ぎ**じゃないかなと思う。最初に自分がこれやりたいと思って入ったんだったら、そのやりたい道に入れただけでもスゲェじゃんって気持ちを持って欲しいですね。それで、「いろいろ困難があっても、それを楽しんでください」とボクは言いたい！　**ボクがスゲぇ好きな言葉で「ポジティブ」って言葉があるんですよ。**自分の好きな道でやっていけるんだったら、どんなことが起きてもボクはポジティブになって欲しい。それがボクのホントの**ポリシー**ですから……**格好良くないですか？**（満足げに）。ガハハハハハ！　だから簡単に言えば、こういう質問には「諦めないでください」とかキザな言葉じゃなくて、**「楽しんでください」**って！　楽しんで生きましょうよ！　ボクは今、すっごいプロレスを楽しんでいますから!!

時にはマジメに、時には熱く、そして気持ちは常にポジティブな大谷晋二郎。読者の相談に対し我が事のように真剣に答えてくれた

**Q**「付き合って5年になる彼がいます。特に何の不満もなくうまくいっています。でも今、3ヶ月前からメールのやりとりをしている男性のことが気になって仕方ありません。その人とは全く会ったこともなく、顔も知らないのですが、どんどん好きになっているのが自分で凄くわかります。一体どうすればいいのでしょうか？」

（恵美／26歳・家事手伝い・♀）

**A**　オイ！　恵美ちゃんの写真はないのか、写真はッ!?　えっ？　ないのか？（ガックリと肩を落とすが気を取り直して）これは本人を見てないからどんどんどんどん想像が膨らむと思うんですよ。これはボクの意見としては……**ズルい**かもしれないけど、彼氏に絶対バレないように内緒で一回会った方がいいですね。そこまで気になっちゃったらね……って、**凄いアドバイスしてるなぁ、俺！（笑）**。でも、これは恋愛のルールですよ、絶対バレちゃダメです（諭すように）。一回会ってみて、顔も知らないわけだから、タイプじゃないと思ったらそれまでだし、もし会って結構タイプで性格も合って凄い好きになっちゃった場合はそいつと付き合った方がいいですよ。彼氏には可哀想だけど（悲しそうな顔）。やっぱり自分が一番好きな人と付き合うのが一番ですから。自分の彼女が他に好きなヤツができたらボクは引くしね（自信満々で）。ただ、これが結婚してたら別ですよ。ボクは基本的に**離婚って絶対許せない**タイプですから。まわりにいろんな事情があってそうなる人いっぱいいますけど、ボク自身は離婚は絶対したくない派です。まあ結婚する前だったら好きな人が現れたら、そっちに行った方が幸せになるんじゃないかなと思いますけどね。でもボクも早く運命の人を見つけたいんですよ。結婚願望メチャクチャありますから！　ボクはねぇ、**早く結婚して早く女の子を産みたいんですよ。**まあ、ボクが産むわけじゃないですけど（笑）、女の子って決まっ

顔面ウォッシュ人生相談
# 「俺を信じろう!」

てるんです！（キッパリ）。一番目女の子、二番目女の子、三番目男の子ですね。だから一番下の男の子が産まれるまでは家の中、男一人なんです。**ハーレム状態！（笑）**。それで長女の名前は**平仮名であすかちゃん！**　そしてボクが試合なりなんなりで夜帰って来たら、**台所の方からあすかが走ってくる**んですよ（嬉しそうに）。ボクはね、昼ドラの**『ぽっかぽか』って大好き**なんですよぉ（目尻を下げて）。今も再放送でやってるんですけど、ボクは七瀬なつみの大ファンなんで。それでね、ボクは娘に必ず**「父、母」**って呼ばせるんです。「パパ、ママ？　そんなものはしゃらくさい！　**誰じゃそりゃ！**」と。ボクが帰ってきたら「父、お帰り〜」って**台所から走ってくる**んですよぉ（嬉しそうに）。それでボクがパッとしゃがんだら、ぴょんと飛び乗ってくるんですよね（目をつぶって腕組みをして感慨深そうに）。それであすかを抱きながら台所に入っていく。そしたら、**あさみ**がいるんですよ。あさみっていうのは奥さんなんですけどね（笑）。「お〜、あさみ〜！　帰ったぞぉ」と。「アナタお帰り〜、疲れたでしょ？　お風呂にする？　ご飯にする？」（ドンと机を叩いて）**これですよ！**　それで風呂に入ってね、あすかに今日あった出来事をいろいろ聞くわけですよ。そういう家庭を築きたい！……って、何の話をしてるんだ、俺は（笑）。でもね、ホントにボク、早く女の子が欲しいんです。**女の子を育ててみたい**んですよ。変な意味じゃなくて（笑）。脱線しちゃったけど、この子は一回とりあえず会ってみろと……なんか凄いアドバイスしてますね、「会ってみろ」だって！（爆笑）。最後に、これを強調して下さい！　**絶対、彼氏にバレちゃダメ！　それがルール!!**

**Q**

「大谷さんこんにちは。彼氏のキャバクラ狂いに悩んでいます。なぜ、私という彼女がいながらキャバクラに行かなきゃいけないの？　と責めても『それとこれとは別』と聞き入れてくれません。キャバクラだけじゃなくて、こっそり風俗にも行ってるようですし、ベッドの下にはエロ本がぎっしりです。『断じて浮気ではない！』と開き直る彼が憎らしくてたまりません。これさえなければいい彼氏なのに……。男の人ってみんなこんな感じなんですか？　大谷さん、私は納得できません」

（麗しの白虎／22歳・美容師・♀）

**A**

うわっ！　来た、来ましたね！　いや、ボクは基本的にキャバクラって何なのかわかんないし……。（会社にいた沖田リングアナが「ゴホン！ゴホン！」と咳払い）キャバクラとはどういう所なのかボクは理解できないし……。（沖田リングアナ、再び「ゴホン！」）（とぼけて）オッキーさん大丈夫ですか？　正直に言いましょうか？（笑）。彼女からしてみればそれはあるかもしれないですよ。私という女がいながら、と。でも……**これはイメージダウンかなぁ（頭を掻きむしり悩む）……しょうがねえんだぁぁぁぁ、キャバクラはぁぁぁぁ！（絶叫）**。……ふう（と一息つく）。キャバクラはねぇ、こういう言い方はアレだけど、**ボクは結構好き**なもんでね。女の子と酒を飲みながら、くっちゃべるの大好きなんです（哀願するような目で）。その後にどうこうっていう問題じゃないですよ。今はボクたまたまフリーだから。**彼女いない歴一年**なんだけど（笑）、ボクは、もしかして彼女ができたら何でもこう話せるような関係でいたいし、ボクが彼女に選ぶ子っていうのは、「ちょっとキャバクラ行ってくる」って言ったら「もう、ハメはずさないでね」とか言ってくれるぐらいの感じがいい。また風俗になると話は別なんでしょうけど、キャバクラはそういうところじゃないですから。**キャバクラは素晴らしいところですから！**　……あっ、「素晴らしい」って部分はちょっとカットして下さい（慌てて）。えっ？　付き合いで行くのかって？　いやっ！　ボクは付き合いじゃなくて、プライベートで行ってる！（胸を張って）。これがそんなに悪いことなのかっ!?　キャバクラは女性的には「そんなのダメ！」って言うかもしれないけど、キャバクラは**許してあげて欲しい**な！（かわいらしく）。彼のことを信じてるんだったら「しょうがないね、楽しんでおいでよ」っていうくらいの心の広さが欲しいね。そしたら逆

女の子と酒を飲みながらくっちゃべるの大好き！
キャバクラは素晴らしいところですから

に男の方もね、「こいつ何だよ、俺のこと何も思ってないのかよ！」って今度は逆に優しくなるんじゃないかな。「ああ、キャバクラはイヤらしい！　下品！」とか思うんじゃなくて、「キャバクラ？　じゃあもう女の子と楽しく飲んできなさいよ。でもその後何かあったら**許さないぞッ**（かわいらしく）」とか（笑）。こういう駆け引きをね（笑）。男の方も「え、何だよ何の心配もしないのかよ！」って思っちゃいますからね。えっ？　逆に自分の彼女がホストクラブに通ってるって気づいたらどうするかって？　**許しません！**（キッパリ）。これはねぇ、あぁぁぁぁぁ、これまた**女性ファンいなくなるなぁ**……（頭を掻きむしる）。でも、これだけは言っておきますけど、男と女は平等だと思ってます。思ってますけども、例えばボクに彼女がいたけどその子が浮気しちゃいました、と。そうなったら、ボクは絶対許さないんですよ。女の人から見たら勝手に見えるのは承知の上で言わせてもらうと……女の子っていうのは受け身なんですよね。彼女が浮気したら彼女にも腹が立つけど、その相手を殺したい気持ちにもなりますね。「俺の女がヤラレた！」って。**ヤラレるのはイヤ**じゃないですか！　女の子は受け身なんだから！　例えば男が浮気をしても彼女からしてみれば「アンタがやったんでしょ！」ってなっちゃうじゃないですか。**なんか話が難しくなってきちゃいましたけど、これが大谷理論なんですよ！**　だから勝手なのはわかってるんですよ……**減ったな！**　確実に女性ファンが（笑）。まあ、彼女に「ホストクラブに行きたいな」って思われるようになった時点で**自分の負け**ですよね。でも、

男の場合これはまた逆なんですよね！　彼女からしてみればキャバクラ行くようになったら私はダメだなって思うかもしれない。ここが男と女は違うんです！　だからそれは認めてあげて欲しいですね。あとひとついいですか？　また**ここで大谷理論を爆発させましょうか？**　風俗行くんであれば、その彼に言いたい！　**絶対見つかるな！**　大谷理論で言えばね、ある意味男はしょうがねぇかなっていう気持ちもあるんですよ……ああ、また女性ファンが（遠い目）。（急に立ち上がり）もういい！　ぶっちゃけて言うぞ！　**風俗も、浮気も、男が絶対バレないで隠し通せる自信があるんだったら、行ってもいいだろぉぉぉ！**　……ふう（一息つく）。そう思うんです。でも仮に見つかったら全面的にこっちが悪いんですよ。ずっと頭下げて謝らなければいけない。それで彼女の言い分を聞いてあげなきゃいけない。**大谷理論では浮気を彼女に見つかったら、その男は浮気する権利がなくなる**っていう気持ちがあるんですよ。ボクの中では**男としてのタイトル剥奪**です（笑）。だから絶対見つかるなッ！　隠れてやれッ！　それに浮気をする時は浮気相手に**そういう●●**をする前に「彼女いますよ」ってちゃんと言わなきゃダメ。それはその浮気相手に対するルールでもあると思うんですよ。**今までボクはそうでしたから**……って

言っちゃダメなんですよね（笑）。気取ってもしょうがないから言いますけど、ボクは浮気だってしたことありますよ、**そりゃ当然！**　あるけども、その時はちゃんと自分の今の現状をちゃんと話してそういう●●に……**ああっ、●●って！**（頭を抱える）。ボクはレスラーになってから最初が2年……次が2年、それで一番新しいのが2年……。でも3人全部2年ぐらい付き合ってるかなぁ。付き合ったら長いっていうか、でも2年くらいかな。この世界入って10年になりますから、フリーの期間も4、5年あるわけじゃないですか。フリーの時にそういうことになれば、もちろん「彼女いないよ」って正直に言いますよ。例えばそういう●●があって終わった後に、「実は」っていうのは浮気相手に対するルール違反だと思うんです。最初に自分の今の状態を明かして、そういうことをしないと。

これは大谷理論的に恋愛のルールじゃないかと思いますね。で、どんな質問でしたっけ？（笑）。「男の人ってみんなこんな感じなんですか？」って？（目をつぶって長い沈黙）そうです……いや、わかんないですよ！　凄い真面目な人もいるかもしれない。でもボクの考えでは……いや、立派ですよ！　そういうね、彼女以外に可愛い子が歩いていても真っ直ぐ！　真っ直ぐ！　前を見て、女の子の顔を見るっていったら自分の彼女をこう見るだけ。でも、それはある意味ボクは**不健全**じゃないかなって気もするしね。結局、男はいろいろ目移りしても、でも彼女が一番上にいるぐらいの関係が一番いいような気がするんですよね。だから、この質問をしてきた彼女はもうちょっと広い心を持ってあげて欲しいなと。それがボクの希望ですね。

**顔面ウォッシュ人生相談**

**Q** 「僕のアパートの隣りの住人が深夜に騒いで困ってます。しかし僕の気の小ささには定評があり、こちらから注意するくらいなら引っ越した方がよっぽど楽なんですが、金銭的にそれもままなりません。それを思うととても悔しいのです。どうか対面せずにギャフンと言わせる方法はないでしょうか？」（ユンボ安藤／27歳・芸人・♂）

**A** う〜ん、ギャフンと言わせる方法って、**そういうことはあまりして欲しくないなぁ。**ボクだったら隣の人が凄い騒がしかったら、次の日でも二日目でもいつでもいい！ 近いうちにボクはその人と会って**友達になっちゃう！（爽やかに）**。やっぱりボクは田舎育ちだから**近所付き合いは凄く大切にしたい**んですよ。でも東京ってあんまり近所付き合いがないじゃないですか？ それは寂しくもあるんでね。だからバッと外で会った時でも「うるさいですよ！」とかそういうんじゃなくて。「あっ、いつもアレですねぇ、**夜は大騒ぎしてますねぇ**」とか（笑）。友達になったら、うるさくても「あ、ゴメン。ちょっと夜静かにしてくれない？」とか言えるじゃないですか。相手に気づかれないように何かしようとかね、そういうのあんまり考えたら、どんどん性格が陰険になってきますかね。ボクが言えるのは、友達になって欲しいし、相手に仕返しっていうのは考えて欲しくないですね。だって怒ったって何ヶ月も何年もそこに住むわけで、隣りに毎日いるわけでしょ？ **「昨日、女呼んでたでしょ？」**とか（笑）、そういう話が出来るくらいの仲になればいいと思いますよ。

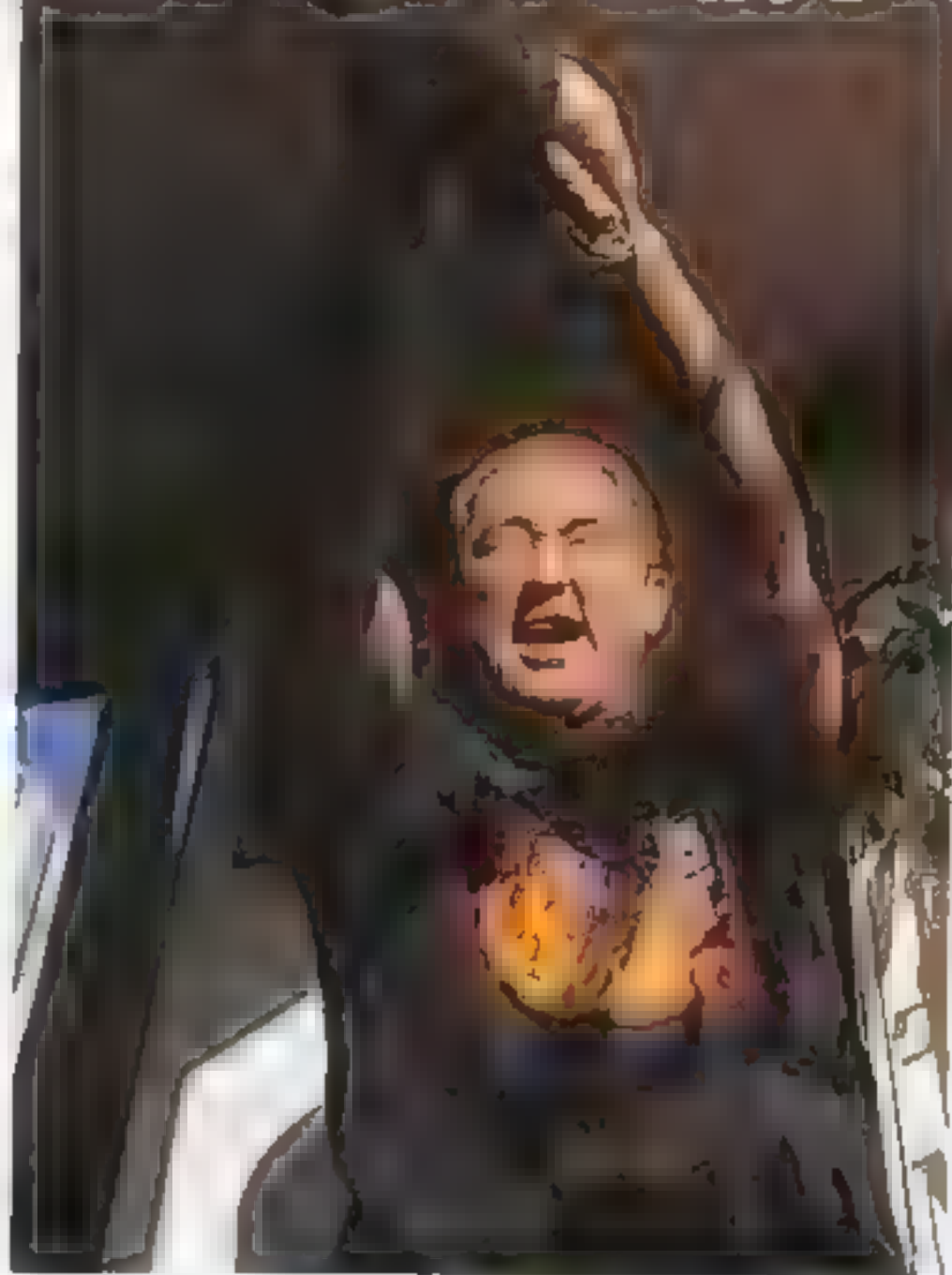
**Q** 「人と上手く会話が出来ません。つい、実力以上の気の利いたことを言いたくなってしまい、結局口からでることは見え透いた嘘ばかりですぐバレます。もう友達もほとんどいません。どうしたら大谷選手のような勢いのあるトークができるようになりますか？」（寺島ジャイコ／22歳・♀）

**A** えっ、ジャイ子!? **橋本さんのお気に入り**なの？ へぇ〜、ジャイ子……誰なんだろ？ 友達がほとんどいないんだ？ でも基本的に切羽つまって嘘を言っちゃうってボクはよくわかんないんだけど、会話をするたびに考え過ぎるんでしょうね。こう言ったら相手はどう思うかなぁとか、いろいろ考えちゃうんでしょうね。カッコいい言い方をすれば、生きるっていうことを楽しんで欲しいですよね。だから、この**ジャイ子って人は生活に恐怖を感じてるわけでしょ？** 人と接するのに恐怖を感じるわけじゃないですか？ **「この人生楽しいこといっぱいあるよ！」**ってボクは言いたい。この子は切羽詰まると、つい嘘を言っちゃうみたいだけど、自分の意見って必ずあるはず。その意見が間違ってないと思えば、ずっと押し通して欲しいし、それがボクじゃないですか。ボクもいろんなバッシング浴びましたよ。ビックマウス、ビックマウスって言われてるし。でも俺は絶対やり遂げるんだ！ 俺はやるぞ！っていう気持ちで、ずっとやったら支持してくれる人も増えてくるわけですよ。だから自分のやりたいことをちゃんと押し通して欲しい。でもここで勘違いして欲しくないのは、やり通していく中で、人間だから気持ちが変わることもありますよね？ 「これは俺が間違ってたんじゃねぇかな」とか、気づくことがあるじゃないですか。そしたら素直に頭を下げて欲しい。ボクはプロレスのコメントでもずっと言い張ってることは、誰かと闘ったことで自分の考えが変わった時はコメントでもハッキリと「俺は誰々を認めてる」、「これは自分が間違ってた」って必ず言うんでね。ホントに間違ってたと思ったら、**自分が間違ってることを素直に認められる人間になってください。**それでも自分が間違ってないと思ったら、ちゃんと押し通してください。そういう生活をしていたら絶対に友達は一人一人増えてきますよ。この人は信頼できる人だっていう……いい事言うでしょ？（笑）。

顔面ウォッシュ人生相談

# 俺を信じろう！

**Q** 「私の父はすぐ周りの人に私のことを自慢したがります。テストで１００点、部活でレギュラー等、親戚はおろか、町内すみずみまでつつぬけです。自慢だけならいいのですが、小さい頃こっぴどくフラれた話や、便所に片足がはまった話のような恥ずかしい話が隣りの隣のそのまた隣のおばさんにまで知られるとなると我慢ができません。何とか私の卒業証書を回覧板でまわすのだけは阻止したいのですが」（ゆかり／17歳・高校生・♀）

**A** これはボクと**全く一緒**ですよ！（笑）。いや、**ボクの方がひどい**んじゃないかな（苦笑）。ウチの親父は自慢したがりというかね……（目を輝かせて）ちょっとオヤジの話になると長くなりますけどいいですか？ ウチのオヤジはね、基本的にボクが高校卒業して東京に出るって言った時、母さんと一緒に大反対したんですよ。その時、オヤジがボクに言ったんです。ボクはその時虚弱体質で、凄い病気がちだったんで「お前がプロレスできるわけないだろ！ 体壊しにいくだけだぞ！」って。でも最後は「3年だけやりたいことやってこい！」って許してくれたんだけど。ボクはそのことがずっと頭にあったんですよ。**ある意味オヤジと闘ってました**から。「この野郎！」と。「俺はレスラーになるために生まれてきたんだ！」とずっと思ってきたし、そういうこと言ったオヤジを絶対見返してやろうと思ってきたし。それでプロレスラーになってタイトル獲ったりして、名前も上がってきてから、山口に帰って初めてわかったんですけど、いろんな飲み屋で（大谷父のマネして）「ウチの晋二郎はやると思ってたよ！ **ワシが晋二郎をプロレスラーにしてしまったようなもの**だよ」って、そうやって言うわけですよ（笑）。最初の頃はそれをいろんな飲み屋行って、いろんな飲み屋のマスターが言うわけですよ。「いや～、晋二郎君！ **立派なお父さん**を持って、凄いね！」とか言われて（笑）。

## 応援してくれたヤツらに言いたい、お前らホントに熱かったよって！

**しまいにはテレビにも出始めた**んですよ（笑）。山口の地方番組がボクの特集を組んでくれたりしてるわけですよ。それが「えっ？ この番組、オヤジの特集かよ、おい！」っていうような**オヤジのインタビュー**をやってるわけですよ（笑）。「アイツは昔から負けん気強かったから、やるとは思ってましたよ」とかいろいろ言ってるわけですよ。それを見た瞬間、「カァァァァー！」とか思ってね（しみじみ）。まだ若かった頃は、会場来てくれて嬉しいんだけど、反発してたんですよね。でもね、何年か経った時にこの子も気づくと思うんだけど、ボクの活躍はオヤジにとって**生き甲斐**なんですよね。だから今は好きなこと言って下さいと思うんですよ。で、山口に帰って飲み屋に行っても**「そうなんだよねぇ、オヤジがいなかったら今の俺はなかったよ！」**と（笑）。この子はまだ高校生ですよね？ まだわかんないかもしれないけど、でもいずれそうやって娘の自慢をするお父さんがかわいくなってきますよ。**絶対！ １００％！** 時が来ればわかる!! 最近は大きいタイトルマッチがあると札幌までも来てましたからね。「うわ～、また来てくれたよ。ホントかわいいヤツだな」と逆に思い始めたんですよ（笑）。まだ17歳ではわかんないかもしれないけど、お父さんも冗談抜きで娘さんが生き甲斐なんですよ、絶対！ 活躍なりなんなりしたら自慢したくなるのは当然なんですよ。今はもしかしたらイライラするかもしれないですけれど、ちょっと温かくみてあげて欲しいですね。あと5、6年したらお父さんが**愛おしくてしょうがなくなります**よ。「かわいいお父さん」って（笑）。これは絶対保証してもいいから。そういうオヤジの姿見てね、ホント**早く子供が欲しいな**と思うんですよ。ボクはもう来年30になっちゃうから、もう結婚しないとなと思って。ボクと同世代の友達はほとんど結婚してるんですよ。それで、みんな言うのが「自分の子供ってかわいいよ」って。早くそれを味わいたくてね。だからこの子のお父さんも、ウチのオヤジもその延長なんですよ。やっぱりこの娘なり、ボクなりがね、20、30になっても、いつまでたってもオヤジはオヤジなんですよね。逆に「かわいいなぁ」というぐらいの気持ちで見てあげて欲しいですね。……何か俺、もう**40代、50代のおじさん**みたいなこと言ってないですか？（笑）。最後に相談してくれたヤツらに言いたい。お前らホントに熱かったよって。**ありがとう！**

もっともっと熱い相談をしてこい!!

よ～し、これから「紙プロ」の人生相談はゼロワンに任せた！ お前が相談したいのは、破壊王か？ それとも大谷か？ なに、ゴルドーに相談したいって？ オッケー！ 何でもいいから、もっともっと熱い相談を送ってこい！ 以上！

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス 紙のプロレス編集部
「競馬のことなら高岩に聞け！」係まで

# 『真撃』に"U"のテーマが鳴り響く！

## 田村潔司、遂に動く!!

ZERO-ONE会見では比較的アクションを起こす[illegible]藤耕平。この日も対戦が決まっている大久保を通り越し、[illegible]の田村潔司を挑発。含み笑いで耕平のアピールをやり過ごし[illegible]の次のリングはここ「真撃」のリングなのか？

## 小川直也、ディック・フライ、そして高山善廣の参戦も決定！『真撃』が再び炎上!!

10月5日に行われた10・25『真撃』武道館大会会見にリングスを退団後、その去就が注目されていたU－FILECAMP代表・田村潔司が姿を現した。もちろん田村の横には破壊王！　やれDEEPだ、やれ『PRIDE』だ、もしかしてパンクラス？　など噂されていた田村だったが、もしやの『真撃』参戦発表!?　と思いきや、今回はU－FILEの『真撃』協力を表明するためのもの。元々、ステージア井上社長が、シュートボクシング、パンクラスといった「実験」の一環としてUの血を受けつぐ田村にオファーを出し、それに対し田村も「前からUWFスタイルを復活させたいと思っていたところに、いいタイミングで話を頂いた」とのことで快諾し今回の登場となったという。早速、今大会ではU－FILEの大久保一樹が佐藤耕平と対戦することになったが、やはり気になるのは田村の動向。あくまで田村は「UWFの枠を作って選手を育てるのが目的」と強調したが、早速、耕平が田村を挑発するなど、ZERO-ONEの田村引っ張り出し作戦が、これからも続くのは間違いなく、『真撃』でレガース姿（＆Uのテーマ？）の田村が見られる日も案外遠くないのかも知れない。

また、猪木と絶縁状態にあった『真撃』に小川直也の参戦が決定。橋本は「彼の意思だろうし、猪木さんの意思じゃないでしょ」と小川の参戦をウェルカム。

他にもディック・フライ対マーク・ケアーという、『真撃』ならではの好カードも実現！　フライに続きタリエル、ハンなどの『真撃』登場も期待したい。

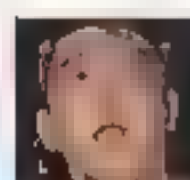
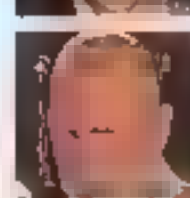
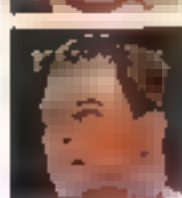
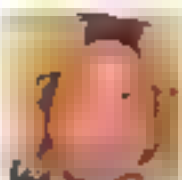
メインイベントは『真撃』で光輝く"死神"ジェラルド・ゴルドーが破壊王と危険な遭遇！

他に、大谷晋二郎対高山善廣戦も正式決定し、大会間近になって話題てんこ盛り状態の『真撃第3章』。

時は来た！　急いで武道館へ進撃するべし！

### 『真撃第Ⅲ章』
**10・25日本武道館大会対戦カード**

橋本真也 vs ジェラルド・ゴルドー
小川直也 vs ジョシー・デンプシー
トム・ハワード vs ブルーザー・アルファロー
高岩竜一 vs 藤原喜明
田中将斗 vs ハーバート・ヌメリック
佐藤耕平 vs 大久保一樹
星川尚弘 vs ミッキー・ヘンダーソン

ズバリ注目の2試合はこれだ！

大谷晋二郎 vs 高山善廣
ディック・フライ vs マーク・ケアー

### 【真撃3秒前！ チケット情報】

『真撃　第Ⅲ章』
10月25日（木）日本武道館開場17:00／開始19:00

【入場料金】
RS席（アリーナ）20000円／SS席（スタンド1階）12000円
S席（スタンド2階）7000円／A席（スタンド2階）4000円

【発売場所】都内各プレイガイド
【お問い合わせ】オデッセーTEL.03-3796-9999

# 未来を読む男、未来を読めない男を下す!!

VS

"最高のプロレスラー"

# 美濃輪育久

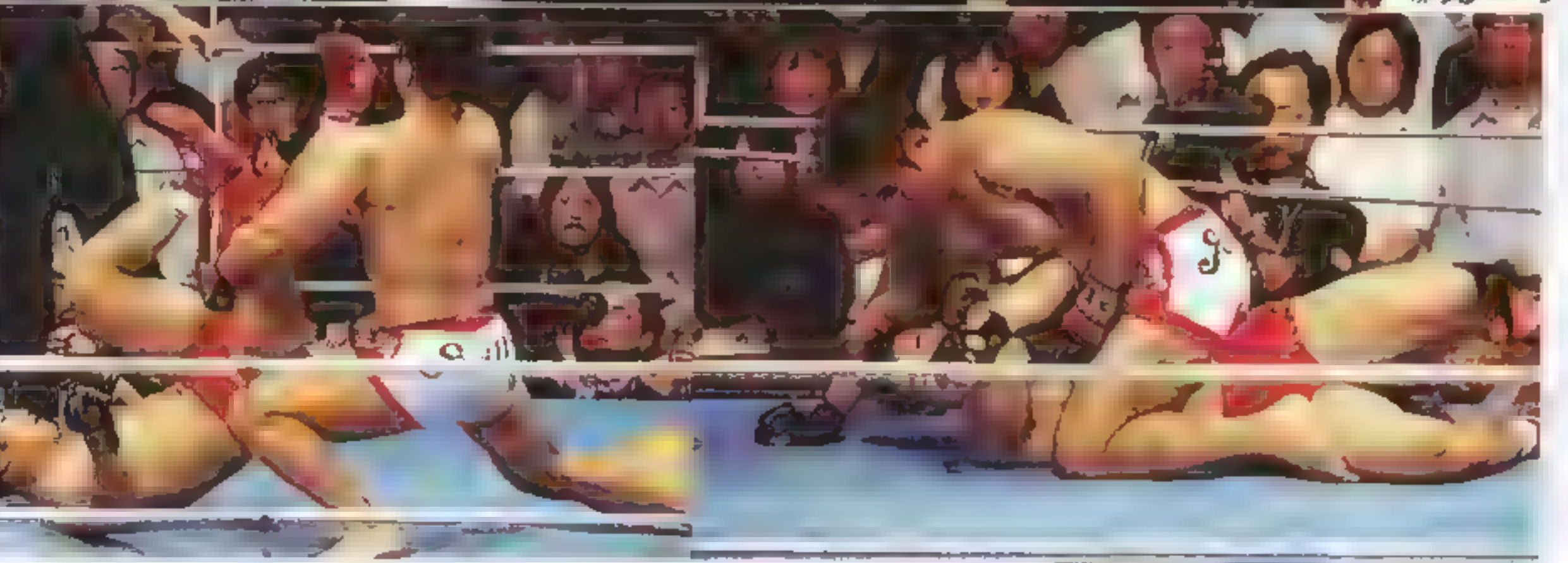
## 凌いで凌いで凌ぎまくり！ 美濃輪、負けても株は落とさず!!

の闘いを見て
というファイターに
ない!!

文／大坪ケムタ
構成／松澤チョロ
撮影／吉澤晃
designed by さおとめの事務所

パンクラスが旗揚げした1993年。それはホイス・グレイシーが出場した第1回アルティメット大会が行われた年でもある。それから8年―急激な総合格闘技の進化の流れの中、パンクラスは生き残ってきた。掌底はオープンフィンガーグローブになり、エスケープが無くなるなど、時代に対応して試合の光景も変わっていった。また、高橋・近藤のUFC勝利や船木のモーリス戦勝利という栄光もあれば、船木のヒクソン戦敗退という屈辱もあった。リングスとのゴタゴタもあれば、フランクにゴエスにメッツァーとパンクラスで日本デビューした外人選手たちが、いつの間にか他団体のリングに上がっては帰ってこないこともしばしば……。ああイカン、これじゃパンクラスファンの恨み言だ。

喜びも悲しみも闘い続けて8年――その結果が9月30日横浜文化体育館大会で組まれたメインイベント・ライトヘビー級王座決定戦『菊田早苗vs美濃輪育久』というカードである。8年目にして初めて「日本人同士による世界トップランクの闘い」を組むことが出来た、これぞまさにツアータイトルが示す通り、8年目の「PROOF（証明）」！

アブダビ優勝と名実共にリアル最強な"寝技世界一の格闘家"と、後楽園ホールを下北シェルターに変える"パンク魂のプロレスラー"。とにかくこの二人、タイプでいえば正反対。相手の先を読み、正確無比なグラップリング技術で敵を追い込むチェスのような攻め手の菊田。過去の闘いでコーナーポスト突撃・パワーボム・パイルドライバーと、見る側もやられる側も先の全く読めない攻め手を繰り出してきた美濃輪。"未来を予測する格闘家"と"次が予測不可能なレスラー"の闘いとはまさに「矛盾」。『紙プロ』が出してるパンクラス本みたいですがけど。

試合はさすがに菊田攻勢。寝技になると完全に手の内で美濃輪をコントロールし、マウントポジション・バックからのスリーパー・腕十字・肩固めと柔術の教科書のように攻めていく。といっても『DEEP』でリボーリオの攻めを凌ぎきり、グラバカトップの一人・佐々木を下した美濃輪の寝技が弱いはずがない、ただ菊田が凄すぎるのだ！

しかし菊田の予測を確定させないところが美濃輪の底力。1Rから首を取られては暴れて体を返し、腕を取られてはガッチリロックして離さない。それどころか隙を見ては下から足関節を狙う冷静さ。完全に菊田の手のひらの上のはずなのに、未来は読まれてるはずなのに結果に到達しないという『ジョジョの奇妙な冒険』第5部のゴールドエクスペリエンス・レクイエムのような展開。

間もなく2Rも終了、この佐々木・秋山と3Rで一本を取ってきた美濃輪に時は味方するか？ と思ったところに菊田の顔面キック炸裂！

試合後の菊田は美濃輪のスピリットを絶賛。「美濃輪選手は本当に凄い選手です。あんなに粘るとは思わなかったですね。あの動きは科学的に解明不可能です（笑）」また今回の勝利は技術だけでない精神面も含めた勝利だとアピール。「（パンクラスの中では）僕らはヒールですから。今までグラバカの連中には『君たちいつもヒールで人気がないかもしれないけど強いものが最後は勝つんだよ』とずっと言い続けてきたので、グラバカのリーダーである僕がそれを示せて良かったです（笑）」意気上がるグラバカ勢、10月30日の対抗戦はどうなる!?

# 8年目にして生まれた世界最高水準の闘いの結末!

VS

“最強の格闘家”

## 菊田早苗

美濃輪を血の海に沈め、菊田早苗、ライトヘビー級王座獲得！

PANCRASE HYBRID WRESTLING

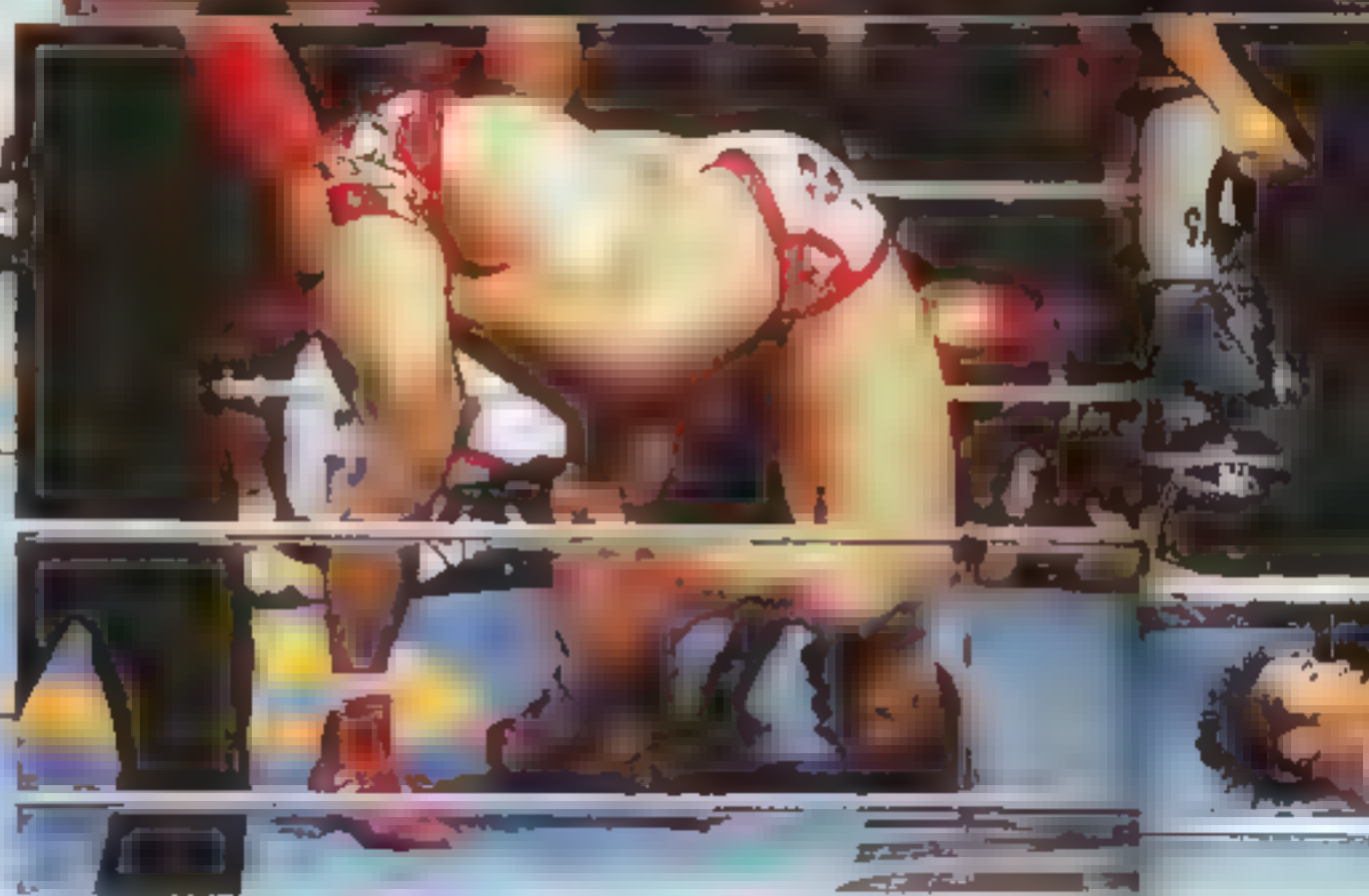
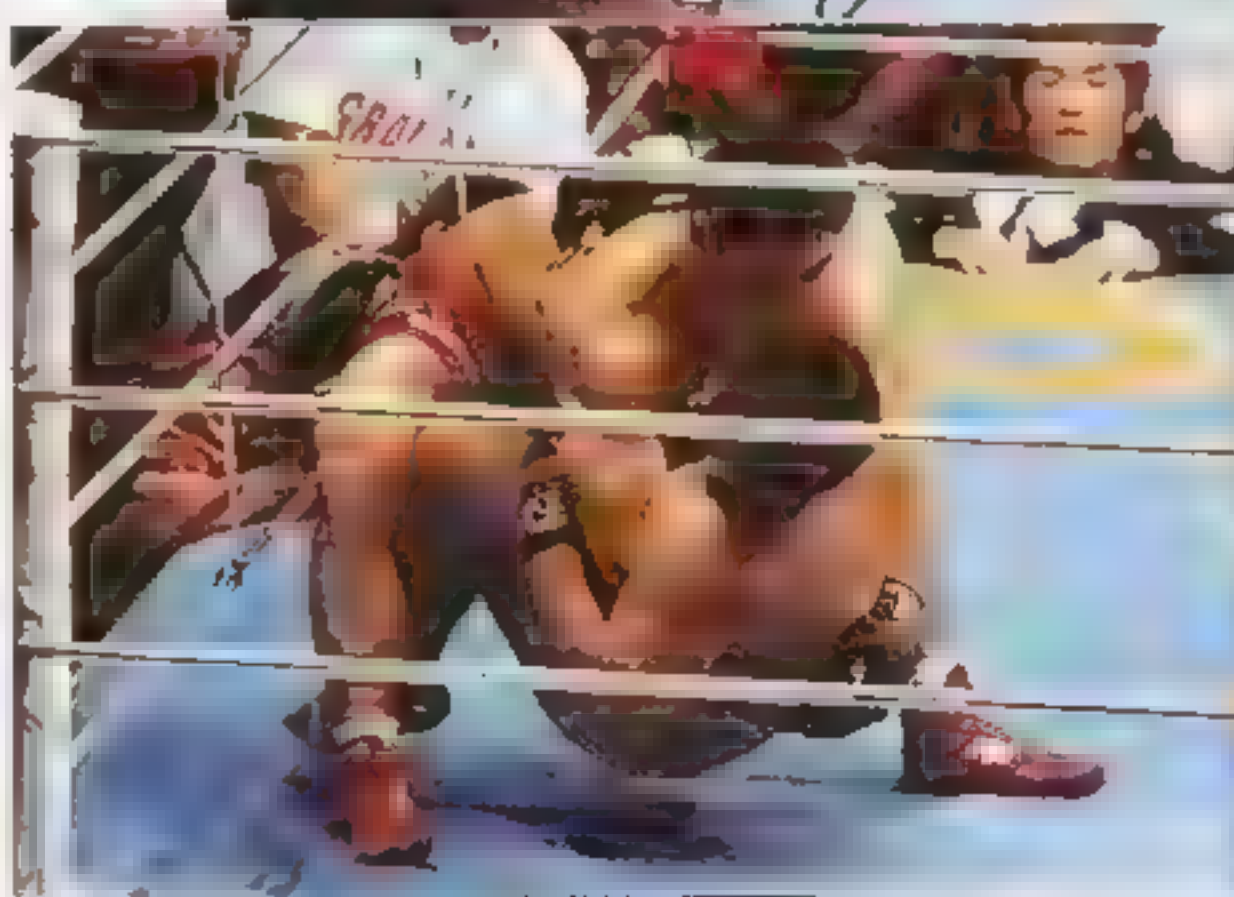
PANCRASE 2001 PROOF TOUR 9.30★横浜文化体育館

この男達の 闘
何も感じない と

明日は

右眉上をザックリ切った美濃輪をレフェリーが制止するも、なおも菊田に蹴りかかろうとする。結果TKOドクターストップで菊田が勝利を収めた。ともかく結果は出た、菊田の「予測」が美濃輪の「予測不可能」を上回った瞬間だった。

しかし関節技での一本ではなく、キックでの一撃と「予測外」なフィニッシュ。結果と流れだけ見てしまえば、「いつも通り」菊田の完勝である。しかしパンクラスでこれだけ「生々しい」菊田を見たのはいつ以来か？ 個人的にはブスタマンチ戦以来のような気がする。他が別にロボットのような試合だったと言うつもりはない。しかし全てが菊田の「予測内」で終わっているとしか思えないのだ。実際今年に入っての4戦は全て1R以内だし。それが今回は相手が「予測不可能」なだけに菊田も楽しめた。何より試合後の笑顔とコメント中「いい試合！」「いい選手！」という2言葉は何度も出てきたのに、ベルトについては大して触れずじまいだったのからも伺える。それでいいのか、オイ！ という気もするが。ともかく引き出した美濃輪もまた剛の者！

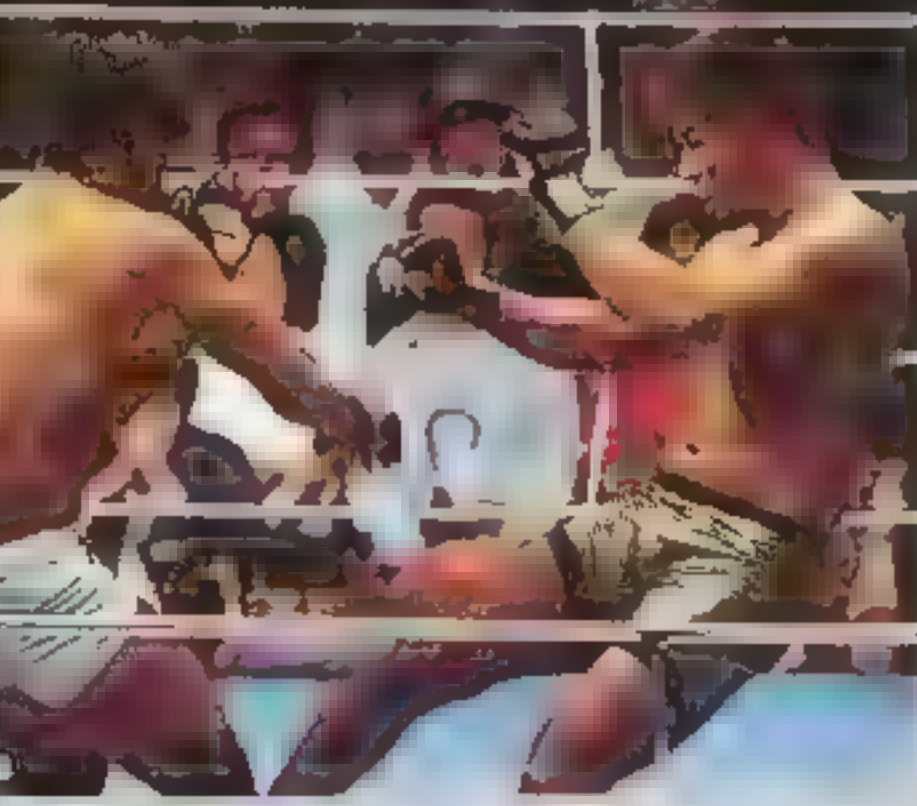
勝つべくして勝った菊田と負けても株は落とさなかった美濃輪。最強の格闘家として、最高のレスラーとしてどちらも理想型の男たち。パンクラスの柱たる存在として、この2強体制は当分揺るぎないものになりそうだ。そしてこの二人が持っていて他が持っていない物、それが全てのパンクラシスト、いやプロレスラーや格闘家に必要な物であること。この試合を見てそれに気づかなかった選手に明日はない！ と断言する。

さて今回同時に行われたのが新設されたヘビー級王座トーナメント。

決勝は12月とあって、ちと中途半端な感じはしたのだが、始まってみるとこれが意外な展開に。「事実上の決勝戦」といわれたレイシック戦をアッサリTKO勝ちして上がってきたマルセロ・タイガー。彼に2回戦で当たることになったのが1回戦でRJWの高田をフロントチョークで破った高橋義生。しかしこれが2度のサミングによるタイガーの反則負け！ しかも後日、その悪質さでタイガーは永久追放となってしまった。しかしヒドい目にあったのは高橋。試合後一週間経っても左目が内出血状態で今だ全治も分からない状態という。

一方のブロックはネツラーを破った渋谷と、デルーシアを下した藤井克久（V—CROSS）による準決勝。二人の対戦は上をキープした藤井の勝利。準決勝がいずれもスッキリしない闘いだっただけに、

たところに菊田の顔面キック炸裂！

## 新設ヘビー級王者決定トーナメント。決勝進出者は藤井と高橋（？）

来年UFC再参戦に向けベルトを獲得し弾みをつけたい高橋と、最大の難敵レイシックに楽勝して波に乗るタイガーの対戦は、2度のサミングによるタイガー失格という最悪の結果に終わった。「客がおとなしい」といわれるパンクラスでは珍しくブーイングが場内に飛び交った。

出場試合が少ない藤井と、今年はことごとくツキに見放された感のある渋谷。どちらも確実に「結果」を出したい一戦はそれが悪い方に出て膠着気味の展開に。延長3Rの結果、ポジションで優位にたった藤井の勝利。打撃・関節技で攻めていたのは渋谷だったのだが……。

# 健介、坊主頭時代に交わした約束忘れんなよ！

高橋の完治次第ではあるが12月の決勝ではヘビー級らしい迫力の試合を見せてほしいもの。加えて高橋にはカシン・藤田のヘビー・ジュニア両IWGP王者の豪華セコンドをつけてほしいものだが。

そしてこの日の裏メインが鈴木みのるvs冨宅飛駈の旗揚げルール対決。残念ながら二人ともレガース不着用なためキック無しのキャッチレスリング十掌底のような展開に。それでも冨宅が鈴木のヒールホールドにロープに逃げ「エスケープ！」の声に館内「懐かしい～」の声が漏れる。最後は鈴木がヒザ十字に捉えて一本。試合後には田村戦に関してはどうも実現が難しいのか歯切れいまいち。しかし「健介、男の約束忘れんなよ！」「ベルトには体力的にも経験的にも今だ、という時に挑戦します！」と挑発的なコメントは忘れじ。

さてベルト中心のカードだった横浜大会に続く10月30日後楽園大会は、再び、パンクラス本隊vsグラバカ、しかも5対5の全面対抗戦！注目なのはネオブラッド覇者対決となる先鋒戦・伊藤崇文vs三崎和雄。副将戦はクラブファイトの快勝を繋げたい石井大輔とここを踏み台にして再び、より格上の選手と当たりたい佐々木有生の対戦。そして大将として登場するのはベルト返上に大阪で鈴木に叩かれ『真撃』では会場を盛り上げられずとここらで浮上したいKEI山宮と、渡辺大介をヒザで血祭りに上げて以来待望の出場の郷野聡寛。ここで勝てば12月は待望の美濃輪戦という流れも考えられるだけに気合いが入る。

そしてメインは唯一ちゃんと防衛戦やってるミドル級王者ネイサン・マーコートにRJWの星野勇二が挑む。今年に入って2連続秒殺と、日本で試合をこなすたびに強くなるマーコートに対し、初タイトル流出となったネオブラッドに続いて今度は初他団体日本人のベルト流出を狙う星野。打・極のトータルな強さでややマーコートが有利か？

旗揚げから8年が経ち、パンクラス21世紀最初のビッグマッチが終わった。プロレスラーの、格闘家の手本となるような強烈な試合を我々に見せつけて。最強の格闘家・菊田早苗と、最高のプロレスラー・美濃輪育久。この二人が再び刺激しあい、その周りもまた刺激しあう。そんな空間が面白くないわけがない！とりあえず10月30日、単純に本隊vsグラバカ対抗戦というだけでなく、菊田vs美濃輪戦を見た選手達の意識がどう変わっているかも楽しみである。

1年5ヶ月ぶりの冨宅、試合前のマイクにゴングと共にドロップキック出す勢いで突っ込んでいったりと、どっかズレてるのは相変わらず。一方危なげなくヒザ十字で下した鈴木は8年の時を振り返りながらも「新しいヤツらもドンドン出てきてます。でも『もう年』とか言ってらんないよ。引退なんてしねえよ、ふざけんな！」と最後はらしい締め方。真撃リング登場、[illegible]田村戦、健介戦はあるのか？　鈴木のマイクにはこれからも注目！

DEEPで窪田と2連戦し決着がつかなかった上山、ついにパンクラス本陣に参戦し國奥と対戦も惜敗。またこの日、田村が始めてセコンドについた。これを機にジムの関係強化、さらに鈴木対田村戦まで期待したいが……やっぱダメ？

# 健介、坊主頭時代に交わした約束忘れんなよ!

**中野** （いきなり）で、何で俺のインタビューなのかな？　一体、誰の差し金なの？

——差し金って（笑）。実は最近ウチの雑誌でやってる金原選手や高山選手のUインター回顧話が大好評なので、中野さんにもぜひ話を伺おうと思って来たんですよ（前号の『紙プロ』を出す）。

**中野** （金原＆高山＆宮戸の対談ページを読みながら）へえ～、これは3人の対談だけど、何でオレは一人なの？

——中野さんは『紙プロ』初登場ですので、今日はお一人でタップリと、Uインターも含めて、中野さんのこれまでのレスラー人生を語ってもらいます！

**中野** ふ～ん。

——まず、中野さんが最初にレスラーになろうと思ったきっかけっていうのは……。

**中野** （遮って）一部では国際プロレスでどうたらこうたらって言われてるんだけど、オレがプロレスラーになろうと思ったのは、中学生のときに猪木さんと藤波さんを見たのがきっかけたから！

——ドラゴンがきっかけ！

**中野** カッコイイなあって思ってね。藤波さんは中学校を出てすぐプロレスラーになったでしょ。だからオレも高校行かずプロレスラーになってやろうと思ったんだよ。

藤波さんと同じ道を歩もうと思った、と。

**中野** でも茨城の田舎者だし、プロレスラーになるにはどうしたらいいかわからなかったんだよ。それでたまたま知り合いの市会議員の人が国際プロレスに顔がきいたんで、ラッシャー木村さんに会わせてもらってお願いしたんたけど、一週間後に「体が小さいからダメだ」っていう連絡が来てね。

——最初は断られたわけですね。

**中野** うん。でも諦められないから高校には行かないで上京してね。昼間は木村さんが紹介してくれた会社で働きながら夜は遠藤光男トレーニングジムに通ってね。それを3年間やったんたよ

——3年も！

**中野** そしたら旧UWFで第1回新人テスト募集があって。履歴書を送ったら木村さんが覚えていてくれて、テストを受けさせてもらったんだよ　だから木村さんのお陰で入れたんだよな。

——そういう経緯だったんですね。中野さんは最近、鶴見五郎選手の30周年興行に出られたじゃないですか。そのときに「国際プロレスに名を残したい」というコメントがあったんで、てっきり国際プロレス好きの渋いファンだったのかと思いました（笑）。

**中野** （ギロリと睨んで）それは違う！（キッパリ）。オレの名誉のために言うけど、国際プロレスなんかに名前を残したくないから！

——え!?　それではあのコメントは一体なんだったたんですか？

**中野** それはオレが今年の3月に地元の茨城で自主興行をやったことに始まるんだけどな。

——新聞で読みました。いつの間にかやってましたよね（笑）

**中野** だって『紙プロ』のFAX番号なんか知らねえから、連絡しようかねえよ！（笑）。そのときに国際プロレスの荒井（修）ってやつを出したんだけど、その荒井が「鶴見五郎の30周年興行をやるんですが、出てくれませんか？」って言ってきたんたよ、オレとしても荒井をウチに出したからには、出ないと悪いから義理でOKしたんだけど、勝手にあんなコメント出しやがったんだよ！

——そういうことだったんですね（笑）

**中野** そうだよ！　国際プロレスに名前なんか残したくもない！　昔の国際プロレスだったら良かったけどな。でも、いま考えると国際には入らなくて良かったよ。

——すぐ潰れちゃったわけですからね（笑）。それで、念願のプロレス界に入ったわけでけですけど。入門した旧UWFの印象はどうだったんですか？

**中野** とんでもない世界に入ったと思ったよ。おそらくプロレス界で一番練習か厳しかったと思うしね。でも、そのおかげでプロレスラーとしてのプライドが、オレの中にあるんだよ　他の団体のようにロープに飛ぶ練習なんか一切知らないし、グラウンドの練習ばっかりたったから、格闘技一色だったね。それから前田さんに延々腹筋だけとか、無駄なわけの分からない練習もさせられてさ。

昭和の根性トレーニングですね（笑）

**中野** あれじゃ強くはならない！（キッパリ）。いまのような技術的なことができれば俺ももっと強くなれたと思うんたけとな。

—その旧UWFっていうのは期間的には短かったんですけど、後半の方はいろんな問題が出てきましたよね？

**中野** ホントにいろんな問題があったんだけども、オレらは若手だったたから余計な心配するんだったら練習していたほうがいいし　実際は心配たったんたけども、口には出せなかったね。

——それでは崩壊したときは、見てるだけってかんじですか。

**中野** いや、崩壊したときはオレはテレビ番組の企画でフロリダのカール・ゴッチさんのところに行かせてもらってたんだよ。それでゴッチさんと練習して、今まで以上に頑張れるなっていう自信をつけて日本に帰ってきたら、潰れてたんたよ。あれは悲しかったね。

——プロレスラー人生が終わってしまうかもしれないわけですからね。

**中野** 終わったら終わったでいいやっていう気持ちはあったんだけどね。でもウチの親は甘くないから、帰る場所がないんだよ。だから潰れて辞めた人間もいたけど、オレは辞めるわけにいかなかったんだよ。

それで、新日本に業務提携というかたちで参戦したわけですけど、新日本での居心地はどうだったんですか？

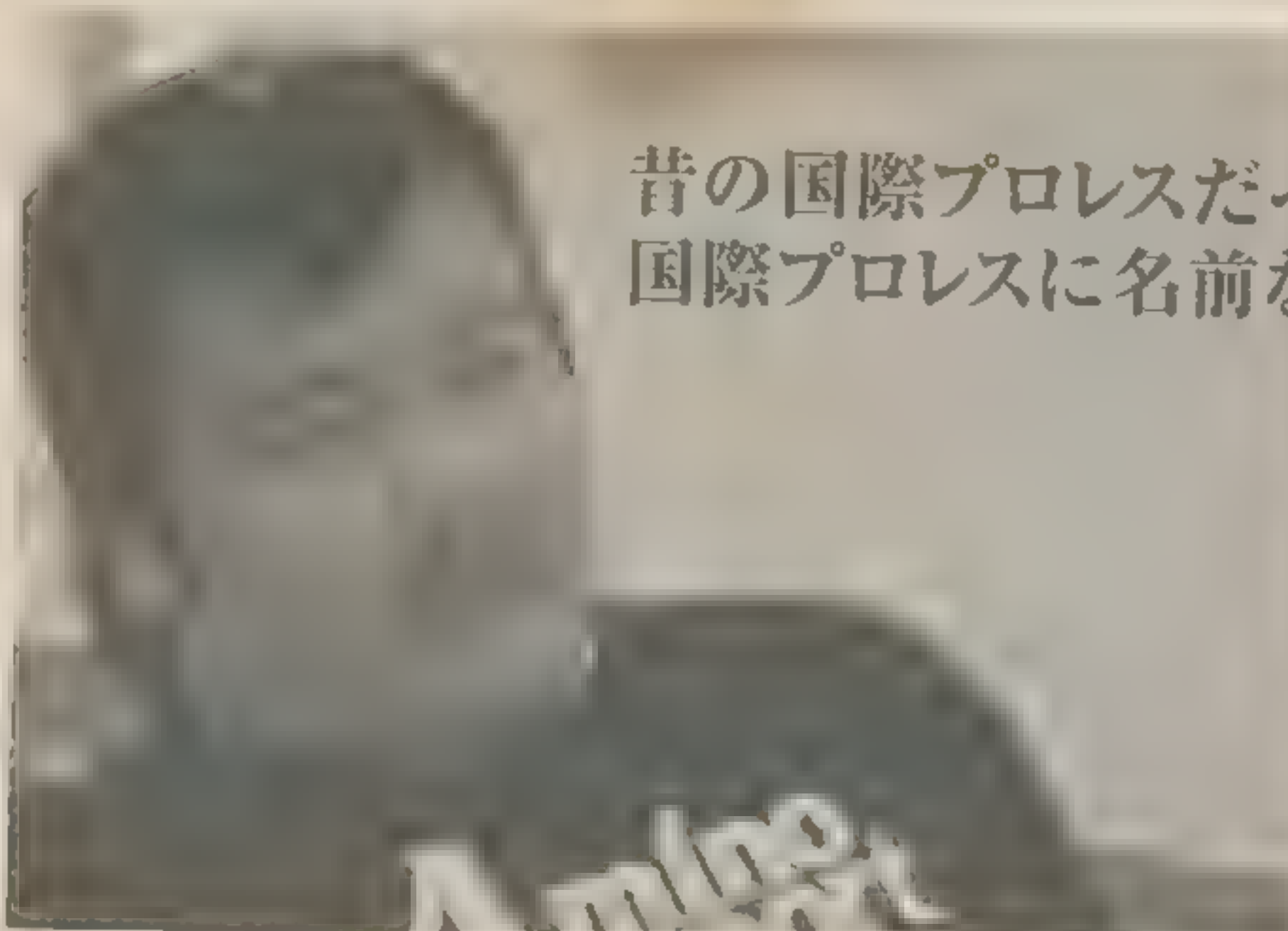
**中野** 新日本の連中は白い目で見るしさ、やっぱり扱い悪いんたよね。たから会場とかにも行くのもイヤだったもんね。オレは坂口さんにけっこう睨まれてたしな（笑）。

スタイルの違いからUWFと新日本は、やっぱりギクシャクしてたと思うんですけど、その中で新日とUWFが腹を割って話そうってことで宴会か開かれて、旅館をブッ壊したっていう伝説の事件があったんてすよね（笑）。

**中野** あった、あったな。

——もちろん、中野さんも参加されてたわけですよね（笑）。

**中野** いや、ブッ壊れる前にオレと安生はトンズラしたから。そのあとはひどかったらしいけど（笑）。まあ、ブッ壊れたっていうか酒癖悪い連中が暴れたただけだから。そんな大げさなもんじゃないし。

——よくあることだと（笑）。その宴会がきっかけで、新日本と

昔の国際プロレスだったらいいけど、今の国際プロレスに名前なんて残したくもない!

UWFに絆ができたっていうのはなかったんですか?

**中野**　ないない！　そんなの全然なかった。オレなんかしょっちゅう試合を干されてたし、組まれても安生との試合だけだったね。

——いっつも安生さん（笑）。

**中野**　そうそう　でも、ある日、突然オレと安生が組んで、船木&野上とタッグマッチで闘うことになって、それかたまたま受けてしまって。それで黄金カードになったんだよね。4人が4人とも「オレか、オレか」っていう気持ちの競り合いみたいになったのが良かったと思う。

徐々に新日本とのレスラーと噛み合ってきたんですね。それと同じように、いまグッドリッジとかが新日のリングに上がってますけど、中野さんらUWF勢がやっていたときと比べて、変にプロレスい染まろうとして噛み合っていないですよね。

**中野**　交わるのはいいんだけど、別物だから融合させるっていうのは難しいよな。それなりの回数こなさいと融合できないだろ。…融合っていう言葉でいいんだよな?　最近、こういう言葉使ってねえからよ。間違っていたら恥を掻くしな（笑）。

合ってます。大丈夫です（笑）。

**中野**　前田さんみたいに間違ってることが多いと恥ずかしいから（笑）。

——ガハハハハ！　前田さんは間違ってますか（笑）

**中野**　あの人もわけわかんないことロうからな　本人はカノコいいっていうか、学があるような気分になってるわけよ　高校中退なのに。ちなみにオレは中学校しか出てないけどな（笑）。

——人のことは言えないと（笑）。それで話は戻るんですけど、そういうとけ込み始めた中で、中野さんもスタイルが変化していったわけですか?

**中野**　オレは自分のスタイルっていうのは崩さなかったよ。安生はああいう感じでお調子者だから、最後の方は自分からはロープに飛んでたりしてたよ。トップロープからトロノプキックやってて届かないこともあったし（笑）、

安生さんらしいですね（笑）。

**中野**　でも、オレも最後の方は勢いで1回ぐらいロープに飛ばしたかもしれない。今思うと反省してるんだけど、あれは自分に対して情けなかったね（悔やむように）。

自分の美学か貫けなかったと（笑）。そのあと前田さんの長州さんへの顔面襲撃事件かあったわけですよね。

**中野**　そう　あのあとにUWFを吸収するってことで新日本が動き始めて　実際、先輩らもそのつもりだったんだよね。

もう新日本に入ってやっていこうと。

**中野**　オレはイヤだったけどね。そういうのもあってか、坂口さんか新日本、UWF、長州軍合同の温泉合宿を計画してさ　みんな参加してたらしいんだよ。

らしいってことは、中野さんは参加しなかったんですか?（笑）。

**中野**　オレは健介と「行くのやめような！」って示し合わせてたんだけど、あとから聞いたらアイツ行きやがったんだよ！

裏切られましたか（笑）

**中野**　健介に文句を言ったら「だって長州さんが行けっていうから」ってさ

——「オレだけ行って、正直、スマン」って感じですね（笑）。

**中野**　ホント、情けねえなあと思って。おかげでオレはさぼったから、また坂口さんから試合を干されちゃって。

—そりゃ坂口さんに睨まれますよ（笑）。

**中野**　オレは気持ち的に不器用で、世渡りが下手で、安生とか宮戸みたいに新日本の合同練習に参加したりしできないからな（笑）。

——それにしてもよくUWFのメンバーがほぼ全員、新生UWFに行ったなっていうのが驚きだったんですけど。

**中野**　う～ん、やっぱり未練があったんじゃないの?　UWFスタイルをやってきたプライドも残っていたんだろうし。

当然、中野さんも燃えるものがあったわけですよね?

**中野**　いや、オレはやめるつもりだった（笑）。

——辞めるつもりだったぁ!?

**中野**　なんかこの世界のいざこざとかがもうイヤになってたんだよね。だから旗揚げするって言われても全然嬉しくもなかったし

——全然ですか（笑）。

**中野**　まあ、今だから言えるけど、雑誌とかに他のメンバーがみんなで頑張ろうみたいな集合写真があって「中野は身内の不幸があって参加しません」って文が書いてあるんだけど、あれはオレがやるかどうか迷ってたからいなかっただけなんだよね（笑）でも神社長とかに説得されてしまって。しょうがないから、参加することになったんだよ

——しょうがないから（笑）。中野さん以外にも、乗り気じゃなかった選手はいたんですか?

**中野**　誰とは言わないけど、一部の選手は新日本に残ろうっていうのはいたんだけどね。だから人に押されてしょうがなくやってきた選手もいたよね

——それでいざこざ嫌いの中野さんがいやいや参加した新生UWFが、実は一番ドロドロしてたと思うんですけど（笑）。

**中野**　だいたいあのメンバーで

スタイルの違いからなかなか噛み合わなかった新日本とUWFであるか、中野&安生vs船木&野上は、前座の名物カードとなるほどの激闘を連発（写真・上）。新生UWFでも、中野は地元"博多で、船木とUWF屈指の激闘を展開した（写真・下）。

# 健介、坊主頭時代に交わした約束忘れんなよ！

まとまるはずがないんだよ！　あんなに我の強い連中が集まっても長続きするはずがないって。

——しかもそのメンバーの一番上に前田さんがいるわけですからね（笑）。

**中野**　まあ確かに。それが痛いんだよ（笑）。

——痛いかったですか（笑）。

**中野**　ホントは前田さんは上に立ってまとめるよりも一匹狼みたいに個人的にやった方がうまくいくと思うんだよね。

——あとから入ってきた船木さんや鈴木さんにも前田さんは苦労してましたもんね。

**中野**　船木や鈴木にしてもさ、我が強かったもんな

——実際、あの2人はかなり注目されてましたからね　中野さんは鈴木さんのことが……

**中野**（遮って）鈴木の話なんてしたくないから！　ものすごく！

——話には聞いてましたけど（笑）、またどうしてそんなに嫌いなんですか？

**中野**　性格が合わねえんだよな。ただそれだけ！

——中野さんがそんなに嫌う鈴木さんはどんな性格なんですか？

**中野**　ガキかそのまま大きくなったたけなんたよなあ　取材したことある？

——いや、パンクラスはないんですよ。

**中野**　一回取材してみればオレの言ってることがすぐにわかるよ。

話せばわかると（笑）。

**中野**　まあ、当時は船木、鈴木か入って良い刺激にはなったけどね。

——中野さんとあの2人の試合って面白かったですからね。新生UWFって結構同じような試合が多かったんですけど、中野さん試合だけは毛色が違うっていうか（笑）。

肩を組み、手に手を取って団結をアピールする、新生UWFとUWFインターの旗揚げ記者会見。特にUインターなどは「一枚岩」を表す「岩」のポスターまで作ったが、我の強い男達がひとつにまとまるのは5年が限度だった。

## 神社長みたいな人物が今のプロレス界にいないのは損失だよな

**中野**　オレの場合は技術よりも気持ちでいっちゃうからさ。同じ会社にいるからやっぱり上っ面ではあわせるけど、試合になったら殴れるし、蹴れるし、憂さを晴らせるし（笑）。

——そんなに鬱憤が溜まっていたんですか（笑）。

**中野**　そうだねえ。博多で前田さんとやったときは面白かったよ。頭突きを30発ぐらい入れてやったから。

——30発！（笑）。あの試合はかなり盛り上がって、中野さんへのコールが凄かったですよね？

**中野**　夢中だったからわからなかったけど、そうらしいね。

——憂さ晴らしに夢中で（笑）。それで、新生ＵＷＦは絶頂期の頃から分裂の噂が絶えなかったんですけど。結局、選手同士が発端ではなく、フロントとの衝突が引き金になりましたよね。

**中野**　前田さんと神社長が揉めたっていうね。これは個人的な意見なんたけと、誰かが前田さんを焚き付けたんじゃないかって。じゃなっかたら前田さんがあそこまで人を疑ったりしない

そういうった可能性もあったと

**中野**　オレはそう思うよね。でも俺としたら別に会社の人間が金に手を付けようが、俺らの給料が減るわけじゃないから構わねぇと思ってたけとね

——中野さん的には横領容認ですか！（笑）。

**中野**　良くはないけど、表だって攻撃することではなかった。外部に恥を出してるわけたし、一番世の中で表に見せていけないことを見せてしまった　あれは良くない。

——ホント、ドロドロしてましたからね

**中野**　あんときも、俺はやんなちゃって辞めたかったんだから。

——またですか（笑）。

**中野**（あきれながら）前田さんも神社長も話しをしようとしないからさ、実際、神さんかいなかったらＵＷＦはあそこまでならなかったな。ああいう人物がいまのプロレス界にいないっていうのは損失だよな

——中野さんは神社長が好きだったんですか？

**中野**　ああ、好きだよ。頭のキレる人だしね。いまは意外なことに何かテキ屋の会社にいるらしいけどね。

——意外すぎる神社長最新情報ですね（笑）。それでその神社長は新生ＵＷＦのスポンサーであった後にＳＷＳを旗揚げするメガネスーパーとの関係も取り沙汰されてましたよね。それも崩壊には関係あったんですか？

**中野**　社長の田中八郎さんとは、選手みんな呼ばれて食事会とかあったけど。確か、ＳＷＳができる1年以上前から新日本の武藤や健介を引き抜いて団体を作って、ＵＷＦと対抗戦をやりたいっていう話があったような気がしたな。まあ、そんな話があっても我々は我々でやっていくっていう気持ちがあったから、別に関係なかったけど。でも、さっきも言ったけど、所詮あれだけ我が強い連中が集まって、まとまるハズがなかったんだよ。

——フロントと別れてはみたものの、最終的には選手同士でも分裂しちゃいましたからね。

**中野**　前田さんの家に選手が集まって、前田さんが「オレに付いてこれないのか！」ってなったらしいね。そのときはオレは祖母か病気にて田舎に帰ってたんだけどさ。

——旧ＵＷＦの崩壊同様、またしても中野さんはいなかったと（笑）。

中野　いたら、この間のリングスの有明の興行には招待されないよ。オレは前田さんとは普通に話ができるんだから。

――前田さんも最近では選手が離れて大変なんですけど（笑）。

中野　ん〜、それは自業自得っていうかなあ……。

――自業自得ですか（笑）。

中野　これはオレの個人的な意見だけど、前田さんは相変わらずだなっていう気持ちがあったね。変わんねえなあ、この人もって。

変わってませんか（笑）。

中野　でもさすがに人が離れていくっていうにはさみしいよ。前田さんも表には出してないだろうけど気持ちの中では沈んでると思うし。もうちょっと周りの人間の意見っていうのを素直に聞いてやれば嫌なことの繰り返しにならずに済むんじゃないかって思うんだよね。40過ぎてあのまんまたから　まあ、それも魅力みたいなもんだけどね。前田日明という人物は、昔もいまも変わらす少年の純粋さを持って大きくなったっていうね。オレは好きだけとね。

――それでは前田さんを語ってもらったということで、高田さんにも語ってもらいたいんですけど。中野さんが高田さんがエースとなって旗揚げしたUインターを次のリングとして選んだのはどういった理由からだったんですか?

中野　3団体のエース中で当時一番魅力的たったのか高田延彦だったからだね。

――一番輝いていた高田さんに体を預けたわけですね。でもUインターのとき、中野さんはかなり浮いてたような気がするんですけど?

## Uインターの中で自分でも「浮いてるな」と思った。だって俺、酒飲めねぇから

中野　確かに浮いてた。自分でも浮いてるなって思ってたから。まぁ、オレが口出して良くなるもんなら出すけど、余計な波風立てて、またもめ事おこしてもしょうがないから大人しくしてたよ（笑）。

――それではUインターときは安生さんや宮戸さんとは仲が悪かったわけではないんですね?

中野　ハッキリ言って根本的には仲は良くないよ。あんまり好きじゃないし。でも同じ会社にいるんだからやっぱり仲良くやっていかなきゃしょうがないじゃん。だから、そういう面もあるから口を出さなかったよ。それとオレが浮いてたっていうのは、酒が飲めないからね。

そうなんですか!?　UWF、Uインターはお酒とは切っても切れない関係だったんと思うんですけど?

中野　そういうところにはいかない（キッパリ）全部断った。

――そういったことも浮いてみえる一因だったのですね。練習も一匹狼みたいに一人でやってたんですよね。

中野　そう。夕方一人で道場行って若手捕まえてスパーリングやってたんだよ。いつ試合するかもしれない連中と一緒に練習してもしょうがないし。だいたいボクシングの選手は同じジムで練習しないでしょう?

それはあり得ないですね。それで、そのスパーリング・パートナーはやはり対戦の可能性かない若手たったんですよね。その練習のときに、中野さんは腹にサランラップを巻きながら練習していったいうのは本当なんですか?（笑）。

中野　ああ、腹を絞りたかったからサランラップを巻いてサウナスーツを着て汗を出してたの。あれはものすごく発汗性があるんたよな。

――あれはホントだったんですね。それについて桜庭さんが「練習が終わったあとに汗だくのサランラップを片づけるのが、練習よりもイヤだった」と本でこぼしてました（笑）。

中野　そんなこと言ってんだ（笑）。でも、俺はちゃんとゴミ箱に片づけたつもりだったけどなあ。

――えー、今度は高山さんの証言なんですけど（笑）。「中野さんか練習後にエルヒス張りのリーゼントをセットするのにいつも鏡を持たされてた」との発言が（笑）。

中野　それはねえよ!（笑）。

――ありませんか（笑）。

中野　まあ、1回ぐらいはあったかもしれないけど、それは記憶にはないな

――それで練習の締めは必ず缶コーヒーを買いに行かしたんですよね。「いつもの頼むぞ」って（笑）。

中野　それは一緒に練習したんたから、一緒に飲もうよってことでさ、そういう後輩との接点みたいなのを作ろうとしてたよ。だって俺一人で飲んでってたってさ、偉そうだろ?「いつも練習付き合ってくれてありがとうな」っていう気持ちだったと思うよ。

それで、またもや高山さんの回顧談なんですけど（笑）。試合当日に中野さんの家までタクシーで迎えにいったんですけど、どうしても疲れていて眠ってしまって。それで隣り合わせに乗っていた中野さんの体に触れてたら「控えおろう!」って怒られたっていう証言が（笑）。

中野　言ってない!　言ってないってそんなこと!（笑）。

――「控えおろう」とは言ってないと（笑）。

中野　ん〜、高山があの大きな体で寄りかかってきたときに蹴っ飛ばしたことはあったけど。

蹴っ飛ばしたことはあったんですね（笑）。

中野　アイツらも雑用も多かったから疲れたたろうし、居眠りしてても大抵ほっといたよ（笑）。……それにしても「控えおろう!」はなあ、よく作るよなあ（笑）。

――その辺は、『紙プロ』で対談

# 健介、坊主頭時代に交わした約束忘れんなよ！

して白黒つけましょう！（笑）。
中野　いいよ、別に。
　逆に中野さんが面白かったエピソードとかは何かなかったんですか？
中野　オレはやってって良い思い出がなかったんだよ。
　良い思い出がない！　若手がこんなバカなことをしたとかなかったですか。たとえば、田村さんとは新生ＵＷＦのころからの付き合いですよね？
中野　田村とは新生ＵＷＦのときは2人でアパートに住んでいたよ。だから、アイツには厳しくしたよ。
　その指導の甲斐があって、田村さんがＵインターの寮長のときはやけに厳しかったんですね（笑）。
中野　そうらしいね（笑）。金原とかボヤいていただろう（笑）。ワッハッハ！
　金原さんは寮にいる時間が一番イヤだったって言ってましたから（笑）。きっと中野さんに厳しくされて、後輩にはこういうふうにするんだって教わったんじゃないかって（笑）。
中野　イヤ、それは違うさ。田村の性格っていうのもあるしさ。そういうことじゃないと思うな。やっぱり後輩に対しては厳しい先輩でなくてはいけないって思ってたから。最初は厳しくしてこの世界がこういうものだっていうことを植え付けないといけないから。それでアイツらがオレを恨んでいるんだったら、それはそれでしょうがない。
　恨んではないとは思いますけど（笑）。中野さん自身、先ほど「良い思い出がない」ってことですけど、恨みまでいかなくても納得できないことがあったんですか？
中野　イヤ、そんなことはないよ。不満があったわけじゃないし。ただ、ある人物が個人的に合わなかっただけであって
　そのある人物とは[illegible]の方ですか？（笑）。
中野　それは言えないな！（笑）。
　そうですか（笑）。それでは言える範囲内で、Ｕインターのときの数少ない先輩について語ってもらいたいんですけど。山崎さんについては当時はどう思っていたですか？
中野　あの人も道場にそんなに来てたわけじゃないしね。何か針とか整体を習いに行ってさ当時からやめる準備をしてて（あきれながら）。
　それはみんなわかってたんですか？（笑）。
中野　わかってた、わかってた。今から考えると一番理想的なやめ方で、うまいことやりやがって
　手に職持って、新日本とも話をつけてって（笑）
中野　そうそう。だからあの人か新日本に行ったとき、それをＵインターの幹部は若いフロントや選手に説明しないんだよ。だからオレが説明しようと思って博多の試合てリンク上からマイク持って「山崎のバカヤローッ！」って怒鳴ってさ。
　あの絶叫は説明たったわけですか（笑）。
中野　あれが単純にわかりやすいんじゃないかなって。それをやったらね、フロントの一人か涙流しながら、「中野さん。よく言ってくれました！」って感激してたけどね（笑）。だいたい裏で話つけて行きやがったわけだから、みんな気分良くないでしょ。だから山崎一夫という人物を一言て表すなら、「あんなもんだ」ってことだよ！
――ガハハハハ！　「あんなもん」ですか（笑）。
中野　ホント、どうでもいい！
――では、前田日明、山崎一夫と来て、髙田選手はどうでもよくなかったんですよね？（笑）。
中野　まぁ、社長たからね　なんか気にいらないこと言ったら給料減らされちゃうからさ
　そんな仕打ちをされたことがあったんですか？（笑）
中野　よく覚えてないな。そういうこと関してはたまに記憶が飛ふんたよ　まぁ、たから髙田延彦という人間を一言でいうなら、「選挙に出て失敗した人」だなー
――ガハハハ！　そのまんまですね（笑）。
中野　これはホントのことだろ？
――まぁ、もし選挙で当選したり、出馬しなかったりしたら、ヒクソン戦もなかったかもしれないしれませんからね。
中野　でも、あのとき俺は文句言われないように、ちゃんと髙田延彦に投票してるから。これはいまだから言うけど、当時のＵインターの選手、スタッフの半分は髙田延彦に投票してないと思うよ。
――え！　そうなんですか？
中野　投票日が博多で試合だったんだよ。だから投票してない人、けっこういるよ。俺はちゃんと不在者投票してきたけどな。
――いまの話を聞くと、半分が髙田さんに投票しなかったことも含めて、選挙に出た頃からＵインターの歯車は狂ってたんですね。中野さんがＵインターを辞めたのも、その辺か関係あるんですか？
中野　関係あるっていうか、俺はさっきも言ったとおり、ある人に我慢が出来なくなって、契約更改の3ヶ月前には決断してたんだよ。
　そうですか（笑）。やめる際にはどういう伝え方をされたんですか？
中野　契約の話があるってことで事務所まで髙田延彦に会いに行って。それで一応契約の説明を聞いて、聞き終わって「わかりました！　オレから言うことはないです……　やめます！」って（笑）。
　髙田さんの反応はどうでしたか？
中野　しばらく沈黙があって、髙田延彦が「わかった」って握手を求めてきたからこっちも握手して。それで事務所を出たら凄く気持ちが良くてさ！（笑）。
――つもり積もったものがあったんですね（笑）。
中野　それで知人とかにやめたこと言うと「ああ、良かったね」って言ってくれて（笑）。みんなよくわかってたんだね、Ｕインターってものが、残念だなって言う人は少しだったよ。
　やめたあとはどこかの団体に所属するとか、何か考えてい

**全日本に上がったのは間違いだった。でも、オレは元子さんに挨拶しなかったから**

背中に大きく「野武士」と書かれたオリジナルTシャツで佇む中野。硬派を絵に描いたような中野にしか着こなせない一品た

## オレはヤーブロウにボロ負けしてるから、自分からバーリトゥードは口にできねぇ!

たんですか。中野さんは馬場さんが存命していた頃の全日本にも上がられたわけですけど?

**中野**　全日本はどういう団体かわからなかったけど、オレはゲーリー・オブライトとシングルでやりたかったんだよね、武道館で一試合だけね。ゲーリーとだったらファンも納得するでしょ。でも、馬場さんに「一試合じゃダメだ」って言われて5試合契約したんだけど、あれは間違ったなって思ったよ。1試合目で「もう上がりたくない」って思った

　いきなり1試合目でですか(笑)。

**中野**　やっぱり、新日本よりも全日本はさらにスタイルが違うから。俺らがやってきたもんていうのは明るく楽しいプロレスじゃないでしょ?

　中野さんが歩んできた道程ではないですよね。馬場さんなんかは試合スタイルにはうるさい人だとは思うんですけど。

**中野**　うるさいよね(キッパリ)。

―いろいろ言われませんでした?(笑)。

**中野**　言われた(アッサリ)。

　やっぱり(笑)。

**中野**　もっと痛そうな顔しろとかな(笑)。

―基本的なことですね(笑)。

**中野**　全日では馬場さんの権限は絶対だから。まあ、影に元子さんがいたんだけど(笑)。会場に入ったら元子さんにも挨拶しなきゃいけない決まりがあったんだけど、オレは挨拶しなかったけどな!

―元子さんを無視しましたか―(笑)。

**中野**　馬場さんには挨拶したけどもさ　たって関係ねえじゃん!　元子さんは!

―影のドンではあったが中野さんには関係ないと(笑)。まあ、中野さんはゲーリーと闘いたかっただけですからね。

**中野**　ゲーリーは人間的にも好きだったよ。Uインターのときから友人でお互いに認め合ってたし　オレが全日本にもう上がらないって彼に言ったときにゲーリーが必死に引き留めてくれてさ。「オレがミスター・ババに言ってやるから」って……。死んだときは正直悲しかったよ。オレは酒が飲めないから、アイツとは2、3回しか同席しなかったんだけど、いま思えば我慢してでも一緒に飲んでいればなって思うよ……。

　ゲーリーのことを悪く言う人はいませんからね。

**中野**　シングルってやりたかったよね(しみじみと)。

　中野さんはああいう大きい選手とやるの好きですよね。

**中野**　やっぱりロマンもあるだろ?

　ベイダーとも最初にやったのも中野さんでしたし(笑)。

**中野**　ベイダー戦はやりがいがあって満足してるよ。オレはやったから言えるけど、ノアに上がってるベイダーとUインターに上がっていたころのベイダーは違うから!(キッパリ)。

―違いますか!

**中野**　今のベイダーは昔の半分も実力が出ていないし、あの頃のほうが殺気だってたしね。オレも緊張してたよ。

　誰もUインターにベイダーが上がるとは思いませんでした

# 健介、坊主頭時代に交わした約束忘れんなよ!

からね(笑)。
**中野** しかもまさかオレがやるとは思ってないから。週プロで騒がれてるって立ち読みして知ったぐらいだから(笑)。
――いつものように中野さんはいないところで話が進んでいるんですね(笑)。ベイダー戦後の大きい選手との対決っていうと、SBの興行でヤーブロウとのバーリトゥードがありましたよね。
**中野** あったね。SBには練習に行ってて、シーザー会長から「中野だったらデカイ相手がいいから、探してくるからやらないか?」って言うから「いいですよ」言ったらさ……。
――そうしたらあんなのがやってきたと(笑)。中野さんはヤーブロウに真っ正面から行きましたよね
**中野** 負けたけとね オレのあとて格闘家(高瀬大樹)か15分ぐらい逃げ回ってバテさせて勝ったんでしょ。アイツに勝つのはそれしかないよね オレも試合の直前まではそうしようと思ってたんたけとね でも、オレのプライドか許さなかったんたよな
逃げることは恥たと
**中野** そう。今でもあれはオレにとって自分に対して汚点たよね あの試合に関して批判されてもしょうがないって思ったから「何とでも言え!」って腹括ってたんたけとね
――中野さんはリベンジっていうのを考えなかったんですか?
**中野** あのあとヤーフロウが負けてなければ、もう1回やろうって思ったんだけど負けてしまったから
いま結構格闘技系のリングが多いんで、中野さんにも上がってほしいですけどね。中野さんがグローブ付けて殴り合うっていうのも面白いと思うんですけと
**中野** そうだな。練習はそういうことやってるしね。だからこないだのテレビで新日本とK―1が同じ時間にやっていたけど迷わずK―1の方をビデオに録ったよ。
――例えばバーリ・トゥードのオファーがあったら出る準備はあるんですか?
**中野** 依頼がくればね。この選手だったらおかしくないっていう相手で、オレが出ることによって盛り上がって くれれば出るよ てもさ、俺はヤーフロウにホロ負けしてっから、自分からは言えねえんだよ! それに「出る」って言ってて出ないと、何か言われるし、難しいとこなんたよな
中野さんはいまはUWF系の練習をしてるんですか、それともバーリトゥードの練習をさせてるんですか?
**中野** ほほ中間かな それは試合の依頼か来て決まった時点で練習方法を切り替えたりするし、相手によっても違うし。まぁ、Uインターの後輩がみんな頑張ってるから見ると嬉しいし、俺もやってやろうとは思うんだけどな。俺はこの世界に入って17年になるんだけど、いまはその17年間で最高のコンディションだから!
――体なんかもすごく締まってますもんね!
**中野** たからとんとん試合はしたいんだけどね、俺に合う試合っていうのがなかなかないんだよ(苦笑)。

## 今はデビュー以来最高のコンディションでも俺に合う試合がねぇんだよ!

【なかの・たつあき】本名・中野龍雄。S40年6月16日、茨城県下妻市出身。174cm、98kg。旧UWF第1回入門テストに合格。その後、業務提携で新日本参戦、新生UWF、Uインターを渡り歩き、現在はフリー。新生U時代に外様の[illegible]と呼ばれるか、ネイティブ茨城弁の使い手でもある。

――具体的にはどんな試合をしたいと思ってるんですか? 今はいろんな選択があるとは思うんですが。たとえばデス・マッチ系の試合なんてのは……。
**中野** (遮って)オレは親からもらったこの体を、馬鹿みたいに傷つけたくないんだよ あんな腕とか額に傷つけて みっともねえよ、恥すかしい! あんなのやるんだったらオレは引退するよ!
――まったくやるつもりはないみたいですね(笑)。
**中野** これからもないよ! あんなの練習したものが出せないじゃん! ああいうのは練習しない連中がやることだから(キッパリ)。プロっていうには目一杯練習して、目一杯試合をするんだから。プロっていうのはそういうもん。しかも1、2万のギャラとかで試合やってるでしょ。そういう連中ってのはケガしたらどうするんだって。プロである以上はそんな安いギャラでやるのはプロでやる資格がない。そうでなかったらファンに夢が売れないわけだよ。
そうなるとプロとは呼べない選手は相当いますね(笑)。
**中野** プロと呼べない選手が多すぎる! だからそれだけプロレスっていう世界が軽くなってるってことて、情けないよね たから今はK―1とか『PRIDE』とか、重い世界に押されるんたよ それが残念で仕方かないよね
そういった時代の流れかあったとしても、中野さんが本当にやりたいスタイルっていうのは何ですか?
**中野** だからUWFスタイルだよ
――でも、いまはたくさん団体がある割には、純プロレスか格闘技に2極分化しちゃって、中野さんの理想とするリンクってなかなかないですよね?
**中野** そう、ハッキリ言われっちゃうと困るんだけどよ(笑)。俺はメジャーでも小さくても、ああいう感じで試合ができればいいんだけど難しいんだよな。自分でもよくわかんないとこもあるしさ。つい最近もあるしっかりした団体から依頼かあったんたけども。「いつなんだ」って聞いたら「明日なんです」って言うんだよ(笑)。
ガハハハ! それまた急ですね(笑)
**中野** 前日のしかも夕方4時だよ(笑)。出たいけどまあ、さすがに断るわな。だからちゃんとトレーニングができる期間があって、ちゃんとやれる恥ずかしくない相手だったらいつでも構わない
――こいつとやったら面白そうだっていう相手はいますか?
**中野** マーク・ケアーとやってみたいな!
――それはいいですね! ケアーも最近は『真撃』にも出てるんですけど……あ! もしかして、さっき言ってた前日にオファーかあった団体って……(笑)
**中野** どこかは言えない! だけど、前日の夕方4時のオファーには参ったよな(笑)。

【00年10月5日/狛江市「ジョナサン」にて収録】

フジ、日テレ、TBSを制圧した館長がまたもや歴史的快挙!

# 石井和義のオ〜ルナイト・ニッポンッ!R

(木・27:00〜28:30)

次の曲、レッツ・ゴー!

K-1の"K"とは空手、キック……の"K" 『紙プロ』も"K"という

# 50%OFFセールを実施します!!!

**第15号 1995年5月号**
特集 インディペンデントの逆襲

**第8号 1994年1月号**
特集 さらば新日本プロレス

**第21号 1995年12月号**
特集 幻的格闘技

**パンクラス公式読本【矛】**
97年夏、横浜道場所属のパンクラシスト

**第13号 1995年3月号**
特集 道場破りとは何か?

**第22号 1996年2月号**
特集 この人が喝っ!!

**パンクラス公式読本【盾】**
97年夏、東京道場所属のパンクラシスト

**第14号 1995年4月号**
特集 神秘とは何か?

**怒涛のインタビュー16連発**
**極真とは何か?**

撮影/荒木経惟 プロデュース/南部虎弾
**格闘男**
桜庭和志、藤田和之、村上和成、アレクら11人のプロレスラーが天才アラーキーと勝負した カメラの前で"生身"をさらけ出し「男の張る」姿を見逃すな

**第16号 1995年6月号**
特集 新日本凸凹大学校

**紙の前田日明**
インタビューという名の鉄拳史
「紙プロ」、「レンタマ」、「紙プロRADICAL」誌上で展開された前田日明怒涛のエネルギー史 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ

**2000年 4月**
**情念〜我一途なり〜石川雄規**
「紙プロ」で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆+書き下ろし、情念とは何かがわかる一冊である。

**第17号**
特集 実況パワフル北朝鮮

**第19号 1995年9月号**
特集 さようなら紙のプロレス

## 50%OFF 衝撃通販方法

●代金は50%OFFセールのため8号は¥700→¥350、11号〜22号は¥780→390、パンクラス公式読本「矛」「盾」は¥1260→¥630、「極真とは何か?」は¥1530→¥800、「紙の前田日明」は送料込みでサービス価格¥2000、『格闘男』は¥3000(送料込み)、「情念」は¥2100(送料込み)となっております。

●本誌送料は1冊=¥310/2冊=¥380/3〜4冊=¥450、5冊=¥520/6冊以上は¥700となります。

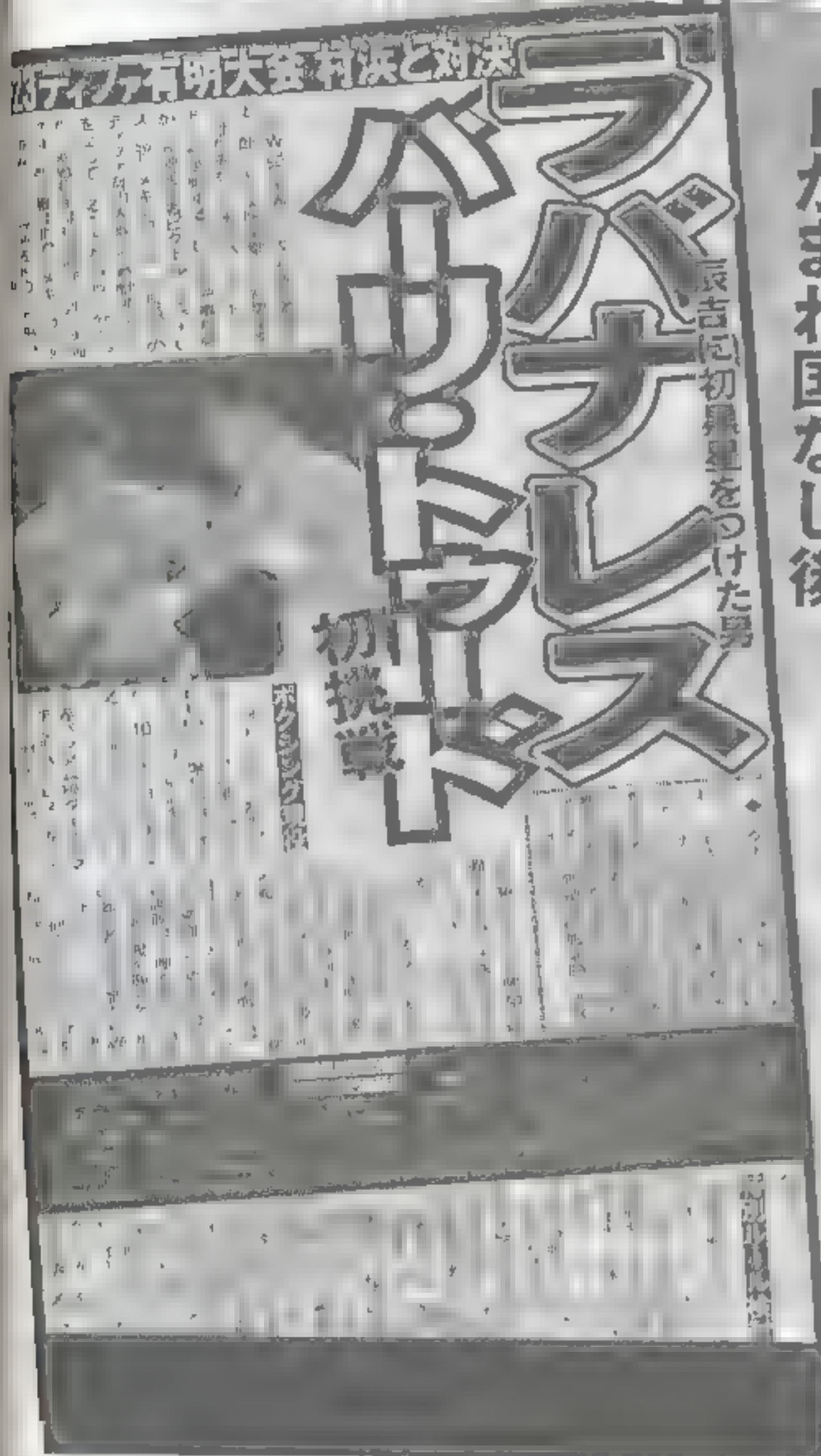
●申し込み方法は現金書留か郵便振替でお願いします。(バックナンバーは通販しか取り扱っていません。)
【現金書留】—— 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス
【郵便振替】—— 00130-3-769154(株)ダブルクロス
※現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、郵便振替の場合は通信欄に希望号数を明記してください。

【『紙プロ』本誌・50%OFFセールショップ】
アイドール新宿店・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京店・チャンピオン大阪店
リングスパレス・バディスラム・タコシェ

[00年10月5日 狛江市 ジョナサン にて収録]

## 12.16DEEP両国大会中止！
## 12.23ディファ有明に変更！

DEEPの2001

# 佐伯さんどうしたんですか？
# ディファ有明の規模では考えられない豪華カードを組みます！
### 現時点ですでに予算オーバーですから（笑）

**ドスカラスJr.の活躍などで盛り上がった8・18横浜文体の勢いのまま、12・16両国に突入するとみられていたDEEP。しかし、その両国大会が突如ディファ有明に変更になってしまった。一体、これはどうしたことか。DEEP佐伯代表に今後のプランを直撃してみた。**

DEEP2001事務局代表 佐伯繁

――佐伯さん、楽しみにしていた12・16両国大会が……！

**佐伯** はい、ディファ有明大会になりました！

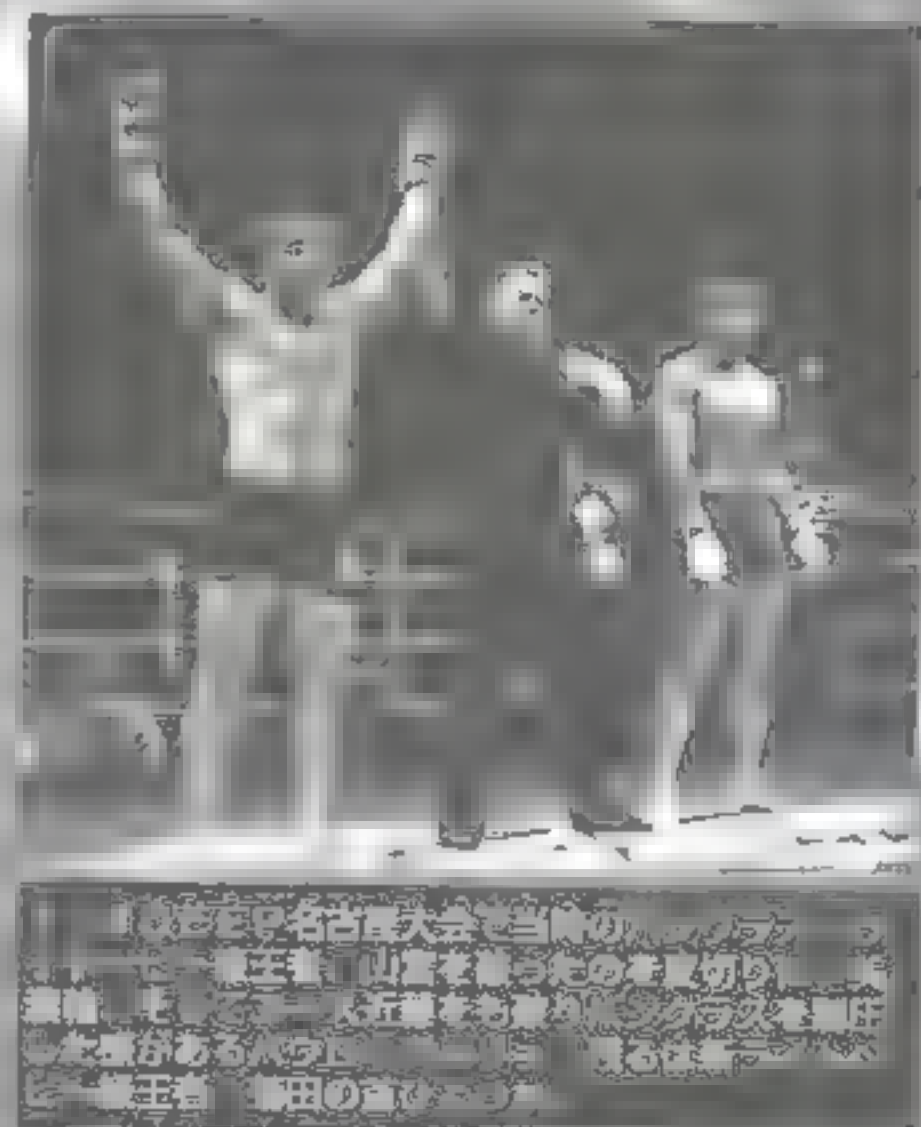
――ホントはこの間の横浜文体を大成功させて、その勢いで行こうかなと思ったんですけど……勢いがつかなかった、と（笑）

**佐伯** 思うようにお客さんがいっぱいにならなかったですからね。それで周りから「両国はやめとけ」って話をされたんですよ（笑）。確かに現実的な問題、両国のメイン級のカードを組むのは、いまの時期だと難しいかなっていう問題も出てきてましたからね それで今回はキャンセルして、代わりに去年「UFC-J」を見て凄く会場の雰囲気がよかったディファでやろうと思ったんですよ 確かに両国に比べると規模か違うんですけど、自分のなかで一度満員の会場でやりたいという気持ちがあったんで（笑）。

――満員の会場はムードが違いますからね（笑）。

**佐伯** それとDEEPを2回やってきて、やっぱり試合が間延びしちゃうのが問題だったんですよ。8月の試合（8・18横浜文体）も凄くレベルは高かったんですけど、それがお客さんに十分伝わったとは言い難いし。リングサイドで見ればレベルの高いグラウンドの攻防でも、遠くからではなかなか分からないんですよね。そういう意味でも、一度小さい会場で間近で見てもらったら、面白さがわかってもらえていいんじゃないかと思いますしね。

――ディファたったら、全部リングサイドみたいなもんですからね。

**佐伯** そうですよね。そういった部分で会場も見直さなきゃいけないと思ったし、ホントはブレイクのタイミングをもっと早くしたりして、誰が見てもスピード感があって面白いものにしたいんですよ。それによって最終的にお客さんが会場に来て、選手がみんな頑張ってくれればと思いますから。

――でも、DEEPのメンバーをディファで見れるというのは、非常に贅沢ですよね（笑）

**佐伯** だから、ファンのみなさん 今回は早めにチケットを押さえた方がいいですよ（笑）。ホントにね、あの規模の会場になると、チケットか「えぇっ？」っていう位ないんですよ。例えばリングサイドのチケットなんか、各プレイガイドに分配したら、一カ所に4枚くらいしか行き渡らないんじゃないかってくらい（笑）。

――昨年末の『UFC-J』もチケットが早々となくなりましたもんね 対戦カードはどんな感じになりそうなんですか？

**佐伯** もちろんキャパは小さくても、カード的にはビックマッチ級のカードを用意しますよ！

――おお！ それは楽しみですね。いま言える範囲でどんなカードか教えてもらえますか？

**佐伯** はい。まず、一部新聞紙上ではすでに出てますけど、ビクトル・ラバナレスについては、だいぶ話か進んでます！

――あの辰吉丈一郎選手に初めて黒星をつけた元世界チャンプですよね。

**佐伯** そうです！ この人が村浜選手とやったら面白いんじゃないかと思うし、いまK-1vs猪木軍とかありますけど、それに負けない目玉になりうるとボクは思ってますからね。これはぜひ実現させたいと思います！ それと今日、正式にドスカラスJr.の再登場が決定したんですよ。

――お！ それは朗報ですね。前回のDEEPは終わってみればドスJr.が話題を独占した格好になりましたからね。対戦相手は誰になりそうなんですか？

**佐伯** ファンのみなさんは、まず謙吾選手との再戦が頭に浮かぶと思いますけど、やるんだったらベストな状態でやらせたいですから、正直言って2人を12月に当てる気はないんですよ。謙吾選手はどう見てもフルの状態ではないと思うし、まだ次の大会にしてもチャンスはありますから。その代わり、ドスに挑戦状を叩きつけてるヤツがいるんで。その選手をぶつけたいな

8・18横浜文体で謙吾を殺人スープレックス"チノマ"で秒殺病院送りにし、ルチャドールのイメージを一新させたドスJr.。このまま勝ち逃げしてもよかったが、12月に再登場が決定。今度はどんな秘技を見せるか!?

## ドスJr.の対戦相手、また驚かせますよ！

と思ってます。

「オレが謙吾の敵を討つ！」っていうコメントを出してる選手ですね。これはやっぱり同門であるパンクラスの選手なんですか？

**佐伯** いや、パンクラスではないです。日本人の大型選手なんですけど、ボクはかなりいけると思ってるんですよ。

——大型の日本人ですか……ヒントは？

**佐伯** う～ん、発表したら「ええ？ また？？」ってファンの間で物議を醸すでしょうね（笑）。でも、よくよく考えるとドスの勝ち方か見えて来ないんですよ。ドスは打撃がないですからね。打撃がない選手とやれば彼はかなりイケるんじゃないかっていう選手です。コレは敢えて話しません（笑）、11月上旬の記者会見で発表しようと思ってますんで、楽しみにしていて下さい！ それからもうひとつ。おそらく元リングスの坂田選手がいよいよパンクラスの選手と初めて当たることになると思います。

——おぉ～、待望のケンカマッチですね（笑）。坂田選手本人も「オレの次の相手は高橋義生しかいねえだろ」って言ってましたよ。

**佐伯** でも高橋選手は残念ながら、12月1日にパンクラスヘビー級トーナメントの決勝がありますから、今回はちょっと無理そうですね。

あ、そういえばそうですね。その高橋選手の件も含めて、次のDEEPはパンクラスのビッグマッチ（12・1横浜文体）と日程が近いですけど、やはりその影響でパンクラス勢の参加は少なくなりそうですか？

**佐伯** ウチもパンクラスさんも12月に興行があることは前からわかっていましたし、それに合わせて事前に交渉してますんで、それに関しては全然問題ないですよ。12月だけでなく、もう来年2月か3月に予定しているDEEP第4弾の話もすでにしてるんですよ。先見ながら色々考えて交渉してますから、パンクラスさんとの関係は全くノー問題ですね。

——では、坂田選手の相手は高橋選手以外のパンクラス勢になるわけですね。

**佐伯** はい、そうなる予定です！ あとは、間に合えば謙吾選手の復帰戦も考えていますし、それから変わったところでは、もの凄い力持ち。これまでのバーリ・トゥードでは考えられないパワー・ファイターも考えています！ 腕相撲ナンバーワンとかそんなんじゃないですよ！

——どんなファイターなんですか？

**佐伯** ストロングマン・コンテストのナンバーワンです！

——ストロングマン・コンテスト！ すごい！（笑）。

**佐伯** もう、デカい石とか持ち上げちゃいますから！ こんな選手のパンチ当たったら怖いですよ！（笑）。これまで腕相撲とかウエイトリフティングとかはいましたけど、こっちはホントの力持ち！ 面白いと思いますよ。

——いやぁ、いつもながら発想が違いますね（笑）。全カード発表が非常に楽しみです。

**佐伯** 実はね、もう7試合ぐらいはほとんど決まってるんですよ（笑）。

——もうそんなに決まってるんですか！（笑）。

**佐伯** どれも9割方決まっていて、7試合とも全部面白いと思うんですよね。それから交渉している選手が2人くらいいますから、追加カードも出てくるだろうし。でも、あんまりたくさん出しても、ディファの規模と合わなくなってきますから（笑）。

## ルチャ軍団vs日本選抜の5vs5も考えてます！

——千何百人の世界ですからね（笑）。

**佐伯** もう正直言って、現時点でディファでやる予算を超えてますよ！ もうどうすんのかな？って思いますよね（笑）。

そんな他人事みたいに（笑）。

**佐伯** でもね、やっぱりいいものを提供したいんですよ。例えば『PRIDE』さんとかあれだけ凄いカード組んでくるじゃないですか。自分としてどうしようかなっていう、方向性を考えたんですよ。そうするとウチがアピールする部分は、若い選手にチャンスを与えて育てていく部分と、他とは視点か違うというところですよね。真剣勝負のなかにもプロレス的な部分を入れていこうと。

その方向性は紙プロも断然支持しますよ！

**佐伯** やっぱり8月の大会でも一番インパクトがあったのは、正直言ってドスの試合だし。ドスJr.にしてもカト・クン・リーにしても入場だけで沸かせましたよね。だからカトも機会があったらまた使いたいんですよ。本人も試合後にようやく「ルールが分かってきた」って言ってましたから（笑）。

——試合後にわかってきましたか（笑）。

**佐伯** だから来年早々にも、ルチャ軍団と日本人選抜チームの5vs5全面対抗戦も考えてるんですよ！

——ルチャ軍団大挙来襲ですか！ でも、ドスJr.やカト以外にバーリ・トゥードをやろうというルチャドールなんかいるんですか？

**佐伯** いますよぉ～ ルチャの選手はみんなアマレスやってますから実際強いんですよ！ 色々大物にも交渉してるし、個人的にはエル・カネックのバーリ・トゥードなんか見たいですしね。

カネック！ そりゃ見たいですよ！（笑）。

**佐伯** それからカトの息子呼んで親父の敵討ちでもいいしね（笑）。ネタはたくさんありますから。そしてそこまでやりながら、しっかりした格闘技路線も考えてるんですよ。ブラジリアン・トップチームと日本人選抜の5vs5対抗戦も真剣にやりたいですから！

——ルチャ軍団の次はトップチームと対抗戦ですか！ 凄い振り幅ですね（笑）。

**佐伯** 日本人の方も徐々にプロレスラーと交渉していこうと思ってるんですよ。みちのくのタイガーとかディック東郷も出したいですね。

——トップチームvsディック東郷はメチャクチャ見たいですね（笑）。

**佐伯** みちのくの話出たついでに、ちょっと言っておきたいことがあるんですけど。『紙プロ』さんに載ってたサスケさんインタビューで、ボクとデルフィンが仲が悪いとか出てましたよね？ それに関しては全く誤解なんで（笑）。村浜選手を大阪プロレスの興行ある日でも気持ちよく出してもらってるし、仲良くやってますんで、皆さん勘違いしないでください（笑）。

——それはしっかり載せときましょう（笑）。では、最後に12・23ディファ大会について、お知らせしておきたい情報はありますか？

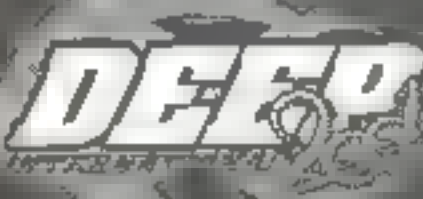
**佐伯** はい、次回のラウンドガールにはキューティー鈴木さんが登場します！

——くどめ、府川の次はキューティー！ 見事なつながりですね（笑）。

**佐伯** 横浜文体ではチャイナドレスでしたけど、今度はクリスマスですから。それなりのものを考えてますので、そっちも楽しみにしていてください！（笑）。

期待してます！

【01年10月14日／都内ホテルにて収録】

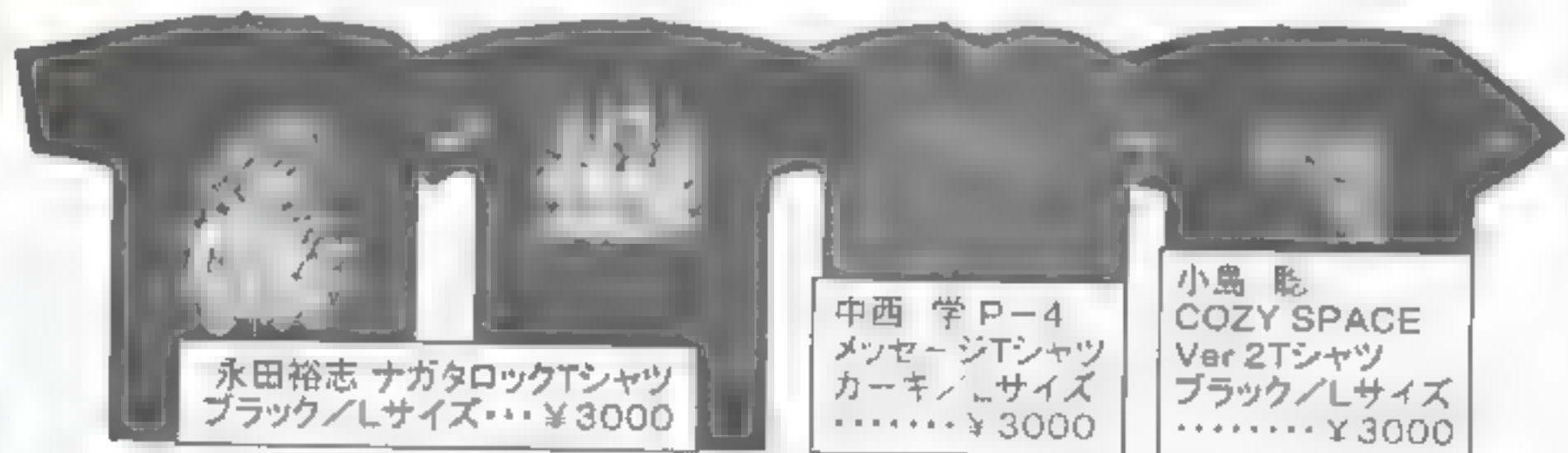
〈元リングスの[illegible]〉坂田のパンクラシスト遂に実現！！

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

# チャンピオン Champion

【ホームページURL http /www.champion-j com】

## ただいま、レンタルビデオ入会金が無料って知ってた？
## チャンピオンはプロレス&格闘技専門のビデオショップです！
## が、やっぱり今月もグッズ大特集!!

キングオブスポーツクラシックTシャツ
ラグラン／Lサイズ・・・・・・・・¥2500

ライオンマーク3D Tシャツ
ブラック／Lサイズ・・・¥3000

永田裕志 ナガタロックTシャツ
ブラック／Lサイズ・・・¥3000

中西 学 P-4
メッセージTシャツ
カーキ／Lサイズ
・・・・・・・¥3000

小島 聡
COZY SPACE
Ver 2Tシャツ
ブラック／Lサイズ
・・・・・・・・¥3000

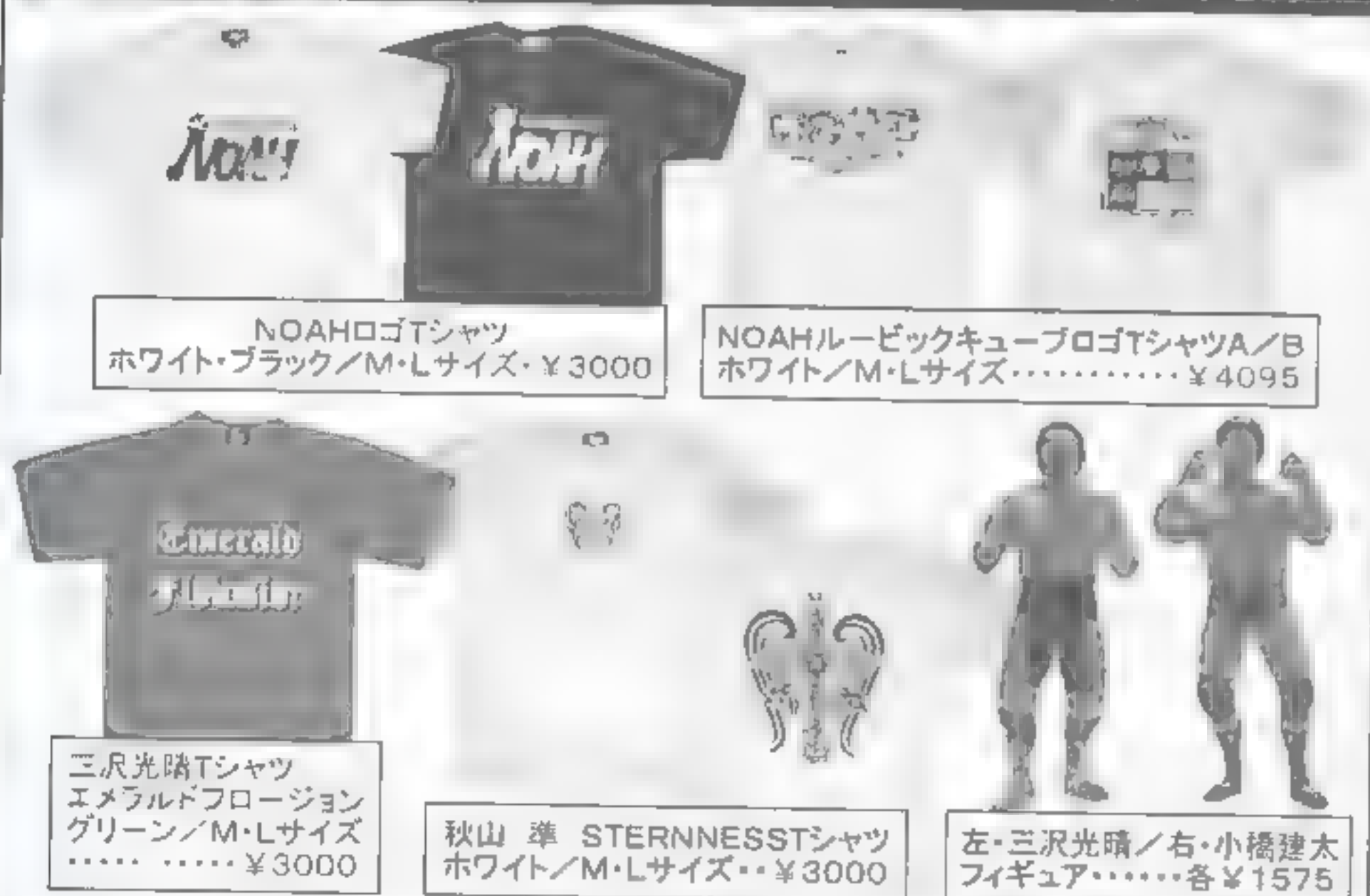
BATTTシャツ
ホワイト・ブラック／M・Lサイズ・¥3000

武藤敬司 CROSS WIZARD S Tシャツ
ホワイト／M・Lサイズ・・・・・・・・¥3000

ドン・フライTシャツ
ブラック／Lサイズ・¥3000

武藤敬司 CROSS WIZARD S
キャップ／ブラック・・¥3500

武藤敬司 CROSS WIZARD S
リストバンド2個セット・¥1500

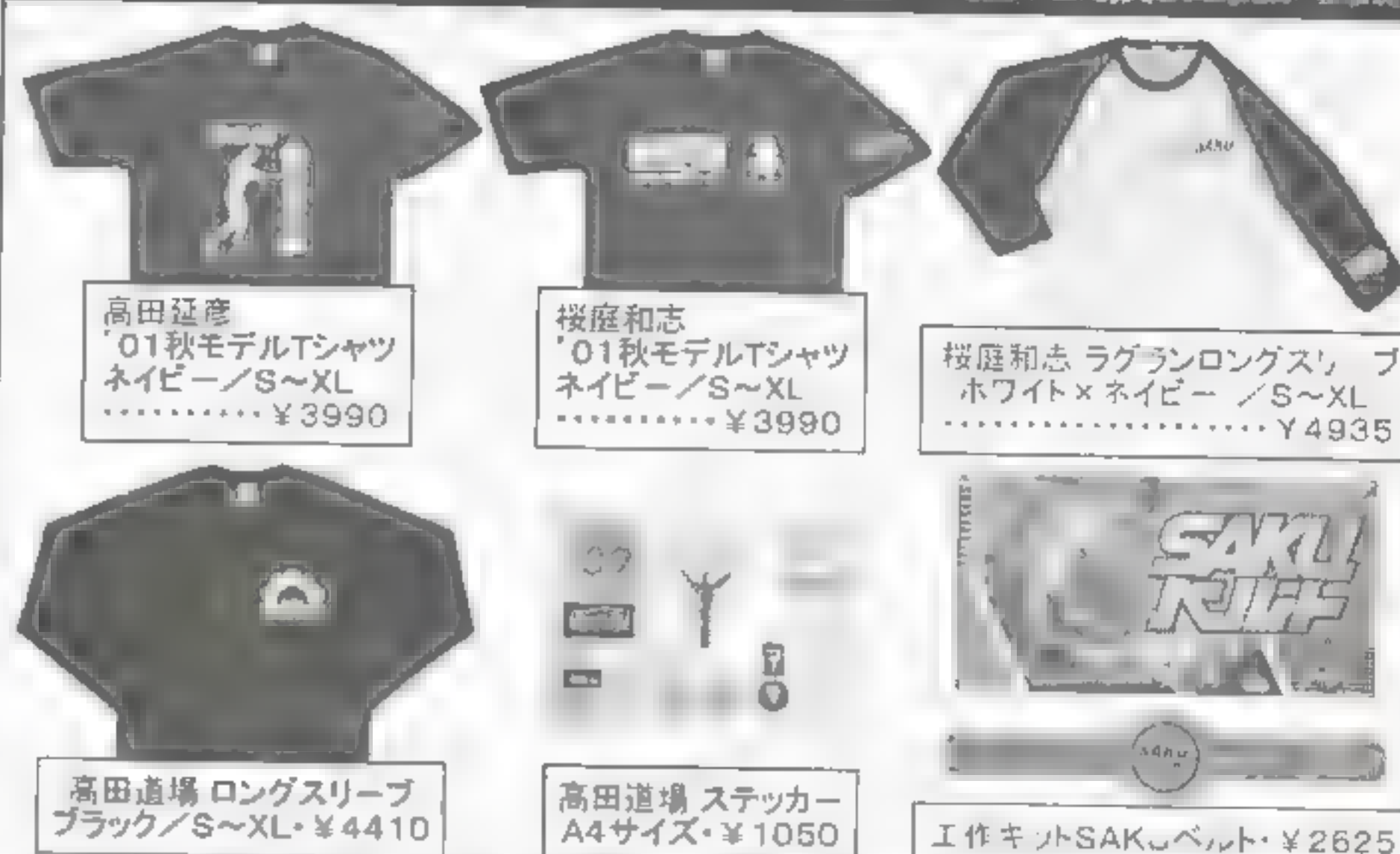
## NOAH・三沢&秋山 新作Tシャツも好評発売中!!

NOAHロゴTシャツ
ホワイト・ブラック／M・Lサイズ・¥3000

NOAHルービックキューブロゴTシャツA／B
ホワイト／M・Lサイズ・・・・・・・・・・・¥4095

三沢光晴Tシャツ
エメラルドフロージョン
グリーン／M・Lサイズ
・・・・・ ・・・・・¥3000

秋山 準 STERNNESSTシャツ
ホワイト／M・Lサイズ・・¥3000

左・三沢光晴／右・小橋建太
フィギュア・・・・・・各¥1575

## 高田&桜庭Tシャツを着てドームへ応援に行こう!!

高田延彦
'01秋モデルTシャツ
ネイビー／S～XL
・・・・・・・・・・¥3990

桜庭和志
'01秋モデルTシャツ
ネイビー／S～XL
・・・・・・・・・・・¥3990

桜庭和志 ラグランロングスリーブ
ホワイト×ネイビー ／S～XL
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・¥4935

高田道場 ロングスリーブ
ブラック／S～XL・¥4410

高田道場 ステッカー
A4サイズ・¥1050

工作キットSAKUベルト・¥2625

## 秋・冬アイテムも大好評のSOULラインナップ!!

魂(テープライン)
ロングスリーブ
ホワイト・ブラック・ネイビー
M・Lサイズ・・・・・¥3045

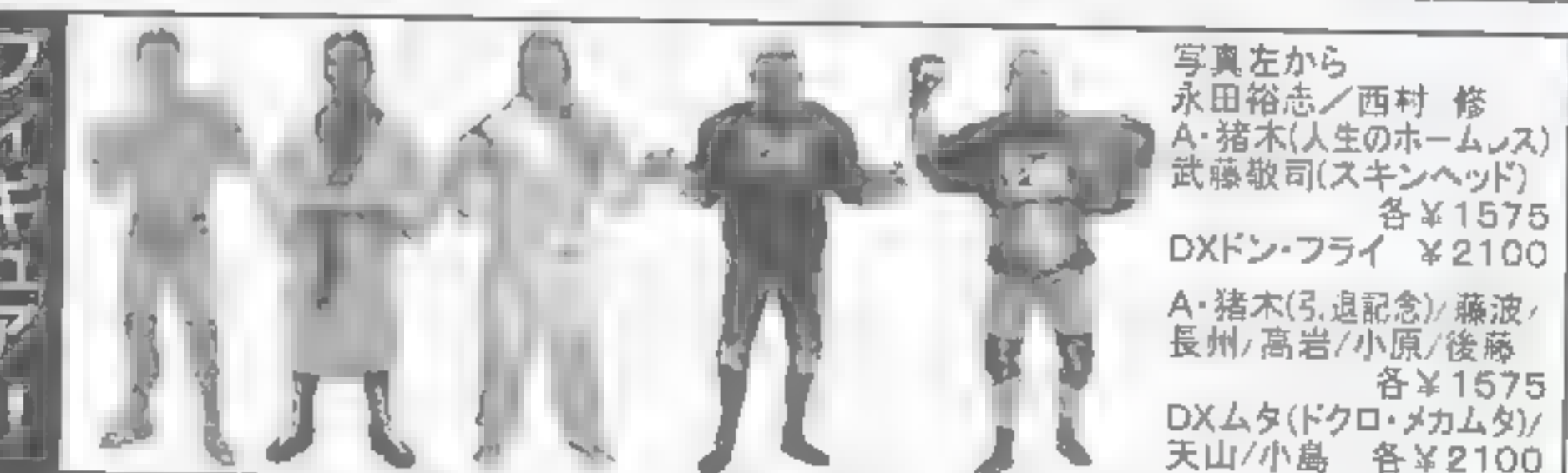
SOUL(テープライン)
ロングスリーブ
ホワイト・ブラック・ネイビ
M・Lサイズ・・・・・¥3045

SOUL テープライン,
ロングスリーブ2
ホワイト・ブラック・ネイビー
M・Lサイズ・・・・・¥4095

NEW パーカー(左・SOUL／右・魂)
ブラック・ブルー／M・Lサイズ・各¥7245

NEW SET-UP(左・SOUL／右・魂)
ホワイト・ブラック・ネイビー
S～XLサイズ・・・・・・・・・・各¥10290

キャップ(左・魂／右・SOUL)
ホワイト・ブラック・レッド・ベージュ
フリーサイズ・・・・・・・・各¥3045

## フィギュア!!

写真左から
永田裕志／西村 修
A・猪木(人生のホームレス)
武藤敬司(スキンヘッド)
各¥1575
DXドン・フライ ¥2100
A・猪木(引退記念)／藤波／長州／高岩／小原／後藤
各¥1575
DXムタ(ドクロ・メカムタ)／天山／小島 各¥2100

[通信販売お申し込み方法] ●ご注文は、電話・FAX・WEBサイトからご利用いただけます。いずれの場合も必ず商品の在庫をご確認して下さい。）●お支払方法は代金引換（商品代金＋送料）になります。●商品のお届けはヤマト便にてご発送します。●配達の日時指定が出来ますので、お申込み時にお伝え下さい。（但し、離島・一部の地域では時間指定が出来ない場合もありますので、予めご了承下さい。）●店頭に在庫のない商品に関しては、お取り寄せに多少お時間がかかります。●通販のご注文は1000円以上からお願いします。

## Champion東京店

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL03-3221-6237 FAX03-3221-6267
営業時間 11:00～22:20（年中無休）
E-mail webmaster@champion-j com

## Champion大阪店

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL06-6645-5186 FAX06-6645-5187
営業時間 11:00～22:00（年中無休）
E-mail east@champion-j.com

## 直接、店に来るもよし!!面倒なら自宅から注文するもよし!!

**チャンピオンだから出来るレンタルシステム**

**その1 店頭にてレンタル、店頭へのご返却**
（通常のレンタルビデオショップと同じ方法です）

**その2 店頭にてレンタル、宅配便でのご返却**
（店頭で借りて、返却は最寄のコンビニで手続き）

**その3 TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル**
（ご自宅にいながら宅配便を利用してレンタルできます）

※店頭にてご入会される場合は、身分証明証をご持参ください
（免許証／保険証／学生証他、住所確認ができるもの）
※通信レンタルをご希望される場合は、400円分の切手を同封の上、お名前ご住所・電話番号を明記の上、資料を請求して下さい
（到着後、入会申込書・案内書を送付いたします。）
東日本地区の方は、東京店へ
西日本地区の方は、大阪店まで
※通信レンタルでの入会手続きには、約1週間ほどかかります。

●こんなとこからイベント情報ーただいま、レンタルビデオ入会金無料キャンペーン開催中。好評につき、来月も引き続きキャンペーン続行～っ！みんな、借りますか～！

# CAT FIGHT WORLD

## 「国際交流 キャットファイトの魅力」

バトル編集部 木根さん

キャットファイトの知られざる魅力をお届けする「キャットファイトワールド」。今回は世界との交流キャットファイトの魅力について迫る! 日本から世界にキャットファイトを向けて発信します! それでは行きますかーッ!

## 日韓戦ならサッカーよりもキャットファイトが熱い!!

――「キャットファイトワールド」ファンの皆さん、元気ですか! 今回もキャットファイトの魅力をたっぷりとお伝えしていきます! 今日の語り部は……

**木根** どうも、バトルビデオ企画・制作部担当の木根です。

――木根さん、今日はよろしくお願いします! それで今回は何がテーマになるんでしょうか?

**木根** どんなスポーツでも海外との交流ってあるじゃないですか。世界マラソンがあったり、K―1や『PRIDE』にしても外国勢との対抗戦をやったりと。

――キャットファイトにもあってもおかしくないですね!

**木根** それで、やっぱり我々は日本人ですし日本人びいきに見てしまうと思うんですよ。

――格闘技の世界だと例え外国の選手だろうと強い人を応援したくなりますけどね。

**木根** キャットファイトの場合はその日本人の女の子がよほど好みでなかったら、ひいき目では見ないんですけど(笑)。その交流キャットファイトは、心理的な部分で激しく興奮するものなのです!

――し、心理的部分でですか!?

**木根** そうです! キャットファイトが好きな人なら分かるんですよ(キッパリ)。たとえば、キャットファイトじゃなくても、スゴイ可愛い子がいてその子が勝っていたり負けていたりすると興奮しますよね?

――それはそうですね! 私個人の意見では負けている時の方が興奮しますけど(笑)。

**木根** そうですよね(笑)。日本=仲間が負けていると、なんか興奮しませんか?

――あ~……なるほど、わかった気がしますよ。

**木根** だから、キャットファイトの魅力は何も女の子同士が裸になって取っ組み合うばかりじゃないんですよ。それは、我々が今まで紹介してきた様々なキャットファイトの魅力を見ていただければ分かるんですが。今回はそういう魅力の中でも、特に……精神的なモノと言いますか、そんなアレなんですよ(笑)

――抽象的な言葉を使いますね~(苦笑)

**木根** 上手い例えが見つからないんですよ! そうだなあ、スゴイ可愛らしい日本人の女性が、外国スラム街で金髪の女性に絡まれて無茶苦茶にされちゃうとしますよね。……どう思いますか?

――そりゃ腹立ちますよ!

**木根** じゃあ、その外国の金髪の女性がもの凄い美人だったら、どうします?

――う~ん……なんか……ちょっと、良いかもしれませんね(笑)

**木根** そういう事ですよ(笑)

――あれ? それで良いんでしょうか? あれ?

木根 (無視して)で、ちょっと宣伝してしまいますと(笑)、今回我々日本陣営は韓国に遠征し現地の女性と日本の女性とファイトさせたんです。

――韓国人のキャットファイターですか!?

**木根** 向こうで女の子見つけるの大変でしたよ。それで、キャットファイトして頂いたわけなんですが……いや~文化の違いとか、色々ありますね~。

――あ、撮影が困難だったんですね?

**木根** ムフフフ(笑)。秘密です!

――そんなアントン総帥みたいな含み笑いは止めてくださいよ!

**木根** ホント、かなり面白いですよ!

――だ・か・ら、教えてくださいよ!

**木根** どんなファイトだったんです? しょうがないですね~ちょっとだけですよ(笑)。

――ホ、ホントですか!? 早速、見ましょうよ!

(そしてビデオを観賞後)

――ウワァァア! これはスゴイですよ、木根さんッ!

**木根** そうでしょう? 海外交流の魅力が満載ですよね(笑)。

――ハイ! キャットファイトの新たな魅力がわかりました! 木根さん、ありがとうございました!

### 今月のオススメビデオです!!

**ワールドキャットファイト No.1**
**日本VS韓国**

「自分の彼氏を奪った日本人が許せない!」そんな韓国キャットファイターと、その復讐のために彼氏を奪われそうな日本キャットファイターが男を巡る国境を越えた女の性による壮絶ファイト! 海を超えてヤマトナデシコの悲鳴が聞こえる!?(45分 ¥10000)

**ワールドキャットファイト No.2**
**日本VS韓国**

「かつて日本人がした仕打ちが許せない!」そんな怒りを持った韓国猫戦士が、そんな怒りを意にも介せず適地に乗り込んだ日本猫戦士と殺戮バトル! ヤルか、ヤフレルか、肉体を蹂躙されるのはどっちだ!?(42分 ¥10000)

# "悲しき天才"ジニアスが事実上引退!

## 最後の試合は対スーパー・トーキョー・トム戦!

**フゥ〜〜ッ!　9・9バトラーツ後楽園大会前の一階ロビーにて自身の団体UNWの御臨終を発表した"悲しき天才"セッド・ジニアス。残念なことに、会見に足を運んだマスコミの数は片手で足りるほどという少なさ。『紙プロ』では、その会見を取材していたのだが、すっかり誌面に載せるのを忘れてしまい正直スマン!　改めて話を聞いてみたりして。**

―前号では、会見の模様を掲載できず、誠に申し訳ありませんでした。

**ジニアス**　いやぁ、何も載ってなかったから『ゴング』読んでんのかと思ったよ。

―で、いきなりなんですけど、ジニアスさんは、一部で報道されているとおり、引退してしまったんですか?

**ジニアス**　誰がそんなこと言ったのかな?　会見でそんなこと言ったっけ?

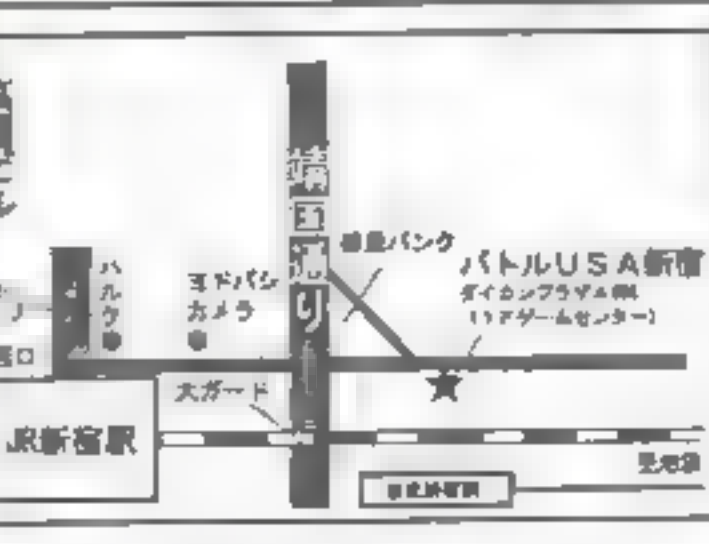
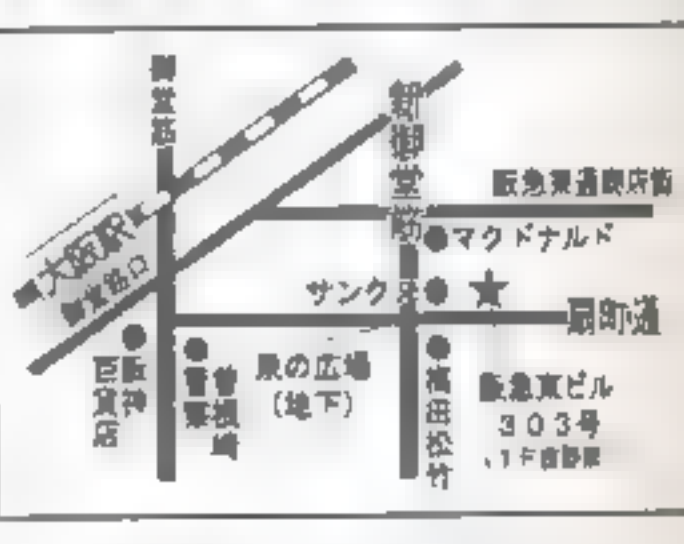
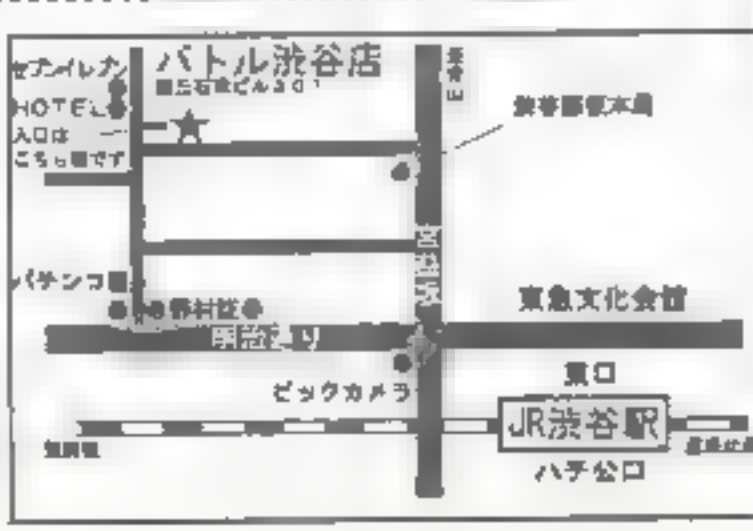
―体調的に復帰のめどが立っていないというのと、団体をクローズするっていう発表は事実上の引退宣言と受け取る人も多いと思いますよ。

**ジニアス**　はぁ…(カックンと溜息)。そうだよね。「引退なされたそうで、第二の人生頑張って下さい」ってハガキとか来ちゃってさ。「バカヤロー!　誰もそんなこと言ってねぇ!」って(笑)。でも、とりあえずね、実際に今は足が全然ダメな状態なんで。

―エコノミー症候群が原因なんですよね。

**ジニアス**　その一種だね。

―今回のジニアスさんとデルタ航空のトラブルっていうのは、ジニアスさん的には人災って感じなんですか?

**ジニアス**　人災?　人災と、あと何だろう?　天災か?　天災は天候とかのあれでしょ?　まあ根本的には人災だよね。チケットのトラブルから始まってるから。

―それこそ「悲しき天才」ならぬ『悲しき人災』。ですね(笑)。

**ジニアス**　また、そんなこと言ってるよ(笑)。まあ全治までに半年ぐらいはかかるだろうということで。ただ、それは日常生活における半年だから、プロレスをやるとなると、ちょっと厳しいかなってことで。今は足は動かせないから。いわゆる心臓を使う運動っていうのかな。走ったりする有酸素運動が全く出来ないから、スタミナが全くないし。だから、体がダブダブになって来ちゃって。で、スタミナがないからウエイトとかやっても続けられない。だから多分、内臓的にも当然体脂肪増えてるだろうから、ホントにヤバイなって感じかな。年末には巨大破壊王になっちゃうよ(笑)。…でもあんな体型になっちゃったらプロレスラーじゃないよね。自分だったら即引退だよね。

―ジニアスさんのレスラーとしてのポリシーで言えば、やっぱり、今はプロレスラーと言える肉体ではないと?

**ジニアス**　そうだよね。やっぱり、誰が見てもプロレスラーと言えるような、まぁ、100キロの身体をつくるのがプロレスラーの最初の仕事であると思ってるし、それをこれまでやってきたつもりだしね。まぁ、レスラーならそれぐらいのことはするのは当たり前なんだろうけどね。まぁ今の日本マット界はそうでもないみたいだけど(苦笑)。

―それは言えますね。

**ジニアス**　ただ、今は歩くのもちょっと辛いし、駅とかの階段を上るのも手すりを使わないと上れないからね。

―それは大変ですね。でも今年は何か、レイス戦が流れてし

**セッド・ジニアス＜＜＜ プロフィール**

【せっど・じにあす】本名・渡辺幸正　キャッチフレーズ・悲しき天才。身長190センチ、体重121 [illegible]

# あのセット

航空会社からは

選手生命を断たれた恐怖

リングに上がれない体に…

まったり、エコノミー症候群になったりと散々な年ですね。ある意味、厄年みたいな感じですけど。

**ジニアス** 厄年かぁ。ちょっと歳は違うんだけど(苦笑)。

――やはり、このまま引退というのは、ジニアスさんの頭の中では全く考えていないわけですよね?

**ジニアス** 考えてないね。だってさ、今のところ自分の最後の試合は、去年の9月、大仁田興行での、対スーパー・トーキョー・トム戦なんだよ。やっぱり、それで終わらしたくないから(苦笑)。記録上、非常によろしくない!

## いつになるかわからないけど復帰戦はできれば馳浩と戦いたい!!

――確かにスーパー・トーキョー・トムって言われてもねぇ(笑)。でも、結局は中止になってしまいましたけど、レイス戦が最後の試合だったら、記録上、非常によろしかったんでしょうけど。

**ジニアス** そうだね。まあレイスのことに関しては●●とかに言いたいことはいくらでもあるんだけどね(笑)。これ言っちゃっていい?

いや、ちょっとウチでは無理ですかね(笑)。

**ジニアス** そう(笑)。まあ外から見れば、今の俺の状態は誰が見ても、もうプロレスはできないと思われても仕方ないよね。でも俺は絶対に引退なんてしたくないし、それは認めたくないからね。絶対に治して必ずリングにカムバックしようと思ってるんで。

――いつになるかはわかりませんけど、復帰戦は誰と闘いたいっていうのはあります?

**ジニアス** う~ん、だから、少々っていうか、かなり時間はかかるだろうけど、コンディション整えるの難しくなってくるだろうね。復帰戦で誰とやりたいかっていうと……まあ俺を受けて止めてくれる人がいればいいけども、誰か受けとめられるレスラーはいるかなぁ?(笑)。ホントは俺は自分より大きい選手とやりたいってのがあるんだけど、例えばアメリカの選手……レックス・ルガーとか、俺のことを持ち上げて投げ飛ばしてくれるような選手がいれば、そういう人とやりたいんだけど、なかなかいないんだよねぇ(しみじみと)。

――日本マット界じゃ、なかなかジニアスさんよりデカイ選手って少ないですからね。

**ジニアス** むしろ逆に、俺がそういうことをやらなきゃいけないんだよね。でも、そういうタイプのレスラーじゃないからね。まあ、もし復帰戦ができるんだったら、長州さんみたいに潰してくれるようなレスラーとやれたら幸せかなと思うね。

えっ、長州さんですか?

**ジニアス** あとは藤波さんともやってみたいし。でも理想は馳浩と4種類の試合形式でやりたいんだよね。

4種類の試合形式? それはどういうことですか?

**ジニアス** まずは、グレコローマン・スタイルで、次がいわゆるフリー・スタイル、あとは、キャッチみたいな感じで、4つ目でプロレスの勝負をしたいんだよね。この間の新日本のドームの試合でも、馳浩が一番光ってたしね。

――コンディションもかなり良かったですからね。

**ジニアス** 一番割食ったの秋山じゃない? 試合自体は武藤中心に回ってたけど、なんか一番光ってたのは馳浩だったね。まぁ議員として忙しいなか、よくぞあれだけの身体をつくって、コンディション整えてきたなって。やっぱり素晴らしい選手だなって改めて思ったからね。

馳先生が総理大臣になるぐらいまでには復帰できるように頑張って下さい(笑)。

**ジニアス** まぁ、総理大臣になるか、女性問題でクビになるか知らないけど(笑)。他にも、女性問題でクビになりそうな人がいるけどね(笑)。

――あぁ、いますね(笑)。

**ジニアス** あとは、やっぱり引退前に蝶野正洋とは試合がしたいね。お互いが引退する前に、お互いの原点を確認するために……。

原点を確認しますか。まあ引退したわけじゃないですけど、これまでのレスラー人生の中で一番辛かったことというと何になりますか?

**ジニアス** やっぱり、相談できる師匠や先輩がいないのが一番キツかったね。

――一番頭に来たことは?

**ジニアス** それはファイトに携帯電話の番号を載せられたことだね。あれは頭に来た!

――一番誇れることは?

**ジニアス** 他団体、他の選手と同じことをやらなかったということ。6年間でラリアットは一回も出なかったし、個人的には、ヘソで投げるバックドロップとスパインブリーカーとSTFだけで勝負した。プライドと信念は曲げなかったし、失わなかった。それだけが誇りだと思ってる。

そういえば、猪木さんの引退試合に名乗りを上げたこともありましたね。

**ジニアス** あの時は前田さんをレフェリーに指名しようと思ってたんだよね。そして、猪木さんを羽交い絞めにして、「前田さん、やるなら今しかないですよ!」ってやろうと思ってたんだけど(笑)。

――それでは、最後に『紙プロ』読者に一言お願いします。

**ジニアス** ……皆さん、海外に行く時は船で行きましょう。

――実感がこもってますね(笑)。でも、船もタイタニックみたいに沈んじゃう可能性もあるじゃないですか?

**ジニアス** ん~……。負けた! 察してくれ……。

お察しします(笑)。

と知る人ぞ知る知られざる真実である。その後、PWCを経て、1995年UNWを設立、プロレスとスポーツと格闘技とエンターテイメントと芸術の集大成である「ポリシー」として掲げ、独自の路線を突っ走る。6年以上に及んだUNW興行では、一度も〈ラリアット〉が出なかったという、絶対新日本のリングには上がれないであろう記録を残す。現在は、プロレス村の住人になり、ゴングに日程が載り、週プロに白黒でもいいから半ページ以上載ることというアンビリーバボーで壮大な夢を持っている。趣味は、たまきスノー。カラオケのレパートリーは、HIROMI GOの「獣は裸になりたがる」、「あなたがいたから僕がいた」、「花とみつばち」。「理想の女性像は、木佐彩子」で、その理由は「子供がそのまま大きくなったみたい。それに、頭がいいから。角をさわりながら、ねえ、ねえ、ねえ、私達にはエラって何個あるの? だって。頭いいよね、素晴らしい感性と独創性だよね」。「どこがないんやねん!!」と思わず突っ込んでみたくなるようなピンボケの効いた笑撃的理想の女性像である。★★

### 最後にジニアス君からの贈り物 激レアパンフプレゼント!!

IRONMAN CONTEST

VS

今回の引退騒動を記念して(?)UNWのアイアンマンコンテスト巴戦の激レアパンフをこの機会にドカンと5名様にプレゼント! 定早い巴戦の醍醐味を存分に味わいたければぜヒとも手に入れてもらいたい究極の一品

ヤマノリ激敗！

# それでも続行ーッ!!

# ノリノリEVENT情報局

ノリノリ情報局担当
ボンちゃん失踪

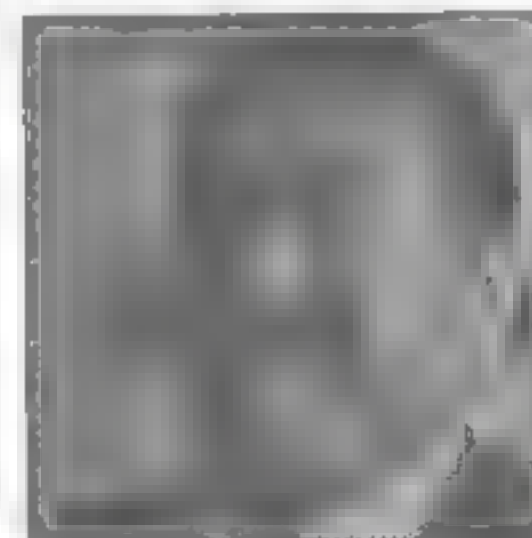
**最終回『ノー・リターンズの巻』**

情報ページ担当・片山ボンが突然の失踪！　このまま終了しても何の問題もないのだが、このコーナーはヤマノリも注目しており、命懸けでこのページに取り組んでいた同期のボンちゃんの熱意にリスペクトして引き継がなければならない！（無表情で）。というわけで、同期やヤマノリにやさしいクレ斉藤が送る見よう見まねな「ノリノリEVENT情報局」。

ノリノリだった頃のジャンボを振りかえれ！

## ジャンボ鶴田を偲ぶ会 トーク＆ライブ

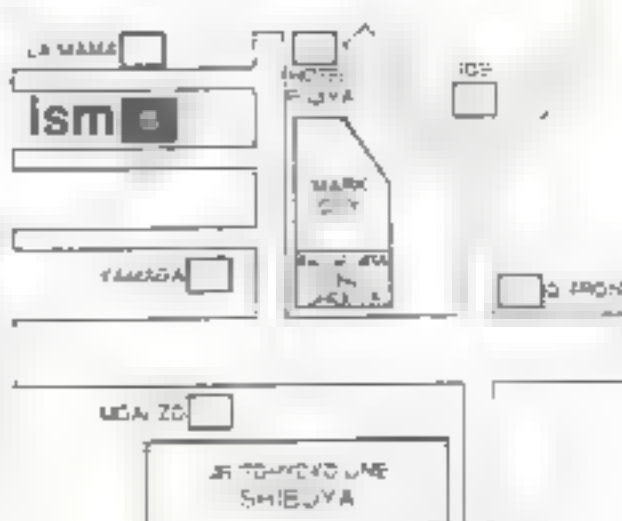
【日時】11月10日（土）
【場所】ラフォーレミュージアム原宿
【料金】前売¥3,000　当日¥3,300
【TEL】03-3463-5666

【出演】**三沢光晴　馳浩**
三遊亭楽太郎（司会）　鶴田恒良（ジャンボ鶴田実兄）
KAICHOH BAND　FORIKY BLOOD

三沢や馳、ジャンボのお兄さんが、みんなのヒーローだったジャンボ鶴田を振りかえる！　ジャンボの魂を脈々と受け継ぐ三沢社長の思い出話、ジャンボと同じくアマレス活躍した馳からジャンボの偉大さなどをトークライブで聞ける絶好のチャンス！　さあ、みんなでジャンボを偲びながら“ジャンボ鶴田最強伝説”を永遠に語り継ごう！　トークだけじゃなくライブも行われるので「ローリング・ドリーマー」を覚えておこう!?

ナントカ10年ノリきった!!

## 『紙のプロレス』10周年記念イベント 発足

【日　時】12月26日（水）21:00～翌4:00（予定）
【料　金】10周年にふさわしい料金
【ゲスト】10周年にふさわしいゲスト
【内　容】10周年にふさわしい内容
※詳しくは次号で

10周年イベントは渋谷道玄坂にある「IZM」で開催される。何度か通ってお店に慣れておこう！
TEL 03-3780-6320

**10周年を迎えた『紙プロ』が携帯で見れるゾーッ！**

★H"&Feel H"の公式サイト『紙プロmini』「格闘MAX」内で配信中！ノリ込め～！

【アクセス】
@KMAX/KAKUTOU/TOP.CGI

★au EZwebユーザーに朗報！『紙プロHand』EZweb公式サイト
「トップメニュー」→「スポーツ」→「紙プロHand」
11月1日から、ノリ込め～！

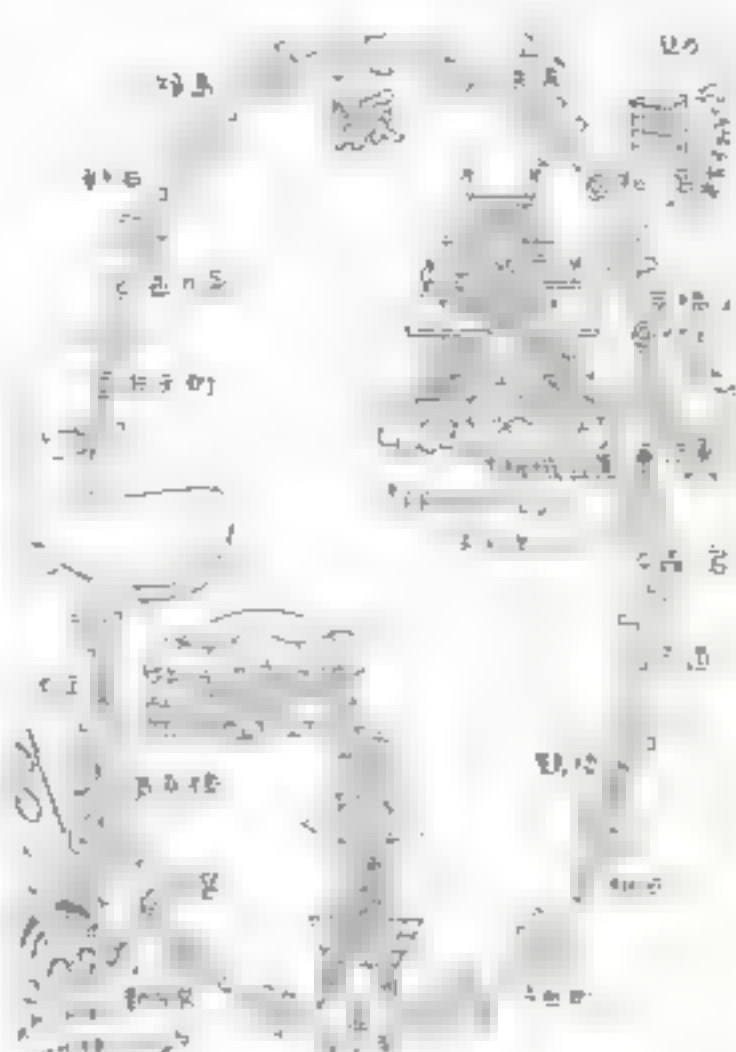
【アクセス】
http://kamipro.dsn.ne.jp/index.hdml

# ノリノリ ENVENT NEWS

## 前田日明vs吉川晃司 in大阪

### またもや大阪までの道ノリ～

あの前田日明vs吉川晃司のトークライブが再び行われるゾ！　マット界の武闘派・前田と、ミュージック界の武闘派・吉川が騒然トークで本音で迫る！　今年は昨年の東京から大阪に場所を移して開催されるので、前号で片山ボンが作製した大阪城ノリ込みマップで場所を確認！　え？　わからないって？　細かいことは気にしない！　ノリノリ～！

これはちょうど一年前に行われたときのポスターだ。

【イベント名】コーセーアンニュアージュトークin OSAKA
【会　　場】オーバーホール(毎日新聞社ビルB1)
【料　　金】前売¥2,100　当日¥2,500(ドリンク付き)
【ＴＥＬ】03-3463-0761

## "全盛期宣言"のターザンイベントにノリ込め～！

### 闘道館主催のターザンイベントは見逃せない！

「ターザン山本・自画自賛の会」が水道橋にある「格闘技プロレス図書館・闘道館」で行われた。その館内の模様はターザンをして「これこそシークレットサロンですよォォォ！」と断言したわけだが、数本のライトがターザンに当たるだけという暗闇の中で観客がゴザに座り耳を傾けるというそのシチュエーションは、どう見ても幕府転覆を練る寺子屋であってまさしく一揆塾！　さあ、そんな「闘道館」主催のターザンイベントを追いかけるんだ！　そこのキミ、モタモタしてるとノリ遅れるゾ～（片山ボン調）。(クレ斉藤)

次回は11・2！

※「格闘技プロレス図書館・闘道館」には、各種格闘技・プロレス雑誌はもちろんのこと、格闘マンガも多数置いてあるから、後楽園ホールなどで観戦前後に行ってみるべし！

### ターザン山本『PRIDE』前夜祭
～ターザン流「PRIDE」の見方教えます～

【日時】11月2日(金)19:00
【会場】闘道館　千代田区三崎町2-9-9ナガヤビル5F　JR道橋駅下車徒歩5分
【料金】前売¥1,500　当日¥2,000
【TEL】03-3512-2080

### ターザン山本"一揆塾ホームページ"スタート！
大反響の添削道場！　ライターを目指す人は必見だ！　ノリ込め～！
【アクセス】http://www.info-station.net/ikkijuku/

## その他のノリノリ NEWS

■破壊王と晋二郎が吉祥寺パルコに真撃！
「ZERO-ONE」橋本真也・大谷晋二郎トークライブ&サイン会があるんだよ！　破壊王と大谷が「真撃」後の次なる野望を大激白!?　吉祥寺にノリ込め～！
【日時】10月27日(土)14:00～
【料金】入場は無料。参加人数が多数の場合は制限させていただくことがあります。
【場所】吉祥寺パルコB ワールドプラザ吉祥寺店　TEL.0422-21-8824

■北の国から～ノーフィアー！～
ノアの北海道大会を記念して高山。大森のノーフィアーがトークライブを開催！　北の地でノーフィアーの叫びを聞け！　北海道にノリ込め～！
【日時】11月4日(日)15:00
【場所】札幌パルコ本館8F
【参加方法】10月27日より下記の条件の方を、先着150名様に限り参加チケットをお渡しします。
1 ワールドスポーツプラザKINGS札幌店にて格闘技グッズをお買いあげの方。2「11・30札幌道立総合体育センター大会」のチケットをご持参の方。3 ノア・ファクラブ会員の方（確認のとれる物を持参してください。4 サムライTV加入者で当選された方。

■立命館大学でもノーフィアー！
高山が大学生相手に人生を説く！　立命館プロレス同好会主催によるこの講演会にノリ込め～！　細かいことはは各自調査！
【日時】12月18日(火)
【場所】立命館大学びわこ草津キャンパス

■プロレスファンのための結婚披露パーティー！
大阪プロレス！　DDT！　松永光弘！　つぼ原人！　大日本！　全女！　Jd'！　井上京子！　井上貴子！　長谷川咲恵！　レスラーたちがアナタの結婚パーティーにゲスト参加する！　会場にはリングも登場！　特別協力に山本小鉄もいるから最高だ！　一生の思い出にしよう！　レスラーをパーティーにノリ込ませろ～！
【お問い合わせ】TEL.03-5374-5812

■DDTステーキ大食い大会！
DDTステーキで大食い大会が開かれる！　何もいうな！　食ってくれ！　水道橋にノリこめ～！
【日時】11月11日(日)13:00
【参加費】食べ放題¥3,500　完全予約制
1位の方には参加費無料&激レアグッズ
【お問い合わせ】DDTステーキ　TEL.03-3515-6465

■ノア・オフィシャルファンクラブにノリこめ～！
ノア・オフィシャルファンクラ「NOAII'S ARK」に入会するといろんな特典がついてくる！　ファンクラブ限定イベントで選手に触れられることはもちろん、チケットやグッズの購入でも他のファンに差をつけれるぞ！　ノアにノリ込め～！
【会費】入会金¥1,000　年会費¥5,000
入会希望の方はを〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25 ノアズアーク案内希望係まで返信用80円切手を同封の上お送りください。

■混迷のマット界を三沢が斬る！
山梨で三沢社長のトークショーが開催！　え？　『PRIDE』の裏番組だって!?　いやこっちが表だ！　山梨にノリ込め～！
【日時】11月3日(土)14:30
【会場】都留文化大学　富士急行線「十日市市場駅」から徒歩10分
【入場料】無料　定員になり次第締切
【お問い合わせ】桂川祭実行委員会TEL.0554-43-1964

■デンジャラスK・トークライブ
口数は少ないが一言多いと言われる川田利明が国士舘大学に登場だ！　え？　『PRIDE』の裏番組だって!?　こっちが表だ！　ノリ込め～！
【日時】11月3日(土)14:00
【場所】国士舘大学世田谷校舎6503教室（小田急線「桜ヶ丘駅」・東急世田谷線「松陰神社前駅」下車）
【チケット販売】「全日本プロレスオフィシャルショップ」「チャンピオン」

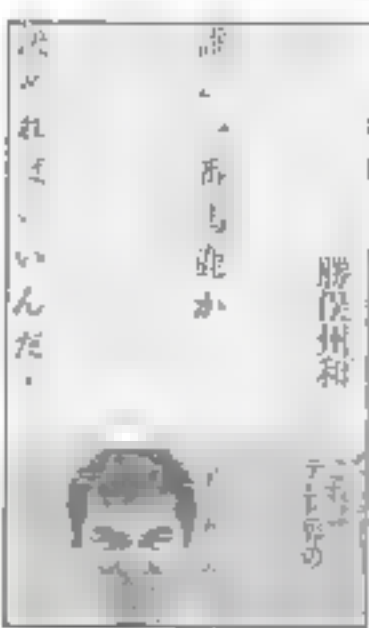
■ユリオカ超特Qvs成瀬昌由
ユリオカ超特Qライブ「渋谷ダイナミック」に成瀬昌由が登場するぞ！　もしかしたらヤマノリの話が聞けるかもしれない!?　渋谷にノリ込め～！
【日時】11月8日(木)19:30
【場所】Za Hall　喫茶室ルノアール渋谷公園通り店内
【料金】前売り¥1,300　当日¥1,500
【お問い合わせ】TEL.03-5456-8130

■黙って殺られますか？
それとも三春塾で武道します？
薮下や高橋洋子も通う三春塾で美しく身を守ろう！　きもちよく振ってみよう、日本刀！
黙って殺られない道場にノリ込め～！
【場所】「三春接骨院」東京都練馬区小竹町2-8-8
【お問い合わせ】TEL.03-3958-4325

■星野育蒔がホームページ開設！
マァ☆ティンの素顔に迫るチャンス！　女子総合格闘技の未来を背負って立つマァ☆ティンにノリ込め～！
【アクセス】http://www.uran.org/mar/

### 勝俣州和が本を出した

【ゴチャゴチャ言ってないで
誰が1番馬鹿か決めればいいんだ!】
勝俣州和が親交のある芸能界はもちろんのこと、レスラーや格闘家たちのエピソードがつまった1冊！　小川、橋本、そして輪島やジェット・シンまで登場の「ゴチャゴチャ言ってないで誰が1番馬鹿か決めればいいんだ!」を読んで読んで読みまくれ！【お問い合わせ】TEL.03-3263-2010

10月8日　横浜ランドマーク内ホール

# ノリノリ試合レポート

撮影／水野嘉之

## 10・8新日ドーム・K-1福岡を向こうにまわして

# 宇野vs五味大爆発!!

**五味判定勝ち**

立ち上がりは五味がチョークで極めかけるなど宇野を圧倒していたが、徐々に宇野ペースに。五味からテイクダウンを奪いマウントをキープするなどしていたが、前半のロスが響いてしまった。

看護婦を帯同して場内を沸かせた戸井田。試合ではサンボの実力者若林を前にサンボジャケットを着て挑んだが、若林の方はアッサリ脱いでしまいスカされてかたちになった。

グローブ、道衣を着用して打撃アリのORGルールは3試合行われた。顔面パンチなどの打撃があるため、組み技だけの試合にはない違った緊張感に包まれアクレッシブな攻防が続いたが、パンクラス北岡はプロ意識が欠けた試合展開に終始した。またか!?

**新**日やK－1と同日興行になった「コンテンダーズ」。最近ではのマット界のファンの棲み分けがハッキリしているとはいえ「コンテンダーズ」の会場から新日とK－1のゴールデンタイム対決などは気にする気配がない。おもいきって「もしもし、今日は健介が帰ってくるんですよ！ビデオの録画予約はしてきたんですか？」と、聞いてみようと思ったが、なにしろ観客の飛び交う会話が「たしか、今日は武道館で秋山と小川が闘ってるんだよね－」とくるんだから、あらためていうことでもないが「コンテンダーズ」は別の世界なのである。

チケットも1ヶ月前には完売と、最近では珍しく求心力が強いイベントなわけだが、今回は試合に関しても圧倒的なインパクトを残した！　とにかく宇野vs五味はすごかった！観客は大熱狂だったのだ！

宇野がピンチに陥るとカオルコの悲鳴が響き、木口道場のチビッコたちが五味の後押しをする。一本を狙いアグレッシブに動き続ける2人のように観客の声援も止まることはない。ホント、健介なんか見てる場合じゃない！（健介の素晴らしいガウンは見たかったが）。

結果の方は1Rは五味が宇野を圧倒し、2、3Rは宇野が徐々に五味を追いつめるというドキドキの展開だったがタイムアウトの判定で五味の勝利。判定なんて野暮なこと言いなさんなといえる内容なのだが、判定をつけるとしたらただ1つ、10月8日の勝者は「コンテンダーズ」だ！　（クレ）

### 【おもな試合結果】

第1試合
△阿部正律vs実原隆浩△（2R判定ドロー）
実原は「観戦記ネット」の品川さん率いる「チーム品川」所属だ。

第4試合
○矢野倍達vs折橋雄●（2R判定）
ヤマケンの弟子折橋はプロレスラー然としていて注目だ!

第5試合　ORGルール
●太田洋平vs北岡悟○（2R判定）
上にはなるが決めてのないパンクラス北岡。やっぱりな試合展開に。

第8試合
●小室宏二vsライアン・ボウ○（2R判定）
ボウ、柔道の猛者を完封!

セミファイナル
●戸井田カツヤvs若林次郎○（2R判定）
若林、怪しいトイカツの動きに翻弄されず確実に抑える。

メインイベント
●宇野薫vs五味隆典○（3R判定）
五味、試合後ルミナに「俺のケンカ買ってください」と表明。

# PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

## 吉田文豪人生劇場

辻ちゃんですっ（二重になったばかりの目を見開き、やる気ジュースを注入されながら）！　……ということで、モーヲタたちに「吉田豪氏よ、格好付けるにも程がある！　あなたは俺たちと何ら変わりのないモー（妄想）ヲタだ！」と糾弾されるようになった今日この頃。なお、「“モーヲタ界最強の論客”と言われる宇多丸氏と“妄ヲタ”吉田豪氏の越境対談希望」との意見も届いたんだが、この対談は非公式ながらすでに新大久保の犬鍋屋で行われていたので悪しからず。そんな、リアル「13階段のマキ」・後藤真希よりも後藤達俊&真樹先生を支持する男の書評コーナー。【e-mail:go@kamipro.com】

**『COMIC&DOCUMENT』桜庭和志**
（やざま優作&小林保／講談社／780円）

当時は「あまりにも絵が下手過ぎる！」「登場人物が誰も似ていない！」「キャラクター設定もデタラメ！」「センス皆無！」「許せない！」「『書評の星座』で潰して下さい！」などと誰もが猪木のテレ朝批判ばりに怒りを爆発させた、『週刊少年マガジン』掲載の実録桜庭物語。これは別に取材協力としてクレジットされていた"Show大谷泰顕"氏のせいというわけでもないんだろうが、そこまで評判の悪かった作品が活字ページも大幅に加えて単行本化された。

その活字部分では殊更に「戦いを仕事にしている男とは思えぬ柔和な表情に加えて、隣のお兄ちゃん的な雰囲気」だのと桜庭スマイル強調しているものの、なぜか表紙でも中味でも桜庭が笑っている写真がほとんどないという見事なまでの不機嫌モード全開ぶりがなんとも言えないんだが、とにかく少年犯罪や体罰について桜庭に聞いたりするインタビュー部分に関してはこれといって特筆すべき部分はなし！　以上！

そして、『紙プロ』の読者コーナーにイラストを送ってきたりこの単行本を送ってきたりしてくれているペン獣・やざま優作の手による漫画部分も、やっぱり言うまでもなくお話にならない出来なのであった。

確かに、彼がプロレス～格闘技に対する知識や愛を他の漫画家より持っているのは間違いないだろう。だが、そもそも格闘技ファンの漫画家が面白い格闘技漫画を描けるのかと言ったら猿渡哲也なんかを見てもわかるように大間違いであり、むしろボクに言わせれば野球を知らずに『巨人の星』をヒットさせた梶原一騎のようにジャンルに対する愛なんてない方がいいはずなのだ。

そういうことで唯一評価できるのは、高田延彦をホモ髭を生やした怪しげな風貌の親父として描写しているという、あからさまに愛がなさそうな部分のみなのである。

**『バーリ・トゥード最前線からの証言～第1回UFCからPRIDE15までの軌跡～』**
（ローリング・ストーン／スタジオDNA／1500円）

思えば小さな『紙プロ』時代から、「初代タイガー対ウルトラセブンの試合は酷すぎて、俺は卵を投げた」などと不可解なことを言い出したり（そんな試合は存在しない）、「海外マットに八百長があるって本当ですか？」と馬鹿丸出しなことを大山に質問したことなんかをボクが糾弾し続けてきた大沼孝次君（ライター事務所ローリング・ストーンのボス）が、またやってくれた。

なんと数年前にも「大の新日本プロレス信者だった前田は念願叶って新日入りしたものの、維新軍との抗争に嫌気が差して新日を離脱した」（要約）との記述が衝撃的だった『前田日明よ、お前はカリスマか！』（フットワーク出版社）をリングスに無許可でリリースして問題になったというのに、今度はDSEに無許可でPRIDE15出場選手の試合後のコメントや（しかも、それが単行本の締め。どんな構成だよ！）、そのときのバックステージで猪木、コールマン、堀部師範、お宮の松（北京ゲンジ）、オフィス北野の斎藤マネージャーというジャンルを無視した5人に直撃して聞き出したコメントなんかを集めて、勝手に単行本化してしまったわけなのである。なんでだよ！

しかも、暴走ホームレス戦直後の桜庭が「いちおう頭のなかでは普段の練習通りできればいいかなあと思ってやったんですけど、本番になると緊張しました。（自分の試合までの）待ち時間が長いんで、そういうのも考えてやらないとダメだなあと思いますよ」「（ノー・ルール・ファイトは）仕事です。好きな仕事をやっているだけです」と非常に桜庭らしくコメントしていたのを、「ただの仕事です。そういうの何も考えていません」とわざわざネガティブに意訳して表紙の帯に載せてしまうのだから、もはやとんでもないなんてもんじゃないのであった。

彼氏、「入場時、桜庭は自作のチャンピオン・ベルトを持参していた。そのベルトには"SAKU"と記されている。自分で作ったチャンピオン・ベルト。やはり対戦相手を茶化しているのか」とも書いてたりするから、よっぽど桜庭のことがお気に召さないのだろう、きっと。茶化すって……。

しかも、同じくローリングストーン所属の寺田英司君とやらがまた、Uインターとの全面対抗戦において「ヒクソンに敗れ、背中を丸めて引き下がってきた高田に向かって「前田が泣いてるぞっ！」と叫んでいたファンが居た」などと言い出したり、マルコ・ファスがアレクに敗北したことを「期待に胸を膨らませていた観客は、落胆せずにはいられなかった」と言い切ったりする大沼孝次イズム伝承ぶりなので、正直言ってデータ的な価値もエンターテイメント性もない文章や対談ばかり並ぶ一冊になっている始末なのだ。

そのためインタビュー部分にしても、「ボブチャンチンにしたって、ただブン回しているだけですよ。日本拳法では、相手がブン回そうものなら、直線攻撃の前拳をバシャーンと入れられますよ」「ボブチャンチンとエンセンさんの試合は、街のケンカですよ」と吠える日本拳法主席師範・猪狩元秀や、過去の「天山・小島はいい死に方しない」発言を「プロレスをケチョンケチョンにけなして、やめたのは正しかったと自分を正当化したかった」「本当のことだから言っちゃって、そうすればファンもわかってくれて、彼らも格闘技側に移ってきてくっるかなぁと思ったら、大反感買って有名になってしまったという（笑）」と正直に振り返る菊田がちょっと面白い程度……と思ったら、やっぱり大沼孝次君はボクの期待を決して裏切らない男だったのである！

とにかく彼が手掛けた藤田和之インタビューは、出版に関わる者なら絶対に読むべき壮絶な代物なのであった。いや、本当に。

なぜなら、「"強烈なトーク"なんて、そんな期待されても……。期待に応えられないです。（改行）はい。自分はずっとアマレスやってましたから……」という書き出し部分だけもわかるように、これは通常のインタビューの質問部分だけを削った、不自然極まりない画期的な独り語りインタビューだったわけなのだ！　なんだよ、それ！

通常、一問一答形式のインタビューをモノローグ形式にするときには、こちら側の質問を相手が自分で喋る形にしたり、「だから」などの接続語を入れ込むなどして答えと答えを上手く繋ぐよう編集するんだが、大沼孝次君に余計な小細工は必用なし！

こうして「アマチュアの丸いマットが四角いリングになったと、そういうことで。（改行）はい。普通に就職して、というのは全く考えず……」「社長に、直談判じゃないですけど。（改行）え。で、猪木さんに……」「いや、基本的に、戦いという意味ではアマレスもプロレスもフリー・ファイトも一緒だと思うんで。（改行）うん。熱い闘いをやっぱりやれば……」などと藤田が一人で相槌を打ったり、「4年周期で。（改行）ハハハハ。決めてるわけじゃないですけど……」などと一人で笑い出したりするインタビューを生み出してしまったから、これは出版界の歴史にも残る奇跡なのであった。

挙げ句の果てには、この言い草である。「藤田、安田は、2～3年したら人々から忘れられるでしょ。でもヒクソンは2～3年しても忘れないと思うんですよ」

なんだよ、そのあまりにも中途半端すぎる2～3年って時間設定は！　たかが2～3年程度で藤田や安田が忘れられるわけもないし、どうせヒクソンを絶賛するつもりだったら「ヒクソンは何年経っても絶対に忘れられるわけがない！」ぐらいは男らしく言い切らなきゃしょうがねえだろ！

この勢いで「ヒクソンの本は、10年後にも出ると思います。でも、藤田の本は出ないと思います」という何の根拠もないことも言い出しているんだが、それでどうして2～3年で誰もが忘れるはずの藤田にインタビューしてるんだよ！　しかも、安田まで部下の寺田英司君がインビューしてるし、

巻末のプロフィールに「著作は多彩」「著作が高い評価を受けている」などと臆面もなく書いている、63年生まれの大沼孝次君（38歳）。このキャリアで何をやっているんだとさすがに思わざるを得ないんだが、ぜひとも今後もこの調子で無闇に転がり続けていただきたいものなのである。頑張れ！

**『俺の魂』**（アントニオ猪木／あ・うん／1500円）

向田邦子かよ！

……と、ついツッコミたくなる衝撃な版元の名称と、「俺は、モハメッド・フセインというイスラム名をいただいている」という時節柄さすがに衝撃的な情報だけでも十分にお腹一杯な、この本。

冒頭部分でいきなり猪木が「常識ってものは、ほとんどが嘘っぱちばかりだ。その嘘を見破ることが、常識から踏み出すことに繋がるんだ」と非常識極まりないことを言い出したかと思えば、すぐさま「言っとくけど、俺は俺自身を常識外れとか、常識破りだとか思ってなんかいない」と断言する

のも、これまた衝撃的の一言だろう。
しかも、ホームレスのコスプレ姿でリングに登場したら「『実際のおれたちはあんなに汚くない』って、本物のホームレスから抗議が来た」というのだから、どう考えても猪木が非常識なことだけは確実であり、そしてどうこう言ってもやっぱり猪木には誰も勝てないことも確実なのであった。
たとえば、これは「南北朝鮮に力道山の銅像を建てる」という猪木の壮大なプランを世間に訴えるための本ゆえ力道山のエピソードが中心になっているのだが、師匠・力道山について猪木はこう語っている、
「当時のプロレス興業では、暴力団やヤクザなんかの裏社会とのつながりは無視できなかった。試合を開催するときには、彼らといざこざが起きることも多かった。殺す殺されると言うことがごく普通に行われ、力道山はその全面に立って相手と向き合わなければならなかった」
ここで、あっさり「ごく普通」という言葉を選んでいるのも物騒でしょうがないんだが、こうして力道山を持ち上げたかと思えば「俺は世界中で、実際にそれこそ生きるか死ぬかという闘いを続けてきた。常に死に直面しているという意味では、ヤクザの脅しなんかとても比べものにならない」と俺自慢を始めるから、やっぱり猪木！
さらに、「別に亡くなった馬場と張り合うつもりは毛頭ないが、もしも仮に力道山イズムというものがあるなら、その継承者は俺だろう。いや、俺しかいない」と、故人相手に思い切り張り合う姿勢にもシビレるしかないのであった。それでこそ猪木だ！
しかも力道山イズム継承者のはずが、こんな情けない話も平気で告白していく始末。
「亡くなってから、ずっと力道山が夢に出てきた。眠っていると足のほうへ力道山が立っている。金縛りにあったような半覚醒状態で、うなされていると力道山の気配を足下に感じる。そこから漂ってくる気配。怨念のような力道山の想いが伝わってくる。そんな状態に悩まされ、電気をつけっぱなしで寝たこともあった」
あの猪木が、力道山の幽霊が怖くて電気をつけっぱなしで寝た！……というか、それって呪われてたんじゃないのかよ？
猪木が引退したことで、ようやく最近は力道山が夢に出てきても「それほど恐ろしい存在じゃなくなっている」（＝少しは怖い）ようなのだが、これでは力道山イズムを受け継いでいるとは到底思えないのであった。
なお、引退後は「怒る人間がいないから、プロレスはどんどん変な方向へ変わってしまった」との思いから、やむなく新日本に噛み付きまくるようになったという猪木。
ところが、「いくら口を酸っぱくして助言しても理解してもらえない。いつも同じことの繰り返しだ」とのことで、どうやらいまでは「プロレス界に対する俺のストレス」も順調に溜まりまくっているようである。
そのためか、この本にもプロレスに対する手厳しい助言ばかりが収録されているわけなのだが、ボクに言わせればそれらは全て正しい。誰が何と言おうと断じて正しい。
つまり、だ。ここ最近の新日本は、猪木に言わせれば「興業に対してまったく深い考えも持たずに『こいつとだったら怪我しねえだろう』とかいって自分たちの都合のいいカードばかり組み、事なかれ主義で闘い、ルーティンのスケジュールを機械的にこなしているだけ」なのだそうである。
別に「プロレスを自分たちの自己満足、趣味の世界でやっているならそれはそれでいい」が、それなら「ごく一部のファンのためにひっそりと試合をしていればいいじゃねえか」と。要するに、「終焉は突然、訪れるもんだ。なあなあの試合ばかり続けていたら、ファンにそっぽを向かれ、すぐに消えてなくなっちまう」はず。だから、もしでっけえことをしたいのであれば試合が壊れたら怪我しかねない緊張感溢れる本物の確執をアングルにしてビジネスにしろ！　猪木は、そう訴えているはずなのである。
「プロフェッショナルという立場で考えれば、人間関係をリングの上に持ち込むなんていうのは愚の骨頂。『あいつが嫌いだ』『あいつは会場に入れるな』とくだらねえことにこだわる前に、まずファンと夢を共有し、ビジネスとして成立させなければならない。観客の夢に応え、視聴率を稼ぎ、観客動員数を上げるという一つ一つが大切になるんだから」
「リングの上の闘いはそれこそ生きるか死ぬかの迫力で臨まなければ、お客さんを惹きつけることなんかとうていできない。お互いを罵り合って『ぶっ殺してやる』といった発言が新聞に載り、一触即発の緊張感が次にどう転ぶかわからないような意外性。知恵を絞り、工夫を凝らし、こうした展開を必死になって考えていく。それがプロレスというビジネスなんだ」
まったくもってその通り！　ただ、それなら猪木も「あいつが嫌いだ」と毛嫌いすることなく大仁田の対戦要求を受けるべきであり、そうすれば本物の確執がビッグビジネスに繋がるんじゃないだろうか？
まあ、実際にやったとしても確実にいい試合にはならないだろうし、最終的には大仁田が美味しいところを全部持っていきそうな気もするんだが、「依然として俺の中では、ビル・ゲイツを超えるような世界一の金持ちになりたいという欲望がある」以上は、ぜひとも10年越しの確執をビジネスとして成立させてほしいものなのである。

『破壊から始めよう』
（橋本真也＆中谷彰宏／ダイヤモンド社／1400円）

「DESTROY OR DIE」！
そんなパンキッシュすぎるコピーと共に、なぜか破壊王があの中谷彰宏との異色タッグでビジネス書の世界にも参入開始
破壊王とビジネスとは「橋本は、株で痛い目にあった。650円で買った株が、40円台まで落ちた」との情報を聞くまでもなくまったく結びつきやしないんだが、それでも破壊王は金についてこう語っている。
「カネが欲しいなら欲しいで、中途半端なことをやるのではなく、とことんカネに執着すればいい。詐欺師になるのなら、天下一の詐欺師になればいい。それこそ頭がまわらなくて、ATMをバールでブッ壊してカネを抜いていくヤツもいます。そこまでリスクを背負っているのなら、決して推奨するわけではないのですが、それはそれでいいのです」
もちろん「それでいい」わけはないが、これこそまさに破壊なくして創造なし！
ということで、これは「叱られることに快感を感じよう」「演技力を身につけよう」「その後のエッチが高ぶるような仕事をしよう」「エッチの高揚感を仕事でも持とう」などの「破壊王になる56の方法」を収録した、画期的な本なのであった。みんな、破壊王になりたいかーっ（もちろん返事なし）！
しかも、ちょっと目次を眺めただけでも「プロレスは、SMに通じる」「プロレスの快感と、セックスの快感は似ている」「試合直後のレスラーとのエッチは最高だ」なんてフレーズが目に入ることからもわかるように、「小学校3年生の時、登り棒をやっていて、急に気持ちよくなって出ちゃったことがあるんです。あれはイッた感覚ですね」といった下ネタの充実ぶりも驚くばかり！
「橋本は、昔、1人だけ外資系社長秘書っぽい女性とつき合った。それが恋人にバレた。彼女は、苦しまぎれに恋人にウソを言った。『呼び出されて、犯された。訴えようか迷っているってね』。橋本は、はらわたが煮えくりかえった。『あの時のおまえのあの言葉はなんだ。自分でオイル塗りたくってたじゃないか』。思ったが、言えなかった。東京スポーツの一面に出た。『女は恐ろしいなと思いました』」
こんな衝撃事実をバラしつつ、反省もせずに「僕は、つき合う女性を並べてとっておけるのだったら、とっておきたいです」と豪語する破壊王は、まさに男なのである。
中谷彰宏が変態ネタを振ってくれば「僕もSMをやりたいです。なぜなら、僕自身、壊している、壊していると言っているから、その破壊王を壊す女と会ってみたい。いい意味で、SMの世界に入りたいのです。『お代官様、オレを置いていかないでくれ〜』みたいなことを女に言ってみたいのです」と、SM願望まで正直に告白する破壊王。
そのついでに、「あるレスラーもSMクラブに通っていたらしいです。いつも人を押さえつけているレスラーが、四つんばいになって、浣腸で『もうダメ!?』と言ったらしいです。いつも攻めている人が攻められた時、すごいところがなくなってしまうのですね」と、物騒な暴露話までブチかましてみせるわけなのだ！　プロレスラーでいつも人を押さえつけている人といえば、ボクにはあの人のことしか脳裏に浮かばないんだが……。あ、だから「クソぶっかけてやる」って言ってたのか（以下自粛）？
それはともかく、この赤裸々な破壊王のペースに巻き込まれたためなのか、なぜか中谷彰宏まで「私は、射精した後は、アルファ波が出ていることがわかる。特にいい射精をした後は、超能力でスプーンが曲がる気がする」「私が女性なら、勝ち試合の後のレスラーともやりたいけど、負け試合の後のレスラーとも、違った意味で、したくなる」などと馬鹿なことを言い出すと、破壊王はこれまた素直に答えるのであった。
「試合後は、異常にセックスしたくなります。現役の間に一度、やってみたいですね。試合が終わって、汗ダクダクで帰って、コメントを断って、裏玄関を開けて、壁と壁の間でね」
ちなみに、試合後ではなく試合前に「濃厚なのをやったら、次の日、カクンカクン」になってしまうそうなのだが、どうやらそのせいで破壊王も痛い目に遭っていた模様。
「かつて、橋本は、ケガをしたことがなかった。『おまえはケガしないな』と坂口征二会長にも言われていた。その日の夜に、1時間半で4発やった。次の日、リング場（おそらく「リング上」の間違い。口述筆記で単行本を大量生産すると噂される中谷彰宏らしいミス）に立ったらなんか違った。次の日、膝をバーンとやって、ケガをした」
つまり、古傷である膝の負傷は、どうやら単にファックのヤリ過ぎが原因だったようなのである　自分の膝も破壊王かよ！
中谷彰宏が「魅力ある人間には、匂いがある」「F1には独特な匂いがある。タイヤの焦げる匂いだ」と言い出せば、「それ、いただきですね。オレの入場の時だけ、匂いをまこうかな。葉っぱでも燃やしてもらおう」と呑気に答え、「女性は『あなたのマンションのエレベーターに乗った瞬間から、あなたの匂いがする』という」とロマンチックな話を振られれば、やっぱり「僕は、エレベーターに乗ると、へをこきたくなるんです」と素直に答える。まるで小学生のガキ大将のようなこういう姿勢がボクは心から大好きなんだが、ドラマへの尋常じゃないハマり方も愛すべきエピソードだろう。
「一時期、トレンディドラマはすべての作品がハッピーエンドではない、ということが続いたのです。グチャグチャになって、最後は死ぬんです。『星の金貨』を見ていたら、本当に頭に来たので、弟子にテレビ局に電話させたことがあります」
この件についてはボクもインタビューで「あれ。腹立ってしょうがなかった。カミさんと夫婦喧嘩したからな（笑）。『お前、これどうしてくれるんや！　何とかせい！　TV局に電話しろ！』って。TVブチ壊しそうになった（笑）。ドラマにハマると怖いよ、俺は」との話を聞いていたんだが、まさか弟子にわざわざ電話させていたとは……。
「なぜ最後くらい手を繋がせてやらないんだ！　そうでないと、水戸黄門が印籠を出そうとした時に、せき込んで心筋梗塞で死んじゃったみたいなことになります」
……さすがにここまでくると「馬鹿なことを言っている」と思うかもしれないが、これらのことはプロレスにも通じるはず。
破壊王も「プロレスはつくりモノのように思われているけど、人間臭いものなのです」「日本のプロレスもまだこのままの形では浮上できない。決めごとと決めごとでない部分が半々というのがいちばんいいのです」と言っているように、プロレスは単なる決め、ごとなんかではなく、人間臭い感情やイレギュラーな出来事が混ざり合うことでようやく完成する。そんなものなのだ。
だからこそ、藤波社長について「人の器には、ハッタリもあります。藤波さんも、みんなは大きい、大きいと言いますが」と、要は「あの人は器が小さい」と暴露したりするのも、後に人間臭い感情が入り交じった試合の前振りになるのであれば一切問題なしなのであった。でも、怒るかなあ……。

## しばらくごぶさたしてたが俺は（×3）闘うしかないん邪！

# やっぱり キャットファイト 猫が好き♥

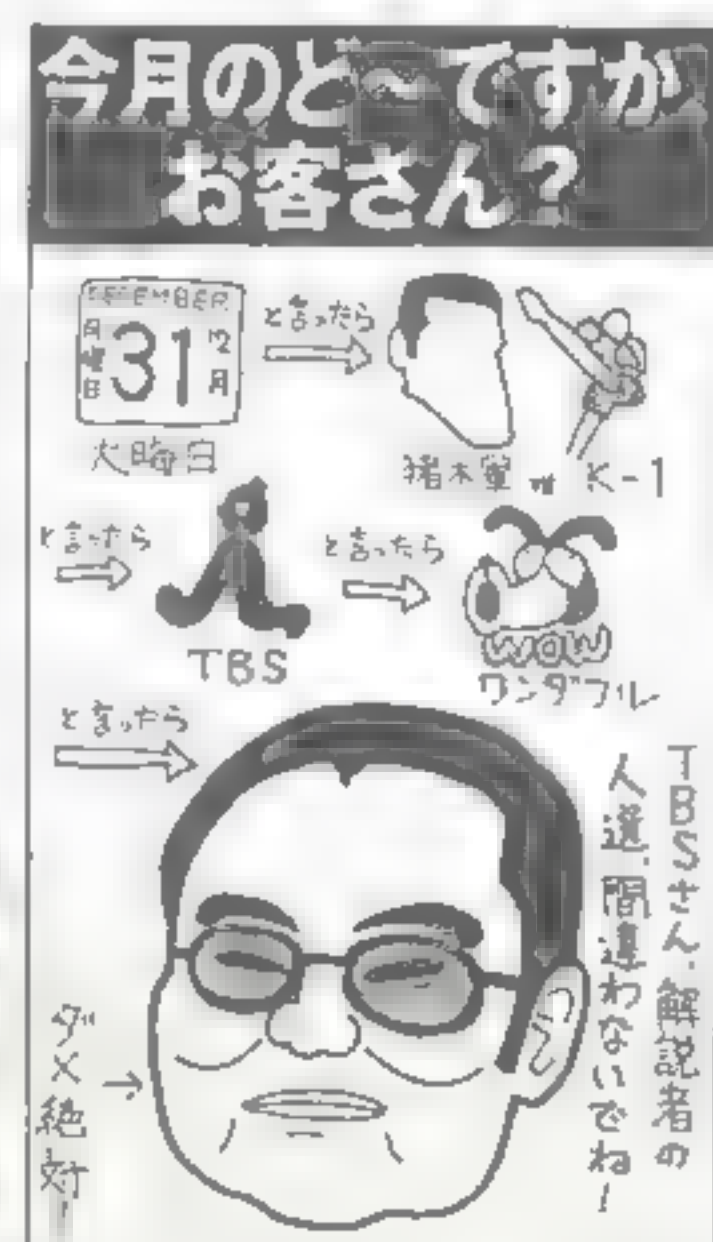
今回は、本誌鬼畜編集長宛に届いた、心暖まるお手紙から紹介します。「山口さま！　とってもお久しぶりです。まだ紙レスが小さな本の頃、お仕事させて頂きましたストリッパーの伊藤舞と申します。今もまだ踊る毎日ですが毎週木曜日にCS913パラダイスTVの中でキャットファイトプロレスをしております（まぁドロとか粉とかローションですが…）。年末年始にむかい多少の色ネタが必要になりましたら、またご連絡頂ければと思います。それでは…」。どーですか、お客さん？　伊藤舞さんは、ちっちゃい頃の『紙プロ12号』での特集「色気とは何か？」に出ていた踊り子さんです。それが今はキャットファイトもやってるなんて。年末年始に色ネタが必要になってくるかどうかは、わからないですが、俺もキャットファイターの端くれ、勇気があるんだったら俺の挑戦を受けてみやがれ！　やりますかーッ!!（っていうか、よろしくお願いしま～す！）

星野育蒔は美しい。彼女はいつも一生懸命に生きていて、とても強いギラギラとしたパワーが全身から出ているように見える。私はほんの少ししか面識がないが、そう思っている。彼女の前では自分はとても怠けていて、ひどくつまらない人間に思え、彼女の顔を正視することが出来ない。私は今まであんなにスゴイ生き物は他に見たことがない」by中川画伯

## ヨッ！中川画伯

## 今月のロック様（notアントニオ文朱）

ウチの息子（4才）がロックの大ファンです!!　家でもロックの顔まねを練習しています。絵はマイクを持って眉を上げているロックだそうです！（愛知県・今村真理子＆健作）。◐てっきりアントニオ文朱かと思っちゃいました

「今回の紙プロ、最近とっても気になるマァ☆ティンのイラストがたくさん出てましたね。でも、どれもいただけない気がしたんでイラストを送ってみました」（ジェット聡志）。ギョ！これはマァ☆ティンじゃなくカルピス大好きなマサ☆ティン！　まあ面白いから載せるけど。

いつもいつもありがとやんす。ボクもスマックガールの解説やってたけどホントに解説って難しいのよねん

## 今月のアンリミテッド王者

またまた裏も表もすんばらしいハガキで、見事、アンリミテッド王座防衛に成功したのは宇佐美理恵ちゃんだ。あと4回防衛すれば理恵ちゃんにはなんと50万円が贈られるんだよ。ビックリだね。今回のところは、マァ★ティンの公式HPでの「ふがふが日記」をプレゼント！　頑張れ乙女！「泣いてないよ。練習中の涙は涙じゃない。普段の日常生活はけっこう泣く。へコんだり、悲しかったり、観たり聞いたり感じたり、自分の力ではどうする事もできない事たったりするから。でも練習中の涙は、全部自分の手の中にある涙　怒られたり、言われた事できなかったり、教えてもらった事忘れてたり、ボコボコにされたり、うまく動けなかったり、痛くなったり、全部自分の責任。弱い自分の責任。誰のせいでもない。悔しい、悲しいって感じる涙。だけども未来のある涙。可能性に変えられる涙。マイナスじゃない。マイナスなんかになってたまるか。自分の大好きな事にマイナスは無いんだ」。マァ★ティンも頑張れッ！

## 今月もマァ★ティン ふがふが 大行進！

またまた、広瀬さん大爆発。今回はマァ★ティン公式HPに掲載中『ふがふが日記』から、ある日の日記を紹介。「人が憎くて闘ってるんじゃない。自分が嫌いで強くなりたいんじゃない。むしろその反対。んむ～。反対っつうか何てゆうか、ただただ闘う事が好きやねん。闘う事」「楽しい事気持ち→いい事。誰かの為に闘ってるんじゃない　自分がやりたい事、自分の為にしかも最高に楽しくて。そりゃ試合後トリップして銀世界行くわ。すっごい優しくしてくれる人達が周りにたくさんいる。マァティンはすっげえ幸せモンで、それでもってもっともっと幸せになろう」【続く】

# 1丁目 読者の声

★「面白かったのは、宮戸×高山×金原のUインター対談。山崎一夫と簡単に分かってしまうから。宮戸はよっぽど嫌いだったんでしょう」【神奈川県・佐々木学・36歳・会社員】

➲正直、ピンポン!

★「面白かったのは、紙の新聞。藤波さんの記事に関しては毎月面白くてしょうがないです」【兵庫県・島崎英樹・32歳・求職中】

➲正直、ワカル!

★「面白かったのは、仲野信一引退記念インタビュー。スター選手ではない、仲野のような渋いレスラーにスポットを当ててこそ紙プロの存在価値があるというものです。好企画でした」【東京都・柳川真一・44歳・小売業】

➲正直、ドウモ!

★「面白かったのは、やっぱり辻インタビュー。辻さんを見直したひとりです。ぜひ今年の流行語大賞にノミネートしてほしい『ヒャッホー!』」【山口県・ゆずっ子・22歳】

➲正直、ヒャッホー!

★「面白かった記事…『津谷章嘉』インタビュー。過去に「話題? なんもないよ」と記者に言い放った谷津さんによるビックサプライズが、東北の片田舎の小さな体育館で起きたのに衝撃を受けたので」【宮城県・深瀬清和・27歳・公務員】

➲正直、ナッ!

★「面白かったのは、『橋本&荒川』→一緒に抱き合っていた、●●と××が知りたい…。次々号でイニシャルが遂に明かされる?」【北海道・藤原章男・28歳・会社員】

➲正直、ヒミツ!

★「面白かったのは、読者が見たリングス10周年記念興行。紙プロ編集部から見たリングスが読みたい。(特に片山ボンちゃんの)」【広島県・広川徹・32歳・公務員】

➲正直、もうイナイ!

# 2丁目 読者の声

★「面白かったのは 橋本真也&ドン荒川 平成の新日が失ったものの大きさを痛感した WWF座談会 平成の新日が失ったものの正体がボンヤリと見えた」
【東京都・片岡健太郎・26歳・モラトリアム】

➲正直、スルドイ!

★「つまらなかったのは 津谷 イヤー記事じゃなくて― 谷津だか津谷だか知らないけど はじめからタオル用意しといて しかも なんで止めたの? みたいな顔しちゃってるんじゃない 谷津 VT出入禁止!! 大体 PRIDE 16 はメインがなかったらレフェリーも選手も会場STAFFも興行自体も最悪だった」
【神奈川県・38・26歳・保育士】

➲正直、オリャ!

★「つまらなかったのは 浪速旅日記 理由 ひどすぎる メディアの無駄使い」【東京都・八武崎貴広・18歳・学生(高三)】

➲正直、まだダメ

★「嫌いなテーマ曲は健介のやつ なんとかドリーム ボウズ憎けりゃ袈裟まで憎い」【愛知県・鈴木計広・25歳・無職】

➲正直、テイク・ザ!

★「紙プロは知的で好き 文章がおもしろいです オール大卒? わたくしは中卒ミドルで卒業しました」【熊本県・松本卓・24歳】

➲正直、ゼロ!

★「つまらないのは 読プレのアンケート いつも聞くだけ聞いといてリアクションなしだからノーコメント たれながしでいいから載せろって!!」【静岡県・横田丸出し・33歳・牧場勤務】

➲正直、スマン!(というわけで、前号アンケートの[illegible]

「辻さん、あんなにしゃべっちゃっていいの?」と、心配しているのは前号の「ホントにジョーク」に掲載された愛知県にお住まいの、たっつあんだ。賞品の中川画伯Tシャツはどうでしたか? またの応募を心よりお待ちしております。

## 今月もヒャッホー!は止まらない……

## 今月もテイク・ザ・ドリーム

毎度お馴染み、青木雄大先生の作品。それにしても健介の新しいコスチュームって一体どこで売ってんだろう? そんなこと聞いたって誰もわかんないよね。野暮な質問しちゃって正直スマン! 復活祝いに、もひとつおまけに正直スマン!

## 今月の拝啓、中村カタブツ様

拝啓、仲秋の候、カタブツ様におかれましても増々御健しょうの事と思います。さて、今回ぶしつけにもこのようなお手紙をさし上げたといいますのも、先日、『紙のプロレスRADICAL42号』を購入し熟読していた際、カタブツ様がお書きになられた『8・26 SHOOTO TO THE TOP in OSAKA』の記事に釘づけとなりました。ぶっちゃけてうれしいような、プチギレしそうな、そんな複雑な気持ちになってたのです。

まず、「プチギレしそうになった」事は、藤田善弘選手について書かれている、その書き方だよオラってかんじなんですよ。私はAV男優のツラがどんなもんなのかよくわかりませんが、男優とはまったく藤田選手は違います。もっとイイかんじです。寝技が上手いらしいって、そりゃ十年以上柔道していて、国際武道大学で柏崎先生に師事したら嫌でも強くなりますよ。1はっきりはわからないけど、それらしい事をきいたので……本人から。

それからなんで31歳で道を誤った感じってどうゆう事ですか? 読んでいて意味がわかりませんでした。38歳で他人の性物語をズケズケ書く人に親近感持たれても誰もうれしくないです。すげえ腹が立ちます。「紙プロ」はエロネタもいっぱい出るから、「流れ」で書きやがったのかもしれませんが、書かれてる本人は絶対いい気持ちにはなりません。もう少し考えて下さい。それ以外は本当に胸がすく思いで記事を拝見させて頂きました。

「うれしい」事はマジでそれ以外。「格通」の「修斗 THE BIBLE」にま～ったく載らなかった第一試合もきちんと取り上げて下さって、うれしいです。徳岡選手だけですよ大ワキにワイた試合は。日頃の練習の成果がズビーンと出てて、見てて「うきょ～～～」って叫んじゃいましたもん、心の中で。なのに『格通』にもゴン格にも載らない(怒)。知名度先行は仕方ないのも分かっているのですが、あまりにも扱いが雑すぎる。超雑。(怒)と思っていました。

ルミナやマッハが注目されるのはあたりまえだけど、結果はきちんと載せようよ、大人気ない。

最近の修斗は名前に頼りすぎると思います。一年位前のルミナがガンガン勝ってて、マッハがガチンガチンぐって、朝日の奇人っぷりが大爆発してて、エンセン大きく映えてた最高潮の時の修斗とは今は違うんだって事がわかっていないのでしょうか?

ぶっちゃけて過去にしがみついてませんか。コミッショナーさん方。と。時代の先をリードして進んで行かなきゃいけないのに、なぜか修斗だけ取り残されて行ってる気がしてなりません。

確かに「PRIDE」とかに押され気味なのは正直認めざるをえないと思いますが、今一つ魅力がない修斗。押され気味だけじゃないです、何かが足りないという。恨みという表現はうなずけます。"負"のエネルギーってすごい強そうに感じます。修斗はとにかくもっと危機感を持っていかなければダメだという事ですよ。

(中略)今後のカタブツ様のご繁栄を祈念し、ハイテックーC0.4の紺色のペンをおきます。さようなら。

(鳥取県/米原宏美)

カタブツ君に22歳の女の子から熱烈なファンレター(?)が届きました。他にも、横田丸出しさんから「面白かったのは『浪速旅日記』。最近、酒を飲んだ後のショウベンのようなカタブツ君の文章にはまって各紙読みあさってます。他にどこで彼の文章に会えるの? 今まだ独りぐらしなの?」とのお葉書も。うらやますぃ。

## 今月のSR S・DX ネタ ハッケヨイ!!

さてこの中に某有名格闘家がいます。さて、それは一体誰でしょう? 正解者には、世にも不思議な特製の粗品を進呈いたします。

1.長州力
2.エベンゼール・フォンテス・ブラガ
3.スモーノブ
4.アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
5.水谷豊
6.井上貴子
7.田村潔司
8.滑川康仁
9.ブラック・キャット

## 投稿からはじまる恋もある

「『紙プロ』にハガキを出すのはとても久々なのですが、おぼえてますでしょうかチョロチョロ。去年の夏、結婚しちゃいました」。もちろん覚えとるでぇ～。おめでとう、文子ちゃん。感謝してな

またまた締切に追われていますチョロです。ハガキはいつもどおりドンドン下さい。あと「紙プロ」編集部ではテープ起こしの出来るアルバイトを探しております。希望する方は下記の住所まで連絡下さい。ハガキ同様、メールでもかまいせん。choro@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702(株)ダブルクロス『好きにして!』係まで。

爆笑連載!?

# ほんとにジョーク

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡

**目が覚メタロウ**

一成改め…

和成

村上

イラストレーション
中川雅博

■応募方法■ プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかくホントに面白いヤツを [illegible]

▼毎月一名の作品を [illegible]

▼原稿発送は紙の [illegible]

### 目が覚メタロウさんへの★感謝の気持ち

★目が覚メタロウさんへ＝村上選手が借金つくって早死にしないといいですね 御希望の村上T（M）楽しみにしていてくださいね

★ 紙のプロレスRADICAL 読者の皆さまへ＝このコーナー本当に人気がありません 助けてください!! お願いします 採用された方にはTシャツをプレゼント!! ハガキに好きな選手名を書いてください [illegible]

[illegible] 毎月一席に当選された方に中川画伯オリジナルTシャツをプレゼントします [illegible]

## 読んでますかーーッ！ 元気がなくても
## コラムは読める!! イチ、ニッ、サン、バーーッ!!!

### ラインナップ

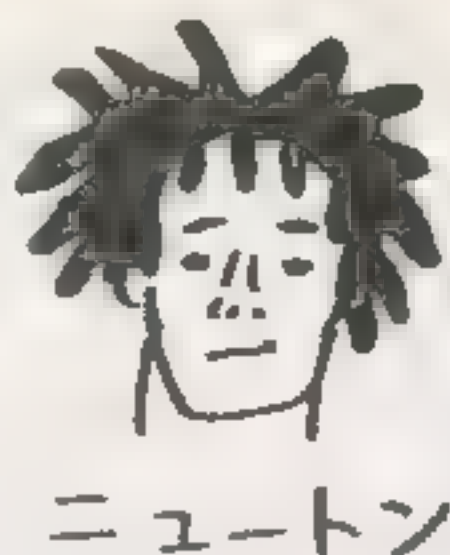


※今回は石神秀幸さんの「闘魂★たべある記」と真下純子さんの「ひりきな奥さん」はお休みです。

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

## BEST OF THE スパコラム

「やった！　三角入った！　極めろ！　十字だ！　やったあああ〜」と大ノゲイラvsコールマン戦は大満足!!　柔術好きが昔から抱いていたテーマ「ケアーやコールマンのような奴から、柔術家は下から三角＆十字取れるのか」を実現!!　ホイスvsスパーン以来、大一番での柔術バンザイフィニッシュかな、とにかくキモちE。

それと今月のちょっと一言よろしいかしらは、「大ノゲイラは柔術でありリングスではありません」。

**映画「ウォーターボーイズ」見て心が洗われました。**

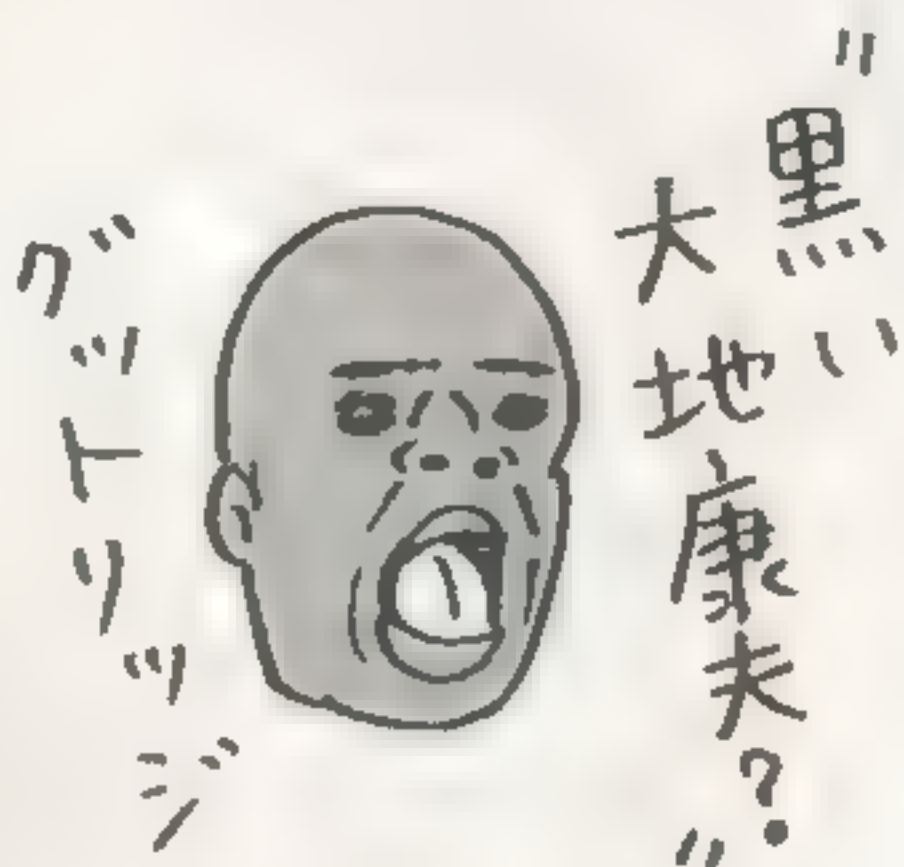
ニュートン

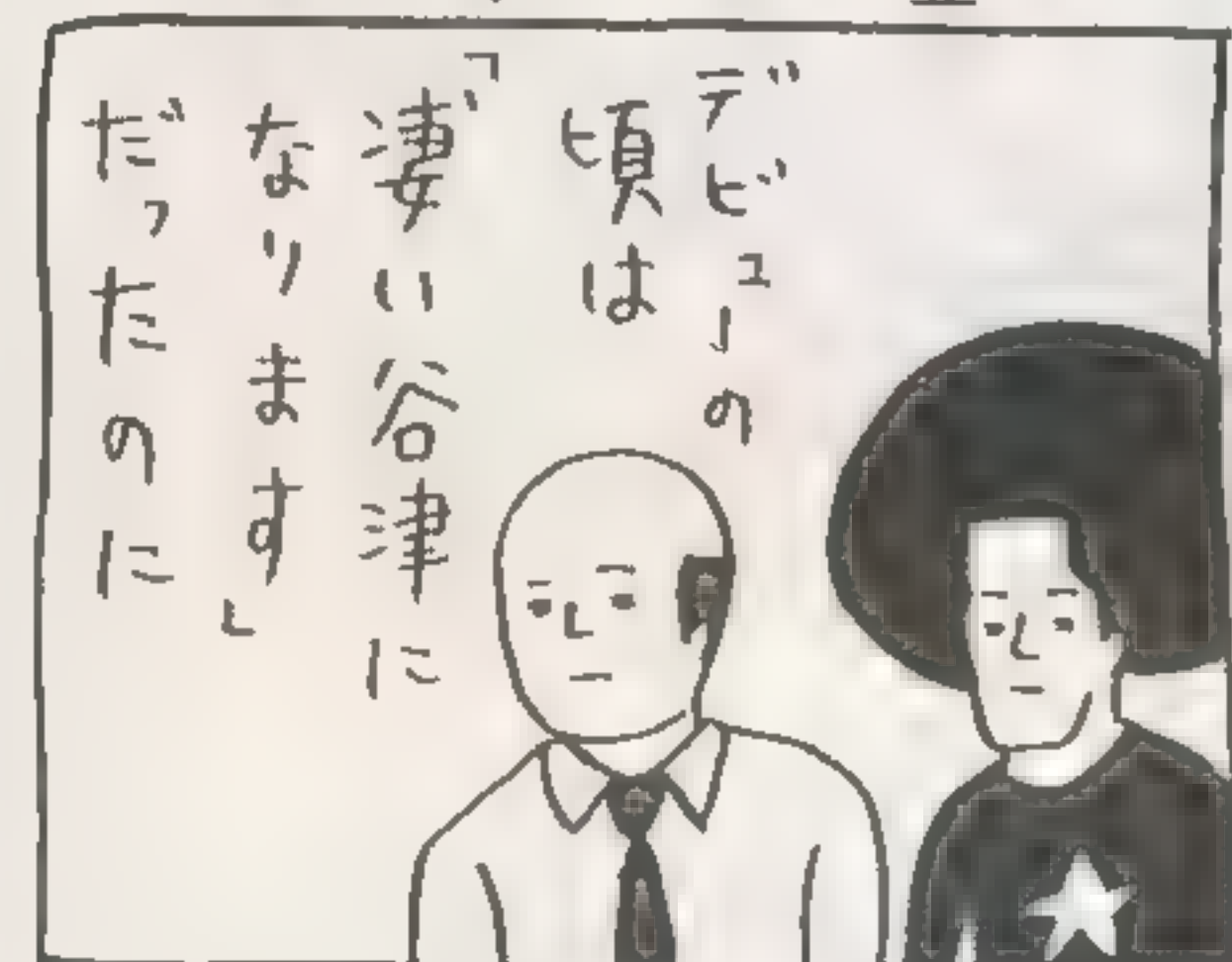
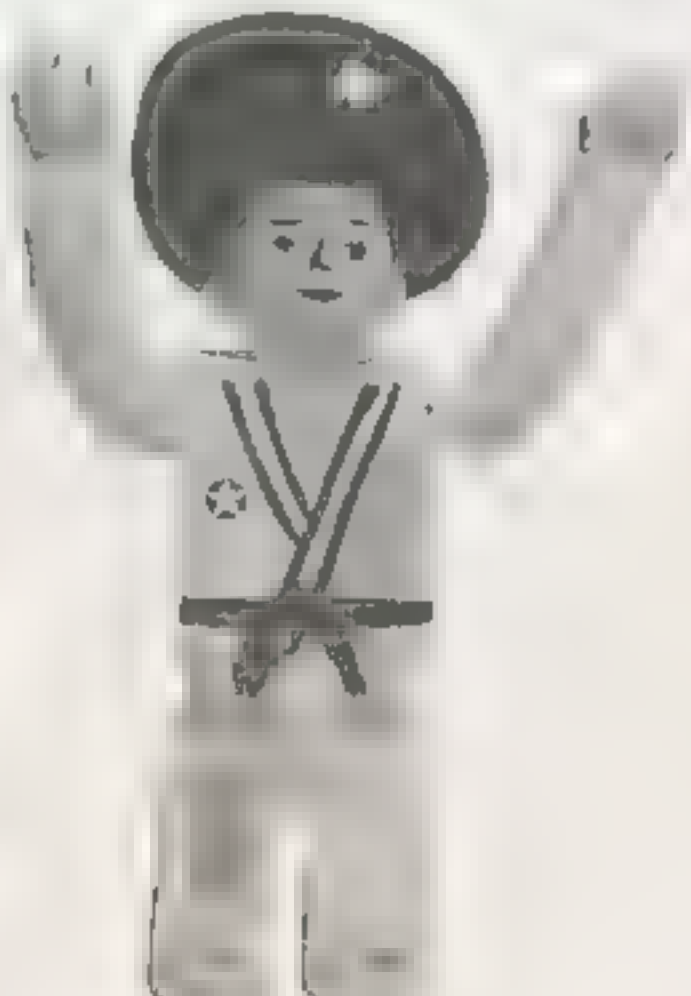
だいたい昔から、柔術に一番否定的で一番アンチ柔術だったのがリングスファンだったじゃん。

コールマンはビビリまくって爆発どころか火もついてなかったが、コールマンやケアーーには火をつけるチャッカマンのような人が必要なのではないか。試合前、控室で「おいっ、お前がナンバー1だろ！」「殴れ殴れっブッ倒してこい！」「USA！　USA！」とさんざんハッパかけまくりコールマンに着火して、「出番です」とプライド関係者がドア開けた瞬間、「ウガー」と顔真っ赤に沸騰させたコールマンがでてきあがり登場。中学生の時、学年で一人はいたような、発狂すると手がつけられなくなる奴のようになったコールマンが1R中エンジン全開の爆進ファイト。そうなりゃまだまだコールマンもプライドで出番あるのでしょう。そんなコールマンと大ノゲイラの激突を皆期待してたと思う。イメージ的にはビンスの顔が浮かぶ。ビンスが控室でさんざんハッパかけまくる姿はハマリすぎだし、実際火をつけその気にさせるのうまそう。そうなるとアングルでもいいか、ビンスが火をつけアングルが「ウガー」とプライドの花道を歩きリングへ向かう……いい絵だ。キャプチュードで入場する山本より全然いい。

ロープにしがみついてただけなのに「ヒクソンを最も苦しめた男」といまだに紹介され、キャプチュードで入場してきた山本を見たときは、おもわずとっさに「負けちまえ」と願ってしまった。そして願いが通じてよかった♥　それにしてもその後の新日ドームでの成瀬秒殺負けは、この山本の試合へのオマージュアングルなんでしょうか？

その新日ドームでの藤田vs小坊主、あそこまで猿芝居いやゴリラ芝居する藤田は、プロレス下手というよりもワザとやってる確信犯ではないかと思えてくる。「ほら、これ芝居だよ」とわかりやすく表現し、プロレスへいやがらせしてるように見えてくるが、どうなんだろ？　ワザとなら面白いな。さっき『週プロ』と『ゴング』立ち読みしたらあの「相手でなくマットに炸裂させるヒザ蹴り」は戦ってなかったなあ。辻はいつものように実況してるが『紙プロ』インタビューでの辻とどっちが本物の辻なの？

〃黒い大地康夫？〃

グットリッジ

小川も出てきてアピールしてたけど、さすがにもう全然ノレない。橋本潰し、グッドリッジ戦、スポセン出稽古インパクトらの貯金はもうゼロじゃないのか。正月のドーム出るみたいだが、誰とやろうがそれがプロレスなら全然貯金になりそうもないよ。大ノゲイラがコールマンに勝ってもまだ「ノゲイラ？　誰それ？」なのか？　どんどん年取っていき、それに階級も違うヒクソンじゃなきゃだめなのか？「21世紀のヒクソン」（by『ゴン格』）の大ノゲイラじゃダメっすか？　このままじゃ、「いつ何時、誰の挑戦も受けるヒクソン」が大ノゲイラで、「いつ何時、誰の挑戦も受けないヒクソン」が小川だよ。ファンのニーズとかよく言ってるけど、新日やゼロワンでプロレスすんのと、ノゲイラとマジで闘うの、どっちをみんな望んでるか明白でしょよ。

菊田がパンクラスチャンピオンになる時代にやっとなった。昔、リングスで田中稔に勝った時のことをサムライのSアリーナで菊池孝さんに「（菊田が勝ったので）ビックリしたよ。当然田中が勝つと思ってたから」とプロレスボケで格闘技の現実がまったく見えてない発言され、「えっ？　そうですか？」と困った顔してた頃がなつかしい。それにしても美濃輪の底力はやっぱ恐ろしい。美濃輪もUFC出ればいいのになあ。

私的大注目だった小谷vs所は、小谷の勝利。矢野さんも勝ったし、こうなったら小谷vsヤノタク見たいなあ。でもリングスはエスケープ復活すんだよね、それでいいのか？　いまこそ「戦争反対」とともに「エスケープ反対」のコールを！

はなくま ゆうさく■大ノゲイラとスパーリングしました。感激♥　でも弟のほうです

男道コーチ屋稼業・掟ポルシェ(ロマンポルシェ。)の

# 未☆勝ち未す

『田村　モー娘。に感動』の巻

BEST OF THE スポコラム

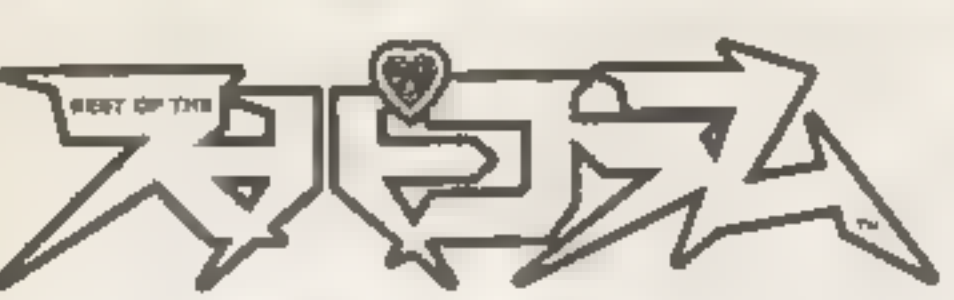
## タムタムこと田村潔司が重度のモーヲタであることが判明!!

ただいま日本国中にバカ警報発令中! 日本の大人をダメにした最強最後のアイドル兵器・モーニング娘。がプロレス界にとっての黒船となり、「本気になったらジャンボが強い!」「一分以内なら佐山が最強!」(片手にケーキカット用のナイフを持って『てめぇ、ブッ殺すぞー!』とマジギレしている場合含む)などと喧々囂々のシミュレーションをあーでもないこーでもないと繰り返していたプロレスファンたち(それもある意味ダメな大人)を飲み込んでしまったのは周知の通り。キミの身の回りにも11月3日は当然東京ドームではなく横浜アリーナのチケットを買ってしまっている(しかもプラチナチケットをゲットし恍惚の笑みを浮かべて全然後悔する素振りなし)プロレスファン上がりのモーヲタは多いことだろう。市井紗耶香復帰の一報を聞いて本気で失禁、翌日からは「バァちゃんが死んだので休みます」とバレバレのウソをついてしばし号泣&ドンチャン騒ぎの日々を送る強者も実在する昨今、WFなんかよりも100倍モーニング娘。の方がプロレスにとって脅威なのであるということを思い知る必要があるのである。

『ASAYAN』『MUSIX!』などの啓蒙番組を通じて2千万視聴者に対して徹底的にサイドストーリーを叩き込み、新曲に対するモチベーションが見る側に完全に刷り込まれた頃にリリースする手法は、昭和新日ファンなどに圧倒的な既視感を催させたに違いなく、それはプロレス好きが高じてついにはやる側になってしまったレスラーたちにとっても同様なはずである。つまり、『プロレスラーはモーニング娘。がだいすっき!』である確率が異常に高いという推測が成り立つということでもあるわけだ。イヤ、もうこの際『プロレスラーこそ真のモーヲタだ!』と断言してしまっていい!!

そんな妄想に浸りすぎ、自宅でひとり新日オフィシャルTシャツに着替えて汗ダクでジャンケンぴょん! ジャンケンぴょん! ジャンケンぴょん! ジャンケンぴょん! と10時間ほど瞳孔を開きながらブッ続けで勝手に踊り狂っていたら、とんでもないタレコミがホントに舞い込んで来やがった!!

赤いパンツの頑固者、みんなのタムタムこと田村潔司が重度のモーヲタであることが判明! なんでもU-F1LEの道場にはモーニング娘。のCDが全種コンプされているそうで、練習の間もずっとモーニング娘。の曲が流れ続けているらしい(多分「あいぼんが小さい体でこれだけガンバってんだから、おまえらもあいぼんに負けないように死ぬ気で練習しろ」とかいう意味)。当のタムタムも会話の二言目には娘。の話ばかりし出すようになっているとか。グレイト! ワンダフル!

田村が好きなモー娘。メンバーは誰なのか? 正解は次号で発表!(どこかでタムタムに会ったら)

それって俺と同じじゃねぇかー もう親近感沸きまくり!! きっと「ブラジリアン・トップ・チームを娘。に例えるならよっすぃーはヒカルド・リボーリオだ」とかなんでも娘。に例えたがったり、「俺から見ればおまえら道場生はまだまだシェキドルなんだよ!」だのと檄を飛ばしたりしているに違いない。そう考えるとUWFのムーヴとプチモビクスには「ずっとやってると何となく体に良さそう」という点でなんか非常に近いものがあるし、田村がここ一番の試合で必ず携帯する小太刀も、いってみれば早すぎたミニモニテレフォンであるといえなくもないし(携帯つながり)、そのうちグッズ化して販売してほしいところも一緒。UWFの象徴であるレガースも、ずっと凝視し続ければ『LOVEマシーン』を歌っているときの衣装のブーツのように見えてくるから不思議だ(多分そんなはずはない)。田村がこの春リングスを離脱・独立したのも、きっと中澤裕子がモーニング娘。を脱退したことに影響されてのことだろう。イヤ、そうに決まっている。そのうち裕ちゃんがモー娘。脱退から2週間程度で「ハローモーニング」に帰ってきたようにひょっこりWOWOWリングス中継の司会として復帰し、横井や伊藤といったリングス新メンたちの試合を何喰わぬ顔で解説していることだろう(しかも裕ちゃんへのリスペクトを込めてオール関西弁で)。

このようにUWFとモーニング娘。には(かなり異常にモーヲタ的な視点から見れば)共通点が非常に多い。Uの未来形を体現する男・田村がモーニング娘。にハマらない方がおかしいという話だ。

しかし、今持って謎なのはタムタムがモー娘。メンバーの中で誰が好きなのかということだ。全く申し訳ないが現段階ではそこまで調査が済んでいないので本人に内緒で勝手に想像してみると、ジュニアの体でヘビー(飯田)と対等に渡り合うというところにシンパシーを感じて矢口真里あたりを推しているのではないだろうか(ジュニア、というかミニモニ)。田村とモーニング娘。の間にはまだまだ謎が多い。

というわけで、次号あたりイヤがるタムタム本人にインタビューをムリヤリ敢行する予定! 誰推しなのか? そしてUWFとモーニング娘。との間にどんな関係性を見いだしているのか? 殺気立っていない時を見計らってさりげなく聞いてみたいと思いま~す(多分断られます)。

おさて・ほるしぇ■メロン記念日の新曲「THIS IS 運命」最高! あんまり素晴らしかったので先週末5回あった東京でのイベント全部に参加。休日も平日もなくメロンを貪り堪能する俺自身に西村修の言葉を捧げる「ミスター、あなたはバカです」

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

# 実録 最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

## PROFILE

### No.18 babamania

ファンキーなロックを繰り広げる五人組。メンバーはGenki（Vo）Mari（Vo）Takeo（B）Yujin（G）Daigo（Dr）。92年にbabamaniaの前身バンドを結成し、97年にMariが参加し現在の編成になる。ところでバンド名は馬場さんとは関係がありそうで無さそうだが。「面倒臭いから、もうそうしちゃおうかなって思うんだよね（笑）。プライマスってバンドの「トミー・ザ・キャット」っていう曲の歌詞で、「ババ」って聞こえて、それで残ってるんですよ。まあ、誤解されても面白いかなくらいは、ちょっとはあったかな（笑）」（Genki）。そんなバンドの姿勢は「『プロレスだけじゃダメ、Hだけでもダメ、それが融合してないと』ってピンスのビジネスライクな考えが凄い好きで。ボクら５人もbabamaniaっていう団体だとしたら、周りの力も必要だし、ボクらはショーとしていいモノを見せたいしね。早く立派な団体にしたいね（笑）」（Genki）。さて、バンドと一番ノリの似ている闘龍門に興味があるという彼ら。「あそこは面白いよね、お客さんのノリも凄いし。ボクはCIMAが大好きなんだけど、彼は天才だと思う。テーマ曲とかオファーを出したいですね」

―聞くところによると『紙プロ』登場を熱望されていたみたいですね？

**Genki（以下・G）** はい（笑）。ボクには音楽とプロレスが凄いリンクしてるんで。メンバーにはプロレスの良さは伝えてるんですけどね（笑）。

**Mari（以下・M）** Genkiにみんなすり込まれてる（笑）。面白いとは思うけど、へぇ～って感じ（笑）。すいません！

―大丈夫です（笑）。さて、なんでもWWF好きという事を聞いたんですが。

**G** そうですね。でもボクはWCW好きだったんですよ。NWA、ミッド・アトランティック時代からずっと。やっぱり『世界のプロレス』の影響です。マグナムTAとかね。新日は地味でねぇ。全日は小学校の頃から好きでした。あと、雑誌が好きだった。『月刊プロレス』のアメリカ情報が大好きでスクラップしてました。あれでアメリカを追って、そこから今までずっとですよ。

―アメプロのどこに惹かれましたか。

**G** やっぱエンターテインメントの部分ですね。アメリカ人の客の熱狂の仕方と選手との一体感が素晴らしいなと。あとフォー・フォースメンが好きだった。タリー・ブランチャードとアーン・アンダーソンとオレイ・アンダーソンとリック・フレアー。なんて玄人好みのレスリングをするんだと（笑）。誰とやってもうまいじゃん、あの4人って。今は少ないよね、ダグ・サマーズとバリー・フォロウィッツとか、受け身のタイプのヤツ。あれがいるからスーパースターが育っていく、アメリカンプロレスの醍醐味かな。

**M** （真顔で）WWFのプロレスラーの人ってプライベートとかあるんですか？家で寝てても襲ってきたりするじゃん。

―あれは演出ですね（笑）。

**M** やっぱ違うんだ（笑）。気が休まんねぇなぁって思って。あとGenkiが歌詞書いてエライなぁって思って見ると、プロレスのこと書いてんだよね（笑）。

**G** 勢力分布図みたいなのを。

―アハハハ。勢力分布図を日夜作っているわけですか（笑）。

**G** 誰がどこの団体に移籍してとか。でも今はWWF一つで面白くないなぁ。

―完全に崩れちゃいましたからね。日本の団体はそんなに見てないんですか？

**G** あっ、DDTとかまで全部網羅してます（キッパリ）。

―格闘技系はどうですか？

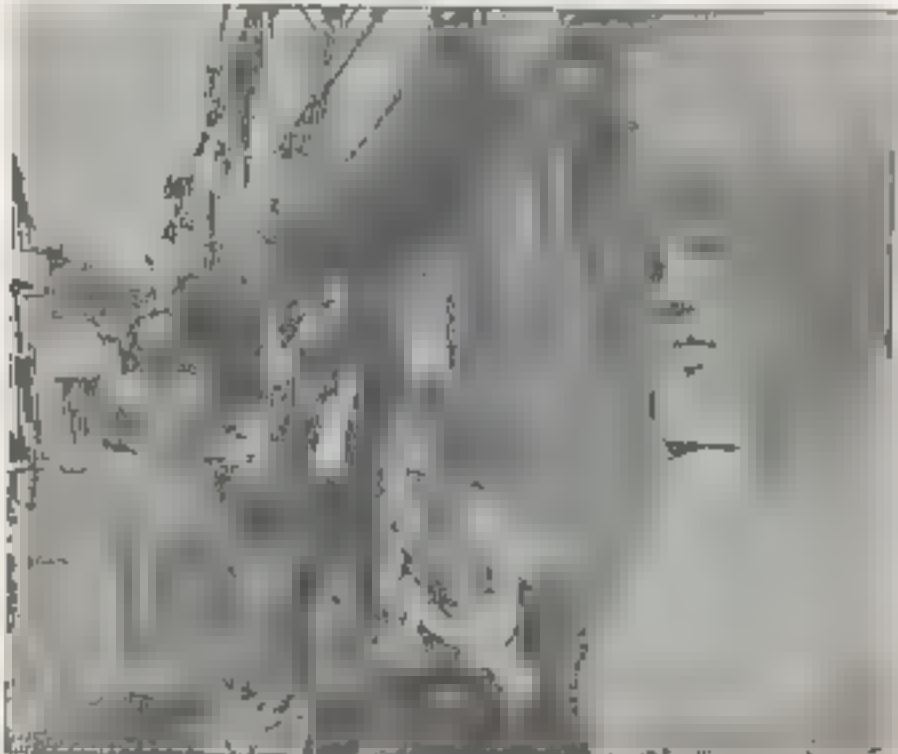
**G** ダメなんですよ。一瞬の緊張感が結構ダメみたい。新日育ちだから。やっぱり猪木みたいにドンドン盛り上がっていって最後に決めるみたいなのが好き。1・5秒ぐらいでさ、バキッとか折れたり、あれは凍り付いちゃうね。

**M** アダルトビデオで前振りがあるか、すぐ入れて終わりみたいな感じ？

―アハハハハ。素晴らしい例えです。よく見るんですか？

**M** 見ますね（笑）。私は絶対ストーリーがあった方がいい。

―男は結構早送りするんですけどね。そういえば、なんか昔アマレスを？

**G** 高校時代にプロレス好きと、いじめっ子がレスリング部に入るからって一緒に入れられて（笑）。水なしでプロテイン飲まされたりして（笑）それからはいじめられなくなって。その時、石澤さんが特別コーチで来て、超デカかった。新日入る前、100キロ級のヤツがスパーリングでヒーヒー言わされてましたよ。

セカンド・アルバム『Pommuzik』。全編英詞で展開されるネチッこいファンキーなそのサウンドからも、アメリカンなテイストがいっぱい。GenkiとMariの掛け合いもバッチリだ。

**M** アマレスのコスチューム、ライブの衣装で着てたよね？

**G** あったねぇ。飲み会もよく吊りパン着て行きましたね（笑）。

―飲み会に吊りパンですか（笑）。さて、babamaniaの歌詞にはプロレス色はそんなに感じられませんよね。

**G** 音楽性は特に繋がってないけど、ステージングは意識してるとこはあるよ。あくまでボクですけど（笑）。

**M** （突然）私、ライブでカツラ被るじゃないですか？ そういう意味では覆面レスラーみたいな感じですよね（笑）。ズラ付けた瞬間に、そのキャラクターになれるのは、プロレスに似てるのかな。

―ヅラがスイッチなんですね（笑）。

**M** あと、昔クラッシュギャルズが凄く好きで。しかも私「中野」っていうんで〝ブル〟ってアダナ付けられて（笑）。

―やめてって感じで？（笑）。

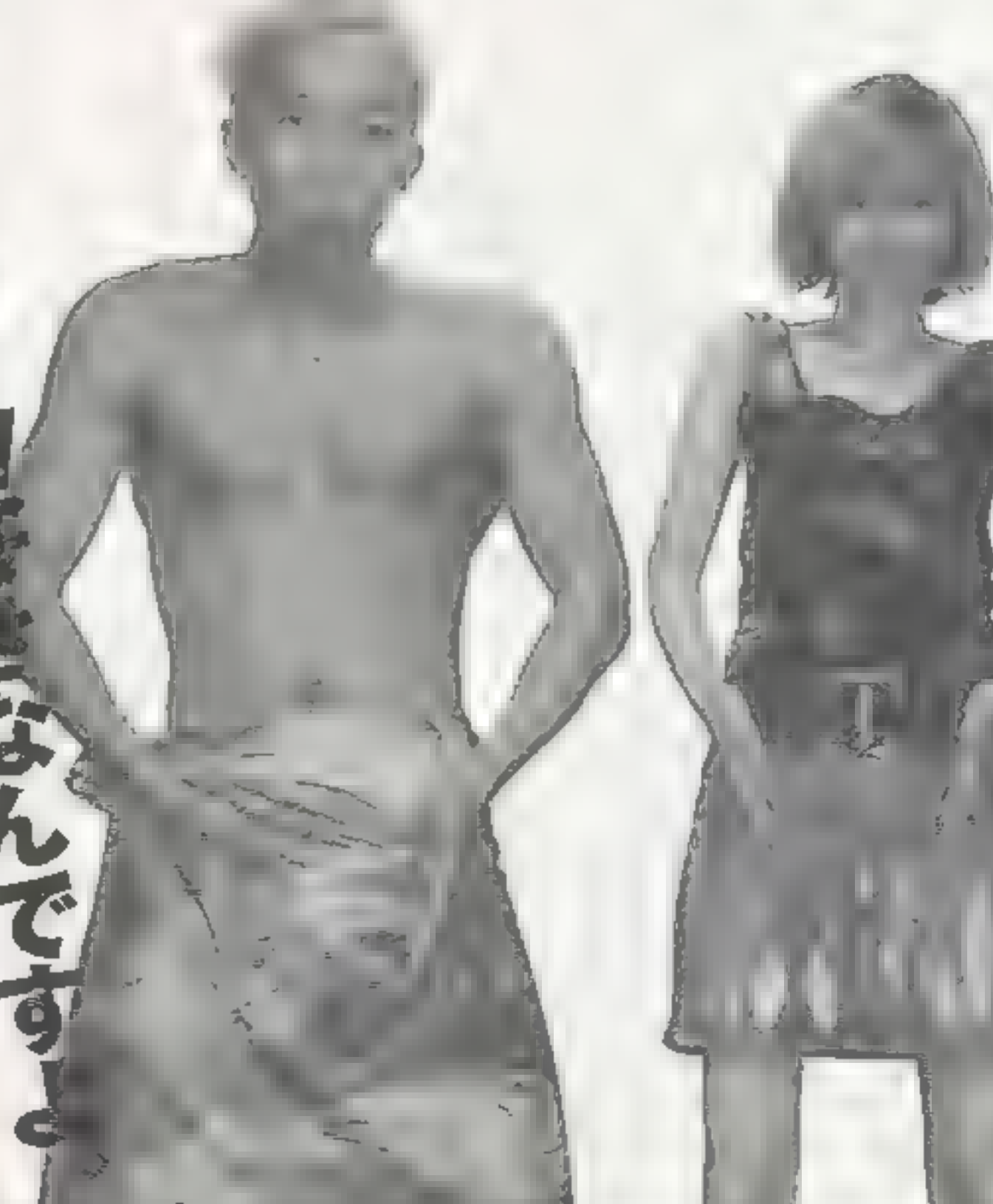
**M** いや、なかなか良かったです。

―アハハハ。それではバンドで今後やってみたいことは？

**G** いつか、リングをステージに海岸ツアーをやりたい。やっぱbabamaniaにしかできないことやりたいよね。子供でもノれるような曲を出して、親も好きになって、家族で来てくれたら嬉しい。

―日本のプロレスもチビッ子ファンが少ないですからね。

**G** ねっ！ ボクらは顔は濃いですけど、刺青も何も入ってないし、ヘルシー志向っていうのも凄いアピールしたいです（笑）。子供に夢を与えたいですね。

**私、本名「中野」っていうんで〝ブル〟ってアダナ付けられてました（笑）**

**ボク、WCW好きなんです。NWA、ミッド・アトランティック時代から**

babamania
ワンマンライブツアー
11・9（金）
名古屋ELL FIST
11・30（金）
新潟JUNK BOX mini
12・13（木）
心斎橋[illegible]
12・26（水）
渋谷ON AIR WEST
【お問い合せ】
03-5459-7328
http://www.babamania.com

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

文・大坪ケムタ

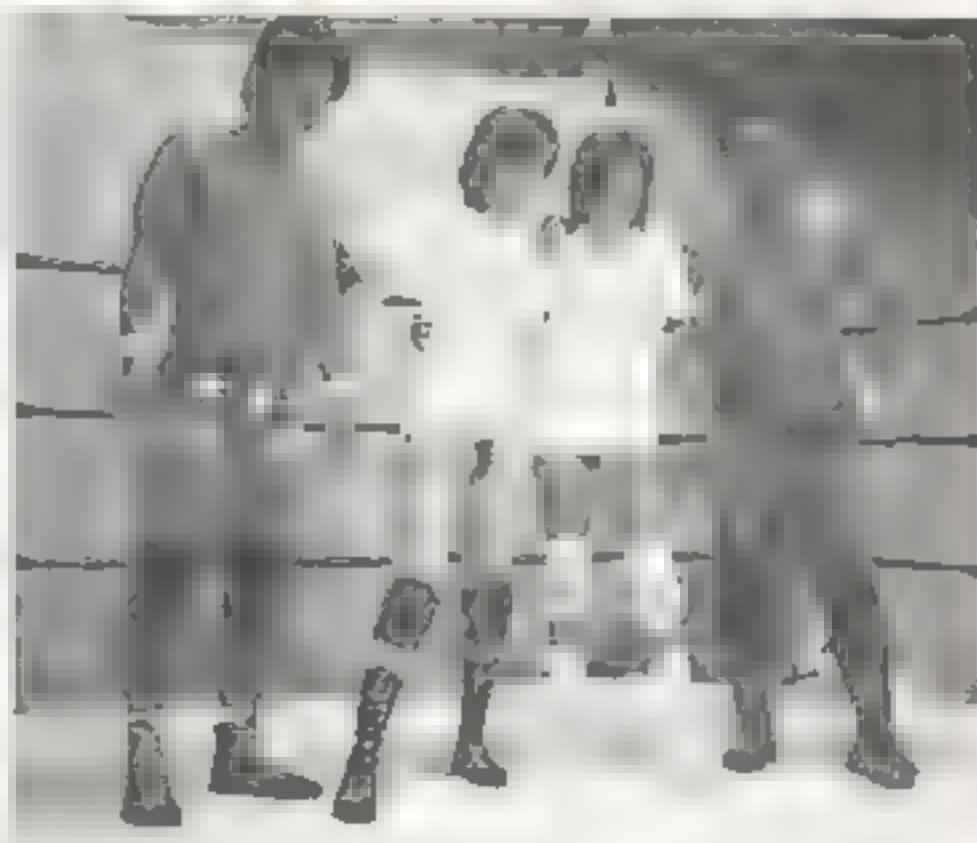
# エロ・サムライ

## vol.9 チョコ新団体旗揚げの巻

エロとプロレス・格闘技の共通項を探るというテーマで毎度お届けしている当コーナー。連載9回、最もソレを語るに相応しい人を外してきたのにお気づきでしょうか？ それは言うまでもなくチョコボール向井。高校時代は極真空手に明け暮れ、士道館全国3位の実力。そして高校卒業後新日に入門するも、体格の無さと練習のハードさに一ヶ月あまりで逃亡。ボディビルのインストラクターをやりつつ、好奇心で出演したAVで素人として登場した事がキッカケで「駅弁のチョコボール向井」が誕生し、現在まで11年間バリバリのトップ男優として活躍しているのは男子ならご存じの通り、って最近レディコミでも人気ですが。そして99年にはFMWでレスラーとして念願の初マットを踏む。しかもあくまで「ネタ」としての登場と思ったら新弟子として本気のFMW入団。バル・ビーナスやマグナムTOKYOとは格違いな世界唯一のAV男優兼プロレスラーなんでありますよ。

そのチョコさん、この秋に自ら新団体を旗揚げすることが決定、その名も「AV W＝Adult Video Wrestling」！ ってコテコテな名前ですが。ともかくその初公開練習というかビデオの撮影が行われるという話をお聞きして所沢の某リング付きスタジオに参上してきました。たくさんのマスコミ（当然非・プロレス系）が見守る中、リングに上がったのはチョコさん、そして弟子のミートボール吉野。この人も帝京大学プロレス同好会出身でズガン・ハンセンとして活躍した過去があるだけに侮れない。そして紅一点の桜田由加里さん、人妻系AVでNo.1の人気を誇るAV女優だ。人妻とプロレスが何故？ という感もあるが全日好きで過去に女子プロを目指した過去とあるそうな。必殺技はコルバタとスイングDDTということですが、技より日焼け跡クッキリなハイレグ尻に目がイッちまいそう。

さてまずは軽いストレッチからスパーリングへ。ちゃんとAVWルールというのがありまして「KO・ギブアップに加えて、男は発射・女はイッても負けになる」というのがさすが向井ルールディレクター。地味なバックの取り合いの中にもタイツを脱がしたりポロリもあるよな攻防が繰り広げられます。

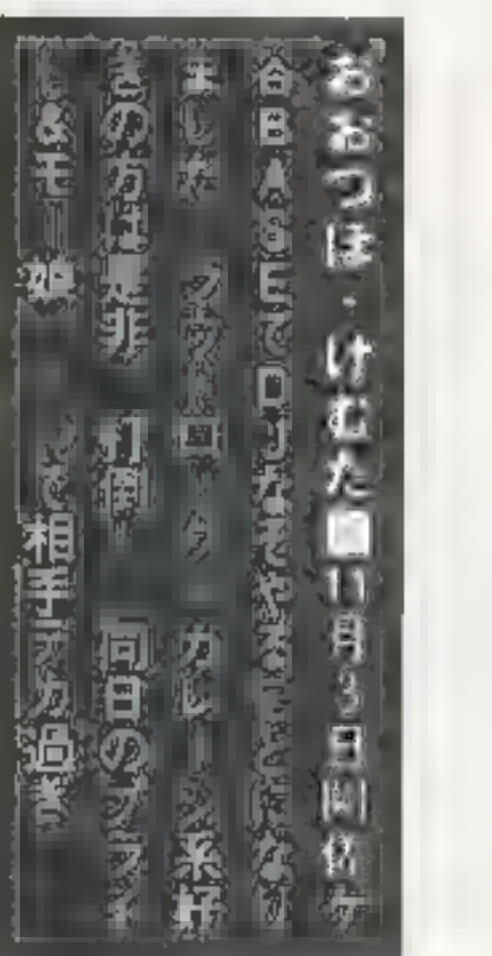
そこに謎の覆面男2人が乱入！ 「そんなのがプロレスか？ ふざけたことしやがって！」と正論を吐いてリングに駆け上がるとAVWレスラーをリング外に突き落とす。この中では最もレスラーらしい体格の黒覆面、小柄だが動きはいい白覆面。しかしこの二人見たことある……黒服面は某インディー団体でエースと目されてる人？ 白覆面は某メジャー団体関係者？

今回紹介した「AVW」は第一章・第二章がオブテイン・フューチャーから発売中。続編も発売間近！

二人が凶器ならぬ電動バイブ片手に桜田さんに襲いかかる！ ってさっき言ってた「俺たちが本当のプロレスってものを見せてやるよ！」ってのも忘れて桜田さんをイジくるのに必死なふたり。コスチュームもヒン剥き、乳も毛もその奥まで丸見えになった彼女に、18歳以下の青少年も読んでる『紙プロ』には書けないようないかがわしい行為が！ 要はナメたりしゃぶらせたり指入れたりしてたんですが。

しかし肝心のナニが立たないのか、最後まで到達出来ない覆面軍団、やはり中身は男優としては素人か？ それを好機と復活したチョコ＆ミートが桜田さんを救出ー 「お前らな、本当のアダルトビデオってのはこうやんだよー よく見とけ！」と吠えると胸に抱いた桜田さんを押し倒し…大変です、彼女。しかしさすがカラミにかけては見せる時は見せますー まずはチョコさんが桜田さんをパワーボムで一番上がった時の体勢で持ち上げ、そこから股間をナメるー そして何故か回るー

いわば「スパイラルボム式クンニ」か？ もちろん叩きつけるのは無し。ミート吉野も負けてはいない、彼女の股間に指を挿し入れて、それを中心に彼女の周りを自らグルグル回転、いわば「スピニングトーホールド式指マン」？ 最後はもちろんチョコさんの駅弁、しかも男女ハマったままでロープワークまでこなす「ランニング駅弁2001」とでも言うべき技。パワフルすぎて実際には使えなさそうなのは置いといて、これもまたプロレスラーの凄みってヤツですか？ しかし一番スゲーのはストレッチ運動から1時間半、プロレスムーブからファックまでブッ通しだった桜田さんのスタミナだったり。

ちなみに同作、既に2作目も撮影済で今度は再び出演の桜田さんと、スレンダー巨乳の坂口華奈さんとのキャットファイトが最大の見せ場。黒いコスチュームが似合うヒール系な坂口さんとベビーフェイス・桜田さんの対決で、人気女優がドツきあうというインディーズAV界ではある意味贅沢な一本です。

ちなみに以前撮影現場を紹介した『女空手家vsレイプ魔』、その前後編『女柔道家vsレイプ魔』『女格闘家ガチンコキャットファイト』がいずれも1万本を越える大ヒットだそうで、今回の「AVW」も含め女格闘AVが今年のAV界を代表するブームになりそう。スマックガール・AXにハマってる人はコチラも一見の価値あり。AVだろうと格闘技だろうと、格闘する肉体に貴賤はネエですよ！

おおつぼ・けむた■11月3日…

# 武田いづみの

# ディスカバー・ジンニホン

## VOL.6『ギネス級』の巻

私がまだ高校生だった約3年前。ルーズソックスというやたらカサがあって値段も高い靴下を履き、ラルフローレンのセーターを着ることしか許されない雰囲気の中、「テニスでもする気か」というほどスカートの丈をつめ、狂ったように他校の指定バックを探し回って持っていたあの頃。女子高生の格好がある程度決まったものになってきたある日、不思議な現象がおきはじめた。ポツリポツリとリボンをする子が出てきたのだ。シャツの首周りにつける学校指定のアレだ。私の高校はリボンではなくネクタイだったが、どこの学校のものか、リボンをわざわざ調達してきてつけている。そのうち本来の制服のネクタイも流行りはじめた。

私の通っていた高校は、先生もそれほど注意をせず、生徒は制服を自由に着崩していた。着崩して、着崩して、これ以上は着崩せないというところまで来たとき、女子高生は制服の「再構築」に出た。まさに破壊なくして創造なし。彼女たち（私も含む）は、制約のない状態で「制服」を勝手に作りはじめたのだ。

結局卒業までにネクタイをし、今まで着なかったブレザーを着て、ルーズをやめてハイソックスを履く子も増えた。スカートの長さは相変わらずだったが、傍から見れば、それは整った服装だった。あれは一時的かつ局地的なものだったのかもしれない。でも、おもしろいものを見た気がした。人間は、おそらくなにか制約がなければ楽しめない。スポーツにおけるルールと同じく。

10月8日の新日ドーム大会中継は、6時半からというとんでもない晩ゴハン時にはじまった。食卓を囲みながら、「新世紀の大巨人」を見る夕べ。なかなかオツではある。TV局がアピールしたいのは、シルバとシンというタッグチームらしかった。「デカイ」という、ただそれだけのインパクトを持ってくる昔ながらの手法。このやり方は間違っていないのだろう。しかし、その後のCMにこの日最高のインパクトが待ち受けているとは。

持っていた風船からうっかり手を離してしまった子供に、風船を取ってやって手渡す男。っていうか、手渡す〝大巨人〟。それが「ギネスブック認定、世界一背が高い、ラドワン・シャルビブ（2m35cm）」だー……誰それ？ これからデカイタッグチームが出てきますよ、というところで、それよりデカイ男がCMでーしかも、すげーにこやか。なんか、ウサギ飼ってそう、よくわかんないけど。

「蝶野さん、どこであんな人たち見つけてきたんですかね」という、つい数秒前の荒鷲ジュニア・坂口憲二の声がリフレインする。いますよ、蝶野さん。洋服の青山に。なにゆえこんなにトンマなことになったのか知らないが、じつに見事に決まった「カックン」であった。ギネス認定じゃなぁ。

ところで、この日もグローブ着用の試合がいくつかあった。前から気になっていたんだけど、新日本でこのグローブは「つけてる人は相手を殴ってもいいですよ」グローブなんだろうか。グローブをつけることでルールがひとつ曖昧になっていく。「反則は5秒以内」という立派なルールが崩れていく。

なんだかんだ言ってもギネスには、勝てん!!

ビデオ一時停止して描いたんで、あんまし似てないですわ。byいづみちゃん

バーリ・トゥードは「なんでもあり」だが、様々な制約を持っている。とはいえ、やはり「なんでもあり」。プロレスにそれをプラスすれば、バーリ・トゥードでもなく、プロレスでもない弛緩した状態になる。制約が半端に欠如した空間。たぶんそれが新日本の格闘技寄りの試合をつまらなくしている一因じゃないだろうか。新日の特番が終わってからK-1を観た。K-1は基本的に「殴る蹴る」がルールだ。投げちゃダメ、極めちゃダメ。その状態だからこそレイ・セフォー対マーク・ハントの、顔を突き出すムチャが生まれるのではないか。殴られて笑う、殴ってみろよと顔を突き出す。意地。プロレスじゃないのかそれは。

制約が意地を生む。意地がプロレスを見せる。プロレスがルールを取っぱらっていったところにあるのは、たぶん「プロレスというルール」だ。新日はグローブつけるのもいいけど、ちょっとネクタイ締めましょうよ。

# ザ・検証

## プロレス点と線

遂に小原道由の「PRIDE」出陣が正式に決定しました。しかも、相手はヘンゾ・グレイシー！ 一発目は狂犬対番犬対決とかってことでハイアンかなとも思ってましたが、違いましたね？ 残念残念。でも「小原の関節技は桜庭より上」ってグドリジも言ってたんで小原の勝ちは間違いナシ！ 覇ッ！

ザ・検証

【今月の検証】

### 猪木を本当に許せるか チェックシート

by 椎名基樹

猪木がすごい。前回の『PRIDE』で、ノゲイラ兄がコールマンに衝撃の1本勝ちを収めたのをはじめ、残酷シーンあり、反則あり、名勝負ありと、選手が盛り上げる中、一番目立ったのは、やはりアントンであった。しかも、フジテレビ系列の舞台で、TBSで大晦日生中継される「猪木祭り」の宣伝をブチ上げた。『PRIDE』の話を一切しないで、自分の宣伝ばかりする猪木に観客から軽く「?」が出ると、それを素早くキャッチし（無意識で）、ダジャレ→ダァー！に持ち込み、「?」を一瞬に消して、去っていった。

また、新聞によると、新日の興行についてテレビ朝日を一喝したとか、それで「みんな俺を憎め」と逆ギレしたとか。さらにコンビニに行けば、パンをはじめ、最近では猪木プロデュースの納豆や豆腐まで見かける。そして、その豆腐や納豆、全部123円均一という、シャレ具合。正に「猪木なら何をやっても許される」状態。しかし、だ。本当に猪木なら何をやっても許されるのだろうか？ 今回の検証～椎名基樹の部は、「猪木を本当に許せるかチェックシート」を作ったので、各自自分の「猪木LOVE度」を診断していただきたい。

**Q1** 猪木が、お母さんが君のために用意してくれたおやつのプリンを食べちゃいました。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない。

**Q2** 店でラーメンを食べていたら、猪木が突然君のナルトを強奪。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない。

**Q3** 猪木が酒に酔い、「お前の親はまったくうだつが上がらねえ。しかも、あの汚ねえ母親はなんだ。あれとヤって出来た子供がお前だ。冴えないのも当たり前だよな、貧乏人」などと絡んでくる。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q4** 自宅の部屋のドアを開けると、猪木が彼女をバックスタイルから……。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q5** 生まれたばかりの子猫を、猪木がニヤニヤ笑いながら、激流の中へポイ。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q6** 葬式で酔いすぎた、猪木。つまずいた勢いで、祭壇に突っ込む。棺桶から君の父親の遺体が飛び出し、大混乱。爆笑で起きあがった、猪木はお供え物のバナナをマイク代わりに握って、1、2、3、ダァ～！
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q7** 老婆に鉄拳制裁する、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q8** 子犬の腹を蹴り上げる、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q9** 君の愛車に10円玉で「闘魂」と書いた、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q10** 乙武君に本気でスリーパーをかける、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q11** 卓球少女・愛ちゃんの顔面を蹴り上げた、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q12** 君の母親の腕を折った猪木が「折ったぞ～！」。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q13** 済んだことをグチャグチャとグチる、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q14** 「もう一軒行こう」としつこい、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q15** 「俺の酒が飲めないのか」と絡む、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q16** 小石の詰まった靴下で、藤波を殴打する、猪木。
①許せる ②痛快 ③笑える

**Q17** 女装を誉めろとうるさい、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q18** 「猪木、ボンボンが痛いでしゅ」とか、赤ちゃん言葉の、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q19** 君の彼女をシャブ漬けにして、外国に売り飛ばした、猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

**Q20** ロックバンドを結成し、イザムばりの扮装の猪木。
①許せる ②許せない ③どちらともいえない

と、いうことで、20の質問のうち15以上「はい」があった人、君は立派な「猪木許せる隊」の一員です。おめでとう。では、行きますか？ 1、2の3の4の2の5、3、1、4の2の4の2の5！ コマネチ！

PS ダイナマイト・キッド自伝『ピュア・ダイナマイト』読みました。泣きました。最高です。その中で、猪木がみんなが見ている前で、突然ヤクザにビンタされ「どうも、ありがとう」と応えて、キッドは全然意味がわからなかったと書いてあったが、今の猪木のビンタ芸のルーツ!?

ちなみにこれは前号の「紙プロ」幻の表紙です。最終的にはご存知のとおりコスプレアントンになりました。いくぞ、1・2・3・ダダ！

## 【今月の検証】健介なら何をやっても許されるのか？

by せき詩郎

量子力学に『シュレディンガーの猫』という実験がある。量子力学に関しては勉強のできる人（金八でいえば開栄高校レベルくらい）に任せるとして、それ以外についても少々、しかもうろ覚えであやふやに書くとしよう。

『シュレディンガーの猫』とは、いつ崩壊するかわからない放射性同位元素をスイッチとする青酸カリ発生装置を猫と一緒に箱の中に入れる。その箱を外側から見ているうちは、猫は生きている状態と死んでいる状態が半々の確率で重なり合っている。そして箱の蓋を開けた瞬間に、猫は生きているか死んでいるかのどちらかの状態になってしまうというものだ。

箱を開けて初めて猫が生きている、もしくは死んでいるとわかるのであって、開けるまでは、少々SF的になってしまうが、箱の中の猫は生きていると同時に死んでいるという、実にややこしくて奇妙な状態なわけである。つまり、どちらかわからない、どちらかは選べない、違うタイプの人を好きになってしまうような揺れる乙女心、だけど、どちらとも少し距離を置いて上手くやっていける自信があったのに、そんな竹内まりや（もしくは河合奈保子）の『ケンカをやめて』状態というわけだ（ちょっと違う）。

もっと簡単な例で考えてみよう。青酸カリ発生装置をドン・フライに置きかえる。猫とドン・フライを一緒の箱の中に入れてみる。その箱を開けるまで、猫が生きているのか死んでいるのかはわからず、箱を開けたその瞬間に、猫は生きている、死んでいる、もしくはドン・フライが猫を抱いて笑顔を浮かべている、ドン・フライが「ヨチヨチ、どうちたの〜」と赤ちゃん言葉で猫に話しかけている、ドン・フライが「お腹減ったニャ〜？」と猫語で話しかけている、抱き上げた猫にキスされドン・フライが照れている、ドン・フライと猫が遊び疲れてスヤスヤと仲良く寝ている、猫の口の中に自ら進んで手を入れ「俺とお前は仲間だ」とムツゴロウ的スキンシップをとっている、猫にはまったく無関心で漫画（しかもはだしのゲン）を読んでいる、あるいは猫ではなくドン・フライが死んでいる状態だと確定されるのだ。

しかし、この実験を台無しにしてしまう（しかも無意識に）男がいる。その名は佐々木健介。ケンスキーというまるで東欧系の人の名前みたいなニックネームをもつ男である。

大きい実験装置を想像してもらいたい。箱の中にリングと格闘家を一人。その中に健介を入れてみる。シュレディンガーの健介。猫の場合、箱を開けた瞬間、猫の生死が決定されると言うことだった。健介の場合も同様に、箱の開封と同時に健介の勝敗が決定される……、と言いたいところだが、そこは健介、そうはいかない。開けたら健介はほぼ負けているだろう。開けなくても健介が負けてる確率が高すぎるのだ。箱を見ただけで、健介が中でラリアットしている姿が目に浮かぶ。健介が勝っている状態と負けている状態が云々、などそこにはない。下手すると実験を行う前から健介の負けが予想できてしまう。負けることが健介の宿命なのか、立場なのか、ただ単に実力なのか、それはわからない。まだ記憶に新しい対藤田戦。私の怒りが頂点に達した対垣原戦（当時）。ここぞという試合であればあるほど、負ける確率が飛躍的に跳ね上がる不思議な男、健介。量子力学など彼には通用しない。もはや新たな分野、量子パワー学、である。

私は健介が好きでも無いし、嫌いでもない。厳密に言えば、嫌いを超越している。

手書きのメニューがありそうな創作系（もしくは無国籍風）居酒屋の店員が頭に巻いている布みたいな帽子（？）、何を表現しているのかわからない柄でかつサイズの合っていないガウン、グローブをつけた腕でのラリアット、パワーというギミック、小柄で筋肉質、二代目長州力、一貫しすぎているそのスタイル……。ここまでくるとおもしろい。『元気がでるテレビ』のしつこい高田で笑ってしまう心理と同じ。なんでもあり。もう、まったく、健介なら何をやっても許されるっていうの！

と言うわけで、今回の検証は「佐々木健介なら何をやっても許されるのか!?」。で、いろいろ検証しようと思ったのだが、ここで大変なニュースが飛びこんできた！　小原対ヘンゾが決定したらしいのだ！　小原がいよいよ出陣。椎名氏とともに観戦した今は無き「U-JAPAN」の会場に視察にきていた、どうみてもカタギに見えない後藤＆小原を見かけたその日から、勉強も手につかないほど思い描いていた"小原の総合進出"が今、現実となるのだ！　私の願望が現実になったことなどほとんど無い。越中はIWGPヘビーのベルトを獲ることはなかったし、奥山佳恵とも結婚できなかった。宝くじは当たらないし、タイムマシンも発明されない。3つ願いを叶えてくれる妖精は現れないし、お菓子は空から降ってくることはない。ひねるとジュースが出てくる蛇口もない……（以下略）。もしかしたら私の願いは一生叶わないのではと弱気になっていた（当たり前）ところに、このニュース。しかも小原が闘う日は、私の誕生日ではないか。ありがとう小原！

久々に騒ぐ維震ファンの血（不純物だらけ）。維震軍と昔の楽しかった思い出しか考えない大脳、維震の代わりに闘うことなど不可能な不健康でひ弱な肉体、維震を応援するという行為が無造作に刻み込まれた遺伝子。私は全身で小原を応援する！　そして私は泣く。はじめてのおつかいで流した以来の涙を流すことだろう。

もうこうしてはいられない！　あと維震と全然関係無いが、幸作（金八の息子）がガンだと言うじゃないか！　ねえねえ、幸作死んじゃうの!?　もう検証どころではありません。

健介なら何をやっても許されるのか？　その答えは、法の範囲内だったら許されるんじゃないの、あとは個人差。以上！　とオーバーフェンス的まとめをして、それでは早速親の形見を質に入れお金を作りチケット購入してきます。

# プロレス学校とは何か!?

校長 山本小鉄

かつてプロレスラーを夢見る
若者たちが集う
"闘いの学び舎"があった

神聖なる闘いの学舎として、昭和のプロレスファンに数々の幻想を与えてきた、新日本プロレス上野毛道場。そのプロレスファンの聖地を一般開放し、鬼軍曹・山本小鉄自らが責任指導を行うという、早すぎたP'sラボとも言うべき夢の学校。それが「新日本プロレス学校」である。そこへは多くのプロレスラーの夢見る若者たちが入学し、明日のメインイベンターを目指して鍛錬に励んだが、88年4月からわずか2年間で終了してしまった。その2年間でプロレス学校では誰がどんなことを行い、なぜなくなってしまったのか。ここで初めて解き明かすとしよう。

もう一つの新日本上野毛道場伝説
我が青春の
新日本プロレス
プロレス学校
同窓会
ト・ザ・スケ

金原弘光
（プロレス学校第2期生）
×
ザ・グレート
（プロレス学校第1期生）

**サスケ**　よぉ～、久しぶり！（といってガッチリ握手）。

**金原**　サスケさんと会うのは6年ぶりぐらいですよね。

**サスケ**　高田さんと武藤さんがやった新日のドームでバッタリ会ってるんだよね。でも、ちゃんとしゃべったのはプロレス学校以来だよな。

――今日はですね。その幻の「プロレス学校」OBであるお二人に集まっていただき、謎に包まれたプロレス学校の全貌を解き明かそうという壮大な計画なんですよ（笑）。

**サスケ**　いいねぇ～、10年のときを超えて、いま明かされるプロレス学校の真実！　今日は告発するよぉ～～!!

――ガハハハ！　なんかプロレス学校っていうのは、想像していたのとはずいぶん違うところだったみたいですね（笑）。

**金原**　だってさぁ、パンフレットには山本小鉄さんを始めとして、現役の選手たちがコーチしてくれるみたいに書いてあって、それを見たプロレスラーになりたい若者が全国から集まってきてたんだよ。でもいざ入ってみたら、別に何を教えてくれるわけじゃなくてさ、「新日本プロレスの道場が巡業中は空いてるから、君たち好きに使いなさい」っていう感じなんだよ（笑）。

――アハハハ！　プロレス学校、毎日が自習ですか（笑）。

**金原**　ホント、そんな感じだよ。

**サスケ**　でも学校がスタートして1年目は、ね、（山本）小鉄さんも結構来てたんだよ。週3回ぐらい。

**金原**　そんなに来てたんですか!?　俺が入ったのは2年目ですけど、その頃は小鉄さん月に1回来るか来ないかでしたからね。

――2年目は一気にトーンダウン（笑）。

**サスケ**　2年目って、いまの中島半蔵がインストラクター的な立場だったんだよね。当時はすごいデブだった。

**金原**　あ、そうそう。120キロぐらいあって、あの人もルチャ的な動きが好きだったから、ブラソ・デ・プラタみたいだったんだよ（笑）。

**サスケ**　ガハハハ！　それでそんなプラタみたいな奴が、小鉄さんが来れない日は「責任持ってやってくれよ」って感じだったんだよな。

**金原**　だから俺が小鉄さんに教えてもらったことっていったら、月に一回くらいだったけど、受け身を一番多くやって、あと試合の最初にガチッと組むじゃん、あのロックアップの組み方と、あとはロープワークとかだよね。

――あ、ロープワークも教わってるんですか？

**金原**　うん、だから俺もチョコッとできるんだよ。あとは関節もチョコッとやって。でもそういうのは、月に1回あるかないかで、あとは自習だから（笑）。それでサスケさんなんかは、リングが空いてるもんだから、最初っからサマーソルトドロップとかやってたんですよ（笑）。

――いきなり空中殺法！（笑）。

**サスケ**　そう！　俺は空中殺法の練習しかしなかったから！（キッパリ）。

**金原**　別に、誰が練習教えるわけじゃないから、リングが空いてるわけじゃん。それでプロレスファンが集まってるわけだからさ、なにするかって言ったら、やっぱりプロレスごっこするわけよ。

# プロレス学校は先生がいなくて「毎日が自習」でしたよね（笑）（金原）

――数々の逸話と伝説がある、新日本上野毛道場のリングでやるプロレスごっこって凄いですね（笑）。

**金原**　その中でサスケさんの空中殺法は群を抜いてたんだよね。タイガーマスクがやってたプランチャ行こうとして行かないとか、ああいうことが、もう全部できたから。あれを見て、「あ、俺はちょっと違うかな」って思って路線変更したからね（笑）。

――金原さんがU系指向になったのは、プロレス道場でのサスケさんの姿を見てだったわけですか（笑）。

**サスケ**　いや～、金ちゃんはてっきり最初っからU系目指してたのかと思ったよ。

**金原**　いや、違うんですよ。もともとはタイガーマスクとかそっちを目指してたんですけど、サスケさんには敵わないと思って諦めたんですよ（笑）。それで当時、サスケさんの噂で、新日本の入門テストのときに「スパーリングしろ」って言われて、いきなりロープに走ったっていうのがあってさ（笑）。

**サスケ**　うん、それはなきにしもあらずだね（笑）。

**一同**　ガハハハハ！

**金原**　僕、それ聞いてビックリしたんですよ。あの頃はみんな、1日も早く選手になりたくて、でも入門テストは年に1回しかないから凄く貴重だったのに、そこでいきなりロープワークやってたって言うからね（笑）。

**サスケ**　だって俺はそれしか練習してないから。練習の成果を見せるにはそれしかないんだよ！（笑）。

**金原**　あと、サスケさんて外人女性が好きでしたよね（笑）。

――アハハハハ！　当時からすでに！（笑）。

**サスケ**　そう、当時からな。

**金原**　いっつも「外人はいいよ～、外人はいいよ～」って言ってたから（笑）。それで外国人の方と結婚したんですよね？

**サスケ**　そうだよ。

**金原**　俺、それ見て「あ、この人本物だったんだ」と思ってね（笑）。

――当時から空中殺法はやるし、外人女性は好きだし、サスケさんは全然変わってないんですね（笑）。

**サスケ**　プロレス学校時代から、すでに「ザ・グレート・サスケ像」は出来上がっていたんだよな、ガハハハハ！

**金原**　だから当時からプロレス学校内でも、プロレスの練習する側と関節技の練習する側に別れていたような感じがあって、いま思うとデビュー前からある程度進路が決まっていたようなところはあったよね。

――いま選手や団体がジム制度で道場を開放しているところが結構ありますけど、プロレス学校はその先駆けですよね。それで入会金が2万円で、月謝が1万5千円だったみたいですけど、これは金額的にはどうでした？

**金原**　いい値段だと思うよ。でもね、払ったのは最初の3回ぐらいだから（笑）。

――えー！　たった3回ですか!?（笑）。

**サスケ**　そうそう、みんな滞納してたよね（笑）。

――それ以降は払ってないんですか？

**金原**　俺、最初はちゃんと払ってたんだけどさ、ある日「みんな、月謝払ってる？」って聞いたら、誰一人として払ってないんだよ（笑）。それでバカらしくなっちゃってさ、なんで俺は無理して払ってるんだろう

## あなたの健康増進に！ シェイプアップに!!

### 新日本プロレスが16年のノウハウを駆使してお手伝いいたします。

「プロレス学校」は、次の5つを重点的にご指導、アドバイスします。

①体力増強　現在の体力をより強くしたい方 キープしたい方 下降気味の方 それぞれの年齢、体力、運動能力に合わせて無理なく指導いたします。

②シェイプアップ　合理的なトレーニングによって、美しい体形をつくり上げ、美容と健康増進の一石二鳥を狙います。

③特訓コース　運動選手、格闘技を目標とする方たちにはそれぞれの種目に合わせて基礎トレーニングから高度の特訓まで懇切丁寧に指導します。

④健康相談　健康面、体力面で不安や悩みをお持ちの方に適切なアドバイスをいたします。

⑤人生相談　本人はもとよりご家族、知人のことで人に言えない悩み、苦しみを抱えている方、絶対秘密厳守の上、人生経験豊かな担当者が解決へのお手伝いをします。

■入会資格　13歳以上の男・女、入会随時

■入会金　20,000円

■会費　月額15,000円（但し3カ月前納の場合は40,000円）

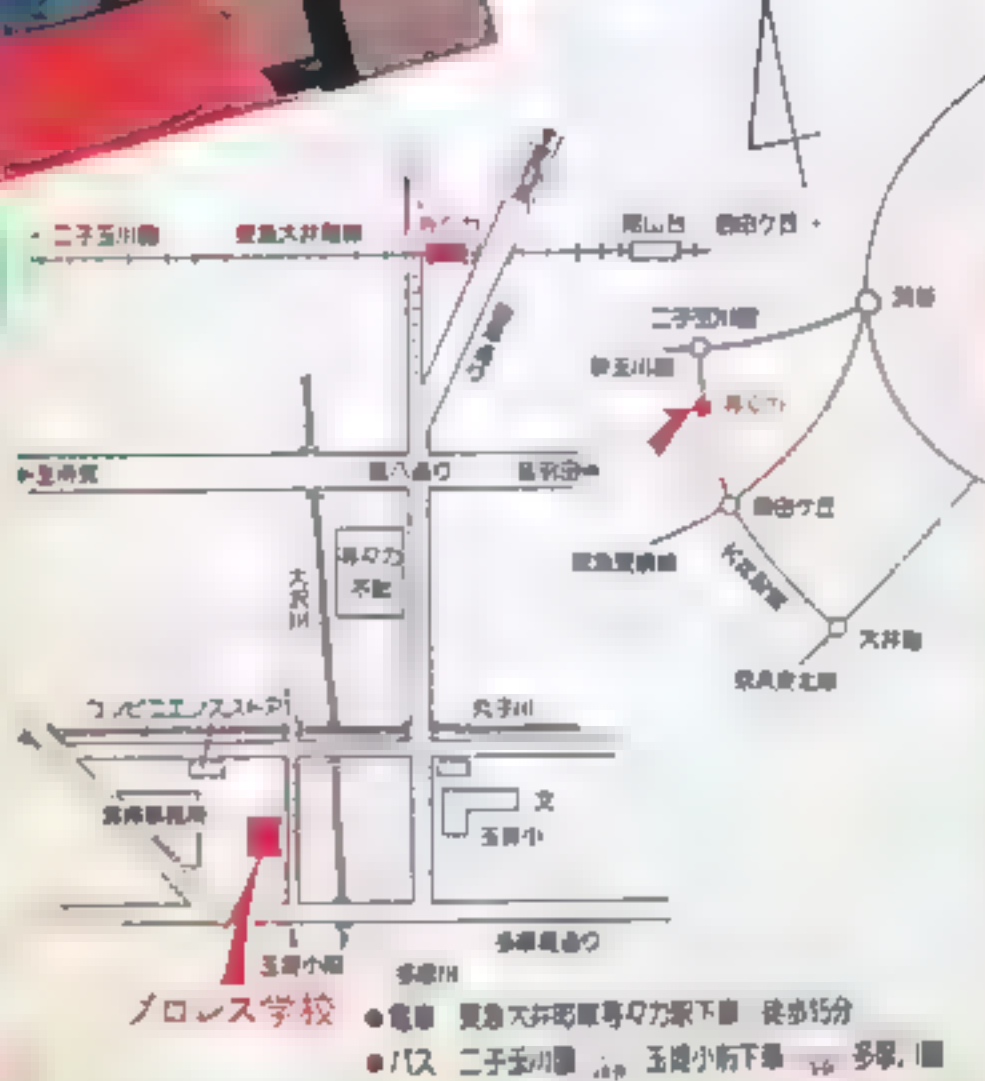
■受講日　月～金曜　15時より20時まで（好きな曜日・時間を選んでください。週何回でも可）

■コース　初級、中級、上級、プロ養成コース

■特典　キャラクター商品等の割引きあり

■申込方法　別紙に必要事項を記入の上、新日本プロレス「プロレス学校」係までお送り下さい。

■問合せ先　〒106 東京都港区六本木6－4－10　新日本プロレスリング株式会社「プロレス学校」係TEL(405)3111(代)

僕達と一緒にがんばろう!!

プロレス学校

# これがプロレス学校だ!!

これが多くのプロレスラーを夢見る若者か騙され……もとい、夢を抱いた「プロレス学校」のパンフレットだ！　これを見ると、プロレスラー養成のみならず、シェイプアップ、健康相談、さらには人生相談にまで応じてくれてしまう（おそらく小鉄が）という、現在、数多くある格闘技ジムの追随を許さないラインナップにまず仰天。そして「僕たちと一緒にがんばろう!!」のキャッチフレーズも虚しく、一緒に頑張る機会は決してなさそうな、豪華なメンバーにまた仰天だ。そして何より気になるのが、新日道場にはあまりにも不似合いな外人女性の姿。おそらくサスケが「プロレス学校」入学を決意したのは、この外人女性写真が多分に影響していることだろう。

## 我が青春の 新日本プロレス プロレス学校

と思って払わなくなったの。

――そんな人ばっかりだったから、プロレス学校はなくなっちゃったんですね（笑）。

**金原**　だって出席取るわけでもないし、小鉄さんが来てるわけでもないし、インストラクターもたまにしか来ないからさ。誰がやってるのか、辞めてるのかもわからないんだよ（笑）。

**サスケ**　それでみんなして滞納してたら、ある日営業の人が慌てて来てさ、それから小鉄さんやインストラクターは来ないのに、営業の人が毎日道場に来るようになったんだよな。どんなプロレス学校だよ！（笑）。

――おおらかというか、ずさんというか凄いシステムですね（笑）。

**金原**　でも、あの頃プロレス学校にいた人はみんな貧乏生活だったからさ、1万5千円は大金だったよ。俺なんかもバイトしながら四畳半でトイレ共同のアパートに住んで、シャワーは道場で浴びるって生活しててさ、そんな中この人だけ車で道場に来てるんだもん（笑）。

――ガハハハハ！　ひとりだけ颯爽と（笑）。

**サスケ**　そういうときもあったね。

**金原**　みんなプロレスラーを夢見て上京してきてさ、トイレがついてたら「お前、凄いな」って言われるような生活だったんだよ。そういうとこに車で来てたからね、どうなってるんだろうと思ってね（笑）。

**サスケ**　あれはね、友だちが俺ん家に車を置いていくんだよ。だから、しょうがねぇなと思って、嫌々乗ってたんだよね。

――嫌々、車で来るというのも嫌みですよね（笑）。

**金原**　あ、そうだ！「マクドナルドの掃除のバイトやってて、時給がいいんだよ」って言ってましたよね。

**サスケ**　そう、あの給料はよかったんだよ！

**金原**　当時は風呂付きに住んでたんですか？

**サスケ**　そうそう風呂付き。

**金原**　そりゃいいですねぇ！

**サスケ**　いいでしょ？　っていま自慢してどうすんだよ（笑）。

**金原**　でも風呂がないっていうのはね、夏場は特に大変なんだよ。ホンット、キツくてさ、タオルを絞って汗拭いて、寝るときも暑くてしょうがないから、シーブリーズを体に塗りたくって、塗れたタオルを体に巻いて寝てたもんね。それも人から「これがいいぞ」って聞いてやってたの。

**サスケ**　それがプロレス学校で教わった知恵なんだよな（笑）。

——プロレス学校で何を学んでるんですか（笑）。新日本道場の風呂に入ったりはできたんですか？

**サスケ**　その風呂でまた伝説があったんだよ！　道場の2階更衣室にシャワールームがあって、1階は選手が使う風呂があってね。その風呂に金ちゃんが入って怒られたんだよな（笑）。

**金原**　そうそう。小鉄さんがみんなに「入れ、入れ」って言うし、他の生徒も入ってたからさ、俺も入ってたら、いきなりライガーさんが入ってきちゃって、「ここは選手の風呂だ！　なんで入ってんだ！」とか言われてさ。怒らなくてもいいのにね（笑）。それ以来、陰でさ「金原のせいで風呂に入れなくなった」とか言われて、たまったもんじゃないよね（笑）。

**サスケ**　あとさ、金ちゃんはプロの選手とスパーリングやって、結構怒らせたよな。あれも伝説だよな。

**金原**　あ、そうだ－－さん！　俺さ、我流でコツコツ練習してたらグラウンドそこそこ覚えちゃって、その時は取られなかったんだよ（笑）。

**サスケ**　それで〇〇さんと金ちゃんがスパーリングやったら、いつまでたっても極められないから、－さんが頭にきて、「ダメだこりゃ」ってバックドロップで投げちゃってね（笑）。

**金原**　あ～そうだ。思い出してきた（笑）。

**サスケ**　あのとき、みんなであの光景見ててさ、「わざと極められりゃいいのに」「先輩立てなきゃダメだよ」って言ってたんだよ（笑）。

**金原**　いまとなってはそうですよね。恥かかせちゃったなぁ。

——若手選手は結構来てたんですか？

**金原**　何人かは来てましたね。

**サスケ**　1年目は片山さんがずっといて、2年目は鈴木みのるさんがずっといて。チョコチョコ来てたのが、メキシコ遠征から帰国したばっかりの佐野さんとかね。あと強烈だったのが笹崎（伸司）さん！　あの人面白かったねぇ。

**金原**　新日の悪口ばっかり言ってたよね。俺たちにずっとボヤいてんだよ（笑）。

**サスケ**　凄かったよね（笑）。

**金原**　俺らプロレス学校作ってさ、プロレスに夢持って来てるわけじゃん。それなのに笹崎さんは夢を壊すようなことばかり言うんだよ（笑）。

——とんでもない先輩ですね（笑）。サスケさんがプロレス学校卒業生の中では一番デビューが早かったんですか？

**サスケ**　いや、一番早かったのは三澤（威＝引退。現・トレーナー）と大利と、あと魚屋さんていうのがいたじゃん。

**金原**　あ、覚えてる！　デビューできなくて辞めちゃったんですよね。

——なんで「魚屋さん」なんですか？

**金原**　ただ単にアルバイトが魚屋だから（笑）。

**サスケ**　それが第一回のプロレス学校のテストで受かった3人。

**金原**　魚屋さんが、あんまり巡業とか付いて行けなくってさ、プロレス学校のとこに来てブーたれるんだよ、いつも（笑）。いまなにやってんだろうなぁ？　三澤さんは怪我して辞めたし、一期生は呪われてたよね。

**サスケ**　あと新山（勝利）も[illegible]ていたよな。

**金原**　あ、ガスパー君とか呼ばれ[illegible]ね。

——ガスパー君！（笑）。なんでガスパー君なんですか？



# 金ちゃんはスパーリングでプロの選手を怒らせた。あれは伝説だよ

**サスケ**　海賊男ガスパーのファンだったの（笑）。あいつはFMWに入ったんだよね。

**金原**　あと新日に入ったの、誰でしたっけ？　大山と……オサムちゃんか。

オサムちゃんというと、西村修選手ですか？

**金原**　そうそう。あとさ、大ちゃん（池田大輔）もいて、大ちゃんは2回目の入門テストに受かったのよ。そしたら急に偉そうになっちゃって、「俺はもうお前らと口きかない」とか言ってね。でも6日後に俺が家で寝てたら、夜中にノックの音が聞こえて、誰かと思ったら大ちゃんがいてさ、「腰痛めて辞めてきた」だって（笑）。これ書いていいから（笑）。

**サスケ**　2回目のテストはだいぶ受かったよね。中島も受かったし、池田大ちゃん、修ちゃん、そして大山も受かった。そこで問題なのが小原だよな！

**金原**　そうそう！（笑）。

**サスケ**　（身を乗り出して）あれは非常に問題なんだよ！　ここが今回最大のテーマだよ！

——一体、小原さんの何が問題なんですか？

**金原**　第2回のテストは8人ぐらい受かって、受かった人は一応みんな身長180センチ以上なんだよ。俺らは体力テストは通るんだけど、結局身長で落とされてたのよ。でも急に浜口ジムから3人ぐらい受けに来たら、なぜかみんなちっちゃいのに受かっちゃってるわけ。そりゃあ、俺らは怒るわけじゃん！

**サスケ** 冗～談じゃないよ！ 小原なんかさ、背筋付きすぎてブリッジできなかったんだもんな！

――ガハハハハ！

**サスケ** あれは伝説だよ！ みんな「ブリッジできなくていいんか！」って怒ったもんな。

**金原** 小原選手とかは生き残ってるからいいんだけどさ、生き残ってない選手がいっぱいいるわけじゃない。それが受かって入ってたからさ、悔しかったよね。

**サスケ** だいたいさ、そのときの試験官が、浜さんなんだよ！（笑）。

――ガハハハ！ そんなあからさまな（笑）。

**サスケ** もう完全に長州さん、浜さんラインー！ このラインは崩せなかった[illegible]

――裏口入学みたいなもんですね[illegible]

**金原** そうそう！ それで諦め[illegible]校を辞めたヤツ多かったね。

**サスケ** 俺はそのあとユニバーサ[illegible]デビューしたんだけど、2年目のテス[illegible]わって、みんな半分諦めかけてた[illegible]うどSWSが誕生して、集団で受け[illegible]んだよな（笑）。

――ガハハハ！ 今度はSWS集団受験（笑）。

**金原** そうそう！ 結局そこでも[illegible]と受かんなくてダメだったんだ[illegible]な、とにかくどっか入りたかった[illegible]時は、まだそんなに団体もいっぱい[illegible]誰もがなれる時代じゃなかったからね[illegible]はさ、ホントにちっちゃくても入れるでしょ。俺らがプロレスラーになりたかった頃はさ、100人に1人とか、そんなような時代で、ホントに狭き門だったからね。

――もしかしたら、プロレスラー志望者も一番多かった時期じゃないですか？

**金原** そうかもね。俺らの世代って、全員がタイガーマスクとかに憧れたピークだったからね。

**サスケ** 大変だったよね。

**金原** 大変でしたよ。だからあの頃の俺は、とにかくどこかの団体に入って、アルバイトを卒業して、風呂のある生活がしたかったんだよね（笑）。

――ガハハハ！ それじゃあ金原さんにとって、風呂有りで、しかも先にデビューしたサスケさんなんかは垂涎の的だったわけですか？

**金原** そうだよ。俺が雑誌とか見てたらMASAみちのくで出てるわけじゃん。「おぉ～、出てるよ！」とか思ってさ。だって当時一番出世してたレスラーなんだもん、天山よりも全然有名だったもんね。

**サスケ** でも俺もね、Uインターのテスト合格者の写真を雑誌で見たとき嬉しかったよ。

**金原** 僕のUインターの頃の試合って見たことあります？

**サスケ** いやぁ、ちょうどメキシコ遠征に行ってたりしてたから見てないんだよね。

**金原** 俺もテレビでしか見ないから、ユニバーサルとかみちのくのサスケさんの試合は見たことないんだけど、気付いたらIWGPジュニアのタイトルマッチをライガーさんとやってるじゃないですか。「うわぁ、凄ぇな」と思ってね。

――何本もベルト持ってましたからね（笑）。

**サスケ** 俺がライガーさんとやったときに、バッタリ東京ドームで会ったんだよね。ちょうどそのとき、Uインターと新日の対抗戦だったけど、俺も陰ながら応援したよ！ 試合終わってからのコメントがバツグンによくてさ、あれはプロレス学校出身者は見た方がいいよ！（笑）。あのコメントはよかったねぇ。

――あの新日をボロクソに言うやつですね（笑）。金原さんは、対抗戦でも打撃をバシバシ入れてましたもんね。

**金原** あの頃は逆に新日が嫌いになっちゃってたよね。だからあれは八つ当たりだね。プロレス学校時代に新日に入れなかった（笑）。

**サスケ** あれは何十年に一回、あるかないかだよね。あんな熱い対抗戦は（笑）。

**金原** でも自分としては、普段UWFでやってるような試合のつもりでしかやってないんですけどね。

**サスケ** タイに修行に行ったのは、あのあとだっけ？

**金原** 同時期ぐらいですね。タイでムエタイの試合とかやって。

**サスケ** あの頃から、どんどん変わってったよね。

**金原** でもよく知ってますね。

**サスケ** 知ってるよ、ずっと追ってたから！

――ずっと追ってましたか（笑）。

**サスケ** 「元気でやってんなぁ」と思ってね。

**金原** ファンレター書いてくれればよかったのに（笑）。

**サスケ** （ずっこけて）ファンレターってね、俺は当時の仲間がさ、いまどうなってるのかって気になるだけで、ファンじゃないんだから（笑）。

**金原** 僕なんかも、サスケさんとか天山とか、雑誌とかでよく見て「頑張ってるなぁ、自分も頑張らなきゃいけないな」って思ってましたけどね。

**サスケ** そういやさ、ユニバーサルで俺もそこそこやっててさ、ある日気になったんだよね。「中島を見ないなぁ、どこ行ったんだろう？」って。

**金原** ああ、中島さんもプロレス学校のインストラクターをやってたってことで、小鉄さんの推薦で新日本に一応入門できたんだけど、辞めちゃったんですよね。

# サスケさんはプロレス学校時代から外人女性が好きでしたよね（笑）

我が青

Hiromitu

**サスケ** で、俺はメキシコ遠征にずっと行ってたんだけど、ある日怪我して、極秘帰国したんだよ。そのときにユニバーサルの道場行ったんだよね。そしたらさ、なんか見慣れた人がプッシュアップやってるわけだよ。「あれぇ？」と思ってどんどん近づいたら……中島なんだよね。「お前、なにやってんだ？」って（笑）。「先週、入門テスト受かりまして」って言ってさ、も～うメキシコ行ってる間に立場が逆転してんだよ！（笑）。

——プロレス学校時代の先生が後輩になった、と（笑）。

**サスケ** そうだよー　プロレス学校時代はさ、空中殺法の練習やってたら、中島に怒られてたんだから、俺。

**金原** そういえばプロレス学校の末期にサスケさんが来て、「立場が逆転して、嬉しくてしょうがねぇよ」って言ってたの思い出した（笑）。みちのくプロレスになるのはそのあとですか？

**サスケ** そう。あの頃はユニバーサルで、浜田さんと浅井さんがトップ。その下にウチらがいて。

**金原** みちのくって、それが分裂してできたんですか？

**サスケ** 分裂って言えば……分裂だね。

**金原** やっぱりギャラが出なかったんですか？

**サスケ** まぁ、そうだね。

**金原** みんな、それは一緒なんですね。

**サスケ** だからそこで心配なのは、こないだのリングスの大量退団騒動だよ！　その前に俺はUインターが潰れるときも心配してたんだから！　だってさ、当時ウチにいた星川（尚浩）をね、Uインターさんに2回ぐらい貸したんだけど、ギャラが振り込まれなくてさ（笑）、大変なんだろうなって思いながら、気長に待とうかなって思ったら倒産記者会見やってたんだよ（笑）。

——ガハハハ！　気長に待ちすぎた、と（笑）。

**金原** じゃあギャラは振り込まれてないんですか？

**サスケ** 結局取りっぱぐれ。その倒産記者会見の『週プロ』に載ったヤツをちゃんとコピーして、税理士に見せなきゃダメなんだよ。「倒産しましたから、不良債権として取れませんでした」って（笑）。あのときは心配したよ。あの頃ね、安生さんと鈴木健さんとね、なんか飲み友だちになっちゃってさ、なんか安生さんが夜の六本木で飲み屋のビラ配ってたんだよね。「この人なにやってんだろう？」と思いながらね、そんなことしてる間に潰れちゃったよね（笑）。キングダムって、そのあとすぐできたんだっけ？

**金原** すぐできたんですけど、1年持たなかったですね。

**サスケ** あ、そうだっけ？　俺、キングダムの印象あんまりないんだよね。でもリングスに入団したときはよく覚えてるよ。前田さんとかと記者会見やったんだよね。覚えてる、覚えてる。印象的だったのはさ、入団会見のときに、前田さんが凄く嬉しそうに喋ってたよね。ニコニコしてさ、「貴重な新戦力です」みたいなさ。

——「立ち技に関しては、いま日本でトップです」って。

**金原** あ、言ってたねぇ。

**サスケ** だから前田さんはいまでも嬉しいんじゃない、残っててくれて。でも、かつては高田さんが師匠で、いまは前田さんが師匠っていうのはどう？　変化はあった？

# プロレス界に入る重要な条件はコネと身長！　それが今日の結論

**金原** あんまり変わったようには思わないですけどね。リングスに来て、最初に前田さんに会ったときも、昔から知ってたような感じだったし。だって俺、リングス入団して1ヶ月後ぐらいにすぐロシアで試合したんですけど、そのとき前田さんに「お前、ロシアは何回目や？」って聞かれたんですよ（笑）。

——ガハハハハ！　入団1ヶ月なのに何回目もなにもないですよね（笑）。

**金原** 前田さんね、その時点で俺が何年も前からいると思ってんだよ（笑）。

——「UWF系は全部俺の後輩や」みたいな感じなんでしょうね。

**サスケ** でもリングス入団したときはホッとしたもんね、就職先決まってよかったなって思いながら。陰ながらずっと見てるから！　ファンレターは出さないけどね（笑）。

**金原** そうやって見てもらえると、有難いですね。

——やっぱりプロレス道場で苦楽を共にした絆は強いって感じですね（笑）。金原さんはウチでやった高山（善廣）さんとの退団で、「Uインター同窓会マッチやりたい」って言ってましたけど、「新日本プロレス学校同窓会マッチ」も実現したらそうとう面白いんじゃないですか？（笑）。

**金原** いや～、でもUインター同窓会マッチよりさらに実現の可能性低いんじゃない？　みんなバラバラだもんね。天山もすっかり有名になっちゃったしね。悔しいなぁ、天山より有名になりたかったなぁ（笑）。

——ガハハハ！　西村さんも最近タッグチャンピオンになりましたしね。

**サスケ** でもあれは別に……（笑）。

**金原** 俺もオサムちゃんの試合、テレビでたまに見るんですけど、あんまり好きじゃないですねぇ。

——「無我」の世界はお気に召しませんか？（笑）。

**金原** 俺はああいうの好きじゃないんだよね。昔からリック・フレアーみたいな試合っ

て大っ嫌いなの。
——ガハハハ！　それはわかりやすいですね（笑）。
**金原**　ファンで見てた頃からリック・フレアーって大っ嫌いだったからね。でも、猪木さんと北朝鮮でやったでしょ？　あの試合見てから、ちょっと好きになったんだけどね。オサムちゃんて、どっちかっていうとリック・フレアータイプの試合でしょ？
　そうですね。
**金原**　俺が求めてるのはああいう試合じゃないからね。もっと新日らしい過激なプロレスね。ダイナマイト・キッドみたいなさ、ああいうのが好きだから。
　まぁ、天山選手、西村選手もそうですけど、やっぱり団体のエースっていうと金原さんとサスケさんですからね。プロレス学校でも出世頭じゃないですか？
**サスケ**　そうだよな！
**金原**　いや、まだこれからですよぉ～！　まだいい目見たことないんだから！（笑）。
——ガハハハ！　さっきの同窓会マッチじゃないですけど、金原さんとサスケさんの試合も一度見てみたいですけどね。あのUインターと新日の対抗戦がもっと続いてたら、金原さんもサスケさんと一緒に新日ジュニアでやってたかもしれませんしね（笑）。
**金原**　ああ、言われてみればそうかもねぇ（笑）。新日本とUインターの対抗戦の頃って、まだ天山があまり有名じゃなかったんだけど、俺は「天山とやりたい」ってコメント出してたんだよね。そしたら天山が「俺の名前、もっと出して」って言ってたよ（笑）。
**サスケ**　あ、天山とは仲よかったんだ。
**金原**　そうですね。最近はちょっと喋ってないですけど。
**サスケ**　他にいまでも仲いい人いる？
**金原**　この前、8年振りぐらいに大ちゃんに会って、昔話しましたよ。あの人さ、自分は熊本のド田舎出身なのに、俺を田舎者扱いするんだよね（笑）。俺は名古屋の側なのにさ。

# プロレス学校時代貧乏だったから サスケさんが憧れの的だった

それで昔、青山でみんなで待ち合わせしたことがあって、そしたら池田さんさ「青山は、スーツで行かなきゃいけねぇんだ」とか言い出してさ（笑）。そんなの持ってねぇじゃん。で、俺らは普段着で行ったらさ、自分だけスーツで来てんの（笑）。そんなことがあったよね。
　池田選手らしいですね（笑）。
**サスケ**　いま大ちゃんはノアにいるんだよね？
**金原**　そうですね。
**サスケ**　そういや同じノアの浅子（覚）もプロレス学校で一緒だったんだよ。あいつも身体は小さかったんだけど、飄々と全日本に行っちゃったよね。あれも確かプロモーターの紹介かなんかで入ったんだよ。
　アハハハ！　結局そういうのが重要なんですね。
**サスケ**　当時「俺、もう決まってるから」とか言ってたもんね。だから今回の対談の結論は、当時のプロレス界に入るときに重要なのはコネと身長！　そういうことだな！（笑）。
——どんな結論ですか！（笑）。
**金原**　どう、こんな感じで原稿まとまる？
　いやぁ、今日もバッチリですね。Uインターに続いてこれもシリーズ化したいですよ（笑）。
**金原**　あ、サスケさん、最後に一回マスク被らせてもらっていいですか？
**サスケ**　おお、いいよいいよいいよ。

金原　弘光
昭和45年10月5日、愛知県尾張旭市出身。
178cm、90kg。
言わずと知れた「リングスのエース」。
89年にプロレス学校2期生として入学。
91年にUWFインターへ入団。
91年12月12日、[illegible]
[illegible]でデビュー。
その後、キングダム、リングスを渡り歩く。

（サスケマスクを被る金ちゃん）
**金原**　どう？　似合う？
　うわ～、メチャクチャ似合いますよ！
**金原**　あ、そう？　これで入場しようかなぁ（笑）。
——絶対いいですよ！　ゼヒ、それやりましょう！　ドスJrの例もありますから、金原さんマスクマンになった方がいいですよ（笑）。素顔よりマスク！
**金原**　……なにそれ、素顔よりマスクってどういうこと！
　いいや、深い意味はございません！（笑）。
**【01年10月6日　品川・一鮨貝にて収録】**

我が青春の
新日本プロレス
プロレス学校
×

## 「みちのくふたり旅2001 ～タッグリーグ戦～」

| 日 | 県 | 会場 |
|---|---|---|
| 25日（木） | 宮城 | 築館町総合運動公園体育館（18：30） |
| 26日（金） | 青森 | 青森県民体育館サブアリーナ（18：30） |
| 27日（土） | 宮城 | 気仙沼市総合体育館サブアリーナ（18：30） |
| 28日（日） | 山形 | 中山町総合体育館（15：00） |
| 30日（火） | 岩手 | 花巻市民体育館（18：30） |
| 31日（水） | 山形 | 米沢市営体育館（19：00） |
| 11月 | | |
| 1日（木） | 福島 | ビッグパレットふくしま（郡山市）（18：30） |
| 2日（金） | 秋田 | 鹿角市アメニティパーク倶楽部ハウス（18：30） |
| 3日（祝） | 青森 | はちのへハイツ（八戸市）（15：00） |
| 4日（日） | 宮城 | Zepp Sendai（仙台市）（15：00） |

## 「プロとして、いかに興味のない人を惹きつけられるかが勝負だと思う！」そんな元気の新プロジェクト発射間近!!

日本の総合を揺るがすあの男が帰ってきた。もちろんド派手なパフォーマンス付きで！　一年振りに後楽園に現れた須藤元気は、技術的にも精神的にもより進化していた　もちろん観客を楽しませる真剣勝負への姿勢は変わらない。これからの総合台風の目間違いなしの若干23歳、スハリ言って「ポスト桜庭」はこの男だ！

先日のリングスでは、前と変わらぬ派手な入場と派手な試合での勝利、おめでとうございます！

**須藤**　最初は大車輪キックで決めるつもりでしたからね　今回もっと打撃試したかったんですけど、さすがに怖かったんで（笑）

前回の試合では村浜（武洋）さんを打撃で押してましたからね　やっぱり久々の日本での試合ということで緊張しました？

**須藤**　思ったよりリラックスして出来ましたね　もっと緊張するかなと思ったんですけど、アメリカの大会に出て度胸ついたのもあるんじゃないですか。8月にウエストサイト・サブミッション・トーナメントっていう一日7試合もするトーナメントに出たんですよ

ああ、全試合一本勝ちで優勝したって大会ですよね。

**須藤**　そうです。その大会は完全にアウェーだったんで、その辺で慣れたというか。もうルールとかホントいい加減で何言ってるかわかんないんですよ（笑）。最初に言われたことと、やってる内容が違ったりするのは当たり前、まともに聞くだけアホらしくて（笑）。だから逆に外人選手が日本に来て試合するって大変だなって思いますよ　気持ちわかりますもん

日本に帰ってきてから練習はどんな感じでやってるんですか。

**須藤**　今は正道会館でチームドラゴンの人達に打撃を習ってるんですよ　やっぱり課題だったんで。今まで試合で殴り合ったことなかったし、これから寝技トップレベルの人とやっていく時、必ず打撃が必要になってくると思う！

ビバリーヒルズでの修行時代ってのは打撃の練習はやってないんですか？　ルッテンいるのに

**須藤**　やって[illegible]ルッテンも結構いい加減で（笑）　[illegible]と前田憲作さんがコーチについてくれて教えてくれるんですけど、向こうの人は　とりあえず[illegible]って身振り手振りで[illegible]みたいなノリなんで（笑）

前田（憲作）さんとか、以前練習してたグ[illegible]

**須藤**　う～ん、パンクラスの皆さんとはちょっと今は……。

――なんか言いにくい理由があるみたいですね（笑）。

**須藤**　いろいろありまして（苦笑）。

ミン[illegible]時、元気よく飛び出し本部席の前田社長[illegible]の大車輪キックをヒットさせた元気。スタン[illegible]相手だけに、攻めながらも相手の打撃を防ぐという[illegible]通った攻撃!!

[illegible]てもスポーツ会館で[illegible]かは普通に練習してますよ、[illegible]（将洋）さんとか[illegible]野（聡寛）さんとか

じゃあ寝技は今はどこで練習してるんですか？

**須藤**　あちこち行ってますよ　スポーツ会館にRJW、和術慧舟會にも今会、あと高阪（剛）さんに[illegible]かけられたんで新しい道場の方にも行くつもりです。それと同じ場所にあるケビン（山崎）さんの所で以前トレーニングも始めました

――話題のトータル・ワークアウトですね！

**須藤**　いや～イイですよ、ケビンさん[illegible]トレーニング[illegible]ですけど、ケビンさんは、いつも同じ格好してるとか、コーチなんだけど自分自身のキャラ作りもしっかりしてるし（笑）。自分もずっと気になってて「ケビンさん、いつも同じ格好ですけど何着持ってるんです

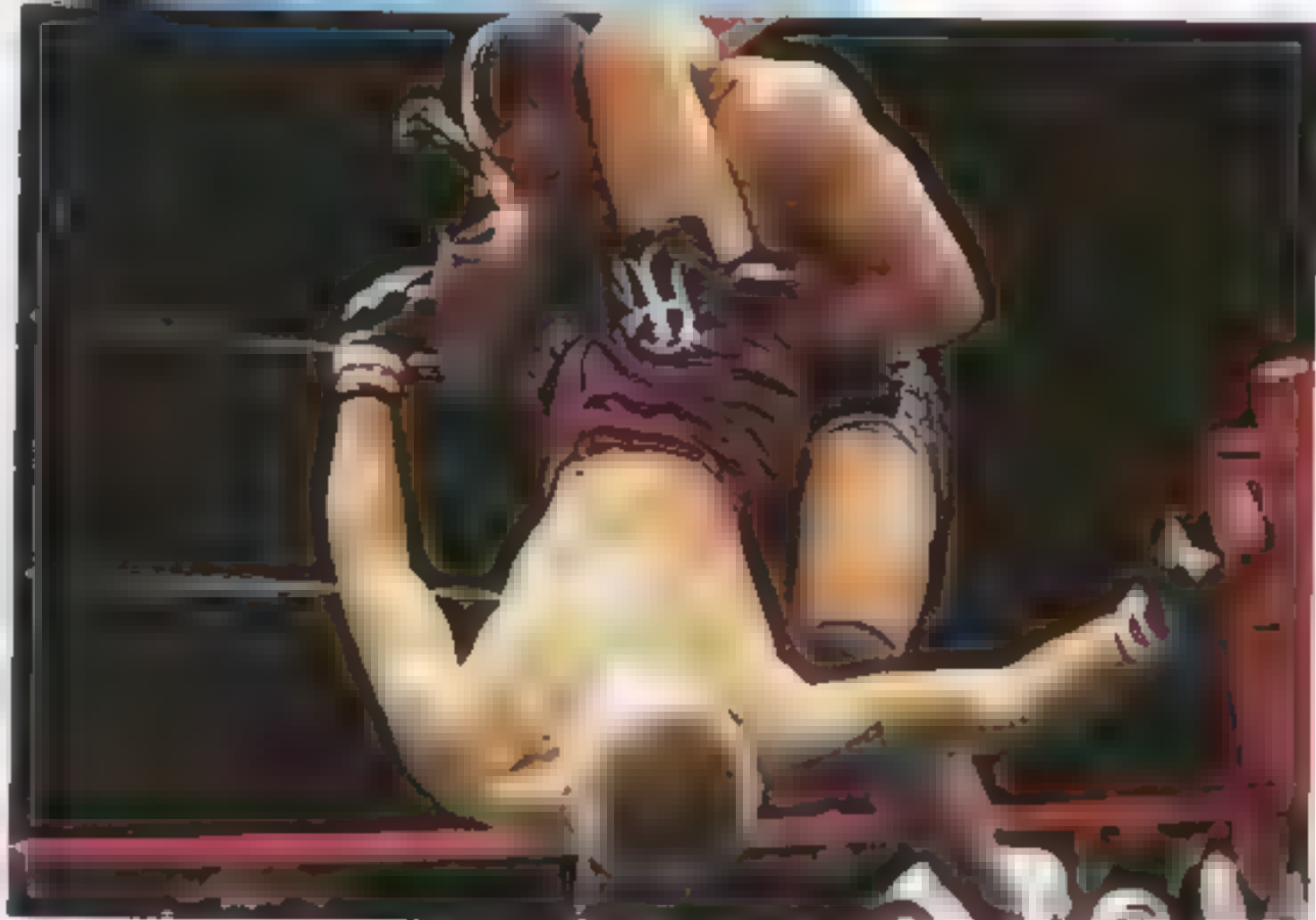
# 元気
【ビバリーヒルズ柔術クラブ】

聞き手／大坪ケムタ
構成／松澤チョロ
撮影／松本崇
designed by matsu (Two three)

# 元気があれば何でもできる！

第7回初登場！

## 元祖・逆輸入ファイター
# 須藤

## リングスでは矢野さんに試合内容では負けられないって意識してましたね

顔面ペイントで試合をしようとした元気だったが「アキラ兄さんにNGを食らってダメだった」という。しかし試合ではキッチリ魅せてくれた元気。得意の三角を力任せに持ち上げられたものの、さらに絞め上げ見事一本勝ち!

か?」って聞いたら、あの黒のスーツ6着持ってるらしいですよ(笑)。

—同じスーツを6着!(笑)。

**須藤** しかも、もの凄い綺麗好きで、2、3回着たらすぐクリーニングに出すらしいですよ(笑)。

——そうなんですか(笑)。で、今は打撃メインの練習ということですが、もともと総合のスタートは烏合会なんですよね。

**須藤** 最初に総合習ったのが矢野(卓見)さんなんですよ。それで今のグラバカを紹介してもらって、正道会館でも出稽古させてもらうようになって、そこから渡米することになったんです。当時は矢野さんもそんな有名じゃなかったですけど「骨法出た凄く強い人がいるよ」って紹介してもらって、練習したら本気で強かったんで驚きました(笑)。

——見た目だけでは、とても強そうには見えませんからねぇ(笑)。

**須藤** そういう意味では、この前のリングスは師弟共演というか(笑)、試合内容では負けられないって意識してましたね。

——その時の須藤選手の格闘技経験はアマレスぐらいですか?

**須藤** 部活引退して大学入る前にサンボを3ヶ月間やってたんですけど、でも今の総合の道を造ったのは烏合会ですね。あちこち紹介されて出稽古やることで強くなったと思うし、今はプロになって名前もそこそこ売れたからいいですけど、名前も無い時の出稽古は結構プレッシャーになるんですよ。どこの道場でも「なんだ?」って感じですからねぇ。

——そういうのが嫌で出稽古に行かない人も多いでしょうからね。

**須藤** 行けない人も多いと思いますよ。自分は結構強引に行っちゃったんですけどね。アメリカでの出稽古も大変でしたよ。向こうは結構ヤバイですから(笑)。

——ヤバイんでしょうね(笑)。

**須藤** 最初に道場紹介してもらって友達と二人で行ったらギャングみたいなのばっかりで(笑)。一人倒すと「ハイ、次!」ってホント道場破りみたいな扱いなんですよ。

——それは大変だ(笑)。

**須藤** でもアメリカ人はこっちが強いと寄ってくるんですよ。その点単純ですから(笑)。さっき話したサブミッションの大会の時も、日本人は自分・人だから「なんだアイツ」みたいな雰囲気だったんですけど、最初の試合、飛び付き三角(絞め)で勝ったらドッと集まってきたんですよ。結局3試合連続飛び付き三角で勝ったら、サインくれのなんだのって(笑)。

——ちなみにこれまでいろんな選手と会ったりスパーリングしたりしてきたと思うんですけど、一番こいつはスゲェな、強いなって感じたのは誰ですか?

**須藤** う〜ん……(しばらく考える)動き的には(佐藤)ルミナさんは最初っから「この人違うな〜」って思いましたね。スピード感とか、動き的には自分の目指すスタイルに近いですね。あと地力が強いのは五味(隆典)ですかね。あとやっぱり矢野さんも強くなさそうなのに強いっていう(笑)。

——アハハハハ。

**須藤** まあ、「強さ」って意味ではもちろん菊田さんや高瀬(大樹)なんかも寝技強いですけど、"インパクト"だとその3人ですね。

——最近はノブ・ハヤシ選手や村田一着選手みたいに、総合の世界では「逆輸入ファイター」も増えてきましたけど、やはり下積みからやってくのは遠回りだと?

**須藤** それもありましたけど、タトゥー入れたりドレッドとかは練習生じゃ無理なんで(笑)。やっぱり長髪でデビューとかの方がインパクトあるし。普通、練習生からだと中途半端に伸びた髪だったりするんで、それなら最初からプロとして色を出して行った方がいいんじゃないかって。そんなこととして負けたらみっともないってプレッシャーにもなるんで。

——結構、無理矢理自分にプレッシャー与えるタイプなんですね。

**須藤** 前はかなり無理してましたね。自分を追いつめてかないと上に上がれないやって。で、空回りしつつ今に至るわけです(苦笑)。

——いえいえ(笑)。それで、ビバリーヒルズ柔術クラブではルッテンのスパーリングパートナーをやってたみたいですけど、最近は接点はあるんですか?

**須藤** あんまりないですね。それにボクはルッテンのクラスには出てなくて、習ったっていうよりスパーリング相手だけやってたんですよ。ルッテンって寝技あんまり出来ないじゃないですか(笑)。

—打撃系の選手ですからね。

**須藤** クラスで関節技教えてるんですけど、「そりゃかからないよ〜」って言いたくなるような掛け方なんですよ。腕十字とかも破壊王ばりで(笑)。

——「ヨイショ!」って感じの(笑)。でもマルコ・ファスも先生だったんですよね。寝技だったらそっちの方がいい勉強になりそうなんですけど。

**須藤** あの人は凄かったですねぇ。ホント天然なんですよ。高田(延彦)選手が練習に来た時も本気で蹴り入れてましたからね(笑)。力加減知らないんで練習生が靭帯切っちゃったこともありましたよ。練習で「ヒザ十字はこうやんだよ」って掛けたら「バキバキバキ」って(笑)。あと(オレッグ・)タクタロフもよくわかんなくて、打撃出来ないのに打撃教えたり、ルッテンは寝技出来ないのに寝技教えたりとか、みんな出来ない物ばっかり教えたがって、なんかいい加減でしたね(笑)。

——凄い世界ですね(笑)。

**須藤** 結局、みんな自分が課題にしてることを教えるんですよ。それで自分で確認するという(笑)。

——そんな時代があってパンクラス参戦になるわけですよね(笑)。

**須藤** なんかパンクラス所属みたいなイメージ強かったですけどね。

お世話になってたのは事実なんですけど、でも給料はもらってなかったし、そういう意味ではボクはずっとフリーなんですよ。

——パンクラス以外にも結構試合は出てましたからね。

**須藤** パンクラス出て、コロシアム出て、コンテンダース出て、今度「プライドに出たい」って言ったらストップかかっちゃったんですよ。それで「ボクはフリーの立場なんですけど」って言ったら、「ちょっと待て」と。でも「ちょっと待て」ってことは「ずっと待て」ってことだし、もし動いたとしても出すなら自分の懐の所の選手を出すだろうしなって思って、武者修行っていう形でパンクラスはお暇させてもらったんです。

——そうだったんですか。

**須藤** この前はリングスに初参戦しましたけど、これからは、もっといろんな所に出たいですね。軽量級も恵まれてきましたし。自分が総合始めた頃はまだ無差別でしたからね。最初のネオブラッドトーナメントなんて、計量して当日74．9キロだったんですよ。2回戦の豊永（稔）選手が90キロくらいで、さすがにキツかったです（苦笑）。でもこの間、前田（日明）さんから「もっと太れ」って言われましたけど（笑）。

——やっぱり（笑）。でも、これまで無理な肉体改造とかは考えたことなかったんですか？

**須藤** アメリカに行った時、一度はステロイドも買いに行きましたよ（笑）。それもメキシコまではるばる。手にしながら2時間くらいジッと見つめて悩んで、でも持って帰る時にステロイド持ってると強制送還される可能性があるって、アメリカの友達に脅かされてやめました（笑）。

——強制送還は嫌ですよね（笑）。

**須藤** それから色々考えて、軽量級だしパフォーマンス入れたり色出す方に目が向いたというか。

——パフォーマンスで言えば、須藤選手は凄く観客を意識した試合をしますけど、例えばプロレスルールみたいなのはやりたいとは思わないんですか？

**須藤** そうですねぇ～……中途半端なのはやりたくないですね。やるんだったら思いっきりプロレスの方がいいです。

——それは一度見たいですね。

**須藤** 日本は格闘技とプロレスが混ざっちゃってるじゃないですか。アメリカは確実に分かれてますから。その辺、ファンの人

本人曰く「観客を意識しすぎた」というコロシアムでのペデネイラス戦。しかしパフォーマンスだけでなく、膠着気味の試合を自ら動かそうとし、終盤で脚を極めかけたのは評価すべき!?

**コロシアムの時は観客を意識しすぎて空回りしちゃいましたね（苦笑）**

# ホイスの寝技、ルッテンから打撃、あとサブゥーの空中殺法も盗みたい！

も純粋なプロレスと格闘技の違いは分かるんですけど、その中間のようなスタイルだと区別がつかない人が多いですからね 総合の大会でもガチじゃない試合もあるし（笑）、そういう試合見て やっぱ●●は強え！ でも■■は前に●●に勝ってるから、実質チャンピオンだよ！」とか凄い興奮してる客いますからね（笑）。

――たくさんいますね（笑）。

**須藤** そういうのを見ちゃうと、やってる側としてはちょっと切ないというのは正直ありますね

――アメリカでの修行時代はWWFとかは見てました？

**須藤** たまに見てましたよ ボクは格闘技の世界もあそこまでやってもイイと思うんですけどね マイクとか勉強になるし。格闘技でああいう物凄い[illegible]

自分は格闘技にプロレスの良い部分を持ってきたいなってのがあるんで、やはり格闘技も、もっとエンターテイメント性を出さないとアマチュアとあまり差が出ないだろうし、一般人受けしないんじゃないかなって思いますから。

――それはありますよね。

**須藤** だから入場とか演出的部分を派手にして試合を真剣勝負にしたらイイ所取りで面白いんじゃないかって入場パフォーマンスを始めたんですよ。プロとしては、いかに興味のない人をひきつけられるかが勝負だと思いますから。

――自分で大会をプロデュースしたいとかはないんですか？ 宇野選手のコンテンダーズみたいに

**須藤** そうですね そういうのも全部含めて新しいプロジェクトを考えてるんですよ（ニヤッ）。

――おお！ 須藤元気プロデュース計画ですか！

**須藤** 今年中に動き出せるかなってところで。結構ガッンとオイシイ感じで進んでるんで……まだ具体的には言えないんですけど

これまで期待を裏切らずに来てますから、それは楽しみです！

**須藤** いやぁ、でも個人でやって失敗したりとか空回りしたりとかもずいぶん多かったんで（苦笑）。コロシアムの試合（アンドレ・ペデネイラス戦）とか自分で見て恥ずかしいというか、やりすぎですね。アレは反省してます。でも、そのおかげで自粛というか、早いうちに気づいて良かったかなと思って。ペデネイラス戦は「もっと攻めればいいのに！」とか「何笑ってんだよ！」とか自分でビデオ見ながら突っ込んでましたから（笑）。

そういえば、以前は「格闘技も人生の過程のひとつ、アートだ」みたいな言い方をしてましたよね。

**須藤** 前はそういう感じだったんですけど、最近は本当に強くなりたいなと。強ければいくら演出しても光ると思うんで。

そういう考えになったきっかけは何かあったんですかね

**須藤** それはもうさっき言った[illegible]り、空回りな過程を踏んできたことで（苦笑）。あとパンクラスやめて車で事故ったのとかも自分が調子ノってた部分があったからだろうし 結局、いろいろやってもあぶはち取らずになっちゃうじゃないですか このまま行ったら格闘技で一流になれないなって思って 何事も途中に終わらせたくないなって意識も当然あるし、もっと集中してやらないとダメだなと。それで、やっと肉体改造とか打撃とか足りない部分に目を向けられるようになったんですよ

では、これまでで一番理想に近い試合というと？

**須藤** やっぱりジャイアントスイングから足関節で極めた（クレイグ・）オックスレー戦かな。自分の中では見せられる技で決めたっていう意味で理想型に近いですね。

「こういう選手になりたい」とか憧れる人って誰かいます？

**須藤** いないですねぇ。元々、誰かに憧れるんなら自分が憧れの存在になっちゃえってタイプなんで（笑）。まあ、あえて言えばイイとこ取りしたいですね

――イイとこ取りというと？

**須藤** ホイスから寝技盗んで、ルッテンの打撃盗んで、あとサブゥーの空中殺法も盗みたい（笑）。

何故そこでサブゥーが…（笑）

**須藤** 子供の頃は全然プロレスとか見なかったんですけど、高校でアマレス部入ったら周りにプロレス好きがゴロゴロいるわけですよ。そいつらにW★INGとか連れて行かれて「ナカマキーッ！」とか叫んでましたもん（笑）。

そうだったんですか（笑）

**須藤** 特にサブゥーは好きでしたね 自分から場外の机に突っ込む姿とか、あとレザーフェイスの入場とかもカッコいいなって（笑）

――そんな新プロジェクト、期待してます！（笑）。

【10月8日／東京 高田馬場 ステレオタイプ にて収録】

須藤元気【すどう・げんき】
1978年3月8日、東京都江東区出身。高校・大学時代はグレコローマンレスリングを学び全日本大会優勝など実績を築く。その後渡米しバス・ルッテンの所属するビバリーヒルズ柔術クラブで総合の技術を学ぶ。派手なパフォーマンスが話題を呼ぶが、宇野薫に判定勝ち、佐藤ルミナをKOで下したアンドレ・ペデネイラスと見せ場を作るも引き分けるなど実績も十分。趣味は読書で、村上春樹から司馬遼太郎や中国の古典まで嗜む文学少年でもある。ここ最近の休日は、もっぱら釣りに出かけてるとのこと。身長177cm、体重73kg。

# 時代の真空地帯だ！

ターザン山本

とにかく、なんでもいいからすべてをリセットしてくれ。いま、私が言いたいことは、この一点である。『コンサイス外来語辞典』（三省堂）で"リセット"を引いてみた。

1（美容）髪の乱れを整え直すこと。

2（ボウリング）ピンを並べ直すこと。

3（機械の）始動装置などをはずすこと。仕掛けなどをはずして、やり直すこと。

そんな意味はどうでもいいのだ。何もかもただちにリセットしろ。振り出しに戻せ。ゼロにするのだ。でも、振り出しって一体なんだったっけ？ あれ。振り出しってどこだっけ？ 知ってる？ 知ってたら教えて？

私はいま、リセットシンドローム状態の中にある。どこかに戻りたいんだよ。帰りたいんだよ。戻して？ 帰して？

お願いだから私の悩みをわかって？ え？ わからない？ わからないはずがないよ。だって君と私は同じ時代に生きているんだよ。同じ空気を吸っているんだよ。わからないはずがないもん。そうでしょう？

もう、いや、いや、いや、いまあるこの世界を全部拒否する。NGだ。ここに何があるというの？ そこに何があるというの？

何もないよね。あるはずなんか何もないよね。それが私の答えである。それが私のひとりごとである。2001年9月11日、ニューヨークのマンハッタンでテロ事件が起こった。

あれを見たとき、私は「20世紀はあの日から始まったな」と思った。あの瞬間、何かがリセットされた。私の中であるものが確実に崩れ去っていった。

敵が見えないんだよ。敵がわからないんだよ。アメリカはビンラディン一派を敵とみなした。そうすると楽になるんだよ。でも、実行犯は死んでいないんだよ。証拠をすべて消しているんだよ。すると、どうなるんだよ。誰が我々の敵なの？ 誰が私の敵なの？ もしかして私が、君が犯人にされるかわからないんだよ。アメリカは空爆なんかしている場合ではない。君たちは何をやっているんだ。

あんなことは無駄だよ。君たちは出直すべきなんだよ。振り出しに戻るべきなんだよ。わからないかなあ。こんな簡単なことが。子供だってわかることだよ。

9月21日、後楽園ホールに行って来た。「一揆塾」の塾生からリングスのチケットをプレゼントされたからだ。それも南側リングサイドの最前列の席。いやぁ、よくこんな席が手に入ったよな。

一番前の席で試合を見るのは、非常に気分がいい。これぞまさしく特等席だ。私は塾生によってVIP待遇されたのだ。

この日の興行のタイトルには「BATTLE GENESIS Vol. 8」となっていた。ここにはいないんだよ。山本憲尚が、そして成瀬昌由も坂田亘もいないんだよ。ああ、忘れていた。田村潔司もいないんだよ。

いない、いない、いない。かくして誰もいなくなったリングス。ああ、心地よいな、リングスって。

だって、だって、ここはどこよりも早く世界がリセットされているんだよ。前田日明はまたしても"ひとりぼっち"になった。

リングスを旗揚げしたとき"ひとりぼっち"だったのだから、それでいいんだよ。なぜ、前田日明はひとりぼっちが似合うの？

また、元に戻っただけなんだよね。人は集まってくるもの。人は去っていくもの。ギルバート・アイブルはPRIDEに行った。ヒカルド・アローナもアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラも、みんなみんなリングスを去っていった。

どんどん去っていってくれ。いいんだよ、遠慮することなんか、何もないよ。君たちの人生なんだから。君たちの自由なんだから。

それでもいた、いた、いた。レフェリーの和田良覚さんが。私の前を通ったのであいさつをしたら、この人はニッコリ笑ってくれた。

リングスにはリングアナウンサーの古田信幸さんがいた。和田さんがいれば、古田さん

9.21 BATTLE GENESIS Vol.8

# リングスは時

がいればそれで十分だよ。あと、赤いジャケットを着た前田日明がいれば言うことなし。

でも、悪いけど、この日出場した選手のこと、私はほとんど知らなかった。小谷直之選手vs所英男選手の試合。この二人、初めて見た。門馬秀貴選手vs伊藤博之選手。伊藤選手は「前田道場」に入門して1年半。この日がデビュー戦だったとか。残念ながら2対0の判定で負けちゃいました。

横井宏考選手vs小島正也選手。みんな知らないが故に新鮮なイメージを受けた。横井選手がアームロックで小島選手に勝った。

矢野卓見選手のことはよく知っている。骨法の道場にいたからだ。目が鋭かった。だが私は彼と一度も話しをしたことはない。打撃よりも粘っこい寝技を得意にしていた。

1R3分14秒、裸絞めで小林五朗選手を破った。そのとき、リングサイドにいたドクターがあわててリングにあがった。小林選手は落とされたのだろうか？　それより矢野選手は勝ったあと、リングサイドにいた私を指さしてなにやら挑発してきた。

私が君に何をしたというのだ。須藤元気はブライアン・ロアニューを、あっさり三角絞めで退けた。メインで滑川康仁選手もデクスター・ケイシーを腕十字で秒殺した。

不思議だよな。この日のことはなんと言ったらいいのだろうか？　プロレス？　違う。格闘技？　違う。そのどちらでもない。そんなもの一度きれいサッパリ捨ててしまおう。

リングスはそれを捨てたんだよ。だから私の〝リセット願望〟を満足させてくれる空間になっているんだよ。

何も引きずっていない。ここはある種、時代の真空地帯だ。もしかして空気がまっさらなのかも……。リングスの後楽園大会は、どこよりもファンがピュアである。前田日明という人は、本当に得な人だよな。

悪夢の8・11の10周年記念大会を経て、9・21には中軽重級中心の新機軸を打ち出したリングス。初登場の須藤元気、矢野卓見などの参加、そして滑川、横井、伊藤らリングス・ジャパン勢の活躍で、大いに盛り上がった大会だった。さらにリングスは評判のよかったKOKルールを見直し、10・20代々木大会から新ルールを採用することに踏み切った。その話はもちろん、聞きたいことは山ほどある！ キューバ帰りの前田総帥を独占キャッチした。

聞き手／山口日昇 撮影／吉場正和

designed by matsu（Two three）

# 本当のバーリ・トゥードっていうのは素手だよ、素手

田村は「UWF、UWF」って言うけど、UWFとは何かがわかってないんだよ

キューバ帰りのCEOを独占キャッチ!!

# 前田

――前田さん、キューバに行ってたそうですね。何しに行ってたんですか？

**前田**　雑誌の取材。キューバ全般の取材だね（10／29発売の『DIAS』＝光文社）。あとね、キューバは隠れた格闘技の王国なんだよ。昔ね、ミュンヘンオリンピックの頃かな？　ボクシングのヘビー級のアマチュアチャンピオンでステベンソンっていうのがいたんだよね。右ストレート一発で、みんな前のめりに倒れてさ。

――相手が前のめりに倒れる！　アターエフみたいですね。

**前田**　で、当時のボクシング関係者はアリとやらせようとしたんだけど、アリがビビッてやらなかったんだよ。

――あのアリがビビりましたか！

**前田**　今回キューバに行ったのはね、そういう隠れた名選手を発掘する人脈探しのためもあるんだよ。ロシアでもどこでもそうだけど、誰と繋がるかで、どこまで繋がるか決まるからね。特に共産主義の国は。だから人脈探しやね、人脈探し。

――手応えはあったんですか？

**前田**　みんな凄いやる気はあるよね。ハングリーさが違うからさ。キューバは野球が凄いでしょ？　町の中で子どもがどんな野球やってるかっていうと、グローブもボールも手作り。

――自分たちで縫うんですよね。

**前田**　ボールなんか、まん丸じゃないからね。だから平地でバウンドにしても、イレギュラーなバウンドだからさ、練習になるんだよ。

――対応力がつくんですね。

**前田**　そうそう。

――リングス道場で「イレギュラーを起こして、対応力をつけるために、サンドバッグを手縫いしろ！」とか言い出さないでくださいよ（笑）。

**前田**　中に石とか詰めたろか（笑）。

――ガハハハ。キューバっていう国自体は面白かったですか？

**前田**　面白い。

――前田さんはロシアとパイプ持ったり、キューバに行ったり、どちらかというと世界のなかで辺境の地に行きますよね、意識が。それはなぜなんですか？　何かしらの嗅覚が働くんですか？

**前田**　なんでかなぁ？　いろいろ探ってると、このいろんな話が聞こえてきて、面白そうやなぁと思って。俺は〝常在戦場〟じゃなくて、〝常在ブッカー〟だから！

――ガハハハ！　常在ブッカー!!（笑）。キューバで印象に残った事件はなかったですか？

**前田**　キューバの姉ちゃんはみんなケツがデカくていいなぁ、みたいな。

――どういう事件だ（笑）。肉づきがよかったんですか。

**前田**　うん。キューバだったら黒人でもいいなと思ったね。

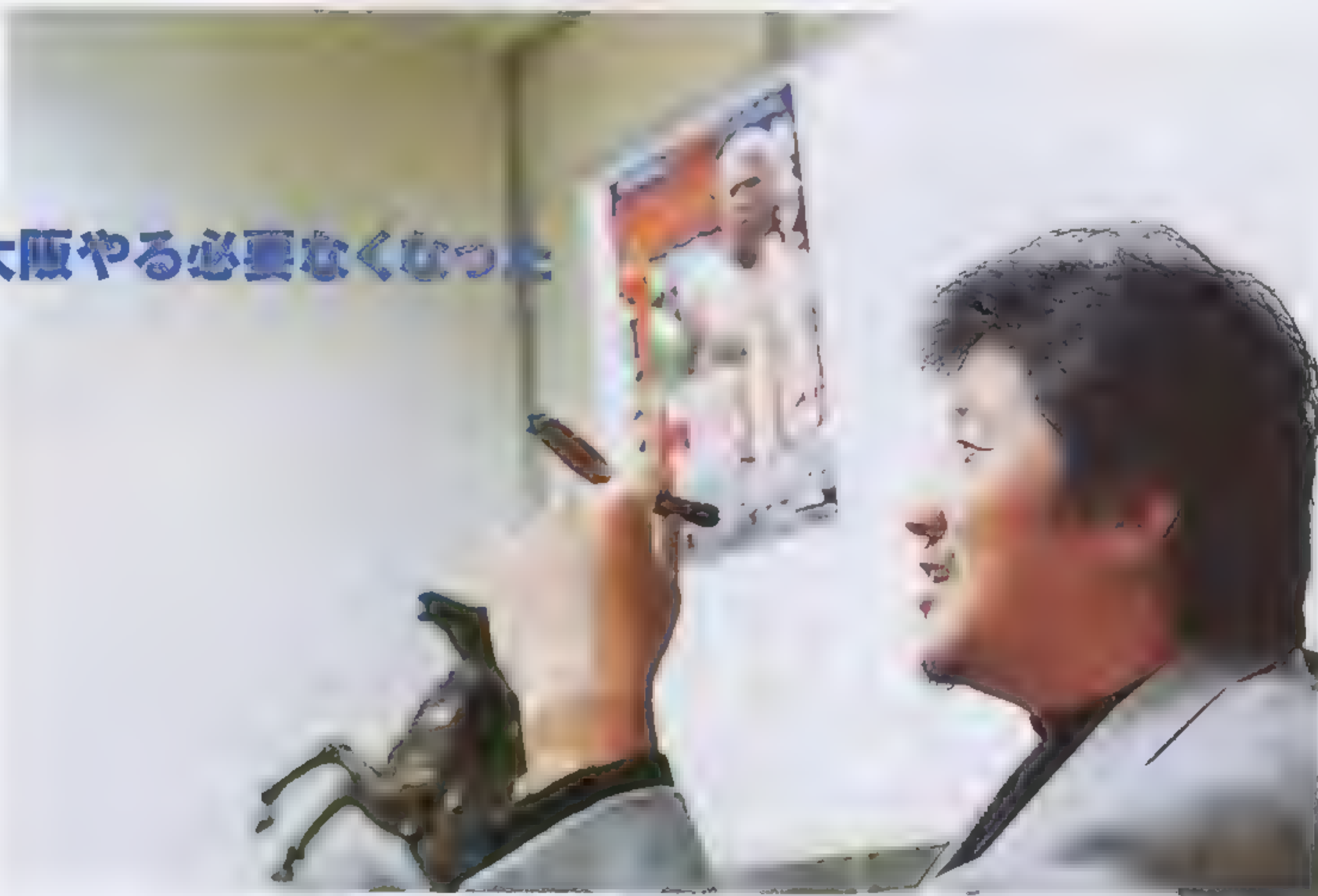
――ダハハハ。女子格闘技とかやらせたら、メチャメチャ強そうですね。

会だから。今年は大阪やる必要なくなっ

**前田**　なんかね、月収が何十ドルの世界なんだよね。

――アメリカドルで？

**前田**　そう。だからハングリーさが違うんだよね。

――ブラジル勢のハングリーさとも、また違うんですか？

**前田**　ブラジル勢もハングリーなんだけど、あいつら何かにつけ「金、金！」って言うやんけ。キューバの連中はね、力を試したいっていうチャンスそのものにハングリーなんだよね。

――チャンスそのものにハングリー！　いい言葉だ。姉ちゃんのケツ以外には、後世に語り継がれるような事件は起きなかったですか？

**前田**　別になんもないね、今回は（笑）。

――もしキューバの選手とか来たら、ドキドキしますね。ロシアの選手も、実際に来るまでは全然正体がわかりませんでしたからね。

**前田**　リングスロシアで言えば、ハンとかコピィロフなんて現役終わって5年とかで、コーチやってたからね。

――でも、ハンとかコピィロフの全盛期って、どれぐらい強かったんだろうと思いますよ！　この前、ノゲイラが『PRIDE』でマーク・コールマンに圧倒的な勝ち方をしたんですけど、そのノゲイラと、ハンは40歳にして互角に渡り合うわけですからね。世界には、まだ強い選手がゴロゴロいるんでしょうね。

**前田**　あのね、こないだの『PRIDE』なんてリングス大阪大会だよ。

――ガハハハハ。確かにそうだ。元リングス勢がたくさんいました（笑）。

**前田**　こないだの『PRIDE』がリングス大阪大会だから、今年は大阪大会やる必要がなくなった。リングスのええ宣伝になった。

――お、大人だなぁ、今日は（笑）。金ちゃん（金原）だって、こないだUFCミドル級のチャンピオンになったデイブ・メネーとやった後、肋骨折りながらもノゲイラとあれだけやったじゃないですか。

金ちゃんは「万全だったら負ける気しない」って言ってますからね。だからリングスの選手のレベルの高さを再認識する今日この頃です。

**前田**　いま頃気づくとは、鈍いんじゃない？

――いや、再認識したっていうことです（笑）。ところで、10・20の代々木大会からルールが変更になったということですけど、エスケープは1ダウンとみなすんですよね？

**前田**　そう。ダウンもエスケープも含めて、全部で3ポイントまではいい。3ポイント制やね。

――で、ダウンカウントあり、と。一本勝負を捨ててまでルールを変えた要因、あるいはきっかけはなんだったんですか？

**前田**　なんかね、試合自体が面白くないんだよ。「ミスしないように、ミスしないように」っていうのはわかるんだけど、選手がちっちゃくなっちゃうんだよね。地味になって、アマチュアの試合みたいになっちゃってさ。全日本柔道の方がまだ面白い。KOKをやってみて、あれ系のルールの中では面白いって言われたけども、もっとそれぞれのキャパシティーを広げようと思って。お互いの可能性を殺しあって試合するっていうのが多いんだけど、プロなんだから反対の方法があってもいいんじゃないかっていうね。「あのルールだと強さがわかるけど、このルールだと強さがわかんない」とかルールに注文つけるけど、実際使ってる選手は一緒やんけ、ハッキリ言って。

――総合系の選手は資源の使い回ししてますよね。

**前田**　使い回し状態なんだよ。

――ただ、エスケープを容認することによって、マニアからは時代に逆行してるっていう意見も出てますよね？

**前田**　エスケープありにしても、簡単にエスケープっていう状況にはなんないでしょ。ダウンっていっても、簡単にダウンっていう状況にはならないでしょ。それやったら、1試合で全生命を出し切るような試合させた方が面白いんじゃないの？　と、俺はそう思ってるけどね。

――ブラジル勢やアメリカ勢の、バーリ・トゥードが普及してる国の参加は、このルールで見込めるんですか？

**前田**　それはこれから進める。ハッキリ言っちゃうと、最後は金だから。

――あ、ルールの問題じゃない（笑）。

**前田**　なんだかんだ言ってもさ、お金払えば歩み寄るっていうことはあるんだよ。

――8・11の10周年記念大会は、ある種、〝腹を括る〟にはいい大会だったって言ってましたよね？　あの大会がルール変更の引き金になった部分はあるんですか？

**前田**　そうやね。

――でもファンは残酷ですよね。KOKルールのほうがいいっていう意見はけっこう聞くんだけど、なんでそのとき来てくれなかったんだって言いたくなりますよね（笑）。

**前田**　そうそう（笑）。ファンは無責任だからね。たとえばUWFの初期の頃なんかさ、アキレス腱固めやっても、「なんやそれ？　なんでブレーンバスターやんないんだ、なんでフライングニールキックやらないんだ」とか言ってたからね。

――フライングニールキック！　懐かしいなぁ（笑）。

**前田**　それと一緒で、いま知ったかぶって偉そうに言ってんだよ。ジム行ってちょっとやってさ、それぐらいの経験で、プロの選手にやいのやいの言ってさ、アホかって。

## こないだの『PRIDE』がリングス大阪大

――いま、個人のHPなんか見てると、みんな裸は見せたがるんですけど、顔は見せないんですよね。

**前田**　女の子のHPだって、自分のヌード出したりとか、股おっ広げてボカしとか入れたりしてるやんけ。それをCD―ROMとかにして売ってるんだよね。

――そういう直接的な裸を見せるという意味じゃなくても（笑）、HPも表現だから、自分の体を叩いて出てくるチリや埃を見せていかなきゃならないんだけど、最終的に〝顔〟は見せたがらないんですよね。これも身体的な顔って意味だけじゃないですけど。

**前田**　だから、顔を晒すのは、自分の本当の姿を晒さなきゃいけないんだよね。

――そうですよね。それが匿名で投稿したりすることで、本当の姿を自分で見なくても済むんですよ。

**前田**　匿名でしか勝負できないんだよ。

――だから前田さんは偉いなぁと思って。今回のルール変更なんて、当然批判に晒されますよ、正直な話。恰好の的じゃないですか。それを前田さんは、顔を晒して、自分の言葉として言うわけだから、それはプロの仕事だなって気がしますね。どう転がろうと。でも、そういう批判のなかで、こういうのがあったんですよ。リングスのミドル級のベルトは、ブラジル勢に取られたままですよね。ベルトを取られたままのルール変更でいいのかっていう意見です。

**前田**　ウチは取られようと思って取られたんじゃないからね。それはしょうがな

いよ。

——ブラジル勢は一本勝負じゃなきゃやらないというのが関係者の間では通説になってますよね？

**前田** それは幻想だよ、幻想！ それやったらKOKルールだって、グラウンドで顔面殴れないと誰もやらないとか言ってたけど、ヘンゾは出たやんけ。だから話の仕方だよ、話の仕方。

——たしかにKOKルールでヘンゾは闘ってますからね。

**前田** みんな偉そうにさ、「やるわけねぇじゃんか」とか言うけどさ、自分のチンケなモノサシでしか測ってないんだよ、物事を。

——ペドロ・オタービオは純プロレスルールでやってますからね（笑）。だから、不可能を可能にするエネルギーみたいなものを〝常在ブッカー〟の前田さんに見せてもらいたいなと思いますね。今回のルール変更っていうのは実験的なものなんですよね？

**前田** いや、もともとルールっていうのは実験的なもんだよ。いまね、業界全体で考えなきゃいけないことは、限られたマニアだけにチケット売ったってしゃあないんだよ。質を落とさずに、いかにその他大勢の人の心を動かしていくか。でしょ？

そうですね。だから、ネットの書き込みレベルでも、活字をジッと見てると、そう思いこまされちゃう部分ってありますよね。そういう魔力がやっぱり活字にはありますよ。

**前田** インターネットはね、特に、悪い意味でのジャパニズム！

——ジ、ジャパニズム？

**前田** どういうことかわかる？

——まったくわかりません（笑）。

**前田** 簡単にジャパニズムを説明するジョークがあるんだよ。海外で聞いて笑っちゃったんだけどさ、タイタニックが沈みそうだと。船長の判断で女、子ども、老人を先に逃がそうということになった。そのためには各国の紳士を説得しなきゃいけない。で、なんて説得しようかってなって、スペイン人には「セニョール、これが英雄の道です」と説得したら、「シー、わかりました！」とスペインの紳士は答えた。今度ドイツ人のとこに行って、「これが規律です」と説得したら「わかった」となった。で、フランス人のとこに行って「これが芸術としての人生です」って話したら、「ウィー」と納得してくれた。

——ディテールが細かいですね（笑）。

**前田** イギリス人には「これは女王陛下の名誉にかかわることです」と言ったら、「わかりました」となった。で、最後。日本人に、なんて説得するかと考えて、「みんな、そうしてますから」って言ったら納得した（笑）。

——ガハハハ！ そう聞くと、日本というのは頭痛い国ですねぇ（笑）。

**前田** だから、みんなね、自分の顔を持たないんだよ。自分の顔を出すの嫌がる。昨日、テレビで人の視線はどう動くかっていう番組をやってたんだよ。各国の男性が若い女の子のどこを見てるかってコンピューターで測るんだよね。スペイン人だとかイタリアーノだとかは、ジーッと女の子の目から視線を外さない。日本人はどうかっていうと、ずっと女の子の方を見てるんだけど、女の子の視線がパッと来たら、下を向くの。絶対に目を合わせようとしないんだよね。だから、いつまでたっても匿名でしかいられないの。

——もはや視線学ですね（笑）。面白いなぁ、それ。

**前田** だから日本人は、後ろから来て殴っちゃうんだよ。

——ガハハハ！ ツッコみにくいな（笑）。日本人は、恥ずかしがり屋にも程があるって感じですよね。

**前田** 恥ずかしがり屋じゃなくって、ただのアホやんけ、アホ。

——そういえば、金原選手、滑川選手はエスケープなしにしてほしいって言ってましたけど、そのへんのコンセンサスは取れてますか？

**前田** コンセンサスもクソもないもん。

——そんなカワイらしく（笑）。

**前田** でも、ある程度バリエーション持たして、選手によってはKOKルールにダウンカウントあるヤツをやらしてみたりとかっていうのもありえるけど、当面は3ポイント制でやってみる。

——つまり、ダウン2回にエスケープ1回でも負けっていうことですよね。

**前田** そう。そうやんないとね、外人も日本人も、ポイントばっかり気にするんだよ。やれテイクダウン取ります、バックク取ります、マウント取りますとかさ、アホかって。そこまでは行くんだけど、勝負に行かないんだよ。極めに行こうとしたり、相手を倒しに行こうとはしなくなるんだよね。優勢ポイント取ったら、あとは守る。なんや、それって話になっちゃうからね。だから、選手が縮こまらないようなルール設定だね。

——いまパーリ・トゥードでも、ポイント稼いで勝とうという選手は多いですよ。

**前田** あのね、格闘技でしょ？ それやったら全然格闘と違うやん。点取り合戦やないんやから。それじゃ、〝なんちゃって格闘技〟だよ。アマチュアはそれでよくても、プロなんだから、〝なんちゃって〟じゃダメ！

——KOKルールを設定したときには、グラウンドでの顔面パンチがあると世界に普及しないっていう前田さんの読みがありましたよね。

**前田** あとKOKルールは、短時間で決着つけなきゃいけないっていうのもあったんだけど、選手にとってキツくないんだよ。

——き、キツくない？ 試合そのものは、もの凄くキツい攻防だと思いますよ。

**前田** それはそうなんだけど、意識として、ポイント取られたら終わり、ポイント取ったらもういい。倒しに行く、倒されないようにする、極めに行く、極められないようにする。そういうのがあんまりないんだよね。どっちかっていうと作戦勝ちを狙う、みたいなさ。打撃のいい選手だったら、コチョコチョ殴ってさ、ポジション取って終わり。あとは逃げて万歳、みたいなね。そういうのはプロと言えないでしょ。だってプロボクシングにしてもなんにしても、そうさせないようにルール作りするっていうのが一番大事で、そういう歴史があるじゃない。

——前田さんの目算としては、このルールが世界に普及していくという読みはありますか？

**前田** しやすいと思うよ。アメリカだってなんだかんだ言って、80何%の州がバーリ・トゥードはできないからね。カリフォルニアでやるって5年前ぐらい前か

アマチュアはいいけど、プロなんだから〝なんちゃって格闘技〟じゃダメ

ら言ってるけど、全然やらないじゃん。

―ロスの外れの砂漠みたいなとこではやってますけどね。前回インタビューしたときに「『PRIDE』に対して去年はムキになりすぎていた」って言ってたんですけど、それはもう少し具体的に言うと、『PRIDE』と正反対のことをやってやろうとか、そういうことですか?

**前田**　いや、あいつらズレてるんだよ。人がやろうとしたことの、全部後出しジャンケンでさ。さも自分が考えたみたいにやるやんけ。だから頭に来たんだよ。

―そういうことか（笑）。たしかに後出しジャンケンのところはありますけど、ビジネスとして仕立てるのは、向こうの方が上手ですよね、やっぱり。

**前田**　資金力の問題だよ、資金力の。だから、金はあるけど、頭はないんだよ。カンニングのウマい秀才、みたいな感じやね。

―でもそこで前田さんが「最初に俺が考えたんやで!」って言っても、どんどんパクられて、どんどん忘れられていきますからね。世の中の人って、思ってるより利口じゃないですから（笑）。

**前田**　物事が見えないアホばっかりや。

―ダハハハ。だから、"常在ブッカー"としても、芯を残しながら、イレギュラーに対して、対応力を発揮してほしいですね（笑）。『PRIDE』に行ったアローナには、前田さんはこないだの後楽園ホール大会で「挨拶もなしで行くのはどうかと思う」っていう発言を……。

**前田**　（遮って）別に行きたいんやったら止めるつもりもないしね。ギャラも3倍、4倍とか払われてたら、それは選手だったら行きたいだろうと思うよ。でもな、ひと言ぐらい「悪いけど『PRIDE』行くよ。いままでありがとう」ぐらい言ってもいいんじゃないの?

―「柔術家として、前田光世からなにを習ってきたのか?」とも言ってましたよね（笑）。

**前田**　だってな、挨拶もできないようなら、武道でもなんでもないやんけ。

―ただ、アローナのブレーンのマリオ・スペーヒーなんかに言わせると、「契約というのは、契約が終了した時点でプロモーション側から条件を提示するのが普通。選手側から『次回の契約はしません。お世話になりました』というのはあり得ない」っていう考え方なんですよ。

**前田**　そんなことないよ。ここは日本やんけ。

―「ディス・イズ・ジャパニーズ・スタイル」だと。

**前田**　そう、ジャパニーズ・スタイル!　ビジネスで日本に来てるんでしょって。「ジュージュツ」って言葉は何語や?って話やんけ。

―でもビジネスとしては、そっちの考えの方が主流になっていっちゃうんじゃないですか、これからは?

**前田**　って言うんだけど、実際やってるとね、ロシアであろうと、どこであろうと、俺がズッとやってこれたところは、そういうことはちゃんとやってるから続けられるんだよ。

―なるほど。前田さんらしいなぁ。来年は総合系にも新しい動きがありそうだし、総合も乱立してくる感じもありますよね。

**前田**　でも、実際さ、そんなにお客さん入ってないでしょ。総合系って、みんなが言うほどブームには思えないんだよね。

―『PRIDE』ブームですよね。でも、9・21の後楽園大会なんかは、その『PRIDE』とは違う可能性っていう意味でも、ボクはメチャメチャ面白かったんですよ。前田さん的にはどうでした?

**前田**　よかったよ。

―須藤元気なんかどうなんですか?

**前田**　度胸はあるよね（笑）。

―華もあるし（笑）。元気選手の入場パフォーマンスは、見てどうでした?

**前田**　（嬉しそうに）も～う、なんでもやってくれって感じ。

―ガハハハ!

**前田**　でもいまの子って簡単に墨入れちゃうんだね、身体に。あれはちょっと抵抗あるね。一時の熱でしょ、ああいうのは?　俺、自分の子どもだったら半殺しにするよ。

―あちゃ～。タトゥーはダメ!　前田さんの子どもにだけはなりたくないなぁ（笑）。元気選手が「ペイントして出ようとしたら、日明兄さんにダメって言われた」って言ってましたよ。

**前田**　え?　俺はそんなこと言ってないよ。聞いてもいないし。

―冗談だったのか（笑）。矢野卓見選手はどうでした?

**前田**　あれ、面白いね!　あいつ、みんなは軽く見てるんだけど、あいつのいいところはね、どんどんいろんな大会に出てるでしょ。そのたびに、いろんなとこと肌合わせやってると思うんだよね。確実なものをいっぱい持ってるから面白い

**元気君は度胸があるね。矢野君は"確実なもの"を持ってるから面白いよ**

よね。それと、田村のとこの弟子って、みんな小タムラみたいやな（笑）。

――小タムラ（笑）。確かにファイトスタイルは似てますよね。

**前田**　なんでもかんでも田村みたいになっちゃうんだよね。しょうがないけどさ。そういうふうに考えると、各ジムで教える人間の特徴が出るよね。そう考えると大山総裁みたいに、一人の師匠から世の中のいろんなところで、いろんな個性を持った弟子が育ってるのはやっぱり凄いよなぁ。

――大山倍達の器が広いってことでしょうね。弟子の可能性を閉じない。

**前田**　そうやね。

――大山倍達からは、とんでもない人がたくさん出てきましたからね。だから期待したいのは前田道場ですよ。そういえば、後楽園大会で伊藤選手がデビューしましたけど、「まったくダメ」と言ってましたよね（笑）。

**前田**　20何年この世界と関わってて、あんなにデビュー戦でアガってなんにもできなかったヤツ、初めて見たわ！　小学校の学芸会でアガってなにもできない子どもみたいに泣きそうだったから。聞いたら2週間ぐらい前からガチガチになって、夜も寝れなくなったみたいやね。セコンドがいて、レフェリーがいて、ドクターがいて、なにが怖いねん？　相手が熊とかライオンだったら、そりゃビビるけどさ、相手は人間でしょ？

――負けたら恥ずかしいっていうのが先に立っちゃうんでしょうかね？

**前田**　どうしても負けるの嫌だと思ったら、反則やってでも勝てばええやんけ！

――ガハハハ！　反則！　本部席に座ってる人が言うことか（笑）。

**前田**　ホントに負けるのが恥ずかしいんだったらの話だけどね（笑）。でも、あれリトアニアの試合出すよ（11月10日）。

――それはいい経験になりますよね。

**前田**　日本でやるよりも、もっと緊張するじゃん。逆療法だよ（笑）。

　8月にデビューした横井選手は度胸ありそうですね。

**前田**　あいつはバカ！　あいつ、いっつも試合前に鼻歌うたいながらスキップしてるんだよね。「なにやってんだ、お前」って言うと、「いや、アップです」とか言ってさ。

――ガハハハ！　それ、ホントに新しいアップの方法なんじゃないですか？

**前田**　それでさ、鼻歌うたってんだよ。アホかって。

――もうちょっと緊張しろ、と（笑）。

**前田**　そうそう（笑）。

――いいなぁ、いろんな個性が育ってますよね。個性といえば、滑川選手も今度無差別級のトーナメントに出ますけど、「前田さんに『腕試しのつもりで出てみないか？』と言われたけど、そんなつもりはまったくない。出るからには優勝します」と言ってましたね。それをマイクで言ってるとき、本部席の前田さんを見たら、笑いながら頷いてましたよね。

**前田**　そうやった？　滑川はね、凄い馬力が出てきたよ。滑川は新しいことをどんどん吸収する時期で、基本的な部分では身についたから、あとはそれを活かすために、どういう技術が必要かっていう段階やね。滑川は自分の技術が全部繋がってないんだよ。

――それぞれ威力はあるんだけども、繋ぎができない。ブツ切れ状態？

**前田**　そう。ミットなんて蹴ったら凄いんだよ。重いし、速いし。タックルにしても、タックルだけだったらできるんやけど、タックルを活かした技術をハメ込んでやっていくことができない。だから、滑川の技術を全部繋げたら、あいつは凄く強くなるよ。

　それを繋げるには、やっぱり出稽古ですか？

**前田**　出稽古の前の段階だな、まだ。

――前田さんは、いま道場行ってるんですか？

**前田**　ちょっと行ってないね。

――「前田さんが来ると、選手が壊れる」って言われてるみたいじゃないですか（笑）。

**前田**　へっへっへ。壊れはしないでしょ。わかんないけどね（笑）。

――後楽園大会みたいな中軽量級をメインにした大会の可能性はどう見てますか。

**前田**　それはね、確立するためにね、いろいろと来年から動こうかと思ってるんだよ。大会にしても、別にリングスで育った人間が出なくてもいいんじゃないのか？　と思ってね。

――同感ですね。そうすると、いま『DEEP』や他が中軽量級メインでやってますけど、これは前田さんから見るとライバルってことになるんですか？　それとも仲間になるんですか？

**前田**　全～然考えてない。

――ありゃ。ち、ちょっとは考えてくださいよ（笑）。

**前田**　それは相手の態度次第やね（笑）。

――なるほど。ところで、山本憲尚が『PRIDE』で……。

**前田**　アホらしい。11秒！　リングに昼寝しに行ったようなもんやんけ。闘いに行け。

　見ました？

**前田**　いや、見てない。

――一応ビデオ持ってきたんですけど、見ますか？

**前田**　いいよ。見たくない。でもあいつ、試合決まったの4日ぐらい前だって聞いたけどね。

――ヤマノリは、試合が決まる前、それで「前田さんの偉大さがようやくわかった」って言ってましたね。「1試合組むのがこんなに大変だとは思わなかった」って。

**前田**　当たり前や！　散々「あれやらない？　これやらない？」ってジラされて、イライラして練習もできなくて、それで何日か前に「なんとかシウバとやれ」って言われて、そんなの勝てるわけないやんけ！　試合やる以前の問題だよ。シウバにしても一流の選手だから、2～3ヶ月前から、身体づくりからやって、戦略決めて、その戦略に沿って動ける身体にして、技術を再確認してやってるんだよ。

――試合見てると、地に足が着いてないですからね。前田さんのテーマ曲で入って来たんですよ。

**前田**　『PRIDE』の戦略だよ。

――いや、聞くところによると、ヤマノリが考えたらしいですよ。前田さんの魂を少しでも『PRIDE』に持って行くっていう。

**前田**　それで11秒で負けんな！

――ボクもあのテーマ曲聞いたとき、な～んか頭に来たんですよ（笑）。

**前田**　自分の名前で勝負しようとしてフ

リーになったんだから、他人の名前を使うな！ それがキンタマぶら下げてるっていう意味でしょ。

―自分の名前をぶら下げろと（笑）。

**前田** そうそう。自分の精子のなかには、他人の精子は入ってないでしょ。女とヤッたのにさ、他人の子が産まれちゃった、みたいなバカな話はないやんけ。

―女が浮気した場合はあり得ますけどね（笑）。

**前田** だから、それも精子の力の差なんだよ。精子に力があれば、自分の子どもができる！

―ガハハハ！ なるほど。勉強になるなぁ。リングスを退団した人たちが、いろいろ動き出していて、田村選手が『真撃』に参戦するんですよ。

**前田** 『真撃』ってなに？

―ガハハハ！ 絶対言うと思った。橋本選手がやってる大会です。

**前田** 田村、プロレスやんの？

―本人は「UWFスタイルを復活させたい」と言ってますね。今度、ジムの弟子を出すんですよ。

**前田** 田村は「UWF、UWF」って言うけど、UWFが何かってわかってないんだよ。あの頃、誰もUWFってわかってなかったよ。俺が「UWFってなにか？」って言う度にさ、みんな違うことを言ってたからね。

―田村選手も近い将来『真撃』に出ることもありえますね。

**前田** まぁ、しょうがないね。

―成瀬選手はIWGPジュニア王座を奪われてしまいました。

**前田** そんなもんだよ。

―ガハハハ！ そんなもんですか。

**前田** 旬が過ぎてから、どういうふうに自分を主張していくかっていうのが問題なんだよ。それは自分で演出していかなきゃ。それは頭と度胸がいることで、それがないヤツは淘汰されるよ。いままでは、なんだかんだで俺の名前でやってたから。鮭が孵化したときにさ、大きな卵の白身みたいのが稚魚にくっついてるじゃない。あれは栄養があれば、餌を食わなくても生きていけるんだよ。でも、栄養が取れなくなったら自分で餌も探さなきゃいけない。敵から自分を守らなければいけない。でしょ？ 成瀬はその栄養がなくなってきてる状態だろうね。チリメンジャコみたいなもんだよ。これからは成瀬本人の問題だよ。

―滑川選手が、「リングスを卒業していった先輩たちといずれはやりたい」って発言をしてるんですけど、たとえばヤマノリとか成瀬なりにオファーを出していくっていうことはあるんですか？

**前田** あいつらは卒業じゃないよ、逃げたんだよ。そのためだったらオファー出すけど、ウチは再生工場じゃないからね。

―KOKトーナメントは廃止ですか？

**前田** 今年はやらないっていうことだね。

―いずれやる可能性はあるんですね。

**前田** うん。〝なんちゃって格闘技〟にならないようなルールを模索していくよ。

―完全にバーリ・トゥードにするっていう考えはなかったんですか？

**前田** あのね、バーリ・トゥードって言ったらね、素手だよ。一切なにも着けない。それが本当のバーリ・トゥード！

―それは前田さんらしいなぁ。

**前田** 本当に強さを競うって意味でバーリ・トゥードをやるんやったら、素手じゃないと話になんない。人間の顔面とか頭を叩こうと思ったら、握りが強くないとダメだし、拳が強くないとダメだし、なおかつ手首もちゃんとしてなきゃダメだしね。グローブ着けてると、軽く握って、グローブという物に頼ってやれるから。

―いま、マット界は、「猪木軍vsK―1」という大きな流れがあるんですよね。

**前田** 高田は猪木軍なの？

―猪木軍ではないですね。

**前田** 高田は、小川とやるとか言ってなかった？

―それがなくなってのミルコ戦ですね。「プロレスvsK―1」という流れについてはどうですか？

**前田** 全体の歩みとしては、やらなきゃいけないんだけど、もっと大きな枠で、ボクシングのトップだとか、キックのトップだとか、あらゆる世界のトップが自由に出たり入ったりできるようなところにしなきゃダメなんだよ。構想はいいんだけどさ。でもその度にルールを変更してどうのってやる必要がある。ウチが正道会館とやったときもさ、向こうがやりやすいルールに変えたりとか大変だったからね。

―前田さんに一番聞きたいのは、「猪木軍vsK―1」あるいは「プロレスvsK―1」が話題を独占しそうな中で、前田さんが年末年始はなにをやってくれるのかなってことなんですよね。

**前田** これからやな、これから！

―もうすぐ年末ですよ（笑）。前田軍として、ハンとかコピィロフとか、あるいは、もっと若くて活きのいいロシアの選手とか率いて、『PRIDE』やK―1に殴りこむつもりはないですか？

**前田** ない。いまんとこない。

―ガハハハ！ いまんとこないですか。むしろ「猪木軍vsK―1」より見たいですよ、そっちのほうが（笑）。

**前田** 俺は常在ブッカーとしてね、地球を駆け回るよ、地球を（笑）。

**【10月12日／リングス事務所・キューバ産の葉巻の香り漂う社長室にて収録】**

## 今月の顔

# 9/14→10/15

スポーツ新聞の一面が、連日「米中枢同時テロ事件」のニュースと、イチローの活躍、そして狂牛病で埋め尽くされた今月。そんな世間の情勢に左右されず、当「紙の新聞」はいつものようにドラゴンネタで埋め尽くされているが、そこへ風穴を空けるニュースターが帰ってきた！ 言わずと知れた佐々木健介その人である！ 見てみこのツラ！ 僕のパソコンのデスクトップはいま健介の壁紙になっています。

9/20

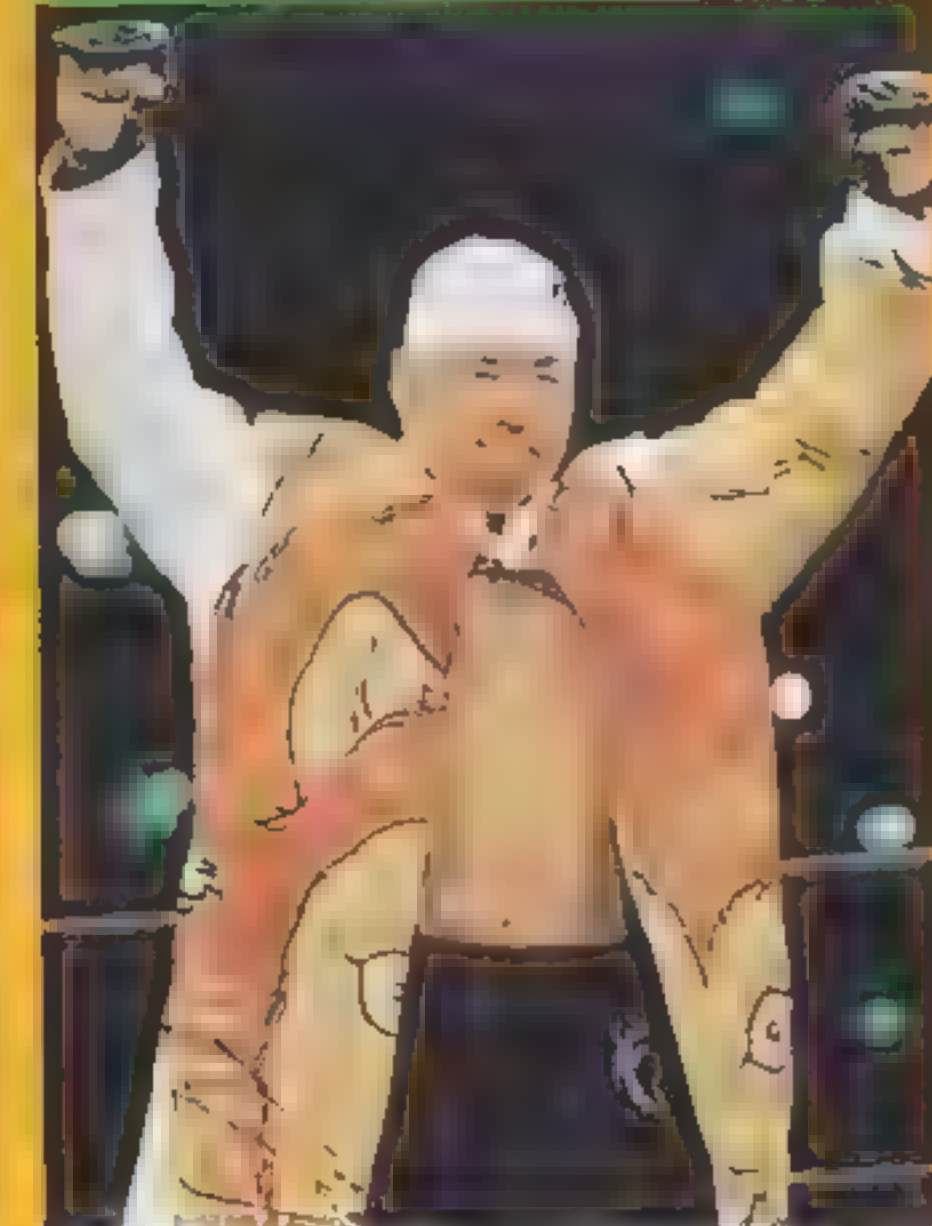
【新日本プロレス】
新東京国際空港

### 猪木「健介vs藤田」聞いていない

最近はドラゴンイジメがライフワークになっている感さえするアントンがこの日ロスから帰国。報道陣に囲まれると、さっそくドラゴンイジメを開始した。まずは10・8ドームのカードが勝手に藤田vs健介と発表されたことに激怒。ドラゴンが「猪木会長に電話連絡した上での発表」と言っているにも関わらず、「何も聞いてない」と、ドラゴンをうそつき扱い。そして「結果が悪けりゃ、当然責任問題」と、最後はドラゴンの社長解任まで示唆する始末。パーマ頭を震わせながら怒るドラゴンの姿が目に浮かぶようであった。

【新日本プロレス】
新日本プロレス事務所

### 藤田「健介と格違う」と余裕の会見

前日行われた、健介の「正直、藤田と闘いたい」会見を受け、IWGP王者藤田和之が余裕の会見を行った。「正直、もう前のオレじゃない」と5ヶ月間での成長をアピール健介に対し、「今じゃ、立場も実力も違う」と逆の意味で「前のオレじゃない（IWGP王者時代のあんたじゃないんだよ。オレの方が格上なんだよ）」をアピール。米国VT特訓の成果を見せようとする健介に対し、「近所を歩いたり、重いバーベルを上げるイメージをしたり」という、健介戦への自身の練習内容を明かし、とことんコケにするタチの悪い藤田であった。

【新日本プロレス】

### 健介、藤田戦をアピール！

新日のファッションリーダー健介が、この日、復帰戦の相手に藤田和之を指名した！ 思えば健介にとって藤田は、「正直、スマン！」という2001年マット界流行語大賞受賞間違いなしの名言を言ってしまったばかりに、流れてしまった相手。「もう前の自分ではない！」とトレードマークの後ろ髪に別れを告げた健介は、「いまのオレとして闘いたい」と当たり前のことを大まじめに断言。そして「正直、オレっていうのをじっくり見て欲しい」と言葉の意味はよくわからんが、とにかく健介らしさだけは伝わってくるコメントで決意を示したのであった。

9/14

【新日本プロレス】

### ドラゴン焦る！ NYのアントンと連絡不能

世界中に衝撃を与えた、米中枢同時テロ事件。その影響は実に甚大で、米国の政治経済とはまったく関係のない、日本マット界の中枢、新日本プロレスの社長室までも麻痺状態に陥れていたことがこの度発覚した！ ドラゴンが10・8ドームで小川vs藤田戦を決行するか中止するかの決断を、例によってアントンに決めてもらおうと思っていたのにテロの影響でNY滞在中のアントンと電話連絡が取れなくなってしまったのだ！ そのため、前夜、「すべては明日、話します」と言い切っていたにも関わらず、この日は一転ノーコメントで、すっとぼけるハメになった。

9/30

【全日本プロレス】

## 天龍、元子社長にレフェリー要求

いま、日本マット界でもっともWWFしているのが全日本プロレスでの天龍と馬場元子社長の抗争。この日、天龍は新潟でのトークショーで、10・27武道館での全日本vsWARの5対5全面対抗戦での元子社長のレフェリーを要求した。「元子社長にはぜひレフェリーをやってもらいたい。赤いリングシューズも用意してやる」と、元子社長の手によって、全日本敗戦を成し遂げるつもり。この日は川田vs冬木の本当に仲が悪い者同士の対抗戦なども含め、実に見逃せない大会になりそうだ。21世紀版の全日本天龍革命は面白すぎる。

10/1

【新日本プロレス】

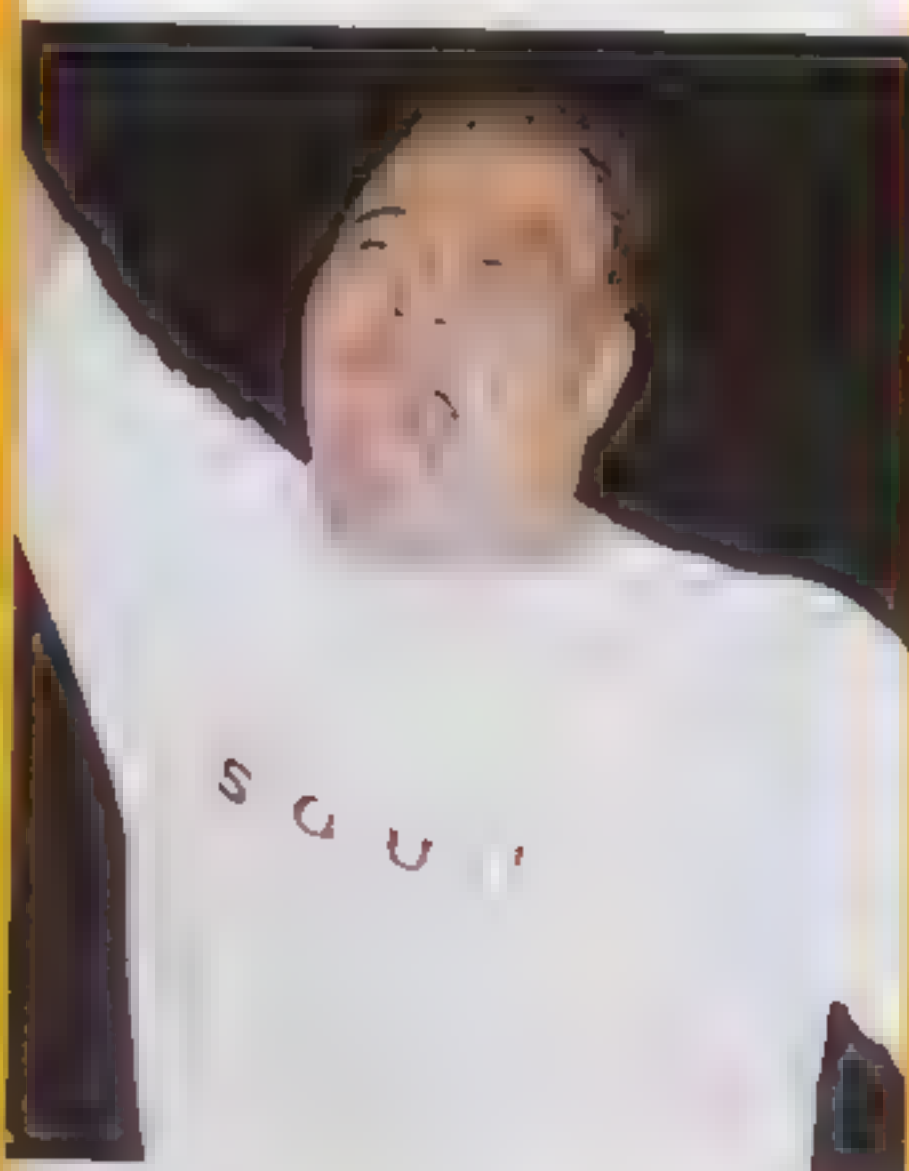
## 天龍のラブコールにドラゴン興奮

ノリに乗る天龍源一郎の「WARに出たことがある選手。長州、藤波もWAR軍に入る可能性がある」という発言に、ドラゴンがまたしても過剰反応した！「すぐは無理。でも全日本のリングに上がることは、やぶさかじゃない」と全日本に上がる意志があることをさっそく明言し、「昭和世代が業界のために踏ん張らないと。天龍、長州、オレが組んで、いい時期に武藤、蝶野、川田、秋山らと戦いたい」と例によって、15年遅れの「オレ達の時代」をアピール。おまけにドームのザ・ファンクス戦についても、「これは隠れた注目カード」と自ら宣伝。ドラゴン、夢見る47歳である。

9/29

【新日本プロレス】

## ドラゴン、ドームへの小川投入を拒絶

「猪木、見てろよ!」とIWGPタッグ王座奪取の浮かれ気分で言い放つなど、ゴーゴードラゴンぶりが目立つ今月のドラゴン。いつものコンニャクぶりとはうってかわり、「出る出ない、聞いてる聞いてない…。そんなリング上で戦う以前の問題はもううんざり」と、いつもは翻弄されまくり、持ち前のコンニャク発言を連発してしまう小川参戦問題についても、キッパリ否定。さらに「猪木さんと対立する気はない。ただオレに託したのだから、任せてもらわないと」と、「猪木、見てろよ!」からは案の定トーンダウンしながらも堂々と社長の立場を誇示した。ま、いつまで続くやら……。

【新日本プロレス】
新日本プロレス道場

## バカ対策に津軽ガスパーが名乗り!

10・8ドームで野人・中西学と激突する“平成の借金王”安田忠夫に力強い援軍が現れた！　「バカ対策は俺に任せろ」と豪語する、津軽海峡の海賊男、津軽ガスパーである。このガスパー、正体は常日頃から、コメントの際に中西のバカネタを披露するあのレスラーと思われ、中西を精神的に攪乱するにはもってこい。心強いパートナーを得た安田は「安田忠夫の猪&鹿&蝶Tシャツ」に対抗して「中西学の馬&鹿Tシャツ」を着用しろと悪ノリ。今後の中西との絡みが俄然楽しみになってきた。

9/26

【六本木プロレス】
ベルファーレ

## 電撃ネットワークの一本勝ち!

あの新宿プロレスが場所を変え、新たに生まれ変わったのが六本木プロレスである。宿プロ名物のお色気路線を封印し、ノアから丸藤らも参戦した今大会。しかし、会場となったベルファーレで一番の歓声を浴びたのは残念ながらレスラーではなく電撃ネットワークのパフォーマンスだった。電撃と言えば、前号の仲野信市インタビューで「有刺鉄線張ったり、火を放ったりするのはプロレスじゃない。電撃ネットワークとか、ああいう方にジャンル分けして欲しい」と語っていたのを思い出したが、ジャンルは別として葛西純対電撃ネットワークはぜヒ見たいぞ！

9/28

【新日本プロレス】

## ドラゴン、長嶋監督の勇退を語る

巨人軍長嶋監督が今シーズン限りで勇退することになり、ミスターと親交のあるドラゴンは「正直言って寂しい。ただ球界全体が世代交代の時期なんでしょう。我々プロレス界も見習わなければならない。そういえば長嶋さんと猪木さんの存在感は実に似てるよね」と発言。引退カウントダウンをうやむやにすることに命を懸ける自分のことは棚に上げて、マット界の世代交代の重要性を図々しくも説き、ミスターをダシにして、暗にアントンの勇退をも薦める、実にらしいセコさを発揮するドラゴンであった。

9/23

【新日本プロレス】
なみはやドーム

## 藤波IWGPタッグ奪取!「猪木見てろ」

神様のタチの悪いイタズラか？　なんとドラゴンが47歳9ヶ月にして、IWGPタッグ王座をまさかの奪取！　その勢いにまかせて、ドラゴン節を轟かせたのでご報告したい。「絶対に引退なんてしてられない。意地でもプロレス界をもう1度盛り上げます」とまずは恒例の引退撤回宣言から、「長州と一緒にオレらのプロレスを復活させる」と衝撃の「オレ達の時代宣言」。そしてとどめに「猪木見てろ!」と呼び捨てにして、アントンを挑発した。47歳にして始まった第2次飛龍革命。現在のところ、第1次同様、いつの間にか失速するだろうという見方が強い。

【大仁田興行】
ディファ有明

## 大仁田が破壊王に有刺鉄線マッチ要求

大仁田興行毎度お馴染みの有刺鉄線デスマッチ6人タッグのメインが、いつものように大乱戦のウチに幕を閉じると、マットをバンバン叩いたり、大仁田に水をぶっかけられて喜んでいる大仁田信者と共に、破壊王がリングサイドに登場！　8月の「真撃」に大仁田が出場したことに感謝を述べると、「爆弾、有刺鉄線は怖い。同じ目線のプロレスができるなら、考える」と通常プロレスルールなら大仁田戦を受ける意志を表明した。それに対し、大仁田は「有刺鉄線。これが大仁田厚からのお返しじゃ」と、あくまで破壊王を邪道に誘い込むつもりだ。

10/15

【真撃】

## 10・25「真撃」で高山vs大谷決定!

10・25「真撃」で大谷戦が決定した高山が、ノーフィアー節を爆発させた。まず、「大仁田じゃなくてよかった」と独特の言い回しで大谷戦を了承。橋本を「小川に負けて引退した男。まだ昔の大物と思ってえらそうにしているのがトロい」と断罪した上で、対戦相手が大谷に対しては「勝つのは当たり前。でも橋本の下にいる大谷を見ていると哀れ。あんなとこ辞める踏ん切りをつけさせてやるよ」とZERO−ONE離脱をそそのかす余裕すらみせた。そしてその勢いのままに「年末は忙しくする」と「PRIDE・18」、12・31「猪木祭り」出場を予告した。

10/9

【G−スクエア】

## TKが格闘技塾をオープン

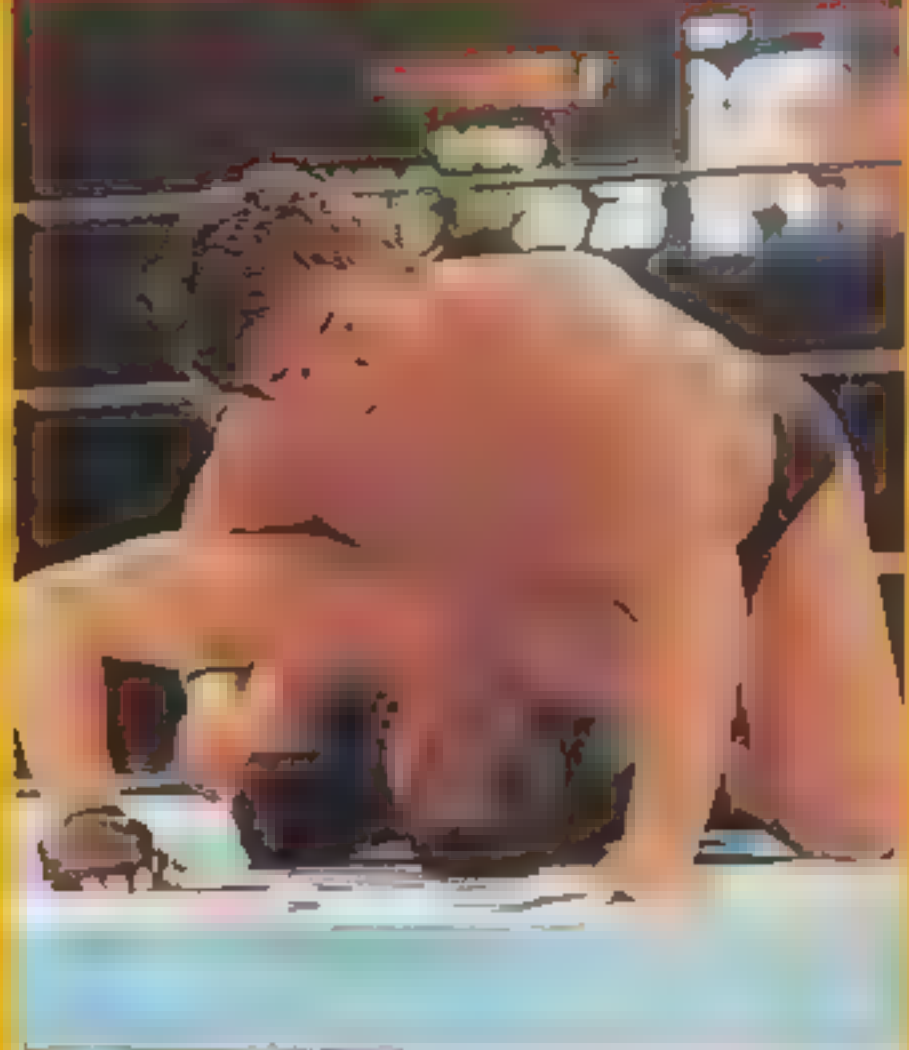
世界のTKとして、アメリカ・シアトルを拠点にして活躍していた、リングスの高阪剛が、この秋から活動ベースを日本に移し、この日、主宰する格闘技塾G−スクエアをオープンさせた。これはケビン山崎氏のトレーニングジム「トータル・ワークアウト」内に作ったTKの総合格闘技スクールで、火、水、金の週3回開講。月会費は1万円となっている。現在、会員募集中なので、TKの秘技を伝授してもらいたい人は今すぐ電話を。ちなみにG−スクエアの「G」はゴリラではなく、グラップリングの頭文字とのこと。
【TEL】03-3280-5557

10/3

【新日本プロレス】

## ドラゴン断言!「自分の意志貫く」

「無能社長!」(蝶野)、「バカ社長!」(猪木)、「グズ!」(武藤)と言われ続けてた男が社長就任2年4ヶ月目にして遂に立ち上がった! マッチメークに口を出し続けるアントンに対し、「これからは社長として自分の意志を貫く」といまさらながらの決意表明! アントンの指示を蹴り、小川のドーム参戦を消滅させると「あくまでも当たり前のことを押し通しただけ」と、これまでアントンの意見に流されるのが当たり前だった自分の行動は棚に上げて豪語した。今後、迷走船長ドラゴンが舵を握るのかと思うと、新日の行く末が楽しみで仕方がない今日この頃である。

10/2

【新日本プロレス】

## 長州、恒例のサイパン日焼け合宿敢行

10・8東京ドームを前に、長州力が5日間の日程で恒例のサイパン合宿に突入していたことがこの日わかった。長州のサイパン合宿と言えば、5・5小川戦、1・4橋本戦の前に敢行している通り、ビッグイベント前の恒例行事。連日ビーチで日焼けに精を出したり、バーベキューをやったりするというハードな日々を送り、自分をとことん追い込み決戦に挑むという重要な合宿なのである。しかも今回は付け人すらつけないでの合宿だけに、長州の並々ならぬ意気込みがわかるというもの。断じて家族水いらずのサイパン旅行ではないはずだ! たぶん。

【高田道場】
武蔵小山・高田道場

## 高田、ミルコ戦前に深刻な腰痛

ヒクソン戦以来のプロレスを背負った"聖戦"であるミルコ戦に挑む高田延彦が腰つい筋膜症という腰の筋肉を故障。9日間全く練習せずに15本の注射を打って治療に専念していたことが発覚した。15日現在はトレーニングを再開しているが、「練習はいつも通りやるけど、夕方の練習は疲れたらやめる。またやっちゃうとまずいから」という状態。爆弾を抱えていることに変わりはない。それにしても、1年に1、2回しか試合しないにも関わらず、試合前の故障が多い不運の男・高田。万が一ミルコに負けた場合を考えて、「高田は壊れてたんだよ!」「もう一丁!」の言葉を用意しておこう。

10/13

【ZERO−ONE】

## 破壊王、幻のNWA世界王座奪取

破壊王・橋本真也が米フロリダ州で王者スティーブ・コリノが持つ、NWA世界ヘビー級王座に挑戦。爆殺キックと袈裟斬りチョップで王者を失神KOし、レフェリーストップで歴史的圧勝を成し遂げた! これで新王者誕生かと思われたが、試合後に3カウント、ギブアップ以外での王座移動は認められない、という懐かしのNWA理不尽裁定で、王座奪取はならなかった。太古の昔から続くNWA戦後お馴染みのオチが着いた今回。破壊王は「今もああいう裁定がまかり通るアメリカを、変えなきゃならない」と大まじめな顔で、ZERO−ONEアメリカ進出を宣言した。破壊王、最高!

10/9

【新日本プロレス】

## ドラゴン、小川に巴戦を逆要求!

「三つどもえのことに関しては、何も話すことはない!」「もううんざり!」など、10・8ドーム前までは、小川の参戦、及び巴戦を頑なに拒んでいたドラゴンが、突如、小川へ巴戦を逆要求した! 「やっと小川自身の口から、自分の言葉、自分の意志を表明した。こうなった以上は、断る理由もない!」と、これまで「三沢とやりたい」「鶴田とやりたい」と自分の言葉、自分の意志を表明し続けながら、断られ続けたパーマ男がキッパリと言い放った。このところ、オーちゃんとアントンに弄ばれ続けていたドラゴン。イジメられっ子の逆襲はこのまま成功するのか。(なんかしない気がする)

【新日本プロレス】

## 武藤 「藤波は中途半端なグズ」

10・19別府でライガーと組み、藤波&西村の「無我師弟コンビ」の持つIWGPタッグに挑戦することが決定した武藤が、王者ドラゴンをとことんコケにした! まず「いまさらタッグに興味はない」と「それを言っちゃあお終いよ」な発言でいきなり王者の立場をなくさせると、「(藤波は)猪木さんにちょっかい出されても何も言えないグズ」「社長の肩書と選手のプライド、すべてをかけて出てこい! どっちつかずのヤツなんかプロレス界に必要ない」と、ドラゴンの存在自体を全否定! ここまで言った武藤にまだら呪術師の呪いがかからないことをいまは祈るだけである。

©DSE

オレ様はランペイジ!　ここは読者プレゼント・ペイジ!　……くだらねえなあ、これは(笑)。

# それでもいくぞーッ! 読プレ・ペイジTシャツ祭り!

## 桜庭和志テーマ・ソング発売記念

### 超限定サク・マシンTシャツ

サクテーマCDに付いている抽選券を送ると100名だけに当たるという限定サク・マシンTシャツを、何と3名様にプレゼント! なおCDには桜庭和志公認応援グッズであるバンダナとカレンダーにサインが付いてくる! 当然、買いだ!

【東芝EMI提供】お問い合わせTEL.03-3587-9039

## 高田道場・新作ウェア

高田延彦Tシャツ　桜庭和志Tシャツ

高田道場・長袖シャツ　桜庭和志・長袖シャツ

ドーム決戦を控える高田道場から秋の新作モデル! これを着ながら勝利の余韻に浸るんだ【高田道場提供】
お問い合わせTEL.03-5749-5031

## 大和魂グッズは永遠に不滅です!

大和魂パーカー　大和魂Tシャツ　大和魂長袖シャツ

大和魂を注入してこの冬を乗り切れ! これを着てると心も体も自然と熱くなる! 夏まで着続けろ!
【E-FORCE JAPAN】
お問い合わせTEL.047-378-6400

## キン肉マンvs「PRIDE」!

ボブチャンチンvsウォーズマンTシャツ

バッファローマンvsコールマンTシャツ

「PRIDE」とキン肉マンたちの対決シリーズTシャツ! 第2弾では桜庭とヒーリングも登場予定!? とにかく全部集めるんだ! これからは友情・努力・勝利が「PRIDE」の代名詞!
【DSE提供】お問い合わせTEL.03-5775-5852
http://www.so-net.ne.jp/pride/

## リングス新時代の息吹を感じろ!

### 滑川ATTACK・Tシャツ

選手とのダブルネームTシャツでおなじみのSubscabsから滑川Tシャツが堂々の登場だ! リングスを背負って立つ男の魂を感じ取れ!
【Subscabs提供】
お問い合わせSubscabs@jp-t.ne.jp

## ヤノタクが遂に「紙プロ」に登場!?

ヤノタク側転Tシャツ

武道的Tシャツ

「紙プロ」登場はまだか!? ヤノタクがとりあえずまずは読プレにやってきた! 好きか、嫌いか、ハッキリさせろ!
【矢野卓見応援団提供】

## これを飲まずして、焼酎を語るなかれ!

**本格焼酎「破壊王」**
前号の破壊王と荒川の対談で、荒川より破壊王にプレゼントされた本格焼酎「破壊王」をプレゼント! これを飲めばトンパチになれること間違いのない、酔いが醒めるのがイヤな一本! 家宝モノだ!
【ドン荒川提供】

## まだまだTシャツ祭り!

ノア! 大日本! くどめ! それぞれのファンにはたまらないTシャツたち! Tシャツ1枚で巡業を走り回れ!
【I・V・Y BOOKs提供】
お問い合わせTEL.0568-31-0727

## あの悪夢から――桜庭復帰戦DVD!

2名様

**「PRIDE.15」DVD**
桜庭和志の暴走ホームレスとの復帰戦や石澤常光のハイアンへ1年越しのリベンジ劇! ガイジン天国な「PRIDE」において日本人選手の勇姿が会場を興奮させた「PRIDE.15」がDVDになったぞ! その他にも、ケアーを奈落の谷に叩き落とした荒馬ヒーリングや"魔法"のテクニックで門番・グッドリッジを翻弄したノゲイラなど「PRIDE」の新時代を予感させる戦士たちが登場のこのDVD!「PRIDE.15」だけに15回は見るんだ!
【メディアファクトリー提供】
お問い合わせTEL.03-5469-4880
(月～金10:00～18:00・祝日を除く)

## 猪木なら何を言っても許されるのか!?

セットで3名様

アントンの総裁のシビれる語録がたっぷり収録してある秀逸ビデオ! ヨダレを垂らしながら吠えまくる、そんな「燃える闘魂編」、「闘魂伝承編」をセットでプレゼント、ダァーッ! (ヨダレ)
【パイオニアLDC提供】
お問い合わせTEL.03-5721-8878

## 梶原一騎! アントニオ猪木! 読書の秋

3名様

**ピュア・ダイナマイト ダイナマイト・キッド自伝**
ボロボロになりながらリングを疾走した爆弾小僧の衝撃の自伝! 佐山の推薦文も最高だ!
【エンターブレイン提供】
お問い合わせTEL.03-5351-8202

3名様

**俺の魂**
アントン総裁が力道山への思いを綴った本が読めんのかーッ! 壮大な夢も当然の如く語られてる! 最高だ!
【あ・うん提供】
お問い合わせTEL.03-5276-8357

セットで2名様

**タイガーマスク**
吉田豪、浅草キッドが巻末で解説を執筆した文庫版「タイガーマスク」の6、7巻をプレゼント! 残りは自腹で買うんだよ!
【吉田豪提供】

3名様

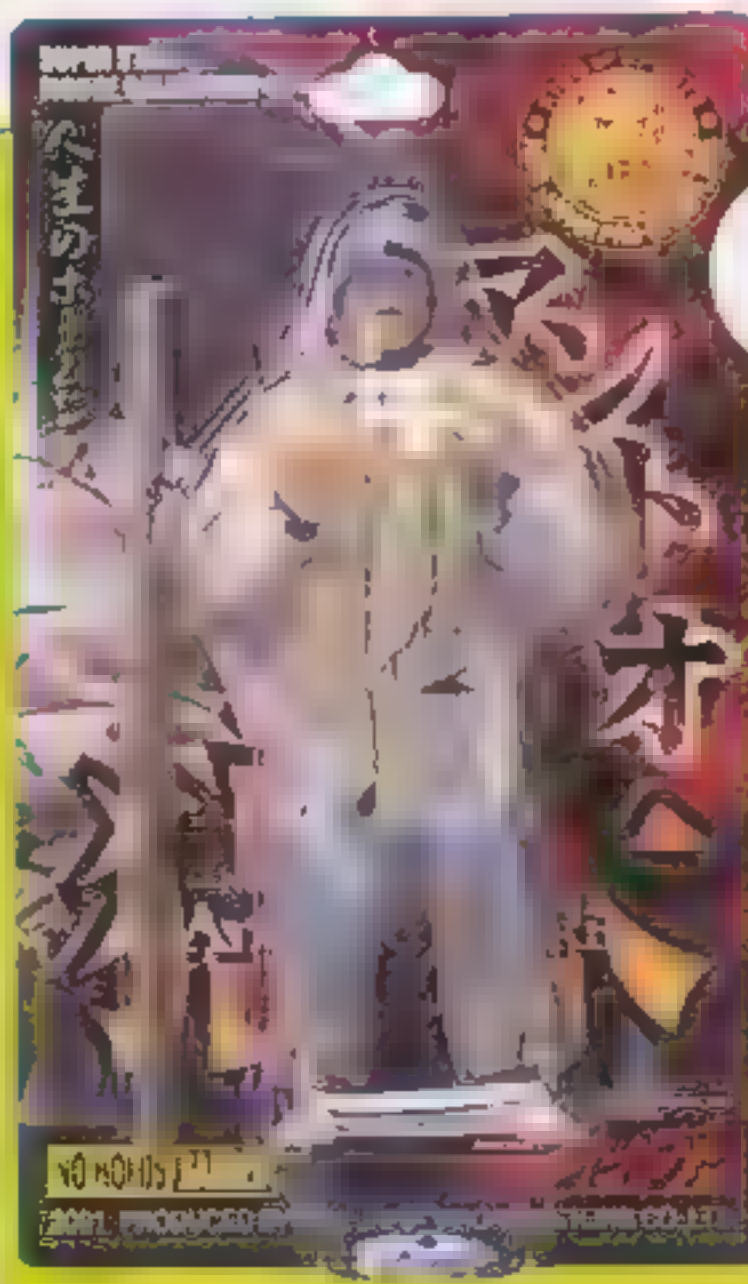
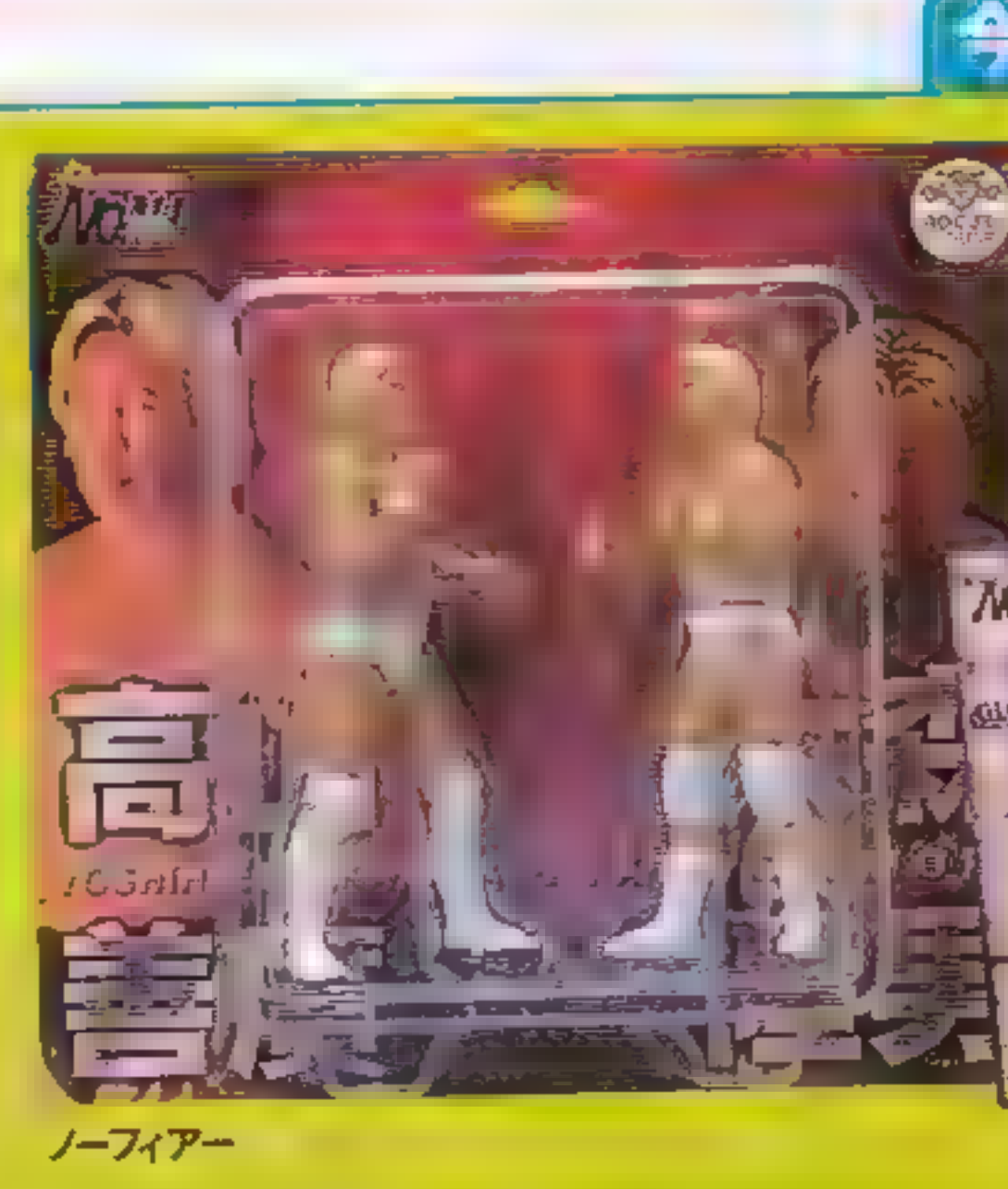
**禅道会 バーリトゥードKARATE**
禅道会の秋山賢治が英雄戦後、観客席に投げ込んでいたのがこれだ! バーリ・トゥードが読みながらにして身に付く一冊だ! 最強は空手だよ、キミィ(マス大山調)。【禅道会提供】
お問い合わせ BABジャパンTEL.03-3469-0135

## 応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼今年度のマット界での名言(迷言)を3つ書いてください

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
「紙プロRADICAL」編集部
野人リヘンジ 係まで
※締切は2001年11月25日 日 当日消印有効

## 今月のグレートフィギア

2名様

**猪木・ホームレス**
アントン総裁がタイソン戦をブチ上げたときのホームレス姿! タイソンのことなど忘れてしまうほどのシビれるフィギアだ!
【山口日昇提供】

ノーフィアーの限定フィギアと秋山の3タイプポーズで登場だ! 秋山はセットであげる!
【モグラハウス提供】お問い合わせTEL.055-262-7799

各2名様

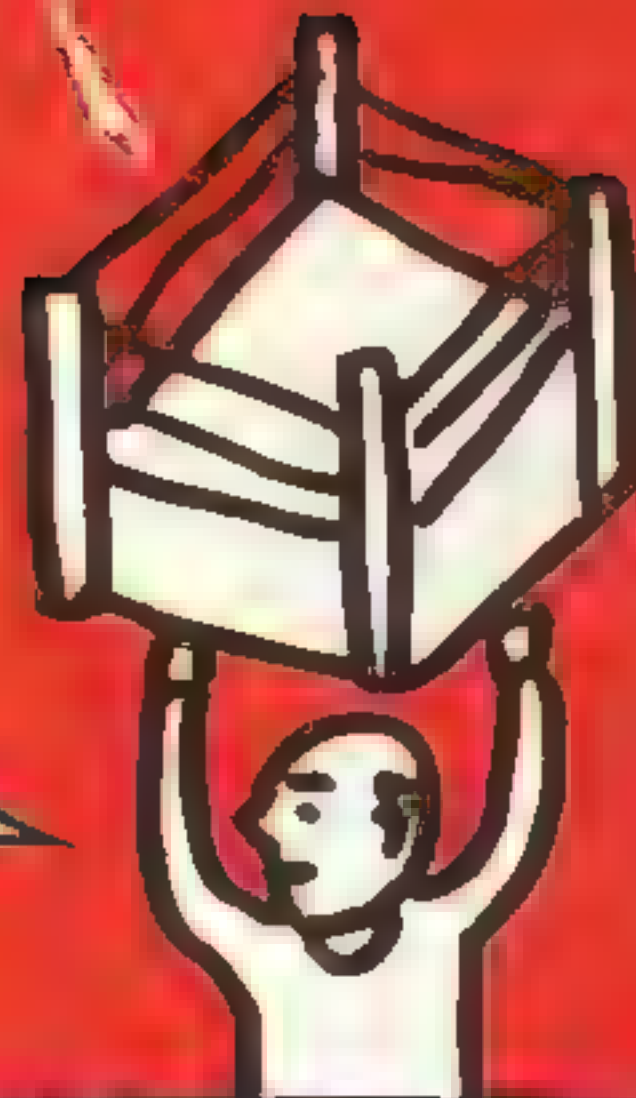
ノーフィアー
秋山準(ファイティング・ブロンズ・首切りポーズ)

紙のプロレス RADICAL
No.43
2001年11月25日発行

No.44は
11月下旬発売予定!


●編集兼発行人
山口日昇
●編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
八木賢太郎
●編集見習い
クレ斉藤
片山ぼん
●スーパーバイザー
吉田豪
●助っ人
中村カタブツ君
スモーノブ
佐藤耳男
●アートディレクター
出田さん(TwoThree)
●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
ミネ(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん
あっちゃん(以上さおとめの事務所)
石田理恵
●出前
出前持ち入江(TwoThree)
●カメラマン
斉藤ユーリ
森嶌博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫
●試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉岸晃
●ブッカー"J"
シャイ子
●お勘定&衣料部
林"ヘ.クション"一枝
●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
●印刷
図書印刷株式会社
●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町 番地 TEL 03-3357-2911 販売・営業
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL 03-3403-5188 編集・制作

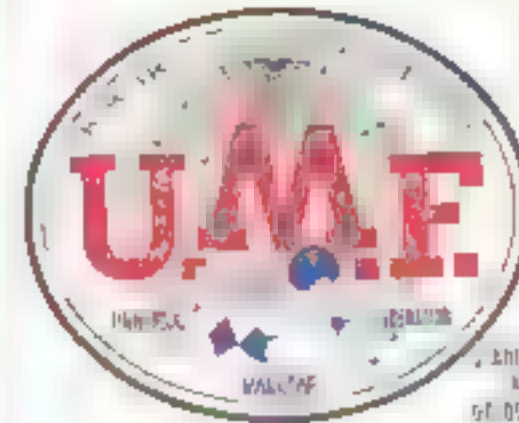
# おなじみの『紙プロ』ウェアも 頼むぞーーッ!!

## 大好評! U.M.F.トリムシャツ

### UMFトリムシャツ（白×黒）

¥3,000 SOLD OUT Mor L

寒い冬でもこれ1枚で歩きたくなるみんなに見せびらかしたいTシャツだ! アナタが友達と差をつけるのはいまだ!

### UMFトリムシャツ（白×青）

¥3,000 SOLD OUT Mor L

人気大爆発! U.M.Fトリムシャツ!「小学校の公認運動服にしてほしい!」とブルーカラーがみんなの心をくすぐっている!?

### 紙のプロレスRADICAL おもいっきりロゴT

¥3,800 SOLD OUT SOLD OUT

残りわずか!

21世紀を記念して作られた「紙プロ」ゆかりの関係者がロゴで総登場Tシャツ!! 男は背中で語るんだ!（女の子もね）

### U.M.F. Tシャツ（黒×黄）

¥3,800 SOLD OUT SOLD OUT

残りわずか!

花くま先生書き下ろし!! 左ソデにワンポイントが入ってるので「ダーッ!」をやるときは左手を挙げよう!

### SS Tシャツ半ソデ（赤）

¥3,500 SOLD OUT Mor L

熱いヤツには赤のSS Tシャツがよく似合う! KING OF MAGAZINを背負いますかーッ!

### SS Tシャツ半ソデ（紺）

¥3,500 SOLD OUT Mor L

Tシャツの売り上げなんて勘定してんじゃねえよ それほど売れてる、おなじみSS Tシャツだ!

### リングおじさんパーカー（黒）

¥6,000 Mor L

リングおじさんパーカーは永遠に不滅です!! 復刻までした大人気の1品! 冬が来る前に今から準備!!

### リングおじさんパーカー（黒×白）

¥6,000 Mor L

バックに「紙プロ」オールキャストのロゴが入ったあったかパーカー! 心まであたたかくなるからあら不思議!

### 通販方法

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも・ネックピースだけなら¥300）を郵便振替か現金書留で下記の住所まで送ってください。郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズ・カラーを明記）を必ず記入してください。記入しないと商品が発送できません。隣のページのTシャツも一緒の申し込みもOK!

■郵便振替の宛先
00130-3-769154

■現金書留
（株）ダブルクロス
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702

お問い合わせ先（株）ダブルクロス TEL03-3403-5188

【紙プロ」ウェア常備ショップ】★チャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237）★チャンピオン大阪（TEL.06-6645-5186）★岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）★グレート・アントニオ（TEL.03-3219-9550）

サクとPRIDEのケツに火がついた!!

平成13年11月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

ISBN4-89829-666-1
C9476 ¥838E
雑誌 69862-85
印刷：図書印刷株式会社

# ☎INDEX

**全日本プロレス** →03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12

**プロレスリング・ノア** →03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25

**新日本プロレス** →03-5468-3111
〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11

**FMW** →03-5496-0671
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F

**リングス** →03-3461-0257
〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202

**WAR** →03-5477-0461
〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F

**みちのくプロレス** →019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8

**SPWF** →03-3814-6371
〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル

**パンクラス** →03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25

**IWAジャパン** →03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401

**大日本プロレス** →045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347

**バトラーツ** →0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43

**DDT** →03-3356-8493
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内

**髙田道場** →03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1

**UFO** →03-5447-2121
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F

**大阪プロレス** →06-6243-5131
〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301

**闘龍門JAPAN** →078-333-9797
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901

**ダイプロデュース(大仁田興行)** →03-5496-4900
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F

**ZERO-ONE** →03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11

**掣圏道** →03-5456-7333
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607

**レッスル夢ファクトリー** →03-5828-8494
〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11

**キングダム・エルガイツ** →0423-31-2797
〒206-0822東京都稲城市坂浜2305

**キャプチャー** →044-959-3333
〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1

**国際プロレス** →0467-86-0197
〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14

**高山堂** →03-3386-3324
〒161-0032 東京都新宿区中落合2-12-23-602

**つぼプロモーション** →03-3498-4710
〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F-E

**華☆激** →092-522-1901
〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302

**喧嘩プロレス二瓶組** →044-588-2438
〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル

**ZIPANG** →03-3312-0328
〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21 ハイネス梅里201

**T.A.M.A** →042-572-6795
〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5

**CMLL・JAPAN** →075-601-7816
〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151

**UNW** →03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

**栗栖ジム** →06-6790-8896
〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7

**ドリームステージエンターテインメント** →03-5775-5700
〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103

**K－1事務局** →03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14

**修斗コミッション** →03-5725-7338
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン

**GCM COMUNICATION (和術慧舟會, A'GYM, RJW)** →03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F

**DEEP 2001事務局** →052-339-0303
〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F

**怪獣王国** →03-5952-1177
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F

**コロシアム事務局** →03-5473-3148
〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内

**全日本女子プロレス** →03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17

**JWP** →03-3839-4161
〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502

**LLPW** →03-3945-7926
〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ピクセル文京105

**GAEA JAPAN** →03-3795-2555
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F

**Jd'** →03-5561-0522
〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F

**アルシオン** →03-5720-5217
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F

**NEO** →044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102

**エヌ・イー・オー** →03-3796-7461
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-19-13 ドミシール平野503

卒業おめでとう。みんながうれしい。親子でうれしい。
片山ぼん
文章が書けない
文章さえ書けたら
こんなに楽しい
仕事はないのに……
（片山ぼん談）
さくぼん
サク復活&片山ぼん引退記念ポートレート
イラスト／約束を守らない片山ぼんが

RIDE.17』東京ドーム

## Eミドル級初代王座決定戦迫る!

# 初代三冠王はシウバ

11・3『PRIDE.17』東京ド

## ダブルSAKUベルト&PRIDEミドル

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江　◎ クレ斉藤

mber

ウス(18:30)

サブアリーナ(18:30)

:30)

18:30)

00) ♠

30)

JWP■東京・東京キネマ倶楽部(19:00)

**14 WED.**

アルシオン■北海道・伊達市体育館(18:30)

**16 FRI.**

アルシオン■北海道・八雲町スポーツセンター(18:30)
新日本■石川・石川県産業展示館4号館(18:30)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)

**17 SAT.**

アルシオン■北海道・上磯町総合体育館(18:30)
Jd' ■大阪・なんばグランド花月　NGKスタジオ(18:00)
新日本■富山・高岡市民体育館(18:00)

**18 SUN.**

アルシオン■北海道・江差町生涯学習センター体育館(18:30)
ノア■東京・ディファ有明(15:00)
新日本■長野・伊那市勤労者体育センター(18:00)
GAEA■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(17:30)

**19 MON.**

FMW■福井・福井市体育館(18:30)
ノア■静岡・キラメッセ沼津(18:30)

**20 TUE.**

ノア■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)

**21 WED.**

キングダムエルガイツ■東京・後楽園ホール(18:30)

**22 THU.**

ノア■岡山・岡山武道館(18:30)

**23 FRI.**

FMW■神奈川・横浜文化体育館(18:30)
Jd' ■東京・ディファ有明(12:30)
ノア■福岡・西日本総合展示場(15:00)
闘龍門■埼玉・越谷桂スタジオ(18:00)
LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)

**24 SAT.**

闘龍門■千葉・船橋アリーナ(18:00)
新日本■神奈川・藤沢市秋葉台文化体育館(18:30)
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)

**25 SUN.**

アルシオン■千葉・東京ベイNKホール(16:00)
修斗■東京・ディファ有明(16:00)
ノア■愛知・愛知県体育館(16:00)
Jd' ■愛知・千種スポーツセンター(13:00)
大日本■東京・後楽園ホール(12:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
FMW■岐阜・高山マウントエース(16:00)
みちのく■大分・三重勤労者センター(15:00)

**26 MON.**

修斗■東京・北沢タウンホール(開始時間未定)
新日本■埼玉・富士見市立市民総合体育館(18:30)
全日本■岐阜・岐阜産業会館(18:30)
みちのく■大分・県営荷揚町体育館(15:00)

**27 TUE.**

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
TEAM KURISU■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)
みちのく■大分・日田市総合体育館(15:00)

**28 WED.**

全日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール(18:30)
みちのく■熊本・八代市総合体育館(18:30)

**29 THU.**

全日本■香川・高松市民文化センター(18:30)
みちのく■福岡・小倉北体育館(18:30)

**30 FRI.**

ノア■北海道・北海道立総合体育センター(18:30)
LLPW■福岡・サザンクス築紫(18:30)
新日本■京都・京都市体育館(18:00)
みちのく■宮崎・宮崎県武道館(18:30)

# 12 November

**1 SAT.**

ノア■北海道・千歳市スポーツセンター(18:00)
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館(18:30)
全日本■新潟・長岡市厚生会館(18:00)
新日本■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
みちのく■岡山・倉敷体育館(19:00)

**2 SUN.**

大日本■神奈川・横浜アリーナ(15:00) ◆
大仁田興行■金沢・石川県産業展示館3号館(16:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
全日本■東京・メッセ昭島(15:00)
新日本■愛知・愛知県体育館(16:00)
みちのく■広島・ビッグローズ福山(15:00)

**3 MON.**

ノア■北海道・函館市民体育館(18:00)
LLPW■宮崎・西都市市民体育館(18:30)
全日本■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
新日本■福井・福井市体育館(18:00)

**4 TUE.**

LLPW■福岡・久留米百年公園リサーチパーク(18:30)

**5 WED.**

ノア■新潟・新潟市体育館(18:30)
全日本■宮城・仙台市泉体育館(18:30)
『真撃』■大阪・大阪城ホール(19:00予定) ◆

**6 THU.**

ノア■福島・白河市国体記念体育館(18:30)
LLPW■福岡・宗像ユリックス(18:30)

**7 FRI.**

NEO■東京・後楽園ホール(19:00)
ノア■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
全日本■東京・日本武道館(18:00)
LLPW■福岡・北九州市小倉北体育館(18:30)
新日本■広島・広島サンプラザ(18:30)

# RADICAL CALENDAR

## 10 October

**24 WED.**

新日本■大分・中津市勤労者体育センター(18:30)
アルシオン■岡山・卸センターオレンジホール(18:30)
全日本■福島・福島市国体記念体育館(18:30)
闘龍門■新潟・上越市厚生南会館(18:30)
全女■東京・大田区体育館(18:00)
大日本■山形・酒田市営体育館(18:30)

**25 THU.**

全日本■埼玉・蓮田市総合市民体育館(18:30)
闘龍門■長野・長野市運動公園体育館(18:30)
みちのく■宮城・築館町総合運動公園体育館(18:30)
大日本■茨城・北茨城市体育館(18:30)
『真撃』■東京・日本武道館(19:00)★

**26 FRI.**

バトラーツ■沖縄・宜野湾運動公園(19:00)
新日本■熊本・熊本市総合体育館(18:30)
アルシオン■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
みちのく■青森・青森県民体育館サブアリーナ(18:30)
全女■埼玉・深谷市民体育館(18:30)

**27 SAT.**

新日本■長崎・佐世保市体育館(18:30)
アルシオン■大阪・デルフィンアリーナ(18:30)
全日本■東京・日本武道館(18:00)
闘龍門■岐阜・高山ビックアリーナ(18:00)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■東京・板橋区産文ホール(18:30)

**28 SUN.**

GAEA■愛知・名古屋国際会議場イベントホール(17:00)
新日本■福岡・福岡国際センター(18:00)
アルシオン■三重・四日市オーストラリア記念館(14:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(16:00)
闘龍門■東京・ディファ有明(18:30)
T・後藤一派■静岡・島田 市ビックボンドストアー本通り三丁目屋上(13:00)
Jd'■東京・ディファ有明(12:30)
みちのく■山形・中山町総合体育館(15:00)
FMW&LLPW■石川・穴水勤労者体育センター(17:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
大仁田興行■埼玉・越谷桂スタジオ(18:00)

**30 TUE.**

パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)◎
アルシオン■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
みちのく■岩手・花巻市民体育館(18:00)
大阪■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:30)
全女■愛知・東海市民体育館(18:30)
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス(19:30)

**31 WED.**

アルシオン■山形・酒田市営体育館(18:30)
みちのく■山形・米沢市営体育館(19:00)
『AX』■東京・北沢タウンホール(19:00)♠

## 11 November

**1 THU.**

Jd'■宮城・白石市ホワイトキューブ(19:00)
みちのく■福島・ビックパレットふくしま(18:30)

**2 FRI.**

NEO■東京・板橋区産文ホール(19:00)
IWA■青森・むつ市民体育館(18:30)
みちのく■秋田・鹿角市アメニティパーク倶楽部ハウス(18:30)
新日本■神奈川・横浜文化体育館(18:30)
華☆激■福岡・さざんぴあ博多(19:00)

**3 SAT.**

アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)
DSE『PRIDE.17』■東京・東京ドーム(17:00)★◎
みちのく■青森・はちのへハイツ(15:00)
全女■長野・佐久市総合体育館(18:30)

**4 SUN.**

IWA■北海道・札幌テイセンホール(17:00)
Jd'■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■宮城・Zepp Sendai(15:00)
全女■青森・八戸市体育館(18:30)
華☆激■長崎・小値賀町総合体育館(16:00)

**5 MON.**

IWA■北海道・函館金森ホール(18:00)
FMW■東京・後楽園ホール(19:00)

**6 TUE.**

IWA■北海道・寿都町ファミリー体育館(18:30)

**7 WED.**

IWA■北海道・室蘭市体育館(18:30)

**8 THU.**

アルシオン■青森県・青森県総合運動公園体育館サブアリーナ(18:30)

**9 FRI.**

LLPW■愛媛・アイテムえひめ(18:30)

**10 SAT.**

レッスル夢■東京・板橋区産文ホール(18:00)
アルシオン■北海道・小樽朝里クラッセホテル(18:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
全女■栃木・矢板市農業者トレーニングセンター(18:30)
FMW■静岡・下田市魚市場(18:30)

**11 SUN.**

アルシオン■北海道・札幌テイセンホール(13:00)
GAEA■大阪・梅田ステラホール(17:00)
コンプリートプレイヤーズ■東京・ディファ有明(16:00)♠
FMW■新潟・新潟フェイズ(16:00)
全女■東京・全女事務所ガレージ(12:00)

**13 TUE.**

アルシオン■北海道・滝川青年体育センター(18:30)
JWP■東京・東京

**14 WED.**

アルシオン■北海

**16 FRI.**

アルシオン■北海
新日本■石川・石
全女■東京・後楽

**17 SAT.**

アルシオン■北海道
Jd'■大阪・なんば
新日本■富山・高岡

**18 SUN.**

アルシオン■北海道
ノア■東京・ディファ
新日本■長野・伊那
GAEA■静岡・アクト

**19 MON.**

FMW■福井・福井
ノア■静岡・キラメッ

**20 TUE.**

ノア■大阪・大阪府

**21 WED.**

キングダムエルガイツ

**22 THU.**

ノア■岡山・岡山武道

**23 FRI.**

FMW■神奈川・横浜
Jd'■東京・ディファ有
ノア■福岡・西日本総
闘龍門■埼玉・越谷桂
LLPW■東京・後楽園
新日本■東京・後楽園

**24 SAT.**

闘龍門■千葉・船橋ア
新日本■神奈川・藤沢
全日本■東京・後楽園

**25 SUN.**

アルシオン■千葉・東京
修斗■東京・ディファ有
ノア■愛知・愛知県体
Jd'■愛知・千種スポ
大日本■東京・後楽園
新日本■東京・後楽園
FMW■岐阜・高山マウ
みちのく■大分・三重

**26 MON.**

修斗■東京・北沢タウン
新日本■埼玉・富士見
全日本■岐阜・岐阜産
みちのく■大分・県営荷

**27 TUE.**

ノア■東京・後楽園ホー
TEAM KURISU■大阪